

# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(7)

前橋市元総社町小見地区、群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第7分冊。

一 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第38集一

## 図 表 編

1992

群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(7)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第7分冊。

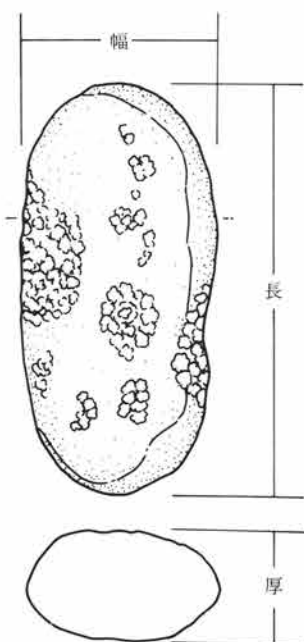
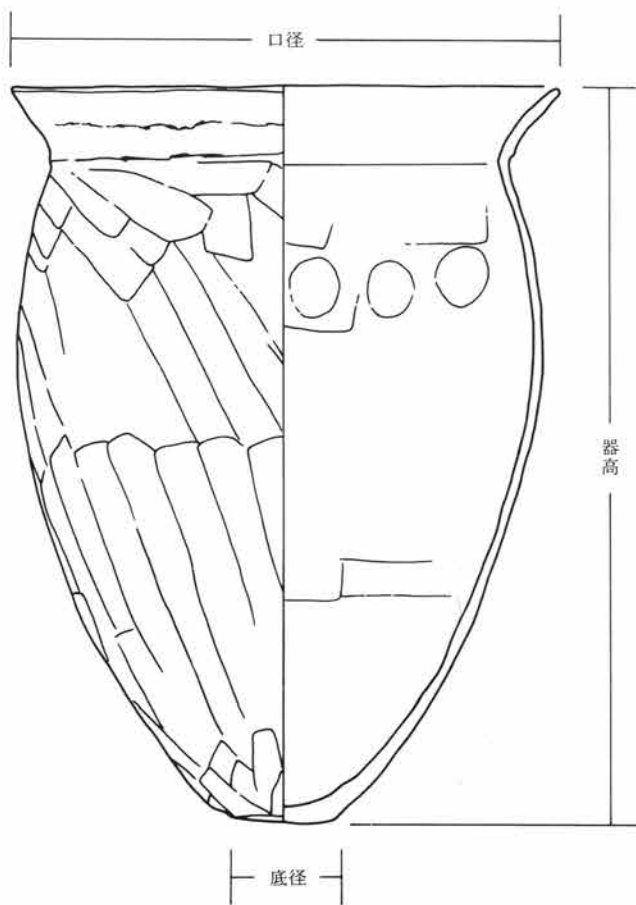
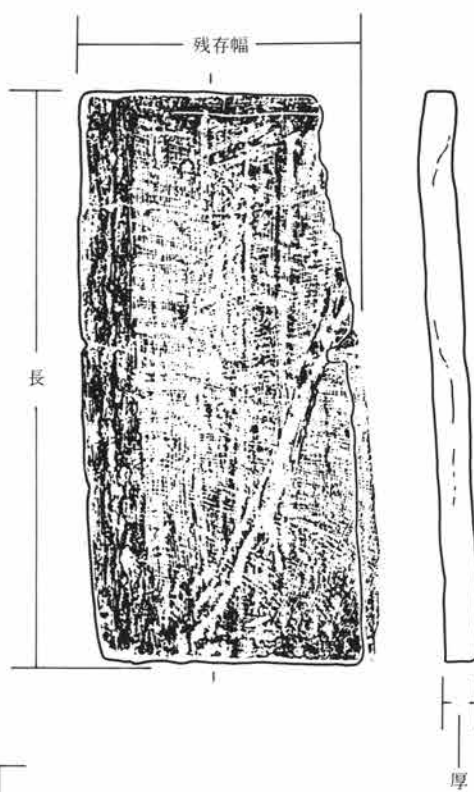
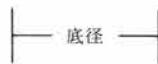
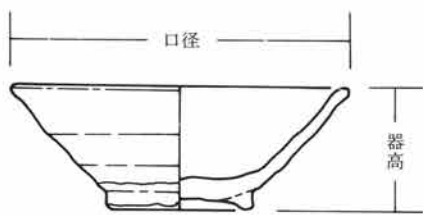
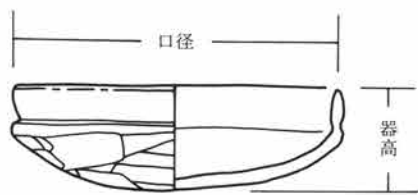
— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第38集 —

## 図 表 編

1992

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団







## I区 遺物観察表

## 第1号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
7-1 128	土師器 坏	覆土内 %残存	口 12.4 底 6.5 高 3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は外傾し、底部は平底を呈する。整形は、口縁部横撫で、体部は指頭痕が見られる。内部は撫でを施す。	
7-2 128	須恵器 坏	- 8 cm 完形	口 13.8 底 7.5 高 3.7	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はやや外反気味に立ち上がる。底部は回転糸切り無調整。	
7-3 128	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (14.8) 底 7.6 高 3.4	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部はわずかに外反する。	内外面に炭化物付着
7-4 128	須恵器 坏	± 0 cm 口縁部一部欠損	口 12.7 底 5.6 高 3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。体部中位に張りを有し、口縁部は強く外反する。	
7-5 128	須恵器 埴	± 0 cm %残存	口 15.8 底 8.0 高 5.7	小礫微 砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上半にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は三角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
7-6 128	須恵器 埴	± 0 cm %残存	口 14.5 底 6.0 高 4.7	黒色鉱物粒微 細砂粒多	還元焰 やや硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し、口縁部は弱く外反する。高台は角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	いぶし?
7-7 128	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 14.6 底 6.4 高 5.0	白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	黒褐	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整後の付高台。	いぶし
7-8 128	須恵器 埴	カマド内 - 8 cm %残存	口 15.6 底 7.4 高 5.0	細砂粒多 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
7-9 128	須恵器 皿	8 cm %残存	口 (13.0) 底 2.7 高 7.6	小礫微 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは非常に弱く、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
7-10 128	須恵器 埴	± 0 cm %残存	口 - 底 8.2 高 (5.5)	小礫少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部全体に弱い張りを有する。底部は回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い底部に撫でが施されている。	
7-11 128	土師器 甕	-16~ ± 0 cm %残存	口 (18.0) 底 - 高 (24.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	灰黄褐	胴部上半に最大径を有し、口縁部は「コ」字状に屈曲する。口縁部は上下2段の横撫で調整され、胴部の篋削りは、一部口縁部にも及んでいる。肩部横位(右→左)下半縦位(上→下)の篋削りを施す。内面下半に上下の接合痕が認められる。	
7-12 128	土師器 甕	- 4 cm 破片	口 19.0 底 - 高 (8.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に張りを有する。口縁部横撫で、胴部外面横位篋削り、器内面横撫で。	
7-13 128	土師器 甕	- 4 ~ ± 0 cm %残存	口 (24.0) 底 - 高 (14.6)	黒色鉱物粒微 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	肩部の張りは弱く、口縁部は「コ」字状の痕跡を残している。口縁部横撫で後、胴部上半横位(上→下)の篋削り、内面撫でを施す。口縁部には接合痕を明瞭に残している。	
8-14 128	須恵器 長頸壺	-28cm ほぼ完形	口 - 底 7.4 高 (18.8)	砂粒少 黒色円粒少	還元焰 やや硬質	灰	紐作り轆轤整形。底部は調整後角高台を貼付している。胴部上半に最大径を有する。	
8-15 128	須恵器 壺	± 0 cm %残存	口 - 底 11.8 高 (5.0)	白色粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。	外面自然釉焼締
8-16 128	鉄器 刀子	2 cm %残存	長 (9.3) 幅 (1.2) 重 14.1				柄の部分が欠損。全体に側方に変形している。	
8-17 128	鉄器 紡錘車	- 2 cm %残存	長 (6.2) 幅 6.0 重 43.2				軸上下が欠損し、紡輪部はほぼ完形の状態で残存。軸断面は方形である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
8-18 128	鉄器 釘	覆土内 1/2残存	長 (9.1) 幅 (0.8) 重 13.2				断面は方形で、上端及び中位が欠損する。先端は曲がっており、使用に伴う変形と考えられる。	
8-19 129	鉄器 釘?	覆土内 破片	長 (6.2) 幅 (0.5) 重 4.9				断面は破損面で観察すると、円形に近いが本来は方形であったものと考えられる。	8-20と同一個体?
8-20 129	鉄器 釘?	覆土内 破片	長 (3.8) 幅 (0.6) 重 2.7				断面は破損面で観察すると、円形に近いが本来は方形であったものと考えられる。	8-19と同一個体?
8-21 129	鉄器 釘	覆土内 1/2残存	長 (6.6) 幅 (0.6) 重 4.0				断面は方形、上端が欠損する。中央部外面錆中に木質が付着している。	
8-22 128	石製品 砥石	4cm 1/2残存	長 21.6 幅 6.7 厚 7.3	砥沢石			一端にカーボンの付着が認められ、全体に亀裂と剥落が顕著であることから、熱を受けていると考えられる。使用面は4面と考えられる。	重 727.1
8-23 129	石製品 丸玉	覆土内 1/2残存	径 (0.6) 厚 0.7 孔 —	蛇紋岩?			穿孔部分は平坦面となっており、周辺の調整は丁寧である。	重 0.3

第2号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
10-1 129	土師器 坏	30cm 1/2残存	口 — 底 — 高 (5.8)	褐色細粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	外面黒色 塗彩
10-2 129	土師器 短頸壺	覆土内 破片	口 (5.8) 底 — 高 (5.3)	砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	黒褐	胴部中位に最大径を有し、口縁部は2段の稜を有し内傾する。口縁部は横撫で、胴部は横位の篋削りを施す。内面に2段の接合痕が残る。	
10-3	土師器 壺	14cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (7.8)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りが強く、頸部に明瞭な段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部外面は篋削りを施す。	
10-4	土師器 壺	±0cm 破片	口 — 底 (3.5) 高 (6.6)	細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	胴部下半斜位(上→下) 篋削り有り。内面撫で。	黒斑有り
10-5	石器 不明	9cm 完形	長 13.0 幅 7.1 厚 4.4	粗粒安山岩			側面と端部に敲打痕有り。	重 591.5

第3号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
12-1 129	土師質 坏	カマド内 1/2残存	口 (10.6) 底 (6.1) 高 (3.3)	細砂粒微	中性焰 軟質	浅黄	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後無調整。体部中位でわずかに屈曲し、口縁部に外反はみられない。	
12-2	土師質 坏	覆土内 底部残存	口 — 底 5.6 高 (1.6)	白色鉍物粒少 黒色鉍物粒多	中性焰 軟質	浅黄橙	轆轤整形(左回転)。底部回転糸切り後無調整。	
12-3	灰釉陶器 境	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(左回転)。底部切り離した後高台貼付後撫で。体部下半回転篋削り調整。	カーボン 付着
12-4	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (25.6) 底 — 高 (5.7)	細砂粒多 白・黒色鉍物 粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。口縁部はやや内傾し、胴部に張りはあまりみられない。口唇部は、わずかに外側に突出する。	
12-5	瓦 女瓦	12cm 1/2残存	厚 2.4	砂粒少 片岩粒少	還元焰 硬質	橙	一枚作り?。側端部面取り2面。	凹面カー ボン付着
12-6 129	石製品 砥石	覆土内 1/2残存	長 5.1 幅 2.9 厚 1.6	砥沢石			砥面は4面。	重 34.1



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
12-7	石器 敲石?	貯蔵穴4 cm %残存	長 (18.3) 幅 17.6 厚 7.3	石英閃緑岩			一端の縁辺に敲打痕が認められる。	重2950.0
12-8 129	石製品 砥石?	4cm 完形	長 18.8 幅 14.7 厚 12.1	粗粒安山岩			自然礫の一面を砥面として使用しており、中央に敲打による窪みが一ヶ所有り、砥面には溝状に使用痕が認められる。	重2590.0
12-9 129	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 19.5 幅 14.4 厚 7.1	石英閃緑岩			使用痕は不明であるが、部分的にカーボンが付着している。	重3010.0
12-10 129	石器 敲石	6cm 完形	長 16.4 幅 6.6 厚 7.0	粗粒安山岩			両端部は敲打によって磨滅しており、側縁にも一部敲打痕が認められる。	重1178.3
13-11 129	石器 不明	貯蔵穴13 cm %残存	長 23.6 幅 20.6 厚 7.5	石英閃緑岩			使用痕は不明。	重5300.0

## 第4号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
15-1 129	須恵器 坏	貯蔵穴 %残存	口 (14.0) 底 7.4 高 4.3	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整 体部は直線的に外傾する。	
15-2	土師質 黒色土器 境	覆土内 %残存	口 (13.8) 底 7.3 高 5.3	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(?)。高台は回転糸切り後付高台。 内面は雑な篋研磨後黒色処理をされている。	底部に カーボン 付着
15-3	須恵器 境	貯蔵穴 %残存	口 (12.0) 底 (7.6) 高 5.3	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で、底部回 転糸切り後の付高台。体部から口縁部は直線 的に外傾する。	
15-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 4.6 高 (1.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形、環状摺を有する。天井部内面に「×」 の篋描き。	
15-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面は不明。内面は布目状。	厚 1.0
15-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	厚 0.9
15-7 130	土製品 有孔土製 円盤	覆土内 %残存	長 4.6 幅 2.5 厚 1.1	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	中央に径1cmほどの穴が穿たれている。	重 15.6
15-8 129	土製品 羽口	覆土内 破片	内径 — 外径 —	細砂粒少 黒色細粒微	酸化焰	橙	先端部の小破片で、外面にガラス質の付着物 あり。	
15-9 129	鉄器 釘	覆土内 %残存	長 (5.1) 幅 (1.3) 重 8.7				頭部と思われ、片側へ折れ曲がっている。先 端部欠損。	

## 第5号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
16-1 130	土師器 坏	18cm ほぼ完形	口 10.7 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒微 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い稜を 有し、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で 底部に篋削りを施す。底部篋削りは中央部一 定方向、周辺は円周方向である。	
16-2	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (10.6) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。 底部手持ち篋削り後、口縁部横撫で、内面は、 全面撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
16-3 130	須 惠 器 坏	12cm 1/2残存	口 (10.7) 底 — 高 (2.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は浅い丸底で、受け部は水平方向に開き、口縁部は長く内傾する。底部は雑な手持ち篋削りを施す。	
17-4 130	須 惠 器 盖	覆土内 1/2残存	口 (12.4) 摘 — 高 (4.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に開く。天井部外面は回転篋削りを施す。	
17-5	須 惠 器 高 坏	4 cm 1/2残存	口 — 底 — 高 (7.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。脚部中に2本の沈線が巡り、上端は坏部接続部から剥離している。	
17-6	土 師 器 甕	4 cm 破片	口 (21.4) 底 — 高 (11.1)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 やや硬質	浅黄橙	口縁部は強く外反する。胴部上半斜位(右→左)篋削り、中位縦位(上→下)篋削り後、口縁部横撫でを施す。内面は横位篋撫でを施す。	
17-7 130	土 師 器 甕	— 8 cm 1/2残存	口 22.0 底 — 高 (7.0)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は強く「く」字状に外反し、胴部は長胴で張りは弱い。整形は口縁部横撫で後胴部上半斜位篋削り(右→左)。内面は横位篋撫でを施す。	
17-8 130	土 師 器 甕	± 0 cm 1/2残存	口 (21.6) 底 — 高 —	黒色鉍物粒多 砂粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、胴部中に最大径を有する。整形は胴部上位斜位(右→左)篋削り後口縁部横撫でを施す。内面は撫で。	胴部下半 外面の粗 れ激しい
17-9 130	須 惠 器 甕	4 cm 1/2残存	口 (14.8) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。頸部は「く」字状に外反し口縁部上半に段を有し短く直立する。口縁部下半に波状文を施す。内面は青海波文。外面叩き不明。	
17-10	須 惠 器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	厚 1.0
17-11	須 惠 器 甕	8 cm 破片	口 (25.1) 底 — 高 (8.2)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	浅黄	紐作り後叩き整形。口縁部は外反する。胴部外面は格子叩き、内面は青海波文。	
17-12	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。	
17-13 130	石 製 品 白 玉	カマド掘 り方 完形	径 1.3 厚 0.3 孔 0.3	滑石			穿孔は一定方向。	重 1.0
17-14 130	石 製 品 白 玉	掘り方覆 土内 完形	長 1.2 幅 1.4 厚 0.5	滑石			四角形を呈するもので、上下面は磨り切り状を呈する。穿孔は一方。	重 1.4 孔 0.3
18-15 130	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 12.6 幅 4.6 厚 4.3	粗粒安山岩			両端部付近に敲打痕。	重 355.5
18-16 130	石 器 敲 石?	15cm 完形	長 12.7 幅 5.7 厚 4.1	石英閃緑岩			端部付近に敲打痕が認められる。	重 479.8
18-17 130	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 9.8 幅 6.8 厚 4.4	粗粒安山岩			側縁に敲打痕と剥離面が認められる。	重 358.5
18-18 130	石 器 敲 石?	覆土内 1/2残存	長 (8.8) 幅 5.0 厚 3.5	砂岩			一端を欠損し使用痕は不明。	重 255.7

第6号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
20-1 130	土 師 質 埴	— 6 cm 1/2残存	口 (15.8) 底 9.6 高 6.9	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。底部切り離し後、高台貼付後撫で。体部下半わずかに張りを有し、口縁部は外反する。	足高高台
20-2 130	須 惠 器 埴	覆土内 1/2残存	口 (13.4) 底 — 高 (5.3)	砂粒多	中性焰 やや軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。底部は、回転糸切り後付高台後撫で。体部中にわずかに張りを有し、口縁部は、外反する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20-3 130	土師質 埴	カマド内 8cm 破片	口 — 底 (8.4) 高 (5.3)	細砂粒多 白色鋳物粒多	中性焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転糸切り後の付高台。	
20-4 130	灰釉陶器 輪花皿	覆土内 1/3残存	口 (14.0) 底 6.6 高 (3.0)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。体部は内湾気味に開く。底部は回転筥調整後付高台。見込み部に径6cm程の重ね焼きの痕跡がある。施釉は漬け掛けと思われる。	
20-5	須恵器 羽釜	貯蔵穴 破片	口 (11.0) 底 — 高 (9.0)	片岩粒少 細砂粒多 黒色鋳物粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。胴部に張りを有し、口縁部は内湾する。鈔の貼付は、丁寧である。内外面共に轆轤整形痕が明瞭である。	
20-6 130	灰釉陶器 瓶	±0cm 1/3残存	口 — 底 (13.6) 高 (21.7)	美濃系 白色粒多		灰白	紐作り轆轤整形。底部は回転筥調整後付高台。胴部外面肩部以下は回転筥削り状の器面調整を施す。内面は轆轤調整痕を明瞭に残し、下半の一部に斜位の撫でが認められる。	
21-7 131	瓦 男瓦	±0cm 1/3残存	厚 2.0	砂粒多 白色鋳物粒多	還元焰 硬質	浅黄橙	一枚作り?。側端部の面取りは1面。凸面は面取り状の縦位撫でを施す。	

## 第7号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
24-1 131	土師器 坏	±0cm 1/3残存	口 (10.6) 底 — 高 3.1	黒色鋳物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部筥削り、内面は撫でを施す。	
24-2 131	土師器 坏	覆土内 1/3残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.1)	黒色鋳物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、底部筥削り、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
24-3 131	土師器 坏	覆土内 1/3残存	口 (10.6) 底 — 高 (3.1)	黒色鋳物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は短く、やや内傾気味に立ち上がり、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部は筥削りを施す。内面は撫でを施す。	
24-4 131	土師器 坏	15cm 1/3残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	砂粒 黒色鋳物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部筥削りで、内面は撫でを施す。	
24-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.8) 摘 — 高 (3.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部は平坦である。	
24-6 131	須恵器 蓋	覆土内 1/3残存	口 10.6 摘 — 高 (2.9)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部から体部にかけてわずかに丸味を有し、口縁部で屈曲する。内面のかえりは比較的長く反り気味に内傾する。摘は剝離し形状は不明であるが、天井部と口縁部外面回転筥削り後の貼付である。	
24-7 131	須恵器 蓋	覆土内 1/3残存	口 (8.0) 摘 — 高 (3.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。かえりを有し、摘は乳頭状摘と思われる。整形は、天井部外面手持ち筥削りを施す。	
24-8	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.9)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部はやや内湾する。	
24-9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (23.0) 摘 — 高 (3.8)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部と天井部の間に沈線を巡らす。内面に短いかえりを有する。	
24-10 131	土師器 甕	2cm 1/3残存	口 (22.0) 底 — 高 (11.5)	細砂粒多 黒色鋳物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、肩部には張りがみられない。整形は、口縁部横撫で、胴部上半は斜位(右→左)筥削りを施す。内面は横位筥撫で、接合痕がみられる。	
24-11 131	土師器 甕	14cm 1/3残存	口 (18.6) 底 — 高 (18.7)	黒色鋳物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部中位に弱い張りを有する。口縁部横撫で後、胴部上半斜位(右→左)、胴部中下半縦位(上→下)の筥削りを施す。	
24-12 131	須恵器 壺	12~50cm 1/3残存	口 15.2 底 — 高 (10.6)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部には強い張りがあり、中位に最大径を有する。口縁部は「く」字状に外反する。	器面のハゼが激しい

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
24-13	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第24図-15と同一個体。	厚 1.2
24-14	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	明褐色	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.6
24-15	須 恵 器 甕	6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第24図-13と同一個体。	厚 1.2
25-16	須 恵 器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰黄	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.7
25-17	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	明オリ ープ灰	叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.8
25-18 131	石 製 品 有孔石製 円 盤	掘り方覆 土内 完形	径 3.7 厚 0.6 孔 0.7	滑石			周辺は打ち欠いた後、雑に面取り状に磨きを加えている。穿孔は一方向。	重 0.7
25-19 131	石 器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 13.3 幅 5.7 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 484.2
25-20 131	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 14.8 幅 7.1 厚 4.8	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 778.9
25-21 131	石 器 敲 石	9 cm 完形	長 13.7 幅 7.1 厚 4.6	粗粒安山岩			側縁に敲打痕。	重 714.7
25-22 132	石 器 敲 石	15cm 完形	長 18.5 幅 7.4 厚 4.5	粗粒安山岩			一端に敲打痕。その他の部分に使用痕は認められない。	重 909.0
25-23 132	石 器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 18.0 幅 5.9 厚 5.0	灰色安山岩			使用痕不明。	重 880.9
25-24 131	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 13.6 幅 6.1 厚 5.2	粗粒安山岩			両端部に敲打痕。	重 619.6
25-25 131	石 器 敲 石	10cm 完形	長 13.6 幅 6.0 厚 3.5	溶結凝灰岩			両端部に敲打痕。	重 403.2
25-26 132	石 器 薦編み石	3 cm 完形	長 14.3 幅 5.7 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 607.8
25-27 131	石 器 薦編み石	± 0 cm 端部欠損	長 (11.6) 幅 4.1 厚 4.0	石英閃緑岩			熱を受けたものか一端を欠損する。使用痕不明。	重 347.0
25-28 132	石 器 薦編み石	± 0 cm ½残存	長 (8.6) 幅 8.7 厚 2.8	粗粒安山岩			一端を欠損し、使用痕は不明。	重 327.1
25-29 132	石 器 敲 石?	覆土内 ½残存	長 (5.3) 幅 5.9 厚 3.1	変質安山岩			一端を欠損し、使用痕不明。	重 134.8
25-30 132	石 器 薦 編 み 石?	覆土内 完形	長 7.2 幅 4.8 厚 2.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 135.0

## 第8号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
26-1 132	須恵器 坏	カマド内 8cm 1/2残存	口 (11.8) 底 (5.4) 高 (4.3)	小礫微 砂粒少 白色鋳物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部下半にやや張りを有し、口縁部は強く外反し、底部回転糸切り無調整。	
26-2 132	須恵器 坏	カマド内 -6cm 完形	口 11.9 底 4.9 高 3.9	砂粒多 黒色鋳物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。口縁部は弱く外反し、体部に張りはみられない。底部は回転糸切り無調整。	
26-3 132	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.0) 底 (4.5) 高 5.0	細砂粒多 白色鋳物粒多	還元焰 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反し、底部は回転糸切り無調整。	内外面カーボン付着
26-4 132	土師質 坏	3cm 1/2残存	口 (12.0) 底 (6.8) 高 4.0	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。内面はコテ当てがされたものと思われ、轆轤痕を残さない。	
26-5 132	須恵器 塊	カマド内 -6cm 1/2残存	口 12.4 底 6.0 高 5.0	細砂粒多 白・黒色鋳物 粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反し、底部は回転糸切り後雑な付高台。	
26-6 132	須恵器 塊	カマド内 -6cm 完形	口 12.7 底 5.8 高 4.9	砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反し、底部は回転糸切り後の付け高台。	
26-7 132	須恵器 塊	8cm 1/2残存	口 13.0 底 7.1 高 4.2	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く外反する。底部は回転糸切り後付高台で、貼付は雑である。	内外面カーボン付着
26-8	須恵器 羽釜	カマド内 ±0~13cm 破片	口 (20.0) 底 - 高 (12.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。胴部の張りは弱く、口縁部はやや内傾し、口唇部は平坦で、わずかに内傾している。罫の貼付は比較的丁寧である。	
26-9 132	石製品 白玉	覆土内 完形	長 1.8 幅 1.8 厚 0.7	滑石			磨き有り。一面に孔部を通り溝状の凹みが認められる。	重 2.7 孔 0.4

## 第9号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
29-1 132	土師質 坏	15cm 完形	口 10.8 底 5.5 高 2.5	黒色鋳物粒多 細砂粒多	中性焰 やや硬質	にぶい 褐	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは強く、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
29-2 132	土師質 坏	20cm 完形	口 10.8 底 5.0 高 3.3	黒色鋳物粒少 細砂粒多	中性焰 やや硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りはやや強く口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整でわずかに突出する。	
29-3 132	須恵器 坏	14cm 1/2残存	口 (11.5) 底 (5.9) 高 3.0	細砂粒多 黒色細粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
29-4	須恵器 坏	24cm 破片	口 - 底 (7.4) 高 (1.3)	黒色細粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後無調整。	
29-5 132	土師質 塊	カマド内 6cm 1/2残存	口 15.5 底 - 高 (6.0)	黒色鋳物粒多 褐色細粒多 細砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄褐	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台である。底部は高台貼付に伴い回転の撫でが施されている。	
29-6 133	土師質 塊	28cm 破片	口 - 底 (8.6) 高 (4.1)	黒色鋳物粒多 細砂粒多	還元焰 やや硬質	黒	轆轤整形(右回転)。底部のみの残存で体部不明。高台は底部調整後の付高台。高台はやや長脚。	いぶし?
29-7	灰釉陶器 塊	24cm 破片	口 (13.2) 底 - 高 (3.3)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に笥削り有り。高台部欠損。施釉は漬け掛けである。	
29-8 133	須恵器 羽釜	カマド内 3cm 破片	口 (20.5) 底 - 高 (5.5)	砂粒多 小礫微	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り後轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦で水平である。罫の貼付は丁寧で上面が水平である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
29-9	須 惠 器 羽 釜	カマド内 3cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.4)	片岩粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	紐作り後轆轤整形。口縁部はやや内傾し、鏝は水平である。内面に紐作りの痕跡を明瞭に残す。	
29-10	須 惠 器 甕	31cm 破片	口 (41.4) 底 — 高 (5.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	還元焰 硬質	明黄褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反する。	
29-11 133	須 惠 器 壺	18~33cm 破片	口 — 底 — 高 (11.3)		還元焰 硬質	灰	橋状の把手で、把手部は撫で状の面取りが認められ、接合部の胴部内面には、指頭痕が顕著にみられる。	把手付
29-12 133	鉄 器 釘	覆土内 1/2残存	長 (7.1) 幅 (0.6) 重 10.8				断面方形で頭部欠損。先端は鋭利。	
29-13 133	鉄 器 釘?	覆土内 破片	長 (7.1) 幅 (0.8) 重 16.2				断面長方形。	
29-14 133	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (6.3) 幅 (0.5) 重 6.3				断面方形。両端部欠損。	
29-15 133	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (3.0) 幅 (0.6) 重 2.8				断面方形。両端部欠損。	

第10号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
30-1 133	土 師 質 塊	カマド掘 り方 1/2残存	口 (15.6) 底 — 高 (4.8)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はやや外反する。	

第12号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
31-1 133	土 師 器 坏	4cm 1/2残存	口 12.9 底 — 高 3.7	白色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
31-2 133	須 惠 器 坏 身	カマド内 14cm 完形	口 12.3 底 — 高 4.1	黒色粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は短くやや上方を向く。口縁部は比較的長く「く」字状に内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
31-3 133	土 師 器 高 坏	13cm 1/2残存	口 — 底 (18.4) 高 (14.5)	褐色粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	大形の高坏で、脚裾部は水平に開き、先端が短く屈曲する。脚部外面は縦位の弱い篋削り、内面は斜位の篋削りを施す。	
31-4	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (6.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外傾する。胴部縦位の篋削り後、口縁部横撫で。	

第13号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
32-1	土 師 質 塊	6cm 1/2残存	口 — 底 (7.4) 高 (3.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
32-2 133	土 師 質 塊	3cm 1/2残存	口 (12.6) 底 — 高 (4.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴い回転の撫でが施されている。体部下半に強い張りを有し、口縁部はやや外反する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
32-3	土師質 坏	12cm 破片	口 — 底 4.2 高 (1.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
32-4	須恵器 羽釜	カマド内 10cm 破片	口 (22.4) 底 — 高 (5.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(?)。口縁部はほぼ直立し、口唇部は平坦でわずかに外傾する。	口縁部外面にカーボン付着
32-5	瓦 女瓦	9cm 破片	厚 2.4	褐色粒多 白・黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、一部にカーボンが付着している。凸面は半円状の叩きが認められる。	

## 第14号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
35-1 133	土師器 坏	2cm 1/4残存	口 12.5 底 — 高 4.8	褐色粒多 黒色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
35-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	口縁部は内湾気味に外傾し、底部との間に稜を有し、底部は丸底。内黒で内面にも稜を有する。	
35-3 133	須恵器 坏身	7cm 破片	口 (12.8) 底 — 高 (3.6)	小礫微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は扁平な丸底で、受け部は厚くやや上方を向く。口縁部は比較的短く内傾する。底部に強い回転篋削りを施す。	
35-4 133	須恵器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 摘 — 高 (4.3)	白色鉱物粒少 白色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに外反する。天井部外面は手持ち篋削り、内面には轆轤痕が明瞭に残存している。	
35-5	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (1.2)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。削り出し高台。	
35-6 133	土師器 高坏	1cm 破片	口 — 底 (18.0) 高 (5.0)	細砂粒多 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	強く開く脚部で、外面は横撫で後、縦位(上→下)の篋削り、内面は横位(右→左)の篋削りを施す。	
35-7 133	須恵器 高坏	1cm 1/4残存	口 (10.0) 底 (11.6) 高 (11.2)	細砂粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。坏部は丸底状の底部にやや内湾気味の口縁部を有する。底部は回転篋削り、口縁部下半には2本の沈線を巡らす。脚部は比較的長脚で、端部は短く直立する。透しは1段と考えられる。	
35-8 133	須恵器 高坏	9cm 脚部1/2残存	口 — 底 (10.0) 高 (7.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。比較的短脚で、3方に1段透しを有する。	
35-9 133	須恵器 罍	6cm 1/2残存	口 — 底 — 高 (5.1)	砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。体部の張りは弱く、肩部に1本の沈線が巡る。体部下半に回転篋削りを施す。穿孔は焼成前で斜上方から行われている。	
35-10 133	土師器 小型壺	±0cm 破片	口 (11.2) 底 — 高 (5.8)	砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は弱く外反する。整形は口縁部横撫で。胴部上位横位篋削り(左→右)。	
35-11 133	土師器 小型壺	±0cm 1/4残存	口 (14.0) 底 — 高 (13.5)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	丸底の球胴で、口縁部は短くやや外反気味に直立する。胴部は横位篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。口縁部は強く横撫でを施す。	
35-12 134	土師器 甕	±0cm 破片	口 (23.2) 底 — 高 (7.8)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	淡橙	口縁部は強く外反し、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部上位に横位(右→左)の篋削りを施す。口縁部外面に焼成前の篋描き「十」がみられる。	
35-13 134	土師器 台付甕	貯蔵穴56cm 1/4残存	口 13.8 底 — 高 (18.3)	白・黒色鉱物粒少 砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は弱く外反し、胴部中位に張りを有する。脚部は「ハ」字状に開くものと考えられる。口縁部横撫で後胴部縦位(下→上)下半斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位の篋撫である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
35-14	須 惠 器 壺	± 0 cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口唇部に一条の沈線を巡らし、口縁部に波状文を施す。	
35-15 134	須 惠 器 壺	1 cm 1/4残存	口 — 底 — 高 (22.0)	砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り。叩き整形（外面斜格子叩き・内面当具は青海波文）後轆轤再整形。胴部外面上位にカキ目あり。	
35-16 134	石 製 品 砥 石	覆土内 完形	長 2.8 幅 2.9 厚 1.5	二ツ岳軽石			側縁部が使用面と思われる。	重 7.8
36-17 134	石 器 敲 石	2 cm 1/4残存	長 18.2 幅 (8.7) 厚 5.5	粗粒安山岩			側面に敲打痕を持つ。	重1519.2
36-18 134	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 11.7 幅 6.9 厚 3.2	粗粒安山岩			上下端に敲打痕がみられる。	重 364.3

第15号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
39-1 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、底部は篋削り、内面は横撫でを施す。	
39-2 134	土 師 器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.0 底 — 高 3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
39-3 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (10.6) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部篋削りを施したものと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。	
39-4 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (10.0) 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。底部は篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。口縁部は横撫でを施す。	
39-5 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (14.0) 底 — 高 4.9	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部との境にごく弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部調整は不明瞭である。	
39-6 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.9)	砂粒微 褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
39-7 134	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒少 砂粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
39-8	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (5.0)	細砂粒多	酸化焰 硬質	淡黄	底部は丸底で、体部に篋削り（上→下）を施す。内面は全面撫で調整。	
39-9	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (2.4)	細砂粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は内傾し、受け部はやや反り気味。	
39-10	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (3.6)	細砂粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は内傾する。体部外面に自然釉付着。	
39-11	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 2.0 高 (2.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。摘は宝珠摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
39-12	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.1)	白色細粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。口唇部は下方に折り返す。	
39-13	土 師 器 鉢	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.2)	白色細粒少	酸化焰 軟質	灰赤	口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫でを施す。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
40-14	土師器 小型甕	±0cm ほぼ完形	口 11.0 底 7.0 高 15.9	小礫少 砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は「C」字状に短く外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で、胴部上半横位(右→左)、下半斜位の篋削りと思われるが、器面の粗れが激しく不明瞭。	
40-15 134	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 11.2 底 — 高 (6.2)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部の張りは比較的強く、口縁部はやや反り気味に直立する。口縁部を強く横撫で後、胴部上半を横位篋削りする。	
40-16	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (8.9)	砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	灰黄	口縁部横撫で、胴部は斜位篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	
40-17 135	土師器 甕	5cm %残存	口 (17.2) 底 — 高 (22.0)	白・黒色鉱物 粒多 砂粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部下半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部を縦位(上→下)の篋削りを施す。内面は横位撫で、口縁部外面にわずかに接合痕がみられる。	
40-18	土師器 甕	2cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (14.4)	片岩小礫少 細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りはごく弱く、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部は縦位篋削りを施す。	
40-19 134	土師器 甕	カマド左 袖 %残存	口 (15.0) 底 — 高 (8.5)	白・黒色鉱物 粒多、砂粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は短く「く」字状に屈曲し、胴部上半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後胴部に縦位(上→下)の篋削りを施す。	
40-20 134	土師器 甕	3cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (9.7)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	
40-21 134	須恵器 台付 長頸壺	覆土内 脚部%残 存	口 — 底 18.0 高 (3.8)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。裾部は外に強く開き、先端で強く屈曲する。底部との接合面に回転糸切り痕を残している。	
40-22	須恵器 甕	±0~16 cm %残存	口 — 底 — 高 (9.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面格子状叩き。内面青海波文。	
40-23	須恵器 甕	4cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面は平行叩き後、間隔を置いてカキ目を巡らす。内面は青海波文。	厚 0.9
41-24	須恵器 甕	28cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後叩き整形。内面は素文で、外面は撫で後、間隔を置いてカキ目を巡らす。	厚 0.8
41-25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面叩き不明。内面は青海波文。	厚 1.3
41-26	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り後叩き整形。外面平行叩き後、間隔を置いてカキ目を巡らす。内面青海波文。	厚 0.7
41-27	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.9 幅 6.4 厚 3.7	粗粒安山岩			両端部及び側縁に敲打痕が顕著にみられ、側縁の一部に磨滅した面がある。	重 481.3
41-28	石器 敲石	3cm 完形	長 13.3 幅 6.3 厚 4.3	粗粒安山岩			一端に敲打痕。	重 532.1
41-29 135	石製品 白玉	8cm 完形	径 1.2 厚 0.6 孔 0.3	滑石			丁寧な作りで、周縁磨き整形によって円形に打ち上げられている。穿孔は斜位で一方向である。	重 1.3
41-30 135	石製品 白玉	16cm 完形	径 1.4 厚 0.6 孔 0.3	滑石			周縁は面取り状の磨き整形、穿孔は一方向。	重 1.3
41-31 135	石製品 白玉	12cm 完形	径 1.3 厚 0.4 孔 0.2	滑石			五角形状を呈し、周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重 1.4
41-32 135	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 0.7 孔 0.2	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重 1.3

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
41-33 135	石 製 品 白 玉	28cm 完形	径 1.6 厚 0.7 孔 0.3	滑石			周縁は雑な面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重 2.8
41-34 135	石 製 品 白 玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.7 厚 0.6 孔 0.3	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重 2.2
41-35 135	石 製 品 白 玉	7cm 完形	径 1.6 厚 0.9 孔 0.2	滑石			周縁は面取り状の磨き整形。穿孔は一方向。	重 4.4
41-36 135	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	径 1.9 厚 1.1 孔 0.3	滑石			厚手で雑な作りで、不整の多角形を呈する。周辺は面取り状の磨き整形で、穿孔は一方向。	重 5.9
41-37 135	石 製 品 白 玉	4cm 完形	径 1.9 厚 0.4 孔 0.4	滑石			方形状を呈し、周縁は磨き整形で穿孔は一方向。	重 2.6
41-38 135	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	径 1.8 厚 0.6 孔 0.3	滑石			上下面は平坦に仕上がっていない。周縁は比較的丁寧な面取り状の磨き整形を加えており、穿孔は一方向。	重 3.2
41-39 135	石 製 品 白 玉	8cm 1/2残存	径 1.7 厚 0.7 孔 —	滑石			中央部分のみの残存で、周縁の調整等不明瞭。穿孔は一方向。	重 1.0
41-40 135	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	長 2.3 幅 2.3 厚 0.9	滑石			周縁は打ち欠かれたままで、穿孔はみられず、未製品であるのかどうかは不明。	重 6.5
41-41 135	石 製 品 白 玉	覆土内 —	長 1.9 幅 2.1 厚 0.7	滑石			穿孔、磨き等はみられず剥片である可能性が高い。	重 4.0
41-42 135	石 製 品 白 玉	7cm 破片	長 1.7 幅 1.1 厚 0.7	滑石			磨き等みられず、剥片である可能性が高い。	重 1.1
41-43 135	石 製 品 白 玉?	覆土内 破片	長 2.2 幅 1.3 厚 0.8	滑石			未製品であるか、剥片であるのかは不明。	重 2.8
41-44 135	石 製 品 白 玉	覆土内 破片	長 — 幅 — 厚 —	滑石			小片で整形痕等は見られない。	重 0.2

第16号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
44-1 135	土 師 器 坏	掘り方覆 土内 1/2残存	口 12.8 底 — 高 4.4	黒色鉍物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
44-2 135	土 師 器 坏	16cm 1/2残存	口 (12.7) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少 褐色粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	口縁部は、やや内湾気味に直立し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部(手持ち)篋削り後、口縁部横撫で内面は、全面撫でを施す。	内外面黒色塗彩
44-3 135	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.1)	黒色鉍物粒多 砂粒少	酸化焰 硬質	浅黄橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に稜を有する。底部は、丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部は(手持ち)篋削り、内面は撫でを施す。	内黒の可能性あり
44-4 136	土 師 器 坏	±0cm 1/2残存	口 11.5 底 — 高 3.5	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部手持ち篋削り後、口縁部横撫で。	全体に磨減している
44-5 136	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.5)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
44-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
44-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (1.5)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形。かえりを有し、天井部外面に回転篋削りを施す。	
44-8 136	土師器 甕	覆土内 1/2残存	口 (15.6) 底 — 高 (10.0)	砂粒多 白色細粒多	酸化焰 硬質	灰白	肩部に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部屈曲部内面には接合痕が明瞭に残る。口縁部横撫で後、胴部縦位(上→下)の篋削りを施す。	還元気味の色調を呈する

## 第18号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
47-1	土師器 埴	カマド内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒少 白色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(?)。	
47-2	土師器 埴	25cm 破片	口 (16.9) 底 — 高 (5.1)	片岩粒多 白色鉱物粒微	中性焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(?)。体部の張りは弱く、口縁部は短く外反する。	
47-3	土師器 埴	28cm 1/2残存	口 — 底 5.1 高 (2.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部回転糸切り無調整。	
47-4	須恵器 羽釜	カマド内 21cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (9.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	中性焰 硬質	褐灰	轆轤整形。口縁部は垂直気味に立ち上がり、口縁部及び内面は撫で、罫は水平で三角形状である。	
47-5 136	石製品 砥石	17cm 1/2残存	長 8.1 幅 5.1 厚 2.0	砥沢石			砥面は4面。	重 131.8
47-6	瓦 女瓦	破片	厚 1.7	片岩粒多 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは2面。凸面は全面撫でを施す。	カマド内 3~6cm
47-7	瓦 女瓦	カマド内 14cm 破片	厚 1.8	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	還元焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面取り2面、凹面布目は丁寧に撫で消されている。凸面は縄叩きを施す。	

## 第19号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
48-1	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 (5.0) 高 4.2	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。口縁部は外反する。	体部外面にカーボン付着
48-2 136	土師質 坏	4cm 1/2残存	口 (12.9) 底 (7.5) 高 4.1	細粒多 白色鉱物少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。脚部に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
48-3 136	須恵器 埴	カマド内 4cm 1/2残存	口 12.7 底 6.6 高 4.5	白色細粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	黒褐	轆轤整形(右回転)。体部上半に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	いぶし
48-4 136	灰釉陶器 埴	カマド内 1/2残存	口 (15.4) 底 — 高 (4.1)	美濃系		灰白	轆轤整形。体部下半に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。施釉漬け掛け。	樹脂が付いている
48-5 136	須恵器 羽釜	±0~12cm 1/2残存	口 (19.6) 底 (4.5) 高 (26.5)	白色鉱物粒少 砂粒多	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し、口縁部は強く内傾する。口唇部は平坦で内傾している。胴部上半及び内面に轆轤痕を残し、外面下半は斜位(上下)の篋削りを施す。	
48-6	瓦 女瓦	12cm 破片	厚 1.8	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取り1面、凹面に粘土板糸切り痕残存。凸面は全面撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
48-7	瓦 女瓦	±0cm 破片	厚 1.8	片岩粒少 白色鈹物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凸面は全面撫で。	
48-8 136	石 器 擦 石	3cm 完形	長 10.8 幅 10.0 厚 4.5	粗粒安山岩			敲打痕と擦痕を持つ。	重 847.5
49-9 136	石 器 不 明	覆土内 完形	長 3.4 幅 1.4 厚 1.0	砂岩			使用痕不明。	重 7.2
49-10 136	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.2 幅 5.3 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 337.5
49-11 136	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.0 幅 5.5 厚 3.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 378.2
49-12 136	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.1 幅 5.3 厚 2.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 291.2

第20号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
51-1	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転)。底部は、回転糸切り無調整。	
51-2	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (17.0) 摘 — 高 (2.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面は、回転篋削りを施す。	
51-3	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (11.0) 摘 — 高 (1.6)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは、口縁部とほぼ同規模で、内傾しない。	
51-4	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (13.0) 摘 — 高 (1.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは短く内傾しない。	

第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
53-1 136	土 師 器 坏	カマド内 %残存	口 (12.0) 底 — 高 4.5	黒色鈹物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
53-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒多 白色鈹物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部との境に強い段を有し、口縁部横撫で内面撫でを施す。	
53-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒多 白・黒色鈹物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱く段を有し口縁部は内湾気味。整形は口縁部横撫で。内面は撫でを施す。	
53-4 136	土 師 器 坏	覆土内 完形	口 12.8 底 — 高 4.5	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部手持ち篋削りと思われるが器面が粗れていて不明確である。口縁部は横撫で、内面は全面撫でを施す。	
53-5	土 師 器 坏	カマド掘 り方 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.3)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部篋削りを施したと思われるが器面の粗れが激しく不明確。	

## 第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
55-1 136	土師器 坏	覆土内 %残存	口 11.0 底 — 高 3.6	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は器面が粗れ不明瞭である。内面は全面撫でを施す。	
55-2 136	土師器 坏	覆土内 %残存	口 12.4 底 — 高 4.0	褐色細粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
55-3 136	土師器 坏	12cm %残存	口 10.6 底 — 高 3.4	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
55-4 137	土師器 坏	覆土内 %残存	口 11.8 底 — 高 3.9	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、器面が粗れているため不明瞭、口縁部は横撫で、内面は、全面撫でを施されている。	
55-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.3)	片岩細粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は外反し、底部との間に稜を有し、底部は丸底を呈する。底部篋削り後、口縁部横撫で。	
56-6 137	土師器 坏	覆土内 %残存	口 11.2 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く内湾し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は撫でを施す。	
56-7 137	土師器 坏	覆土内 %残存	口 12.2 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部はやや内湾し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は撫でを施す。	黒斑有り
56-8 137	須恵器 蓋?	覆土内 %残存	口 (11.4) 摘 — 高 (3.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。口縁部は内湾し、天井部は丸底状を呈する。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	
56-9 137	須恵器 蓋	覆土内 %残存	口 (11.0) 摘 — 高 (3.6)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。口縁部は直線的に外傾し、口縁部との境に強い稜を有する。天井部は外面に回転篋削りを施す。	
56-10	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。上半部に手持ち篋削りを施す。	
56-11 137	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 10.2 摘 — 高 3.6	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
56-12 137	土師質 坏	覆土内 完形	口 10.2 底 5.1 高 3.0	黒色粒少 砂粒多	酸化焰 やや軟質	橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
56-13	土師器 壺	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は外反する。口縁部横撫で。	
56-14	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (9.0) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は直立する。	
56-15	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面擬格子状叩き。内面は器面が剥落し不明。	厚 0.6
56-16	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面格子状叩き、内面青海波文。	厚 0.7
56-17 137	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.0 幅 7.4 厚 5.0	粗粒安山岩			上下端に敲打痕あり。	重 665.9
56-18 137	石器 鹿編み石	覆土内 完形	長 13.2 幅 6.7 厚 4.9	変質安山岩			使用痕不明。	重 691.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
56-19	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 16.7 幅 5.7 厚 5.7	粗粒安山岩			上下端部と側端部に敲打痕、側端部に剝離面を持つ。	重 780.3
56-20 137	石 器 薦編み石	覆土内 %残存	長 (10.7) 幅 4.8 厚 4.0	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 324.5
56-21	石 器 敲 石	覆土内 %残存	長 (6.6) 幅 7.1 厚 3.8	粗粒安山岩			側部に敲打痕を持つ。	重 254.2
56-22 137	石 器 薦 編 み 石?	覆土内 完形	長 10.1 幅 9.8 厚 4.7	変質玄武岩			使用痕不明。	重 716.8

第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
58-1	須 恵 器 坏 身	覆土内 破片	口 10.2 底 — 高 2.2	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部は比較的長く内傾し、受け部は反り気味に水平にのびている。	
58-2	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (26.0) 底 — 高 (4.2)	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は強く外反し、上端に沈線を巡らす。	
58-3	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
58-4	須 恵 器 円 盤	覆土内 完形	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	須恵器の甕の破片を使用したものであり、平行叩きと青海波文を残している。周縁は打ち欠いたままである。	厚 0.6 重 13.9
58-5 137	石 器 磨 石?	覆土内 破片	長 6.5 幅 6.7 厚 4.1	粗粒安山岩			自然面には剝落した部分がある。截断面縁辺には小さな使用に伴う剝離があり、面は磨滅している。	重 245.5
58-6 137	石 器 薦 編 み 石?	6 cm 完形	長 13.6 幅 6.4 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 635.9
58-7 137	石 器 敲 石	3 cm 完形	長 14.7 幅 7.0 厚 4.5	溶結凝灰岩			一端部に敲打痕。	重 645.8
58-8 137	石 器 薦 編 み 石?	1 cm 完形	長 16.2 幅 6.2 厚 4.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 754.1
58-9 137	石 器 薦 編 み 石?	4 cm 完形	長 15.5 幅 7.1 厚 5.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 832.5
58-10 137	石 器 薦 編 み 石?	7 cm 完形	長 13.5 幅 7.5 厚 4.4	ひん岩			両端部に敲打痕有り。	重 665.9

第162号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
58-11	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
58-12 137	須 恵 器 横 瓶	覆土内 破片	口 (10.4) 底 — 高 (8.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(?)。頸部から口縁部にかけて強く外反し上端で外面肥厚している。この肥厚部には沈線状の窪みが巡っている。	

## 第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
59-1	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (16.8) 底 — 高 (4.0)	黒色鋳物粒多 白色鋳物粒多 白色粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。内面に 接合痕がみられる。整形は、口縁部内外面横 撫でを施す。	

## 第25号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
61-1	須 恵 器 坏 身	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.0)	白色細粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部を有し、口縁部は内傾 する。蓋坏の坏身。	
61-2 138	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.8) 底 — 高 (4.1)	細砂粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口 縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部 篋削りで、間に調整不明瞭な部分がある。	内外面黒 色塗彩
61-3	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.8
61-4 138	土 製 品 埴 塼	カマド内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (4.6)		還元焰 硬質	灰白	器厚が厚く、体部は内湾し、口唇部に段を有 する。口唇部外面及び内面には付着物が見ら れ、一部発泡している。	

## 第26号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
63-1 138	須 恵 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.2) 底 6.0 高 4.1	黒色細粒少	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。 体部上半にやや張りを有し、口縁部は外反す る。	
63-2 138	須 恵 器 埴 塼	覆土内 破片	口 — 底 (5.0) 高 (3.2)	黒色細粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台。	
63-3	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (18.6) 底 — 高 (5.3)	黒色鋳物粒多 細砂粒多	酸化焰 破片	橙	口縁部破片で「コ」字状に屈曲する。口縁部 横撫では屈曲部に強く施され、中位は弱く、 接合痕を明瞭に残す。	
63-4 138	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (13.4) 底 — 高 (9.3)	黒色鋳物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「コ」字状 に2段の屈曲がみられる。口縁部横撫で後胴 部横位(右→左)の篋削りを施す。内面は横 位篋撫で。口縁部内外面に明瞭な接合痕が認 められる。	
63-5	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (3.0) 高 (2.2)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部回転糸切り無調整。	
63-6	須 恵 器 鉢	覆土内 破片	口 (16.7) 底 — 高 (9.1)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り後轆轤整形。口縁部が「く」字状に外 反し、口唇部は平坦で外傾する。	
63-7 138	鉄 器 刀	覆土内 1/2残存	長 (13.7) 幅 (1.1) 重 15.9				峯の巾が比較的厚い。同一個体とみられるが 接合はしない。	
63-8 138	鉄 器 釘	覆土内 1/2残存	長 (4.9) 幅 (0.5) 重 5.9				両端を欠損。断面は長方形で使用に伴うもの か曲がっている。	
63-9 138	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (4.0) 幅 (0.4) 重 2.6				両端欠損。断面方形。	
63-10 138	鉄 器 釘	覆土内 ほぼ完形	長 (11.2) 幅 (0.6) 重 19.4				先端をわずかに欠損。使用に伴うものか全体 に曲がっている。断面方形。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
63-11 138	瓦 男瓦	カマド奥 壁18~21 cm 完形	広 20.7 狭 12.4 長 40.0	白色細粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	にぶい 褐	紐作り?。側端面取り2面。広端部内面に 篋削り。凹面布目は粗く指先の撫でが施され ている。凸面は撫でを施す。	厚 2.0
64-12 138	瓦 男瓦	カマド右 壁-2cm 1/2残存	広 - 狭 11.8 長 26.5	細粒少 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取り1面。凸面は全面 平行叩きを施す。第64図-13と同一個体。	厚 2.2
64-13 138	瓦 男瓦	カマド左 壁-3cm 完形	広 19.0 狭 12.0 長 35.6	細粒少 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕をわずかに 残す。凸面は縄叩き後撫で消し。第64図-12 と同一個体。	厚 1.3
65-14 138	瓦 女瓦	カマド右 壁12cm 1/4残存	厚 3.3	砂粒多 小礫微 白色鈹物粒多	還元焰 硬質	暗灰黄	篋描文字瓦か?。一枚作り?。凹面に明瞭な 粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫で、側 端面取りは1面。	

第27号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
67-1 139	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.2) 底 - 高 (3.0)	砂粒少 黒色鈹物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は直線的に短く直立し、底部との間に 強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。 整形は、底部篋削り後、口縁部横撫で、内面 は全面撫でを施す。	
67-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 - 高 (3.5)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は、直線的に外傾し、底部は丸底を呈 する。口縁部は横撫で、底部篋削り。内面は 篋撫で。	
67-3 139	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 11.7 幅 6.0 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 434.9
67-4 139	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.1 幅 5.8 厚 4.6	変質安山岩			使用痕不明。	重 432.2
67-5 139	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 11.6 幅 6.6 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 421.4
67-6 139	石器 薦編み石	3cm 完形	長 14.2 幅 5.9 厚 3.1	黒色頁岩			使用痕不明。	重 431.6
67-7 139	石器 薦編み石	3cm 完形	長 16.5 幅 8.1 厚 3.5	変質安山岩			一端から両面に剥離がみられ、その端部は磨 減している。	重 615.1
67-8 139	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.4 幅 8.4 厚 4.0	粗粒安山岩			両端部に敲打痕が認められ、側縁の1面に磨 減した面がある。	重 577.1
67-9 139	石器 薦編み石	1cm 完形	長 13.3 幅 6.6 厚 4.5	流紋岩			使用痕不明。	重 591.6
67-10 139	石器 薦編み石	-3cm 完形	長 12.9 幅 5.9 厚 4.8	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 562.7

第28号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
68-1 139	土師器 坏	-4cm 1/2残存	口 (13.6) 底 - 高 (3.7)	砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 やや硬質	灰褐	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。 整形は口縁部横撫で、底部は篋削り。内面は 撫で、見込み部に指頭痕状の凹みがある。	
68-2 139	土師器 坏?	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 - 高 (3.2)	黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底気味で、体部から口縁部は内湾気 味である。口縁部は横撫で、体部は円周方向、 底部は一定方向の篋削りを施す。	



挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
68-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
68-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.2)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや内湾気味に内傾し、底部との境に段を有する。整形は底部手持ち篋削り後、口縁部横撫で、内面撫でを施す。	
68-5	土 師 器 坏	-7cm 破片	口 (17.6) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
68-6 139	須 恵 器 長頸瓶?	-10cm 脚部破片	口 — 底 14.4 高 (4.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。裾は強く開き、先端で短く屈曲する。接合部から剥離している。	

## 第29号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
69-1 139	須 恵 器 埴	覆土内 高台部剥 離	口 12.8 底 — 高 (4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 白色細粒多	還元焰 やや硬 質	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部は高台貼付に伴い撫でが施されている。体部下半にわずかに張り有し、口縁部は、外反する。	カーボン 付着
69-2	瓦 男 瓦	±0cm 瓦残存	厚 3.1	白色鉱物粒少 砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り? 側端面取り2面。凸面は平行叩き。凹面布目は全面にわたって撫で消されている。	

## 第30号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
71-1	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (2.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転篋削りを施す。	
71-2	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は回転篋削り後付高台。	
71-3	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 12.0 高 (2.0)	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は回転篋削り後の付高台。	
71-4	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (3.2)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
71-5	須 恵 器 高台付 有孔甕	21cm 破片	口 — 底 (14.0) 高 (3.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台で4ヶ所に孔がある。	
72-6	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (1.5)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。扁平な器形で、口縁端部は屈曲する。	
72-7	土 師 器 壺	覆土内 破片	口 (13.4) 底 — 高 (4.8)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	胴部の張りは強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫でで、接合痕が認められる。	
72-8	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.7)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	暗青灰	外反する口縁部で、外面波状文を残存部で2段施す。	
72-9 139	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 1.0 孔 0.3	滑石			周縁は比較的丁寧に円形に整形されている。穿孔は一方向。	重 2.2
72-10	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 13.4 幅 6.4 厚 3.0	粗粒安山岩			一縁辺にわずかに敲打痕が認められ、一端にカーボンが付着。	重 417.8

遺物一覧表

第182号址

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
72-11	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (13.2) 底 (8.0) 高 3.8	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は比較的強く外傾する。底部は回転篋切り後篋削りを施す。	
72-12 139	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	長 (5.0) 幅 (1.7) 重 10.9				両端部を欠損している。錆の進行が比較的進んでおり、縦方向にヒビが入っている。	

第31号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
74-1 139	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.8) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾気味である。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
74-2 139	灰釉陶器 埴	-4~ ±0cm 破片	口 (14.6) 底 (6.8) 高 3.9	美濃系 白色粒多		灰白	轆轤整形(右回転)。体部に丸味を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り後の付高台である。施軸は潰け掛け。内面に糊の圧痕があり、この部分が「ハゼ」ている。	
74-3 139	須 惠 器 蓋	覆土内 完形	口 20.4 摘 4.6 高 3.8	小礫少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。摘は天井部切り離し後回転篋削り調整を施し、その後に貼付している。	
74-4	須 惠 器 小 型 甕	P <sub>1</sub> ±0cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部は「く」字状に外傾する。内面にカーボン付着。	
74-5	土 師 質 甕	覆土内 破片	口 — 底 (21.0) 高 (8.8)	細砂粒多 白色鉱物粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。胴部は縦位の篋削り後、脚部横撫で。脚部は「く」字状に外反する。	
74-6	瓦 男 瓦	カマド内 6cm 破片	厚 1.4	白色細粒多 黒色粒微	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端面面取り1面。	
74-7	瓦 女 瓦	±0~8 cm 破片	厚 1.7	片岩粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面に粘土板糸切り痕。	
74-8	瓦 男 瓦	3cm 破片	厚 1.8	片岩細粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?。側端面面取り1面。凸面は全面撫で。	
74-9 139	石 器 不 明	±0cm ½残存	長 13.3 幅 (8.4) 厚 (5.5)	灰色安山岩			半截されており、一部に剝離が認められる。	重 889.9
74-10 139	石 器 薦編み石	8cm 完形	長 18.3 幅 8.1 厚 4.9	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1339.2

第32号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
75-1 140	須 惠 器 坏	カマド内 -1cm ½残存	口 (13.4) 底 (6.0) 高 3.9	白色鉱物粒少 細砂粒多	還元焰 軟質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	
75-2 140	土 師 質 坏	23cm ½残存	口 (18.0) 底 — 高 (5.0)	細砂粒少 白色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、内外面共に轆轤痕を明瞭に残す。	
75-3	須 惠 器 埴	カマド内 破片	口 — 底 (9.2) 高 (2.2)	細砂粒少 白色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75-4	須 惠 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (3.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
75-5	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.2) 高 (2.3)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75-6	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 4.2 高 (3.5)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
75-7 140	須恵器 高台付皿	28~33cm 完形	口 12.1 底 6.1 高 2.4	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は厚手で、やや内湾気味に開く。底部は回転糸切り後付高台。高台内面の調整は良好でない。	
75-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 (4.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部は「く」字状に外反し、上端に突帯を巡らす。	
75-9 140	土師器 甕	— 6 cm ㄥ残存	口 (19.0) 底 — 高 (17.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半に最大径を有し、口縁部は「コ」字状を呈し、口唇部はわずかに直立し、外面に沈線がみられる。口縁部横撫で後胴部上半に横位(右→左)の篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	
75-10 140	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.5)	黒色鉱物粒多 細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴は球胴形と考えられ、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後外面横位(右→左)の篋削り、内面横位篋撫でを施す。	
75-11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、上端に突帯を巡らし、下半に波状文を施す。	厚 0.9
76-12 140	瓦 男瓦	ㄥ残存	厚 2.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰黄	一枚作り?。側端部面取り1面。	カマド内 16cm
76-13 140	鉄器 鉄?	± 0 cm ㄥ残存	長 (9.0) 幅 6.5 重 8.4				茎の一部を欠損、先端は菱形状を呈する。	
76-14 140	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (4.2) 幅 (0.9) 重 9.3				釘頭部で片側に折れ曲がった様な状態である。	
76-15 140	石器 敲石	覆土内 ㄥ残存	長 (8.4) 幅 7.9 厚 3.1	石英閃緑岩			端部敲打痕あり。	重 328.7
76-16 140	石製品 板碑?	4 cm 破片	長 (10.4) 幅 (9.8) 厚 (1.2)	緑色片岩			1面に断面三角形の線刻が施されている。	重 194.1

## 第33号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
77-1 140	土師器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
77-2 140	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 11.6 底 — 高 4.3	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
77-3 140	土師器 坏	8 cm 完形	口 13.1 底 — 高 4.6	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
77-4 140	土師器 坏	3 cm ㄥ残存	口 13.2 底 — 高 4.3	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
77-5 140	須恵器 埴	カマド内 ㄥ残存	口 (16.8) 底 — 高 (6.5)	黒色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。	
77-6 140	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (6.4)	褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に外反する。整形は胴部上側横位(右→左)篋削り、口縁部は横撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
78-7 140	土師器 小型壺	±0cm 1/4残存	口 (10.4) 底 — 高 (5.8)	褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部は球形で、口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、胴部は篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明。	
78-8 141	土師器 壺	カマド内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (12.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	肩部に最大径を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後肩部横位 (右→左) 下半斜位 (下→上)、胴部下半縦位 (上→下) の篋削りを施す。口縁部中位に接合痕を残す。	
78-9 141	土師器 甗	7cm 1/4残存	口 (19.9) 底 — 高 (12.6)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は強く外反し、胴部上半にわずかに張りをもつ。口縁部横撫で、胴部縦位 (上→下) 篋削り、内面は横位横撫でを施す。	
78-10 141	土師器 埴	5cm 完形	口 8.0 底 — 高 15.9	砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部は扁平な球形で、口縁部はわずかに外反気味である。外面の磨滅が激しく、器面調整は不明。口縁部内面に接合痕を残す。	
78-11 141	須恵器 瓶	6cm 1/4残存	口 — 底 (9.4) 高 (11.8)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	底部は平底で、胴部はやや扁平な球形状である。胴部全面に横位カキ目を施す。	
78-12 141	須恵器 壺	3cm 破片	口 (14.6) 底 — 高 (5.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有し直立する。直立部分に櫛描波状文を施す。口縁部内面に焼成前の篋削りがみられる。	
78-13 141	石製品 砥石	3cm 1/4残存	長 (10.0) 幅 7.2 厚 4.7	砥沢石			砥面は4面で、線刻状の使用痕がみられる。周辺の剝落が顕著である。	重 391.5
78-14 141	石器 不明	カマド掘り方 破片	長 14.5 幅 11.2 厚 5.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 1523.7
78-15 141	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 16.8 幅 5.8 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 616.5
78-16 141	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 14.7 幅 5.3 厚 5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 651.1
78-17 141	石器 敲石	3cm 完形	長 12.8 幅 5.2 厚 4.9	粗粒安山岩			一端に敲打痕。	重 513.5
78-18 141	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 12.7 幅 5.7 厚 4.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 561.6

第34号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
81-1 141	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.2)	砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
81-2 141	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.2 底 — 高 4.1	砂粒少 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
81-3 141	土師器 坏	23cm 完形	口 12.6 底 — 高 4.6	細砂粒多	酸化焰 硬質	淡黄	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
81-4 141	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 12.6 底 — 高 4.2	砂粒微 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
81-5 141	土師器 坏	8~13cm 1/4残存	口 14.8 底 — 高 4.2	細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
81-6 142	土師器 坏	6cm ほぼ完形	口 13.2 底 — 高 4.6	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は中位に段を有し外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
81-7	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との間に強い稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。	
81-8 142	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底と思われ、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は上半で内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられる。	黒色塗彩の可能性有り
81-9 142	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.8) 底 — 高 4.7	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	明褐	底部は平底気味で、体部の丸味は強く、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部は横位篋削りと考えられるが、器面の磨減が激しく不明瞭である。	
81-10	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.6)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は直線的で、底部は平底気味を呈する。口縁部横撫で、底部は篋削り、内面は撫でを施す。	
81-11 142	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 13.2 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、体部は丸味を有し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部の調整は不明瞭である。	
81-12	須 恵 器 高 坏?	覆土内 破片	口 (28.0) 底 — 高 (6.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は外傾し、体部中位に強い稜を有する。	
81-13 142	須 恵 器 高 坏	覆土内 脚部残存	口 — 底 12.5 高 (9.0)	黒色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。長脚で三角形の2段透しを3方に有する。	
81-14	須 恵 器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	3方透しを有する高坏脚部の破片で、坏部接合部から剥離している。	
81-15 142	須 恵 器 台 付 長 頸 壺	覆土内 1/2残存	口 — 底 — 高 (11.3)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。肩部はわずかに張りをも有し、胴部との境で強く屈曲する。胴部最大部に2本の沈線を廻らし、間に櫛描波状文を施す。脚部は貼付。	
81-16	須 恵 器 短 頸 壺	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (6.1)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 やや軟質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は直立し、胴部中位に最大径を有する。外面胴部中位に波状文を施す。	
81-17	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (8.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部「く」字状に弱く外傾し、胴部下半に最大径を有する。口縁部横撫で、胴部は篋削り、内面は撫でを施す。	
81-18 142	土 師 器 甕	23cm 1/2残存	口 20.6 底 — 高 (20.0)	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部上半に弱い張りをも有する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	
81-19 142	土 師 器 甕	23cm 1/2残存	口 18.0 底 — 高 (9.5)	白・黒色鉱物 粒少 砂粒多	酸化焰 やや硬質	黄灰	口縁部は外反し、胴部中位にわずかに張りをも有する。口縁部横撫で後胴部縦位(下→上)篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	
81-20 142	土 師 器 甕	— 3~5 cm 1/2残存	口 (21.2) 底 — 高 (17.5)	小礫多 砂粒多	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)篋削り、内面横位篋撫でを施す。	
82-21	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (10.9)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。頸部は強く外反する。胴部外面撫でを施す。内面は素文。	
82-22	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面擬格子叩き後、間隔をおいてカキ目、内面は青海波文。	厚 0.7
82-23 142	石 製 品 砥 石	覆土内 完形	長 3.7 幅 3.2 厚 2.9	二ツ岳軽石			周囲は比較的細かく面取りされ、円錐状を呈する。	重 18.4
82-24 142	石 製 品 砥 石	覆土内 完形	長 4.5 幅 3.0 厚 2.3	二ツ岳軽石			周囲は面取りされ、四角錐状を呈する。	重 27.7
82-25 142	石 器 薦編み石	± 0 cm 1/2残存	長 (10.7) 幅 6.5 厚 4.8	粗粒安山岩			残存部において使用痕は不明。断面に磨減は認められない。	重 457.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
82-26 142	石 器 蔑編み石	覆土内 完形	長 12.8 幅 5.4 厚 3.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 322.9
82-27 142	石 器 蔑編み石	± 0 cm 完形	長 13.6 幅 6.1 厚 3.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 420.3
82-28 142	石 器 蔑編み石	覆土内 完形	長 14.8 幅 5.3 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 590.9
82-29 142	石 器 蔑編み石	6 cm 完形	長 12.0 幅 6.9 厚 2.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 376.6
82-30 143	石 器 蔑編み石	11cm 完形	長 15.2 幅 6.1 厚 3.6	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 486.5
82-31 143	石 器 蔑編み石	覆土内 完形	長 14.2 幅 5.9 厚 4.9	砂岩			使用痕不明。	重 702.5
82-32 143	石 器 磨 石?	-16cm 完形	長 14.1 幅 7.6 厚 4.3	灰色安山岩			一端が截断され、截断面が使用に伴い磨滅している。	重 716.9
82-33 143	石 器 蔑編み石	覆土内 完形	長 12.2 幅 6.9 厚 5.7	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 707.9
82-34 143	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 13.3 幅 7.1 厚 4.5	ひん岩			一端に敲打痕。	重 594.2
82-35 143	石 器 蔑編み石	覆土内 完形	長 13.5 幅 5.8 厚 4.0	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 511.1
82-36 143	石 器 蔑編み石	2 cm 完形	長 12.1 幅 6.3 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 595.5
82-37 143	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 11.0 幅 5.9 厚 4.1	粗粒安山岩			一端に敲打痕がみられ、側縁に剝離が認められる。	重 356.9
83-38 143	石 器 敲 石?	覆土内 完形	長 15.9 幅 10.2 厚 3.7	粗粒安山岩			縁辺の一部に使用痕らしい剝落がみられ、1面にカーボン付着。	重 953.9
83-39 143	石 器 敲 石?	覆土内 ほぼ完形	長 (12.4) 幅 12.7 厚 4.2	溶結凝灰岩			縁辺の一部が割れている。	重 937.9
83-40 143	石 器 蔑編み石	± 0 cm 完形	長 10.5 幅 5.7 厚 3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 440.2
83-41 143	石 器 蔑編み石	± 0 cm 1/2残存	長 (9.7) 幅 6.6 厚 4.2	溶結凝灰岩			断面に磨滅等は認められず、その他の部分についても残存部に使用痕はみられない。	重 377.2
83-42 143	石 器 蔑編み石	3 cm 完形	長 7.4 幅 4.7 厚 2.5	流紋岩			使用痕不明。	重 125.3

第35号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
85-1	土 師 器 坏	2床下坑 -25cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は強く外反し、底部は丸底を呈する。 口縁部との間に段を有する。整形は口縁部横撫で内面全面撫で、底は篋削りと思われるが器面の粗れが激しく不明確である。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
85-2 144	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部はやや内湾気味に外傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は無でを施す。	
85-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	片岩細粒多 白色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 褐	口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。口縁部との境に段を有する。整形は口縁部横撫で、底部は篋削り、内面は無でを施す。	
85-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は弱く内湾し、底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い段を有する。口縁部横撫で底部篋削り、内面は無でである。	
85-5 144	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒多	酸化焰 硬質	黒褐	口縁部は強く内傾し、底部との境に強い段を有し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で後に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
85-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部はやや内傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部手持ち篋削り後口縁部横撫で、内面は無でを施す。	
85-7 144	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.2 底 — 高 4.1	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は強く内傾し、底部との間に強い稜を有する。底部は扁平な丸底を呈する。整形は底部篋削り、口縁部は横撫で、内面は全面無でを施し、粗い横位研磨後黒色処理を施す。	内面黒色処理
85-8	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.9)	細砂粒少、褐色 細粒少、白・ 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は外反し、横撫で。内面底部から口縁部にかけて放射状の篋磨きを施す。	脚部欠損
85-9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (20.8) 摘 — 高 (2.0)	白色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。扁平な器形で、口縁端部が屈曲する。	
85-10 143	須恵器 甕	2床下坑 -17cm 1/4残存	口 (16.5) 底 — 高 (9.3)	砂粒少	還元焰 やや軟質	灰白	紐作り。口縁部は外反し、上端に段を有し、短く直立する。胴部上半に強い張り有する。口縁部及び頸部に波状文を施し、胴部にカキ目と沈線を巡らす。	掘り方 -13cm
85-11 143	石製品 砥石	覆土内 完形	長 3.8 幅 2.6 厚 2.1	二ツ岳軽石			周囲は円錐状に面取りされている。	重 12.0
86-12 143	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (10.0)	白色鉱物粒少 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 やや軟質	橙	やや扁平な球胴を短く直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で、胴部は横位篋削りを施す。	
86-13 143	石器 薦編み石	2床下坑 -14cm 完形	長 12.7 幅 5.1 厚 4.7	流紋岩			使用痕不明。	重 445.8
86-14 143	石器 敲石	-13cm 縁辺欠損	長 17.9 幅 14.2 厚 4.8	粗粒安山岩			縁辺に剝離が多く認められる。	重1805.8

## 第36号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
88-1 144	土師器 坏	±0cm ほぼ完形	口 13.2 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	黒褐	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部はわずかに外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫で、間に調整不明瞭な部分認められる。	
88-2 144	土師器 坏	カマド掘り方 1/4残存	口 (12.8) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部はやや外反気味に直立し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部(手持ち)篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は無でを施す。	
88-3	土師器 坏	掘り方覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	片岩細粒微 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は強く外傾し、底部は丸底と思われる。整形は口縁部横撫で、底部との間は調整不明瞭で底部は篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
88-4 144	須 惠 器 境	6 cm 完形	口 14.2 底 11.0 高 3.9	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部はやや内湾気味に開く。底部全面回転篋削り調整の為、切り離し技法不明。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
88-5	須 惠 器 境	貯蔵穴 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.4)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は脚部と底部回転篋削り後の付高台。	
88-6 144	須 惠 器 蓋	覆土内 完形	口 20.2 摘 5.1 高 4.4	黒色粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。やや扁平な体部と短く屈曲する口縁部を有する。摘は天井部外面回転篋削り後の貼付。	
88-7 144	土 師 器 甕	± 0 cm 完形	口 24.4 底 5.0 高 31.3	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	明赤褐	胴部上半に最大径を有し、口縁は「く」字状に外反する。整形は胴部上半横位、下半縦位の篋削り、口縁部及び内面は横撫でを施す。	
88-8 144	鉄 器 釘	覆土内 ほぼ完形	長 (13.5) 幅 (0.5) 重 10.2				断面は円形状であり、古代のものかどうか不明。	
88-9 144	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 13.3 幅 6.2 厚 4.9	粗粒安山岩			一端にわずかに敲打痕。	重 593.8
88-10 144	石 器 敲 石	3 cm 完形	長 14.3 幅 7.4 厚 4.8	粗粒安山岩			上端と左端側面に若干敲打痕あり。	重 768.3

第37号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
90-1 144	土 師 質 坏	7 cm ½残存	口 (10.0) 底 (5.2) 高 (2.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形 (右回転)。底部回転糸切り無調整。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	
90-2 144	灰釉陶器 皿	3 cm 完形	口 13.4 底 7.3 高 2.8	美濃系		灰白	轆轤整形。体部下端2段の回転篋削り。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛けである。重ね焼きの痕跡有り。	
90-3	須 惠 器 羽 釜	2 cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.9)	細砂粒少 黒色鉍物粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。口縁部は内湾し、口唇部は平坦である。鏝部は沈線状に窪む。	
91-4	須 惠 器 羽 釜	2 cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (12.0)	砂粒多 白・黒色鉍物 粒多	還元焰 硬質	灰褐	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部は弱く内傾し、口唇部は平坦で内傾し、胴部はあまり張りはみられない。	内面黒色 処理
91-5	須 惠 器 羽 釜	カマド掘 り方 破片	口 (25.0) 底 — 高 (6.5)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	還元焰 硬質	灰褐	紐作り轆轤整形。口縁部はほぼ直立する。口唇部は平坦で内傾する。鏝の貼付は丁寧である。	
91-6	須 惠 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.3)	砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。高台は付高台。	
91-7	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。内面青海波文。外面撫でて叩きは不明。	厚 0.8
91-8 144	瓦 玉 縁 付 男 瓦	3 cm ¾残存	厚 2.5	砂粒多	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り?。側端部面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残し、凸面は縄叩き後大半を撫で消している。	
91-9 145	瓦 男 瓦	— 3 cm ¾残存	厚 2.6	砂粒多 白色鉍物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端部面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は撫で。	
92-10	瓦 女 瓦	カマド内 2 cm ¾残存	厚 2.2	砂粒多 片岩小礫少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?。側端部面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残している。布目は部分的に粗く撫でが施されている。	
92-11	瓦 女 瓦	カマド内 6cm 破片	厚 2.4	白色細粒多 白色鉍物粒少	還元焰 硬質	赤灰	一枚作り?。凸面は全面縄叩き。凹面布目は全面撫で消されている。側端部面取り2面。	
92-12	瓦 女 瓦	カマド内 10cm破片	厚 1.3	片岩粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?。凹面布目は明瞭で、凸面は全面撫でを施す。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
92-13	瓦 男瓦	1/4残存	厚 1.9	白色鈹物粒多	還元焰 硬質	灰白	一枚作り?。側端面取り3面。凸面は平行叩き。	カマド内 6cm
92-14	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.8	砂砂粒微 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	一枚作り?。側端面取り1面。凹面に粘土板永切り痕を残す。凸面は面取り状の撫で。	
92-15 144	石器 敲石	4cm 完形	長幅 11.2 7.1 厚 5.0	角閃石安山岩			左右と上端部に敲打痕を有する。	重 557.2

## 第38号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
94-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.7) 底 — 高 (3.4)	黒色鈹物粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	明赤褐	口縁部は外反する。口縁部横撫で、内面に篋磨きを施す。	
94-2 145	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.8) 底 — 高 (4.5)	黒色鈹物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は弱く外傾する。底部篋削り後撫で、口縁部は横撫でを施す。内面は全面撫で後放射状の粗い磨きを施す。	
94-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は内湾気味に直立し、口唇部で外反する。底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、底部篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は全面撫でを施す。	
94-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.1) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鈹物粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は弱く内湾する。底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
94-5 145	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.8)	黒色鈹物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は短く直立する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
94-6 145	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 14.0 底 — 高 (4.2)	砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は弱く内傾する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。	
94-7 145	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.6)	黒色鈹物粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は篋削り、内面撫でを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
94-8	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.1) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。底部篋削り後、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
94-9 145	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.2) 底 — 高 (4.7)	細砂粒多 黒色鈹物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。	
94-10 145	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.6) 底 — 高 (3.8)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。	
94-11 145	土師器 坏	17cm 1/2残存	口 12.6 底 — 高 4.0	細砂粒少 黒色鈹物粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外傾し、上端で内湾する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。	内黒の可能性有り
94-12 145	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 13.0 底 — 高 4.3	黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、内面は撫で後黒色処理を施す。	
94-13	土師器 甗	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (8.5)	細砂粒多 白・黒色鈹物粒多	中性焰 やや軟質	浅黄	口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は上半斜位篋削り。内面は横位篋撫でを施す。	
94-14	土師器 甗	14cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (16.5)	片岩小礫少 片岩細粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は外傾する。胴部縦位(上→下)の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横位篋撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
94-15 145	土 師 器 甕	覆土内 1/4残存	口 17.0 底 — 高 (8.3)	砂粒多 白・黒色鈹物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	口縁部は上端が「く」字状に強く外反する。 肩部はなだらかである。口縁部横撫で、胴部 上半縦位(下→上) 篋削りを施す。内面は横 位篋撫でを施す。内外面に接合痕がみられる。	
94-16	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 — 底 (8.8) 高 (11.5)	片岩小礫少 片岩細粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	胴部中位縦位(下→上) 篋削り、下位縦位(上 →下) 篋削り。	
95-17 145	土 師 器 甕	1~4cm 1/4残存	口 (18.0) 底 — 高 (37.0)	砂粒多	酸化焰 硬質	灰褐	紐作り。口縁部は「く」字状に外反し、長胴 で胴部下半に弱い張り有する。口縁部横撫 で後縦位の篋削り、内面は粗い横位篋撫でを 施す。胴部下半内面に、上下胴部の接合痕を 明瞭に残す他、接合痕が数段みられる。	
95-18 145	土 師 器 壺	覆土内 1/4残存	口 (21.0) 底 8.5 高 (28.7)	黒色鈹物粒多 褐色粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	口縁部は外反し、胴部中位に最大径を有する。 胴部中位斜位篋削り後撫で。口縁部横撫で、 内面は横位篋撫でを施す。	
95-19 145	土 師 器 小型甕	4cm 1/4残存	口 (13.9) 底 8.0 高 17.5	小礫少 砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に弱く外反し、胴部中位 に最大径を有する。口縁部は横撫で、胴部斜 位(下→上) 篋削り、内面は横位篋撫でを施 す。	煤付着底 部に繊維 状圧痕
95-20 145	須 恵 器 短頸壺	覆土内 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (7.0)	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は「く」 字状に外反する。底部は丸底で回転篋削りを 施す。胴部最大部には平行沈線と間に楕円波 状文を巡らしている。	
95-21	石 製 品 砥 石	覆土内 1/4残存	長 4.8 幅 2.9 厚 1.8	砥沢石			残存部において砥面は5面で、条線状の線刻 がみられる。	重 35.4
95-22	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 11.0 幅 4.3 厚 4.2	粗粒安山岩			両端部に敲打痕。	重 239.8

第39号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
97-1 146	土 師 器 坏	2cm 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	砂粒少 白・黒色鈹物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は短く直立し、底部は丸底を呈する。 口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施 す。	
97-2	土 師 器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	白・黒色鈹物 粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は外傾し、底部は丸底を呈する。底部 篋削り後、口縁部横撫で。	
97-3 146	須 恵 器 埴 埴	11cm 1/4残存	口 (14.8) 底 10.3 高 3.9	細砂粒少 白・黒色鈹物 粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は弱く内湾する。 高台は角高台で、体部下半に回転篋削り、底 部回転篋削り後の丁寧な付高台。	
97-4	須 恵 器 長頸壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	外面に自然釉が付着。楕円工具による連続刺 突文あり。	厚 0.9
97-5	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.3)	細砂粒少 白色鈹物粒少	還元焰 硬質	灰	外面にカキ目、内面に青海波文。	
97-6	須 恵 器 甕	2cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き後横位の擦り消し、内面青海波 文。	厚 1.0
97-7	須 恵 器 甕	2cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鈹物粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面撫でのため不明。内面素文。 内面にカーボン付着。	厚 1.3
97-8	瓦 男 瓦	1/4残存	厚 2.4	褐色粒多 白色鈹物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取り1面。凸面は平行 叩きで、「武?」の篋描き文字あり。	カマド左 壁14cm
97-9	瓦 男 瓦	破片	厚 1.7	白色細粒多 黒色鈹物粒微	還元焰 硬質	灰白	一枚作り?。凸面は横位篋削り?	カマド左 壁14cm

## 第40号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
98-1 146	須恵器 蓋	P <sub>1</sub> 23cm 1/4残存	口 14.5 摘 3.6 高 2.5	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な体部を有する。摘は天井部回転篋削り後貼付。	
98-2 146	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 (14.0) 底 (8.2) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋削り無調整。体部中位にわずかに張り有り、口縁部は弱く外反する。	
98-3	須恵器 高坏?	覆土内 破片	口 (30.4) 底 — 高 (6.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。大型で体部にやや丸味をもち、沈線を1本巡らせている。	
98-4 146	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.7)	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は「コ」字状に2段に屈曲する。口縁部横撫で後胴部外面は縦位(下→上)の篋削りを施す。	
98-5	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台で、接地部は欠損している。	
98-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (11.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形。胴部中位～肩部に撫でを施す。内面に青海波文あり。	
98-7	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	暗赤褐	外面にはカキ目と波状文、内面にも平行沈線施文。	厚 0.7
98-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文は撫でられたものか不明瞭。	厚 0.8
99-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 褐色細粒多	還元焰 硬質	浅黄	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
99-10 146	鉄器 釘	覆土内 1/4残存	長 (9.8) 幅 1.2 重 18.8				先端の一部を欠損する。頭部は「く」字状に屈曲している。断面は長方形。	
99-11 146	鉄器 鉄鎌	覆土内 ほぼ完形	長 (13.2) 厚 0.6 重 23.0				先端と茎の一部を欠損する。茎の断面は方形、先端は断面長方形の板状である。	
99-12 146	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (6.6) 幅 1.1 重 12.5				断面長方形で片側が欠損する。刀子の茎とも考えられる。	
99-13 146	鉄器 帯金具	覆土内 破片	長 (11.0) 幅 0.5 重 16.8				基部が欠損する。断面は方形で「コ」字状に屈曲することから帯金具かと思われる。	
99-14 146	鉄器 釘	覆土内 頭部欠損 1/2残存	長 (3.8 2.0) 幅 (0.4 0.3) 重 3.9				断面方形で、先端が使用に伴うものか曲がっている。	
99-15 146	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (1.1) 幅 (0.3) 重 0.2					

## 第41号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
101-1	土師質 塊	覆土内 底部残存	口 — 底 6.0 高 (2.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(?)。高台は付高台。底部中央に、穿孔あり。	
101-2	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
101-3 146	灰釉陶器 皿	31cm 1/4残存	口 (13.2) 底 (7.6) 高 2.7	美濃系		灰白	轆轤成形。体部に丸味を有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転削り後の付高台。重ね焼きの痕跡あり。	
101-4	土 師 質 黒色土器 塊	覆土内 破片	口 (16.9) 底 — 高 (6.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	浅黄	轆轤整形(?)。体部中位に張り有し、口縁部は外反する。内面は篋磨き後黒色処理を施す。	
101-5	土 師 器 羽 釜	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 (6.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	銚は指先で押えられたような状態の貼付で、口唇部は丸く仕上げられている。	カーボン 付着
101-6	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は弱く「コ」字状を呈する。整形は、口縁部横撫で。	
101-7	土 師 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.4)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は直立する。銚部下胴部に縦位の篋削りを施す。	

第42号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
103-1 146	土 師 器 坏	—12cm 1/4残存	口 14.6 底 8.2 高 4.4	砂粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	底部はやや丸底を有した平底で、体部は直線的に外傾する。内外面共に横～斜位の篋研磨を施す。	
103-2	土 師 器 坏	貯蔵穴 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は外反気味に直立し、底部との間に稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部手持ち篋削り内面は撫でを施す。	
103-3 146	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との間に強い稜を有し口縁部は短く直立する。外面のハゼが激しく器面調整は不明。底部に1ヶ所外面からの焼成後の穿孔がある。	内外面黒 色塗彩
103-4 146	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は直線的に外傾し、中位に稜を有し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部手持ち篋削りで内面は撫でを施す。	
103-5	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.2)	白・黒色細粒 少 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部切り離し後付高台。体部下半に張りを有する。	
103-6 146	石 製 品 紡 錘 車	覆土内 完形	上径 3.6 下径 2.0 厚 1.7	蛇紋岩			上下面には擦痕がみられ、側面は細い面取り状に整形されている。	重 33.9 孔 0.8
103-7 146	石 器 薦 編 み 石?	19cm 完形	長 15.9 幅 9.8 厚 4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重1231.6

第43号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
105-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は直線的に外傾し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部の上半に調整不明瞭な部分が見られる。下半は篋削り。内面は撫でを施す。	
105-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は篋削り。内面は撫でを施す。	
105-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.4) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部篋削り。内面は撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.0)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	青灰	轆轤整形(右回転)。天井部は回転篋削り。	
105-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は回転篋削り。	
105-6	須恵器 坏身	覆土内 破片	口(13.0) — 底 — 高 (2.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部を有し、口縁部は内傾する。蓋坏の坏身。	
105-7	土師器 壺	覆土内 破片	口(16.0) — 底 — 高 (4.1)	片岩粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く屈曲する。整形は口縁部横撫で、胴部篋削り内面は撫でを施す。	

## 第136号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105-8 147	土師器 坏	覆土内 %残存	口(11.6) — 底 (6.0) 高 (2.8)	細砂粒少 白色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は平底で体部は強く外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後体部と底部に篋削りを施す。内面は粗れているため明瞭でなく、磨きか施された可能性がある。	
105-9 147	土師器 坏	3cm %残存	口(12.4) — 底 — 高 (2.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
105-10 147	土師器 坏	—2cm %残存	口(12.4) — 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施しているが、内外面の磨滅が激しい。	
105-11	土師器 坏	覆土内 破片	口(11.6) — 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の整形は不明瞭。	
105-12 147	土師器 坏	覆土内 破片	口(14.0) — 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	口縁部外面に黒班あり
105-13 147	土師器 坏	覆土内 %残存	口(14.0) — 底 — 高 (3.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 褐	底部は丸底で口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
105-14 147	土師器 坏	—2cm 完形	口13.8 — 底 — 高 4.4	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後体部外面に斜位の篋削り、底部は一方方向?篋削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状見込み部ラセン暗文を施す。	
105-15 147	土師器 坏	—2cm %残存	口14.0 — 底 9.4 高 4.1	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は丸底気味の平底で、体部は外傾する。口縁部横撫で後、体部外面及び底部に篋削りを施す。内面は全面撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	
105-16 147	土師器 坏	7cm 完形	口13.0 — 底 — 高 4.3	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。口縁部横撫で後、体部外面及び底部に篋削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	口縁部内外面にカーボン付着
105-17 147	須恵器 坏	—2cm 破片	口(14.4) — 底 (9.2) 高 (3.6)	細砂粒多	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。腰にわずかに張り有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り後回転篋削りを施す。	
105-18	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 4.9 高 (1.5)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で天井部外面回転篋削り後の貼付。	
105-19	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(15.2) — 摘 — 高 (1.8)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な体部を有し、天井部外面に回転篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
105-20 147	土 師 器 甕	5 cm 破片	口 (21.3) 底 — 高 (15.7)	細砂粒多 黒色鋳物粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	黄橙	胴部上位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(上→下)の篋削り、内面に横位の篋撫でを施す。	
105-21 147	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 12.1 幅 5.7 厚 5.5	粗粒安山岩			両側面と一端に激しい敲打痕が認められる。	重 450.5

第46号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
107-1 147	土 師 質 埴	覆土内 1/2残存	口 12.0 底 6.4 高 4.7	細砂粒少 黒色鋳物粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は内湾気味である。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
107-2	須 恵 器 埴	カマド掘 り方 1/2残存	口 — 底 (5.6) 高 (3.9)	細砂粒多 白・黒色鋳物 粒多	還元焰 硬質	黒	轆轤整形(右回転?)。高台は付高台で、底部切り離しは高台貼り付けに伴い撫でられ不明。	
107-3	土 師 質 埴	カマド内 19cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒多 白・黒色鋳物 粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。底部欠損。口縁部は外傾する。内部にカーボン付着。	
107-4	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鋳物粒多 白・黒色鋳物 粒少	還元焰 硬質	褐	口縁部のみ残存。内外面とも自然釉付着。波状文を施す。	厚 1.7
107-5	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	細砂粒少 白・黒色鋳物 粒微	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部横撫で。口縁部は外反する。	
107-6	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (7.3)	細砂粒多 白色鋳物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部横撫で。口縁部は外反する。	
107-7	須 恵 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (4.9)	細砂粒多 白色鋳物粒微	酸化焰 硬質	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は内湾する。鏝は断面三角形状で、貼付は丁寧。	
107-8	須 恵 器 羽 釜	カマド内 7 cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (9.0)	細砂粒少 白・黒色鋳物 粒少	酸化焰 硬質	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部は内傾する。鏝は断面三角形状で貼付は丁寧。内面に粘土紐接合痕あり。	
107-9	須 恵 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (14.4)	細砂粒多 白・黒色鋳物 粒多	中性焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。口縁部は内傾する。鏝は断面三角形状で貼付は丁寧。	
107-10	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	一枚作り?。凹面に粘土板系切り痕を残す。凸面は縄叩き。	
107-11 147	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (4.1) 幅 (0.7) 重 7.8				頭部近くの破片と思われるもので、上半の巾、厚みが多い。断面方形、角の残存が良好。	厚 0.7

第47号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
109-1 147	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (10.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鋳物粒微	酸化焰 硬質	明赤褐	底部は浅い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
109-2 147	土 師 器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 11.4 底 — 高 3.7	黒色鋳物粒少 砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部と境で屈曲し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
109-3	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.8)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?) 底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
109-4	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (2.5)	白色鋳物粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。篋削り後付高台。付高台による撫で調整が施されている。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
109-5 147	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口 (12.4) 底 (8.0) 高 3.4	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。体部は直線的に開く。	
109-6	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 (13.6) 高 (1.9)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部篋切り後の付高台。	
109-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (9.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部上半に張りを有し、口縁部は「C」字状に外反する。胴部外面上半は雑な轆轤調整痕を残し、下半は篋削りを施す。内外面に接合痕が認められる。	
109-8	土師器 甕	±0 cm 破片	口 (26.0) 底 — 高 (8.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りをもたない。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篋削りを施す。	
109-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	口縁下部外面に波状文を施す。	厚 0.8
109-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	頸部に波状文を施す。	厚 0.7 外面に自然釉
109-11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (26.0) 底 — 高 (8.0)	黒色細粒少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部はやや外反し、上端に突帯を巡らす。	
109-12 147	鉄器 釘	覆土内 %残存	長 (6.8) 幅 0.8 重 19.8				先端部を欠損する。頭部は屈曲し平坦になっている。断面は長方形で、先端部側で使用に伴い直角に曲がっている。	厚 0.5
110-13	須恵器 把手	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	方形の把手で、全面面取りされている。	厚 0.8
110-14 147	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.7 厚 3.5	流紋岩			使用痕不明。	重 333.8
110-15 147	石器 敲石	9 cm 完形	長 15.3 幅 7.4 厚 4.8	石英閃緑岩			縁辺に敲打痕がみられる他、自然面の各所にハゼが認められる。	重 780.1

## 第48号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
113-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.4)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は直立し、底部との境に強い段を有する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面は撫でを施す。器面は、黒色に塗られている。	
113-2 148	土師器 坏	ピット 瓦残存	口 (12.0) 底 — 高 5.1	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外反し、底部は丸底を呈する。口縁部横撫で、体部は指で押え、底部は篋削り状。外面体部調整は非常に雑。	
113-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや内湾する。口縁部横撫で後、底部篋削り。	
113-4	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (4.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台であるが、接合面から剥落している。	
113-5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.6) 高 4.3	黒色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。体部下半に張りを有さず、口縁部は外傾する。	
113-6	土師器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焰 やや硬質	明赤褐	下端の強く開く器形で、端部は横撫で、中位は縦位の撫でを施す。	
113-7 148	土師器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (10.3)	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄褐	口縁部は「く」字状に外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で後、胴部縦位(下→上)篋削り、内面は横位篋撫でと考えられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
113-8	石 器 敲 石	4 cm 完形	長 16.0 幅 7.8 厚 3.9	石英閃緑岩			一端部及び側縁に敲打痕。	重 772.9

第49号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
115-1 148	土 師 器 蓋 平城I期	覆土内 破片	口 — 摘 3.7 高 (1.6)	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	上方が平坦な摘で丁寧な貼付がなされている。	畿内産
115-2 148	土 師 質 坏	覆土内 %残存	口 (11.0) 底 (5.0) 高 3.2	黒色鉾物粒少 砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り無調整。	
115-3	土 師 質 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.8 高 (2.4)	細砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
115-4	土 師 質 境	7 cm 破片	口 — 底 7.8 高 (3.1)	細砂粒少 白・黒色鉾物 粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は大半が無で消されている。	
115-5 148	土 師 質 境	覆土内 %残存	口 (18.0) 底 — 高 (5.1)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。体部中位にわずかに張り有り、口縁部は外反する。底部切り離しは不明で、ラセン状の粘土の盛り上がり認められる。高台は付高台である。	外面カー ボン付着
115-6	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (2.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。施釉技法は不明。	
115-7	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 4.6 高 (3.4)	黒色粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?) 摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
115-8	須 惠 器 蓋	7 cm 破片	口 — 摘 4.0 高 (3.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
115-9	土師器? 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少 白・黒色鉾物 粒多	中性焰 硬質	にぶい 褐	外面に接合痕が明瞭にみられ、底部付近に篋削りを施す。	
115-10	須 惠 器 甕 転用硯?	16cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白・黒色鉾物 微粒	還元焰 硬質	褐灰	叩き整形。外面は全面無で、内面は素文。	厚 1.0
115-11	須 惠 器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、上端は内外面共に肥厚する。外面には沈線と波状文を施す。	厚 0.9
115-12	須 惠 器 羽 釜	8 cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 白・黒色鉾物 粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形。いぶし焼成がなされている。	
115-13 148	須 惠 器 甕	4 cm 破片	口 — 底 (21.0) 高 (11.0)	細砂粒多 白・黒色鉾物 粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	下部が「ハ」字状に開く器形で、外面は指頭痕状の押圧がみられ、胴部下半外面に縦位篋削りを施す。	

第50号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
116-1 148	土 師 質 坏	± 0 cm ほぼ完形	口 9.2 底 5.5 高 2.8	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整でわずかに突出する。	
116-2 148	土 師 質 坏	± 0 cm %残存	口 (11.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	轆轤整形。体部中位に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	



挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
116-3	須 恵 器 羽 釜	貯蔵穴13 cm 破片	口 (21.8) 底 — 高 (6.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	紐作り後轆轤整形。口縁部はやや内傾し、鏝は断面三角形状で丁寧な貼付である。	
116-4	石 器 薦編み石	貯蔵穴13 cm 破片	長 (10.1) 幅 (6.8) 厚 (2.4)	流紋岩			裏面は剥離している。	重 141.6

## 第51号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
117-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。底部篋削り、口縁部横撫で。	
117-2 148	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (8.4) 高 3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は平底で体部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で体部外面及び底部に篋削りを施す。内面は撫で後に暗文を施していると考えられるが、器面の磨滅のため不明。	
117-3	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.0)	黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	胴部に張り有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で胴部横位篋削り。	
117-4	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.5)	白・褐色細粒 少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	紐作り。口縁部は「く」字状に外反し、胴部の丸味は強い。口縁部横撫で、胴部篋削り。	胴部に接 合痕
117-5	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少 褐色粒・砂粒 少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁中位に突帯。口唇部と口縁上半に波状文。	
117-6	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は、平行叩き後横位カキ目、内面青海波文。	厚 0.9

## 第52号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
119-1	須 恵 器 埴	覆土内 底部完形	口 — 底 (6.2) 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焰 軟質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台。	
119-2 148	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 (5.0) 高 4.3	細砂粒多 小礫微	還元焰 やや硬 質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
119-3	土 師 器 埴	貯蔵穴 ± 0 cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.5)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒多	中性焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(?)。腰部に張りを有し、口縁部は外反しない。	
120-4	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口 (15.2) 底 (4.0) 高 (2.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。底部切り離し不明。付高台。体部にわずかに丸味を有する。施釉は潰け掛け。	重ね焼き の痕跡有
120-5 148	灰釉陶器 埴	貯蔵穴 ± 0 cm 片残存	口 (12.7) 底 — 高 (3.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転?)。体部中位の張りが強く、口縁部はわずかに外反する。施釉は潰け掛けであり、外面の釉の発色は弱い。	
120-6	須 恵 器 甕	カマド内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (6.5)	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し上端に段を有する。	
120-7	須 恵 器 甕	3 cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。内面青海波文。	厚 1.2
120-8 148	須 恵 器 羽 釜	カマド内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焰 軟質	明灰	紐作り轆轤整形(右回転)。口唇部平坦。わずかに内傾する。鏝の貼付は比較的丁寧で口縁部外面に線刻文字(文字不明)有り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
120-9	須 惠 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (20.0) — 底 高 (7.5)	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦で水平。鈎の貼付は丁寧である。	
120-10	須 惠 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (20.0) — 底 高 (10.4)	白色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転?)。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦で水平。鈎の貼付は比較的丁寧である。	

第53号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
122-1 148	須 惠 器 埴 壇	- 6 cm 完形	口 13.0 底 6.8 底 高 4.5	細砂粒多 黒色鉍物粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台である。	
122-2 148	須 惠 器 埴 壇	- 5 cm 瓦残存	口 (12.6) 底 (7.0) 底 高 4.8	細砂粒微	中性焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部下半に弱い張りを有し口縁部は直線的に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
122-3 148	須 惠 器 埴 壇	覆土内 瓦残存	口 (12.4) 底 6.6 底 高 4.6	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
122-4 148	灰釉陶器 埴 壇	覆土内 瓦残存	口 (17.0) 底 7.5 底 高 4.9	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁部に外反はみられない。高台は比較的雑で、底部は腰部回転篋削り後の付高台である。施釉は漬け掛けと考えられる。	
122-5 149	須 惠 器 土 釜	± 0 cm 瓦残存	口 (20.0) 底 7.8 底 高 17.0	砂粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	浅黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上位に張りを有し、口縁部は短く「く」字状に屈曲する。胴部内面及び外面上半に轆轤痕を残し外面下半は縦位(下→上)の篋削りを施す。	
122-6 148	須 惠 器 坏	覆土内 完形	口 11.0 底 7.0 底 高 3.2	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに内湾する。底部は回転篋削り後周辺に手持ち篋削りを施す。焼成前から4ヶ所に刺突が施され、内2ヶ所はわずかに外側に貫通している。	
122-7	須 惠 器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 底 高 —	白色鉍物粒少 白・黒色細粒少	還元焰 硬質	青灰	紐作り叩き整形。頸部に弱い突帯を巡らし、口縁部に沈線と波状文を数段施す。	厚 1.2

第54号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
124-1 149	土 師 器 坏	掘り方覆 土内 瓦残存	口 (13.7) 底 — 底 高 (4.8)	細砂粒少 褐色粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
124-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 底 高 (3.5)	褐色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に強い段を有し口縁部は外反する。底部篋削り口縁部横撫で。	
124-3 149	土 師 器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (12.0) 底 — 底 高 (3.8)	黒色鉍物粒微 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
124-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 底 高 (3.3)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部外面中位及び口唇部内面に段を有する。底部篋削り口縁部横撫で。	
124-5	須 惠 器 蓋	カマド内 破片	口 (13.6) — 底 高 (2.6)	砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形。天井部と口縁部との境に強い段を有し、体部はやや内湾気味に開く。天井部外面は回転篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
124-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — — 高 (2.3)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篋削りを施す。	
124-7	土師器 甕	- 2cm 破片	口 (27.2) — 底高 (7.7)	砂粒多 白色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	胴部は球形状を呈し、口縁部は外反する。	
124-8	土師器 甕	16cm 底部破片	口 — — 底高 —	砂粒多	酸化焰 硬質	灰黄	底部に木葉痕有。	厚 1.0
124-9 149	土師器 埴	- 5~2 cm ほぼ完形	口 7.1 — 底高 10.9	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	算盤玉状の胴部を有し、口縁部は中位に弱い段を有し直立する。口縁部は縦位、肩部は斜位の粗い篋磨き後、胴最大部以下に篋削りを施す。	
124-10	土師器 甕	22cm 破片	口 (22.0) — 底高 (8.5)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りはない。口縁部横撫で後胴部に縦位の篋削りを施す。	
124-11	土師器 甕?	16cm 破片	口 (22.0) — 底高 (5.7)	砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	体部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で。	
124-12 149	須恵器 甕	貯蔵穴44 cm ほぼ完形	口 (22.0) — 底高 23.0	砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。口縁部は外反し、上端でわずかに直立する。胴部上位に強い張り(最大径)を有し、底部は丸底を呈する。胴部内面は撫で、外面は横位のカキ目を施す。	底部付近に径2cm程の内面から焼成後穿孔有
125-13	土師器 甕	22cm 破片	口 — — 底高 (9.5)	砂粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	
125-14 149	須恵器 台付甕	19cm 底部破片	口 — — 底高 (19.8) (7.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。高台は付高台で「ハ」字状に強く開く。底部内面にはカキ目が明瞭に残存し、台貼付部にも観察される。また、内面中央部のカキ目は撫で消されている。	
125-15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — 底高 —	褐色細粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.8
125-16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — 底高 —	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
125-17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — 底高 —	白色細粒少 褐色細粒微	還元焰 硬質	明褐灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
125-18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — 底高 —	白色粒少 黒色鉱物粒微	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り叩き整形。外面格子状叩き、内面青海波文。	厚 1.0
125-19	須恵器 瓶	カマド内 破片	口 — — 底高 —	白色細粒多 黒色細粒	還元焰 硬質	灰	紐作り。外面は平行叩き後カキ目?	厚 0.9
125-20	土師器 甕	覆土内 破片	口 — — 底高 —	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	浅黄	外面篋磨き。	厚 0.6
125-21 149	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向。	重 1.4
125-22 149	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.4 幅 5.1 厚 4.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 512.1

遺物一覧表

第55号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127-1 149	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	白色鉍微粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
127-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	褐色細粒少 黒色鉍微粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境で屈曲し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で底部篋削り。	
127-3	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉍微粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で口縁部は内湾する。底部は篋削り。口縁部は横撫でを施す。	
127-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉍微粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部は短く「く」字状に内傾する。底部篋削り後口縁部に横撫でを施す。	
127-5 149	石器 敲石	4 cm 完形	長 16.2 幅 7.4 厚 4.0	閃緑岩			端部と側面にわずかに敲打痕有。	重 730.2

第56号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。底部篋削り、口縁部横撫で。	
127-7	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.3)	白色細粒多 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。体部にわずかに張り有し、口縁部は直線的に外傾する。高台は、底部調整後の付高台。	外面に自然釉
127-8 149	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.2) 底 (4.8) 高 3.3	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転?)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部切り離しは回転篋削りと考えられるが、底部と腰部に手持ち篋削りが施され、不明確。	

第57号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
129-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (3.5)	白・褐色細粒 少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で底部篋削りを施す。	
129-2 149	土師器 坏	覆土内 残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉍微粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
129-3 149	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
130-4 149	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、口縁部は強く内傾し、受け部は上方を向く。体部内外面には弱い轆轤痕を残し、底部には回転篋削りを施す。	
130-5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.0)	黒色細粒少	還元焰 やや軟質	灰黄	轆轤整形(?)。受け部は短く、上端は水平。	
130-6	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.4)	白色細粒少 黒色粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋削り後付高台。	
130-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部付近に屈曲を有する。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
130-8	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.4) — 摘高 (1.4)	白色細粒微	還元焰 硬質	オリブ 灰	轆轤整形(?)。天井部外面回転篋削りを施す。	
130-9	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘高 (3.6) 2.8	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。切り離し技法は不明。天井部外面回転篋削り後、滴添付。	
130-10	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (16.0) — 底高 (7.3)	黒色鋳物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部の張りは比較的弱い。胴部斜方向で(右→左)に篋削り後、口縁部横撫でを施す。内外面に接合痕。	内面にカーボン付着
130-11	土 師 器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底高 (5.2)	砂粒・黒色鋳物粒少 白・褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	坏部・脚部共に欠損する為、全体形は不明。外面撫で、内面横撫で、脚部内面斜位の撫でを施す。	
130-12	須 恵 器 甕	7 cm 破片	口 (24.0) — 底高 (7.0)	白・黒色鋳物粒少 白・黒色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部は球胴で口縁部は「く」字状に外反し、上端に段を有し、短く直立する。口縁部上半に波状文を施す。	胴部と口縁部内面に自然釉
130-13 149	石 器 薦編み石	— 2 cm 完形	長 16.1 幅 7.1 厚 4.1	輝緑岩			使用痕不明。	重 853.3
130-14 149	石 器 敲 石	— 2 cm 完形	長 15.7 幅 7.0 厚 5.5	ひん岩			使用痕不明。	重 851.4
130-15 149	石 器 薦編み石	— 2 cm 完形	長 14.2 幅 5.6 厚 4.8	変質安山岩			使用痕不明。	重 721.6
130-16 150	石 器 薦編み石	— 2 cm 完形	長 16.3 幅 6.2 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 668.3
130-17 150	石 器 敲 石	— 2 cm 完形	長 14.0 幅 6.0 厚 5.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕。	重 547.9
130-18 150	石 器 敲 石	— 2 cm 完形	長 15.4 幅 6.3 厚 4.5	粗粒安山岩			端部から側面にかけて弱い敲打痕。	重 738.2
130-19 150	石 器 敲 石	— 3 cm 完形	長 14.0 幅 6.0 厚 5.3	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。	重 690.2
130-20 150	石 器 薦編み石	— 2 cm 完形	長 13.8 幅 6.4 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 612.1
130-21 150	石 器 敲 石	± 0 cm 完形	長 14.1 幅 7.5 厚 5.0	粗粒安山岩			側面に敲打痕。	重 819.3
130-22 150	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 15.5 幅 7.7 厚 4.9	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。	重 878.9
130-23 150	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 15.1 幅 6.7 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 843.2
131-24 150	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 15.3 幅 7.4 厚 5.6	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 896.7
131-25 150	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 14.4 幅 6.7 厚 4.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 496.4
131-26 150	石 器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 14.9 幅 6.7 厚 5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 787.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
131-27 150	石 器 薦編み石	3cm 完形	長 13.9 幅 5.8 厚 5.2	流紋岩			使用痕不明。	重 643.4
131-28 150	石 器 薦編み石	覆土内 1/2残存	長 9.7 幅 4.0 厚 3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 190.5

第58号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
134-1 150	土 師 器 杯	1-4~11cm 完形	口 11.8 底 — 高 3.6	砂粒少 白色鉍微粒	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。内面に指頭痕状の押圧が顕著に認められる。	体部の歪 が激しい
134-2 150	土 師 器 杯	3cm 1/2残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉍微粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
134-3 151	土 師 器 杯	覆土内 1/2残存	口 (11.2) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後、篋削りを施す。	
134-4	土 師 器 杯	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
134-5	土 師 器 杯	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
134-6 151	土 師 器 杯	覆土内 完形	口 11.0 底 — 高 2.8	砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
134-7	土 師 器 杯	1-4cm 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
134-8	土 師 器 杯	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直線的に立ち上がる。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
134-9	土 師 器 杯	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。底部篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
134-10 151	土 師 器 杯 C III 飛鳥III期	20cm 1/2残存	口 (9.7) 底 — 高 3.4	細砂粒微 白・黒色細粒少	酸化焰 硬質	淡橙	やや深い丸底で、口縁部がわずかに外反する。口縁部内面に、明確な稜を有する。外面は撫で。内面は丁寧な撫で後シャープな放射状暗文。	畿内産 底部外面 にハゼ有
134-11 151	土 師 器 杯	11cm 1/2残存	口 (10.8) 底 — 高 3.6	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
134-12 151	土 師 器 杯	1-2~ ±0cm 1/2残存	口 (15.2) 底 — 高 5.8	細砂粒微 黒色鉍微粒 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに外反し、内面に弱い稜を有する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。内面は丁寧な撫で。	杯Aの模 倣?
134-13 151	土 師 器 杯	8cm 1/2残存	口 (13.6) 底 — 高 5.3	細砂粒微 黒色鉍微粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに外反し、内面に弱い稜を有する。口縁部は横撫で、底部中央部の狭い範囲のみ一方向の篋削りを施す。	杯Aの模 倣?
134-14	土 師 器 杯	12cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.8)	砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に内傾する。底部篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
134-15 151	土 師 器 杯	4cm 1/2残存	口 (15.0) 底 (10.0) 高 4.4	黒色鉍微粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面斜位の篋削り、底部は一方向の篋削りを施す。内面は撫で後放射状暗文を施したと思われるが、器面が磨滅し、観察することはできなかった。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
134-16 151	須恵器 坏	2cm 3/4残存	口 (10.0) 底 4.6 高 3.3	細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部はわずかに内湾気味に直立する。底部は篋切り後篋削りが施されたものと考えられる。さらに底部周辺には手持ち篋削りが施されている。	
134-17 151	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (10.0) 高 4.0	細砂粒微	還元焰 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
134-18	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.4) 底 (8.8) 高 (2.5)	白・黒色細粒 少 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部は平底で、体部は短く直線的に立ち上がる。底部は手持ち篋削りを施す。	
135-19	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (1.9)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は三日月状高台で、底部を回転篋削り後の付高台。	
135-20 151	須恵器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (10.6) 摘 — 高 3.2	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、体部は外傾し、底部との境に段を有している。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	
135-21	須恵器 蓋?	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部上端に2本の平行沈線を巡らす。天井部外面は回転篋削り。	
135-22	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.2)	黒色細粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。長脚2段2方透しの高坏と考えられる。	
135-23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (0.9)	黒色粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な体部で口縁部がわずかに突出する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
135-24	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (12.6) 高 (2.7)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。長脚二段透しの高坏脚部と考えられる。	内外面に 自然釉
135-25	土師器 甕	9cm 破片	口 (23.2) 底 — 高 (5.4)	細砂粒多 黒色鉍物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に開く。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	
135-26 151	土師器 甕	±0cm 破片	口 (15.6) 底 — 高 (5.6)	細砂粒多 黒色鉍物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りが強く、口縁部は「コ」字状に2段の屈曲がみられる。口縁部横撫で後、胴部に斜位(左→右)の篋削りを施す。	
135-27 151	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは強く、口縁部は反り気味に直立する。口縁部に強い横撫で後胴部に篋削りを施す。	
135-28 151	土師器 甕	±0~21cm 1/2残存	口 20.6 底 4.0 高 (35.0)	細砂粒多 黒色鉍物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部上半緩斜位(右→左)、下半斜位(上→下)の篋削りを施す。内面は横位篋撫でを施す。	外面に赤 褐色の錆 状の附着 物
135-29 151	土師器 甕	21cm カマド右 袖-2cm 3/4残存	口 — 底 — 高 (32.5)	白・黒色鉍物 粒多 砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	長胴で胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反するものと考えられる。胴部外面は縦位(上下)の篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	
136-30	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面叩き不明、内面は青海波文。	厚 1.8 外面に自 然釉
136-31	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。器面全面にカキ目を施す。	厚 0.6
136-32	須恵器 壺	4cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 やや硬 質	黄灰	紐作り轆轤整形。肩部に平行沈線を巡らす。間に櫛目状の刺突文、さらに上半に波状文を施す。	厚 0.8
136-33	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り。頸部の破片で一帯の断面に三角形の突帯を巡らす。	厚 2.2
136-34 151	石器 磨石	覆土内 1/2残存	長 8.7 幅 6.8 厚 5.0	粗粒安山岩			割れ口の縁辺はわずかに磨滅し両端面に敲打痕。	重 513.2

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
136-35 152	石 器 敲 石	16cm 完形	長 13.0 幅 4.7 厚 4.2	変質安山岩			側面に磨滅した小剝離がみられる。	重 379.7
136-36 152	石 器 敲 石	3 cm 完形	長 12.2 幅 5.6 厚 4.2	溶結凝灰岩			両端部と側面に敲打痕。	重 406.7
136-37 151	石 器 敲 石	3 cm 1/4残存	長 10.3 幅 7.8 厚 4.1	粗粒安山岩			割れ口の縁辺は磨滅し両端面及び端部に敲打痕。	重 445.8
136-38 151	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	長 1.7 幅 1.9 厚 0.6	滑石			側面に磨り切った痕跡を残している。穿孔は一方向。	重 2.9 孔 0.2

第59号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
137-1 152	土 師 器 坏	6 cm 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
137-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.2)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
137-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (4.2)	褐色粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
137-4	土 師 器 坏	7~11cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は内傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
137-5 152	土 師 器 高 坏	± 0 cm 脚部1/4残存	口 — 底 — 高 (17.0)	砂粒少 褐色細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	長脚の高坏の脚部で、坏部と脚部を欠損している。外面は縦位の撫で、内面にはラセン状の篋撫での痕跡が顕著にみられる。	
137-6 152	土 師 器 甕	4 cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (17.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外傾する。口縁部横撫で後胴部外面縦位、口縁部内面横位に刷毛目を施す。この刷毛目は内外面共粗く撫で消されている。胴部内面は横位の篋撫でが施されている。	
138-7	土 師 器 甕	6 cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (7.5)	砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は外反し、口唇部に平坦面を有し外傾する。器面の粗れが顕著で、器面調整は不明。	
138-8 152	土 師 器 甕	11cm 破片	口 (17.0) 底 — 高 (14.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	胴部中に強い張り（最大径）を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位（左→右）の篋削りを施す。内面の整形は器面の磨滅が激しく不明。	内外面に 接合痕有
138-9	土 師 器 小 型 甕	6 cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (6.2)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は篋削りと考えられる。	
138-10 152	土 師 器 土 釜	2 cm 1/4残存	口 (6.5) 底 — 高 (10.4)	砂粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 赤褐	胴部上半に最大径を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後胴部外面に縦位（下→上）篋削り、内面は比較的丁寧な撫でを施す。	内面わず かにカー ボン付着
138-11	土 師 器 小 型 甕	9 cm 破片	口 (10.0) 底 — 高 (6.2)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は直立する。器面の磨滅が激しく調整は不明。	
138-12 152	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 15.0 幅 8.4 厚 4.5	デイサイト			両側面に剝離痕。	重 968.4
138-13 152	石 器 敲 石	6 cm 完形	長 14.5 幅 5.9 厚 5.1	ひん岩			端部がわずかに磨滅。	重 598.5



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	(cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
138-14 152	石器 敲石	±0cm 完形	長 幅 厚	12.0 6.6 5.6	砂岩			使用痕不明。	重 655.7

## 第60号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	(cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
140-1 152	土師器 坏	13cm ほぼ完形	口 底 高	9.6 — 3.0	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
140-2 152	土師器 坏	17cm 1/2残存	口 底 高	(9.0) — (2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
140-3 152	土師器 坏	覆土内 %残存	口 底 高	(11.0) — (3.3)	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
140-4 152	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 底 高	(11.4) — (3.7)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 褐	底部は丸底で口縁部は内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
140-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 底 高	(11.2) — (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
140-6 152	土師器 坏	覆土内 %残存	口 底 高	(13.0) — (3.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。内面は全面に撫でを施し、体部に指頭痕状の弱い押圧が認められる。	
140-7 152	土師器 鉢	覆土内 破片	口 底 高	(13.6) — (5.3)	褐色粒多	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
140-8 152	須恵器 坏	7cm 完形	口 底 高	10.5 — 2.8	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、体部の丸味は強い。口縁部は短く、強く内傾し、受け部は上方を向く。底部に回転篋削りを施す。	
140-9 153	須恵器 蓋?	覆土内 1/2残存	口 摘 高	(10.4) — (2.8)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は平底気味の丸底で、体部は外傾する。体部内面に轆轤痕を明瞭に残し、天井部には手持ちの撫でを施す。	坏か?
140-10 153	須恵器 坏	15cm 完形	口 底 高	10.3 — 3.4	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底気味で、体部にわずかに丸味を有し、口縁部は内湾する。底部は一段の回転篋削りを施し、焼成前に「×」の篋描きを施す。	
141-11	須恵器 坏	覆土内 破片	口 底 高	— 7.0 (3.0)	黒色細粒微 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下端に屈曲を有し体部は直線的に立ち上がる。底部は切り離し後全面に回転篋削りを施す。	
141-12	須恵器 坏?	覆土内 破片	口 底 高	(6.0) — (2.6)	白・褐色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は丸底気味で口縁部はわずかに外反する。底部に手持ち篋削りを施す。	
141-13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 摘 高	(10.0) — (2.3)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は、丸味が強く内面のかえりは、短く内傾する。天井部外面に4段の回転篋削りを施す。	
141-14	須恵器 瓶	覆土内 脚部	口 底 高	(16.0) — (1.7)	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形。脚部は強く外反し、下端に段を有し、短く直立する。	
141-15 153	土師器 甕	7cm 1/2残存	口 底 高	(21.4) — (9.5)	砂粒多 白色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	
141-16 152	須恵器 皿	24cm 破片	口 底 高	(35.0) — (3.9)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な盤状の器形で、口縁部上端は蓋の受け部と考えられるような形態をしている。また中央部に接合部からの剝離が認められ、脚付であった可能性が高い。体部下半は回転篋削り。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
141-17	須恵器 皿?	カマド内 破片	口 (30.0) 底 — 高 (2.5)	黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は短く外傾し、口唇部は平坦である。底部は、やや丸味を有し、回転篋削りを施す。	
141-18	須恵器 甕	31cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒・細砂 粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き。内面青海波文。	厚 0.8
141-19 153	石器 敲石	14cm 完形	長 13.8 幅 5.4 厚 5.0	粗粒安山岩			器面の剝離が激しく、端部に敲打痕。	重 533.6
141-20 153	石器 不明	7cm %残存	長 (12.5) 幅 9.4 厚 2.9	砂岩			割れ口の縁辺に磨滅がみられない。	重 665.8
141-21 153	石器 薦編み石	10cm 完形	長 13.0 幅 6.4 厚 3.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 534.4

第61号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-1 153	土師器 坏	覆土内 完形	口 11.5 底 — 高 3.6	細砂粒少 白色鉍物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
144-2 153	土師器 坏	2cm %残存	口 (10.6) 底 — 高 (3.2)	砂粒少 黒色鉍物粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
144-3 153	土師器 坏	貯蔵穴13cm %残存	口 18.4 底 — 高 6.4	細砂粒少 黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	体部の歪 が激しい
144-4 153	須恵器 坏?	覆土内 %残存	口 (11.2) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。体部はわずかに丸味を有し、底部は浅い丸底である。内面に轆轤痕を明瞭に残し、底部に撫で状の手持ち篋削りを施す。	蓋か?
144-5	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.1)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転篋削り後の削り出し高台?。底部は、高台よりも若干突出する。	
144-6 153	土師器 小型甕	7cm 完形	口 7.5 底 — 高 6.9	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	球胴の器形で、「く」字状に開く短い口縁部を付す。内面は丁寧な撫で、外面は粗い磨きが施されたものと考えられる。	
144-7 153	土師器 甕	—6cm %残存	口 (20.8) 底 (6.6) 高 (36.3)	砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部上半に弱い張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部外面は斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位篋撫で。	
144-8 153	土師器 甕	—9~5cm 貯蔵穴 17cm %残存	口 (22.3) 底 — 高 (31.4)	細砂粒少 白・黒色鉍物 粒多	酸化焰 硬質	褐	胴部の張りはほとんど認められず、口縁部は「く」字状を呈する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	内面下半 に褐色の 塗膜状の 付着物有
145-9	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.6) 底 — 高 (8.1)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後、胴部斜位(上→下)の篋削り、内面撫でを施す。	
145-10	土師器 甕	貯蔵穴9cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (4.2)	黒色鉍物粒多 砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部に明瞭な接合痕を残す。	
145-11	須恵器 甕 (脚部)?	覆土内 破片	口 (18.8) 底 — 高 (5.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。	
145-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.2

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
145-13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.5
145-14	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.4
145-15 153	鉄器 釘	覆土内 1/2残存	長 (7.7) 幅 (1.1) 重 21.3				頭部側を欠損する。断面は長方形で、先端部側で「く」字状に曲がっている。	
145-16 153	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.5 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 469.2
145-17 153	石器 敲石	覆土内 完形	長 16.2 幅 7.0 厚 4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 623.6
145-18 153	石器 薦編み石	貯蔵穴 ± 0 cm 完形	長 11.3 幅 5.2 厚 4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 475.6
145-19 153	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 (11.6) 底 (5.4) 高 4.6	黒色鈳物粒多 細砂粒多 褐色細砂粒少	中性焰 硬質	褐	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	内面の粗れが激しい

## 第63号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
147-1 154	土師器 坏	貯蔵穴18 cm 1/2残存	口 (13.4) 底 — 高 (4.1)	細砂粒多 黒色鈳物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
147-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (2.7)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は内湾気味にわずかに内傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを呈する。	内外面に 黒色塗彩
147-3	須恵器 小型壺	覆土内 破片	口 — 底 (4.1) 高 (2.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
147-4	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (1.7)	白色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。天井部は扁平で、口縁部は直線的に開く。反りは短く、内傾する。天井部外面及び口縁部上半に回転篋削りを施す。	
147-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.5)	白・黒色粒子 少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は「く」字状に屈曲し、天井部は扁平。天井部外面は回転篋削りを施す。	
147-6	須恵器 高坏	2 cm 破片	口 — 底 — 高 (2.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に回転篋削りを施す。脚部の透しは3方向。	
147-7	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (11.0)	細砂粒・黒色 鈳物粒少	還元焰 硬質	灰白	胴部の張りは弱く、口縁部は外反する。胴部破片縦位(下→上)の篋削り、口縁部横撫で。内面は横位の篋撫で。	
147-8	土師器 甕	カマド内 底部残存	口 — 底 (7.0) 高 (4.5)	白・褐色細粒 多 黒色鈳物粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部下半は斜位(上→下)の篋削り。底部は一方方向の篋削りを施す。	
147-9	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 (4.5)	砂粒少 褐色細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	穿孔部は弱い面取り。外面の撫では弱く、輪積み痕を残す。	
147-10 154	須恵器 横瓶	- 2 ~ 4 cm 1/2残存	口 (13.7) 底 — 高 (26.7)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。俵形の胴部中央に口縁部が付く。外面平行叩き後カキ目を施す。内面の青海波文は器面の磨滅のためか目立たない。	外面に自然釉付着
147-11 154	鉄器 鎌	38cm 完形	長 (10.4) 幅 (2.4) 重 33.5				先端部が比較的強く曲がっている。基部の一部には柄装着のための折れ曲がった部分の痕跡がみられる。	

遺物一覧表

第64号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
148-1 154	須恵器 坏	6cm %残存	口 (14.0) 底 (5.8) 高 (3.9)	細砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	暗灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整で、わずかに突出する。	いぶし
148-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (7.8) 高 (3.9)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部の外反は弱い。底部は回転糸切り無調整。	口縁部内面はカーボン付着
148-3	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (15.3) 底 (7.2) 高 (5.1)	細砂粒多 砂粒微	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
148-4 154	須恵器 埴	カマド掘り方 %残存	口 (15.2) 底 6.6 高 5.4	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は付高台で底部切り離し技法は、高台貼付に伴う撫で調整のため不明。	
148-5 154	土師質 埴	1~3cm %残存	口 - 底 8.8 高 (3.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、高台は底部回転糸切り後の付高台。	
148-6	土師質 黒色土器 埴	覆土内 破片	口 - 底 (7.0) 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有する。高台は底部回転篋削り後の付高台。内面は丁寧な篋磨き後に黒色処理を施す。	
148-7	須恵器 高台付皿	覆土内 %残存	口 (13.7) 底 - 高 (1.6)	砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。	
148-8 154	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 - 底 - 高 (3.4)	白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。高台は剝離。	いぶし
149-9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 - 高 (3.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平で、体部との境に段を有し、口縁部は「く」字状に短く屈曲する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
149-10 154	須恵器 甕	13cm 破片	口 - 底 (15.0) 高 (15.4)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り。胴部の張りは弱いものと考えられ、下半は直線的である。内面は雑な横位撫で、外面は縦位の弱い篋削りを施す。	内面カーボン付着
149-11 154	鉄器 鉄 鋳	覆土内 %残存	長 (8.6) 幅 (3.0) 重 12.1				茎が欠損する。鋳部は菱形板状で、基部断面は長方形。茎の断面は方形を呈する。	

第65号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
152-1 154	土師質 坏	8cm %残存	口 (12.4) 底 6.8 高 3.9	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に外傾し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
152-2 154	須恵器 坏	28cm %残存	口 (13.0) 底 (6.0) 高 4.3	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて全体に外反気味の器形で、体部下半にごくわずかに張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	
152-3 154	須恵器 埴	覆土内 完形	口 12.1 底 5.9 高 4.7	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台で、高台貼付に伴い、底部は粗い撫でが施されている。	いぶし 内面カーボン付着
152-4 154	須恵器 埴	-11cm 破片	口 (12.6) 底 6.0 高 5.0	黒色鉱物粒微 褐色細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は回転糸切り後のやや雑な付高台。	いぶし
152-5 154	須恵器 埴	-2cm %残存	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (4.9)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反しない。高台は底部回転糸切り後の付高台。	外面の粗れが激しい。

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
152-6 154	土師質 埴	2~28cm %残存	口 (13.2) 底 7.4 高 5.2	黒色鉱物粒微 細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部上半に強い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り後の付高台。	カーボン 付着
152-7	須恵器 埴	覆土内 底部残存	口 — 底 8.0 高 (3.5)	砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台はやや長脚で、底部撫で調整後の付高台。	内外面に カーボン 付着
152-8 154	須恵器 埴	カマド内 12cm %残存	口 (12.4) 底 (4.8) 高 (4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、貼付は体部側である。	
152-9	須恵器 埴	±0cm 底部残存	口 — 底 6.4 高 (3.2)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は幅が広く雑で、底部回転糸切り後の付高台。	
152-10 154	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒多 白色鉱物粒微	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く口縁部は強く外反する。	
153-11	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (6.4) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焰 やや軟 質	黄灰	轆轤整形(右回転)。口縁部の外反は弱い。	
153-12	須恵器 埴	±0cm 底部残存	口 — 底 6.3 高 (2.9)	白色粒多 黒色鉱物粒少	還元焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後付高台。底部は高台貼付に伴う撫で調整。	
153-13 154	灰釉陶器 埴	覆土内 %残存	口 (16.0) 底 (8.0) 高 (5.4)	美濃系		黄灰	轆轤成整形(?)。体部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部撫で調整後の付高台。施釉は漬け掛けである。	内面見込 み部重ね 焼き痕有
153-14 154	灰釉陶器 埴	-3cm 破片	口 (17.8) 底 — 高 (4.1)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部の張りは強く、口縁部はわずかに外反する。外面の轆轤痕は比較的顕著であるが、内面は目立たない。施釉は漬け掛け。	
153-15	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は三日月高台で、底部回転篋削り後の付高台。施釉は、漬け掛け?	
153-16 155	須恵器 羽 釜	-6~4cm カマド内 8cm %残存	口 (18.4) 底 (5.8) 高 (25.6)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し、口縁部は短く直立する。銚は上面が水平の状態、貼付は丁寧である。胴部上半・内面に轆轤痕を残し、下半は斜位(上→下)の篋削りを施す。	
153-17 155	須恵器 羽 釜	-2~ -5cm %残存	口 (20.0) 底 — 高 (21.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	中性焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部中位に張りを有し、口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦である。銚はやや上方に反り気味で、丁寧に貼付されている。胴部外面上半及び内面に轆轤痕が明瞭に残り、外面下半には斜位の撫でを施す。	
153-18	須恵器 羽 釜	23cm 破片	口 (19.0) 底 — 高 (8.8)	褐色粒少 細砂粒少	中性焰 硬質	浅黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内傾し、胴部上半に張りを有する。銚の貼付は丁寧で、断面は三角形を呈する。	
153-19 155	須恵器 羽 釜	±0cm 破片	口 (21.0) 底 — 高 (12.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	中性焰 硬質	明褐灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半に張りを有し、口縁部は内傾し、口唇部は平坦である。銚は断面三角形で丁寧な貼付である。胴部内外面共に轆轤痕を明瞭に残している。	
153-20	須恵器 羽 釜	16cm 破片	口 (23.6) 底 — 高 (10.5)	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦で水平。銚は上方を向く。胴部下半に篋削りを施す。	
153-21	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (9.3)	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部下半は斜位(左→右)の篋削り。底部は一方の篋削りを施す。	外面にカ ーボン付 着
154-22	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端部の面取りは2面。凸面に自然釉。	
154-23	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.1	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。篋描き文字瓦(文字不明)。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
154-24 155	石 器 小 磔	覆土内 完形	長 4.2 幅 3.2 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 56.5
154-25 155	石 器 磨 石	覆土内 一部欠損	長 12.2 幅 6.3 厚 4.5	粗粒安山岩			器面の剝離が激しく側面に剝離がみられる。	重 517.9
154-26 155	石 器 敲 石	カマド内 10cm 完形	長 24.2 幅 9.5 厚 6.0	輝緑岩			2面に剝離が認められる。	重2070.0

第66号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
157-1 154	土 師 器 坏	貯蔵穴11 cm %残存	口 (10.4) 底 4.0 高 3.7	黒色鉍物粒少 黒色粒多 細砂粒少	中性焰 硬質	橙	底部は平底で体部は直線的に外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は体部下半は斜位の篋削りを施す。体部内面には指頭痕が認められ、底部には砂が付着している。(いわゆる砂底)	体部上半及び内面酸化、外面下半還元
157-2 155	須 恵 器 埴	貯蔵穴20 cm %残存	口 (12.5) 底 6.0 高 4.9	砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
157-3 155	土 師 質 埴	カマド内 4 cm %残存	口 (11.8) 底 6.1 高 4.7	白・黒色鉍物 粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りが強く、体部は直線的に外傾し、口縁部はごくわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、貼付は丁寧である。	
157-4	須 恵 器 埴	15cm 破片	口 — 底 5.8 高 2.2	褐色細粒多 片岩粒微 黒色鉍物粒少	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。高台は雑な作りで、底部回転糸切り後の付高台。	
157-5 155	須 恵 器 耳 皿	覆土内 %残存	口 (10.0) 底 (5.7) 高 (3.1)	黒色鉍物粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がり、上から指先で変形させている。底部は回転糸切り無調整。	
157-6	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (1.5)	細砂粒多 白色鉍物粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。底部は回転篋削りを施す。	
157-7	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉍物粒多	還元焰 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(?)。内面に炭化物が付着している。	
157-8	灰釉陶器 埴	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉技法は不明。	
157-9	土 師 質 埴	7 cm 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.9)	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	浅黄	轆轤整形(?)。高台部のみが残存で、接合部から剝離している。	
157-10	須 恵 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (4.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	
157-11 155	瓦 女 瓦	± 0 cm 破片	厚 1.7	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面に粘土板糸切り痕。凸面全面縦位の撫でを施す。	
157-12	瓦 女 瓦	カマド内 5 cm破片	厚 2.1	砂粒微 黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	一枚作り?。側端面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は、斜格子叩きを施す。	
158-13 155	瓦 女 瓦	%残存	厚 2.6	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土糸切り痕。凸面に格子叩きと刻印(文字不明)。	カマド内 4 cm
158-14 155	瓦 女 瓦	%残存	厚 1.7	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面布目に横位に擦痕。凸面横位撫で。凹面にカーボン付着。	カマド内 9 cm
158-15 156	瓦 男 瓦	12cm %残存	厚 1.7	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	凸面全面撫で。	
158-16 155	瓦 女 瓦	カマド内 7 cm破片	厚 2.1	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	一枚作り。凹面粘土板糸切り痕に直交する方向に粗い撫で、凸面に斜格子叩き。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
158-17	瓦 女瓦	2cm 破片	厚 1.7	白色粒多 白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰白	桶巻作り?。凸面は全体撫で、凹面に模骨痕を残し、一部に炭化物が附着している。	
158-18 156	瓦 男瓦	12cm 破片	厚 1.7	砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面に円形の刻印。	

## 第67号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
159-1 156	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 (18.0) 底 (9.0) 高 (7.1)	美濃系		黄灰	轆轤成整形(右回転)。腰部の張りは比較的強く、体部から口縁部は直線的に外傾し、口縁部内面に1本の沈線を巡らす。高台は底部から腰部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛けである。	内外面に カーボン 付着
159-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	口縁部の破片で、内面は轆轤痕を残し、外面に波状文を2帯巡らす。	厚 1.2
160-3	須恵器 羽釜	3cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (5.9)	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。胴部の張りが比較的強く、口縁部は反り気味に直立する。内外面共に轆轤痕を残す。	
160-4	須恵器 羽釜	11cm 破片	口 (17.0) 底 — 高 (9.3)	褐色細粒多 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	淡黄	轆轤整形(?)。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、上端は平坦である。	外面にカー ボン付 着
160-5 156	瓦 男瓦	±0cm 残存	厚 1.7	砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?。凸面縦位の撫で、面取り状。	
160-6	土師器 土釜	-2cm 底部残存	口 — 底 (9.9) 高 —	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	土釜の底部と考えられ、内面に厚くカーボンが附着している。	厚 1.0
160-7	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.4 幅 5.5 厚 4.4	ひん岩			端部に敲打痕。	重 462.1

## 第68号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
162-1 156	土師質 壺	残存	口 (16.0) 底 — 高 (5.3)	白・黒色鉍物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部がわずかに外反し、内面に稜を有する。高台は長脚で、底部撫で後の付高台。	-2~2 cmカマド 内±0cm
162-2	土師質 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.3)	細砂粒・黒色 鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部に丸味が強い。高台は、底部調整後の付高台。	内外面に カーボン 付着
162-3 156	灰釉陶器 皿	3cm 残存	口 (13.4) 底 (7.0) 高 (2.5)	美濃系		明オリ ブ灰	轆轤成整形(?)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は三日月高台状で、底部回転篋削り後の付高台である。施釉は漬け掛けと考えられる。	
162-4	灰釉陶器 皿	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.8)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は三日月高台で底部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛け?	
162-5	須恵器 羽釜	カマド内 11cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (9.5)	褐色細粒多 白色細粒微 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	紐作り轆轤整形。胴部上半に弱い張りを有し、口縁部は短くわずかに内傾する。胴部は撫で内面は横位の篋撫でを施す。鏝は断面三角状貼付はやや雑。	
162-6	須恵器 羽釜	カマド内 ±0cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (16.8)	砂粒少 白色細粒少 黒色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部上半に張りを有し、口縁部は強く内傾する。鏝は断面三角形で上面は水平。胴部下半に斜位の篋削りを施す。	
162-7	須恵器 羽釜	破片	口 (20.0) 底 — 高 (9.0)	白色細粒多 砂粒微	中性焰 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。胴部上半に比較的強い張りを有し、口縁部は短く内傾する。鏝は断面台形状で貼付は丁寧である。	10cm カマド内 8cm

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
162-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り。凸面に刻印。	

第69号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
163-1	須恵器 環	- 5 cm 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (4.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰黄褐	轆轤整形(右回転?)。体部上半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整?	
163-2 156	灰釉陶器 瓶	± 0 ~ 2 cm 残存	口 - 底 (15.4) 高 (13.2)	美濃系		灰白	高台は角高台状の付高台。胴部下半は残存部において全面回転篋削りが施されている。施釉は刷毛によるものと考えられ、斜方向へのランダムなものである。また内面下半にもこの施釉が及んでいる。	内面にカーボン付着
163-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り?。凸面斜格子叩き。	
163-4	瓦 女瓦	- 3 cm 破片	厚 2.7	砂粒少 白色粒少	中性焰 硬質	灰	桶巻作り?。側端部の面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕。	

第70号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
165-1	須恵器 埴	カマド内 - 8 cm 残存	口 (12.4) 底 (3.4) 高 (5.1)	砂粒少 黒色細粒多	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部切り離し後の付高台で、貼付は雑。	
165-2	須恵器 羽釜	カマド内 ± 0 cm 破片	口 (21.0) 底 - 高 (5.5)	砂粒少 白色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。口縁部は内傾し、口唇部は平坦でほぼ水平。罫は胴部最大部直上で、やや外反気味である。	
165-3 156	石製品 白玉	カマド内 - 8 cm 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向。	重 1.7

第71号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167-1	土師器 環	覆土内 破片	口 (8.8) 底 - 高 (2.6)	黒色鉍物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
167-2	土師器 環	覆土内 破片	口 (12.5) 底 - 高 (2.7)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は弱く内湾する。底部は篋削り。口縁部は横撫でを施す。	
167-3 156	土師器 環	カマド内 残存	口 (14.0) 底 - 高 (4.0)	黒色鉍物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
167-4 156	土師器 環	覆土内 残存	口 (11.8) 底 - 高 (3.5)	黒色鉍物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
167-5	土師器 環	覆土内 破片	口 (15.2) 底 - 高 (3.7)	白色細粒微	酸化焰 やや軟質	暗灰黄	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はごくわずかに内湾する。内面体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	
167-6 156	土師器 皿	覆土内 破片	口 (14.8) 底 - 高 (3.3)	黒色鉍物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は撫で状の篋削りを施す。	
167-7 156	須恵器 環	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (8.2) 高 (3.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反しない。底部切り離しは不明で周辺部及び体部下半に回転篋削りを施す。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167-8	須恵器 蓋	5cm 摘部残存	口 — 摘高 7.2 (1.1)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘だけの残存。接合部から剝離。	
167-9 156	土師器 甕	貯蔵穴埋 設 %残存	口 — 底高 (15.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	におい 褐	胴部上半に張りを残し、口縁部は「コ」字状を呈するものと考えられる。胴部外面は、上半が縦位と横位の乱れた、下半が斜位(上→下)の撫で状の篋削りを施し、内面は横位の篋撫でを施す。	内面に接合痕有
167-10	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 (8.8) 底高 — (8.1)	砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	におい 赤褐	轆轤整形(右回転)。頸部は反り気味に立ち上がり、上端で強く外反し、口縁部は内傾する。	
167-11	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	胴部最大部に2本の沈線と間に擬縄文を施す。	厚 1.0
167-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底高 —	褐色粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	厚 1.0
167-13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	頸部破片で、沈線と波状文を施す。	厚 1.1
167-14	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.8
167-15 157	石器 薦編み石	8cm 完形	長 14.3 幅 7.0 厚 4.6	変質安山岩			使用痕不明。	重 619.1
167-16 156	石器 敲石	±0cm 完形	長 10.8 幅 5.7 厚 2.5	変質玄武岩			側面に1ヶ所敲打痕がみられる。	重 250.1
167-17 157	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 12.0 幅 6.7 厚 3.9	ひん岩			使用痕不明。	重 444.2
167-18 157	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 10.0 幅 4.9 厚 3.3	流紋岩			使用痕不明。	重 272.5
167-19 157	石器 敲石	16cm 完形	長 10.8 幅 5.1 厚 3.6	粗粒安山岩			両端部から側面にかけて敲打痕。	重 358.3
167-20 157	石器 薦編み石	19cm 完形	長 10.6 幅 4.9 厚 2.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 228.5
167-21 157	石器 敲石	16cm 完形	長 11.1 幅 5.9 厚 3.3	粗粒安山岩			両端部から側面にかけて敲打痕。	重 358.3

## 第72号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底高 (7.0) (1.6)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	内外面自然釉
169-2 157	瓦 女瓦	6cm 破片	厚 2.1	白色細粒多	還元焰 硬質	青灰	一枚作り。凹面布目は横位に粗く撫で消されている。凸面正格子叩き。	
169-3 157	鉄器 刀子	覆土内 %残存	長 (11.4) 幅 (1.0) 重 13.6				茎の一部欠損。刃部基部側が、とき減りによるものか湾曲している。	
169-4 157	鉄器 釘	覆土内 %残存	長 (6.5) 幅 (0.7) 重 10.7				両端部を欠損する。断面方形で、先端部側が弱く湾曲している。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
169-5 157	鉄 器 釘?	覆土内 破片	長 (4.0) 幅 (0.7) 重 4.7				断面は長方形で、先端部側がひねられた様に曲がっている。	
170-6 157	石 器 敲 石	P <sub>1</sub> 2cm 一部欠損	長 10.9 幅 9.5 厚 4.3	石英閃緑岩			熱を受け器面の剝離が認められる。縁辺に敲打痕。	重 620.2

第73号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
173-1 157	土 師 器 坏	6cm 完形	口 11.8 底 — 高 3.6	黒色鈹物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。内面体部には指頭痕状の押圧の痕跡が認められる。	
173-2 157	土 師 器 坏	±0cm %残存	口 (11.8) 底 — 高 (3.5)	黒色鈹物粒少 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
173-3 157	土 師 器 坏	3cm %残存	口 (11.8) 底 — 高 (3.7)	黒色鈹物粒多 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
173-4 157	土 師 器 坏	3cm 完形	口 12.4 底 — 高 4.4	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は粗い横撫で、底部は篋削りを施す。	
173-5 157	土 師 器 坏	覆土内 %残存	口 13.0 底 — 高 3.9	黒色鈹物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部外面に指頭痕が認められる。	外面が粗 れている
173-6	土 師 器 皿	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く外反する。底部篋削り後口縁部横撫でを施す。	
173-7	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.8) 高 (1.6)	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。底部に回転篋削りを施す。	
173-8	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (2.8)	砂粒微 褐色細粒少	中性焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で底部及び体部下半回転篋削り後の付高台。	
173-9	須 恵 器 塊	カマド内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.4)	白・黒色細粒 少	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で底部及び体部下半回転篋削り後の付高台。	
173-10	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (6.0) 高 (1.4)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部回転篋削り後、摘貼付。	
174-11	須 恵 器 皿?	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.0)	細砂粒多	還元焰 やや硬 質	にぶい 黄褐	轆轤整形(右回転)。体部下端、底部回転篋削りを施す。	
174-12	須 恵 器 皿	覆土内 破片	口 (23.6) 底 (18.0) 高 (2.1)	黒色粒・白色 細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。底部は、やや丸底気味。底部は手持ち篋削りを施す。	
174-13	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (20.0) 摘 — 高 (1.6)	白色細粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は扁平で内面のかえりも短い。天井部外面に回転篋削りを施す。	
174-14	須 恵 器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.6)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。脚部中位に沈線を2帯巡らす。	
174-15	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (3.6)	白色細粒多 白色鈹物粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り。口縁部上端に段を有し、頸部に波状文を施す。	内外面に 自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
174-16 157	須恵器 短頸壺	覆土内 1/2残存	口 (9.2) 底 (8.0) 高 (7.0)	細砂粒少 白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。胴部中位に強い張りを有する比較的扁平な器形で、口縁部はわずかに内傾する。胴部上半と内面に轆轤痕を残し、下半は手持ち筥削りを施す。底部は一方向の筥削りである。	
174-17 157	須恵器 瓶	7 cm 1/2残存	口 — 底 (9.6) 高 (15.6)	黒色粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。胴部全体に張りを有する。胴部下半及び底部に筥削りを施す。	
174-18	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (6.4)	黒色鉍物粒微 白色細粒多 針状鉍物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部中位に強い張りを有する。口縁部横撫で、胴部横位の筥削り、内面筥撫で。	
174-19	須恵器 甕	4 cm 破片	口 — 底 (15.0) 高 (14.8)	細砂粒・褐色 粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。脚部は底部調整後の貼付。	
174-20	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒・細砂 粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目。内面青海波文。	厚 0.8
174-21	須恵器 甕	29cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面擬格子状の叩き後カキ目。内面は青海波文を撫で消す。	
174-22	須恵器 瓶(台付 長頸瓶)	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多 細砂粒微	還元焰 やや硬質	灰白	肩部に平行沈線を巡らし、間に串状工具の刺突文を施す。	
174-23	須恵器 瓶?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (5.0)	褐色粒微	還元焰 硬質	灰	頸部に断面三角形の隆帯を1帯巡らす。	
174-24 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (2.5) 幅 (0.4) 重 2.5				頭部破片で、錆が進み、周辺が剝離している。断面長方形。第174図-26と同一個体の可能性がある。	
174-25 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.7) 幅 (0.4) 重 1.8				先端寄りの破片で、断面方形。	
174-26 157	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (5.4) 幅 (0.4) 重 2.1				先端部で断面長方形であり、第174図-24と同一個体の可能性がある。	
174-27 157	鉄器 釘	覆土内 1/2残存	長 (5.3) 幅 (1.4) 重 5.5				先端部側を欠損する。頭部は平坦な傘状で上面は剝離している。	
174-28 157	石製品 白玉	覆土内 完形	径 0.9 厚 1.0 孔 1.0	滑石			穿孔は一方向。側面の整形方向は斜方向。	重 1.5
175-29	須恵器 甕	— 6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 1.0
175-30 158	石器 敲石	28cm 完形	長 12.0 幅 7.2 厚 3.8	粗粒安山岩			両側面に敲打痕。一面中央に断面「V」字状のきざみ。	重 491.4
175-31 158	石器 薦編み石	7 cm 完形	長 12.5 幅 6.6 厚 3.5	砂岩			使用痕不明。	重 432.5

## 第75号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
176-1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (5.4) 高 (2.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転筥削り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
176-2	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (3.1)	砂粒多	酸化焰 やや軟質	におい 黄橙	口縁部は「C」字状に外反する。胴部は中位に張りをもつと思われる。口縁部は横撫でを施す。	
176-3 158	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.7 幅 6.5 厚 5.7	角閃石安山岩			端部に敲打痕。	重 402.8

第76号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
179-1 158	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 (10.6) 底 — 高 (3.5)	黒色鉍物粒少 白色細粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	におい 橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
179-2 158	土師器 坏	2~4cm 完形	口 10.8 底 — 高 3.0	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
179-3 158	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鉍物粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で口縁部との境に段を有し、口縁部は中位に稜を有し外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
179-4 158	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.5)	黒色鉍物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	におい 黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
179-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	内面に暗文。	厚 0.5
179-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.8)	褐色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
180-7 158	須恵器 坏	6cm 残存	口 (10.4) 底 5.0 高 4.2	白色細粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りをもつ口縁部は外反する。底部は回転篋削り後回転篋削りを施す。また体部下端に1段の回転篋削りが施されている。	
180-8	須恵器 蓋	6cm 完形	口 10.8 摘 — 高 3.0	細砂粒少 小礫微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部にやや張りを有し、口縁部でわずかに屈曲する。摘は扁平な宝珠状で、天井部回転篋削り後の貼付である。内面のかえりは、短い鋭く内傾する。	
180-9 158	須恵器 蓋	覆土内 残存	口 (11.0) 摘 (1.5) 高 (2.5)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや扁平で、内面のかえりは短い鋭く反る。摘は宝珠摘で天井部外面回転篋削り後の貼付。	
180-10	須恵器 蓋	覆土内 残存	口 — 摘 (1.9) 高 (2.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は宝珠摘で、天井部外面に回転篋削りを施す。	
180-11	須恵器 蓋	9cm 残存	口 (22.0) 摘 — 高 (2.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。大振りて扁平な体部を有し、内面の反りも弱い。天井部外面に篋削りを施す。	
180-12	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (8.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒微 黒色細粒微	還元焰 硬質	暗灰	口縁部上端に2段の段を有し、内面は「く」字状に屈曲する。頸部に平行沈線を巡らす。	内外面に 自然釉
180-13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (11.0)	白色粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は円筒状で上端で強く外反する。	
180-14	土師器 甕	11cm 破片	口 (13.0) 底 — 高 (5.5)	褐色細粒多 黒色鉍物粒微	酸化焰 軟質	橙	胴部は球形で、口縁部は短く「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位(左→右)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
180-15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部上端に突帯を巡らし、下に波状文を施す。口唇部は平坦で外傾する。	厚 1.0

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
180-16 158	須恵器 甕	覆土内 底部破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	底部破片で、体部との接合面で、剥離している。内面は指先による撫でがみられる。	厚 1.9
180-17	須恵器 甕	6~14cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面が平行叩きで内面は格子目。第180図-19と同一個体。	厚 1.0
180-18	須恵器 甕	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.8
180-19	須恵器 甕	9cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面は格子目。第180図-17と同一個体。	厚 0.8
181-20	須恵器 甕	6~11cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.8
181-21 158	鉄器 紡錘車	3cm 完形	長 (4.3) 幅 (4.3) 重 23.0				軸断面は方形で両端共欠損。紡輪部はほぼ完形である。	
181-22	須恵器 壺	覆土内 1/4残存	口 — 底 (6.4) 高 (2.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 軟質	淡黄	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
181-23	土師質 黒色土器 壺	P <sub>4</sub> 10cm 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.5)	白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。高台は付高台。内面篋研磨後黒色処理を施す。	内面の粗れが激しい
181-24	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (7.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。高台は角高台で、底部調整後の付高台。	
181-25	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 (3.0)	白色細粒少		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉は不明。	
181-26 158	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは2面。凸面には縄叩きがみられるが大半は撫で消されている。	

## 第77号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
183-1 158	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.7) 底 (7.7) 高 (3.8)	砂粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部上半に張り有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
183-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (3.3)	砂粒微 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
183-3	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (3.0)	褐色細粒少	還元焰 やや軟質	灰褐	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
183-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.0) 摘 — 高 (1.7)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な体部で口縁部先端で屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
183-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、平行沈線の間に波状文を施す。	厚 1.0
183-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焰 硬質	暗灰	口縁部の破片で、平行沈線の間に波状文を施す。	厚 1.0

遺物一覧表

第78号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
184-1 158	灰釉陶器 埴	カマド内 2 cm 片残存	口 — 底 (8.6) 高 (4.7)	美濃系		灰白	轆轤成形(右回転)。腰部に強い張りを有する。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛けと考えられる。	内外面に カーボン 付着
184-2	灰釉陶器 不明	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (12.0) 高 (2.0)	黒色細粒少		灰	轆轤整形。底部は平底で、体部は弱く外傾し口唇部は外面肥厚する。内外面に灰釉。	
184-3	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに内傾する。罎に縦方向の穿孔有り。	厚 1.2
184-4	須恵器 小型甕	5 cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (9.5)	黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平。外面は縦位の撫でを施す。	内外面に 接合痕有
184-5	土師器 土釜	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「C」字状に強く外反する。胴部は斜位の篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	

第79号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
185-1 158	須恵器 蓋	6 cm 片残存	口 (17.5) 摘 (3.4) 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部で強く屈曲し水平に開き、口唇部が下方に短く折れ曲がっている。摘は雑な作りの環状摘で、天井部は回転篋削り後の貼付である。	
185-2	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (2.4)	砂粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は短く、弱く外反する。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の篋削りを施す。	
185-3	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.2)	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部中位に張りを有する。口縁部横撫で後、胴部上半横位(右→左)の篋削りを施す。	

第80号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
188-1 158	土師器 坏	覆土内 片残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部の張りは弱く口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部の調整は不明瞭である。	杯A IIの 模倣
188-2 158	須恵器 坏	± 0 cm 片残存	口 (13.0) 底 7.6 高 3.4	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
188-3	須恵器 坏	- 5 cm 片残存	口 (13.2) 底 (8.7) 高 (3.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転篋削り無調整。	
188-4	須恵器 埴	4 cm 破片	口 (15.6) 底 (10.0) 高 (7.4)	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部は直線的に外傾する。高台は付高台。	
189-5 158	須恵器 埴	2 cm 片残存	口 (12.0) 底 (8.4) 高 (5.2)	黒色細粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。高台は角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
189-6	須恵器 埴	- 2 cm 破片	口 — 底 (9.0) 高 (4.2)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部下半に弱い張りを有する。高台は底部調整後の付高台。	
189-7	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (10.8) 高 (2.6)	白色細粒多 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
189-8 159	須恵器 埴	±0cm ㄨ残存	口 (17.4) 底 — 高 (7.0)	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、大部分が剝離し、剝離面に糸切り痕が観察できる。	
189-9	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (1.9)	黒色細粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転撫で後の付高台。高台部内面に強い稜がある。	

## 第81号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192-1 159	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (12.4) 底 — 高 (4.0)	黒色鋳物粒多 白色鋳物粒少 褐色鋳物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
192-2 159	土師器 坏	±0cm ㄨ残存	口 (12.2) 底 — 高 (3.1)	白色鋳物粒少 黒色鋳物粒多 褐色鋳物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-3 159	土師器 坏	カマド内 12cm ㄨ残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 黒色鋳物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-4 159	土師器 坏	13~17cm ㄨ残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.9)	細砂粒少 黒色鋳物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-5 159	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (13.4) 底 — 高 (4.6)	細砂粒少 黒色鋳物粒微 白色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-6 159	土師器 坏	±0cm ㄨ残存	口 (15.0) 底 — 高 (4.1)	細砂粒少 白・黒色鋳物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、篋削りを施す。	
192-7 159	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 白・黒色鋳物 粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒少 細砂粒少 黒色鋳物粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は内湾気味に立ち上がる。体部は横篋削り、口縁部は横撫で、内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン暗文を施す。	内面暗文
192-9	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.1) 底 — 高 (4.2)	白色細粒少 黒色鋳物粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部はやや内湾気味に外傾する。体部は篋削り、口縁部は横撫で、内面は撫で後斜格子状暗文を施す。	内面暗文
192-10	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (2.9)	褐色細粒微 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。体部横位篋削り、口縁部横撫で、内面は撫で後放射状暗文を施す。	内面暗文
192-11 159	土師器 皿	覆土内 ㄨ残存	口 (17.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 白・黒色鋳物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
192-12	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.5) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鋳物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
192-13 159	土師器 皿	12cm ほぼ完形	口 (16.0) 底 — 高 (3.7)	砂粒多 白・黒色鋳物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
192-14	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (16.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鋳物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192-15	土師器 坏	13cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
192-16	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (18.4) 底 — 高 (7.2)	細砂粒少 黒色鉾物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	半球形の器形で、口縁部は短く内湾する。体部篋削り、口縁部は横撫でを呈する。	
192-17 159	土師器 皿	± 0 cm ㄨ残存	口 (17.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉾物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
192-18	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口唇部は平坦で水平、体部下端に回転篋削りを施す。	
192-19 159	須恵器 坏	± 0 cm ほぼ完形	口 (12.4) 底 (7.3) 高 3.8	砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り後、周辺篋削りを施す。この回転篋削りは腰部にも1段認められる。	
192-20	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (3.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
192-21 159	須恵器 埴	9~11cm ㄨ残存	口 (15.6) 底 (11.0) 高 (4.5)	細砂粒少 黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に弱い張りを有し体部から口縁部はわずかに内湾気味に立ち上がる。高台は角高台で、底部と腰部に回転篋削り後の付高台である。	
193-22 159	須恵器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (11.4) 底 (8.9) 高 (3.4)	砂粒少 白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてごくわずかに内湾気味に立ち上がる。底部から腰部には回転篋削りを施す。	
193-23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (13.9) 摘 — 高 (4.1)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部との境に段を有する。口縁部は中位に稜を有し、内湾気味に開く。	
193-24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (4.0)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底で口縁部との境に弱い段を有し、口縁部先端でわずかに屈曲する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
193-25	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (6.7) 高 (2.0)	白色鉾物粒微 白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。高台貼付に伴い糸切り痕の大半は撫で消されている。	
193-26	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 5.1 高 (1.4)	褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。摘は変形の環状摘で天井部回転篋削り後の貼付と思われる。	
193-27	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (17.0) 摘 — 高 (2.3)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は水平方向に強く開く。内面のかえりは短く内傾する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
193-28 159	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.2) 摘 — 高 (2.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な体部で口縁部で弱く屈曲する。摘は欠損しているが環状摘と思われる。天井部回転篋削り後の貼付と考えられる。内面のかえりは口縁部から一連のもので退化したものである。	
193-29 159	須恵器 蓋	7 cm ㄨ残存	口 (18.2) 摘 (6.0) 高 (3.6)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部から天井部の張りは比較的強く、口縁部は強く屈曲する。摘は環状摘で、天井部回転篋削り後の貼付である。内面のかえりは、つまみ上げ状で痕跡化している。	
193-30 159	須恵器 短頸壺	2 cm ㄨ残存	口 (11.6) 底 (10.0) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で肩部に強い張りを有し、口縁部は短く直立する。底部は回転篋削りを施しており、高台は削り出し高台と考えられる。	
193-31	須恵器 平瓶	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 (3.7)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	頸部と体部に明瞭な接合痕を残す。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
193-32	土師器 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒微	酸化焰 硬質	橙	甕の底部と考えられるもので、焼成前に内面からの穿孔がされている。	厚 0.6
193-33	土師質 黒色土器 塊	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	酸化焰 硬質	黒	やや内湾する口縁部で、内外面に共に横位磨き後黒色処理。	厚 0.5 内外面に 黒色処理
193-34	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.6) 底 — 高 (7.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状を呈し、上端でわずかに屈曲する。口縁部横撫で後胴部上半斜位(右→左)の篋削り。内面は斜位の篋撫でを施す。口縁部外面に明瞭な接合痕を残す。	
193-35	土師器 甕	10cm 破片	口 (16.9) 底 — 高 (7.3)	砂粒少 小礫微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	褐	口縁部は短く「C」字状を呈し、胴部に強い張りをも有する。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の篋削り、内面は斜位の篋撫でを施す。	
193-36	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.8) 底 — 高 (7.5)	細砂粒多 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状を呈し、胴部上半に張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半横位(右→左)の篋削り、内面横位篋撫でを施す。口縁部外面に明瞭な接合痕を残す。	
193-37	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	紐作り叩き整形。外面が平行叩き後カキ目。内面は青海波文。	厚 0.7
193-38	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面が米格子叩き。内面は素文。	厚 0.7
193-39	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面平行叩き、内面は青海波文。	厚 1.1
194-40	須恵器 甕	6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き。内面は青海波文。	厚 1.7
194-41	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。外面叩きは不明。内面は青海波文。	厚 0.8
194-42	須恵器 甕	6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部上半で強く屈曲し、内外面に共に轆轤整形痕を強く残す。	厚 1.1
194-43	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き目。内面は青海波文。	厚 0.5
194-44 160	石器 薦編み石	2 cm 完形	長 14.0 幅 6.7 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 628.7
194-45 160	石器 敲石	2 cm 完形	長 11.4 幅 6.2 厚 4.2	粗粒安山岩			端部から側面に掛けて敲打痕。	重 398.7
194-46 160	石器 敲石	6 cm 完形	長 11.9 幅 5.3 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 345.7
194-47 160	石器 敲石	3 cm 完形	長 12.8 幅 5.8 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 419.0
194-48 160	石器 敲石	± 0 cm 完形	長 13.2 幅 7.1 厚 4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 701.1
194-49 160	石器 敲石	覆土内 完形	長 9.4 幅 4.3 厚 3.7	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 223.0
195-50 160	石器 敲石	4 cm 完形	長 11.9 幅 7.2 厚 3.9	粗粒安山岩			両端部及び側面に敲打痕。	重 465.7

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
195-51 160	石 器 敲 石	7cm 完形	長 13.8 幅 6.2 厚 3.9	閃緑岩			使用痕不明。	重 679.4
195-52 160	石 器 敲 石	13cm 完形	長 14.5 幅 4.8 厚 3.9	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 451.7
195-53 160	石 器 敲 石	— 2cm 完形	長 13.2 幅 7.2 厚 4.4	粗粒安山岩			両端部と両側面に強い敲打痕。	重 525.9
195-54 160	石 器 薦編み石	10cm 完形	長 12.8 幅 5.5 厚 4.2	変質玄武岩			使用痕不明。	重 445.2
195-55 160	石 器 敲 石	± 0cm 完形	長 13.0 幅 7.3 厚 3.8	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 575.1
195-56 160	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 13.3 幅 5.3 厚 5.2	石英閃緑岩			端部に敲打痕。	重 486.7
195-57 160	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 14.4 幅 5.2 厚 4.3	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 451.0
195-58 160	石 器 敲 石	6cm 完形	長 15.7 幅 5.5 厚 4.9	ひん岩			使用痕不明。	重 592.0
195-59 160	石 器 薦編み石	± 0cm 一部欠損	長 13.8 幅 5.9 厚 4.2	ひん岩			両端部に剝離がみられる。	重 405.9
195-60 161	石 器 敲 石	13cm 完形	長 14.1 幅 7.0 厚 4.9	石英閃緑岩			端部と側面に敲打痕。	重 615.4
195-61 161	石 器 薦編み石	± 0cm 完形	長 12.4 幅 5.6 厚 4.2	変質安山岩			使用痕不明。	重 471.4
195-62 161	石 器 薦編み石	± 0cm 完形	長 13.5 幅 5.1 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 536.9
195-63 159	土 師 質 坏	覆土内 完形	口 10.0 底 5.3 高 3.5	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細砂粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
195-64 159	土 師 器 坏	7cm 1/2残存	口 (9.8) 底 4.7 高 3.0	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部上半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
195-65 159	土 師 器 坏	覆土内 完形	口 9.9 底 5.5 高 3.1	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは強く、口縁部の外反はごく弱い。口縁部内面に稜を有する他、轆轤痕は顕著でない。底部は回転糸切り無調整。	
195-66 159	須 恵 器 境	覆土内 1/2残存	口 (12.3) 底 — 高 (3.4)	細砂粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。	
195-67 160	灰釉陶器 境	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 7.2 高 5.4	美濃系?		灰	轆轤成整形(右回転?)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は雑な三角高台で、底部回転糸切り後の付高である。施釉は潰け掛け。	内外面に カーボン 付着
195-68 160	土 師 質 境	7cm ほぼ完形	口 10.5 底 6.0 高 4.6	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は付高台で、底部切り離し技法は不明。	
195-69 160	クローム 青 磁 碗	± 0cm 完形	口 7.6 底 3.2 高 3.7				高台は削り出し高台。体部外面に雲形の凹凸を付け、施釉の濃淡で文様が表現されている。	明治〜大 正期

## 第82号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
198-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
198-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部で強く内湾する。底部は篋削り、口縁部横撫で、体部は撫でを施す。	
198-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉍物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	底部は平底気味の丸底で、体部にわずかに張りを有し、口縁部は短く内湾する。底部は篋削り、口縁部横撫で、体部は撫でを施す。	
198-4 161	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 10.6 底 — 高 4.0	細砂粒少 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈する。底部は回転篋削りが施されている。	
198-5 161	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 — 底 (7.0) 高 (4.3)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、底部は浅い丸底状を呈する。体部内外面には弱い轆轤痕を残し、底部は一方向の篋削りを施す。	底部にスラグ状付着物有
198-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.2) 底 — 高 (2.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部はやや反り気味で、口縁部は「く」字状に強く内傾する。	
198-7	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 (1.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
198-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.3)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	肩部に沈線状の凹を1帯廻らし、それにかかるように径約1.5cmの穿孔がある。	外面に厚く自然釉
198-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3
198-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.8
198-11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 やや硬 質	灰黄褐	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
198-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.9
198-13 161	石製品 白玉	覆土内 1/2残存	径 (1.3) 厚 0.5 孔 —	滑石			穿孔は一方向。	重 0.4
198-14 161	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.3 幅 4.5 厚 3.2	頁岩			使用痕不明。	重 257.3

## 第83号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
200-1	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (1.5)	白色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚端部で、先端部がわずかに下方に屈曲し、基部に1帯の微隆帯を巡らす。	
200-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは自然釉のため不明。内面青海波文。	厚 1.1

遺物一覧表

第258号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
200-3 161	土師器 坏	7 cm 完形	口 12.0 底 7.5 高 3.4	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部下半で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部には指頭痕が認められる。	
200-4	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.2)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部撫で調整後の付高台。	
200-5 161	須恵器 埴	2 cm %残存	口 (15.0) 底 — 高 (5.0)	細砂粒多 黒色鈹物粒少	還元焰 軟質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部の外反もわずかである。高台は接合部から剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台である。	
200-6 161	須恵器 埴	8 cm %残存	口 (14.8) 底 (9.0) 高 (5.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は三角高台で、底部回転糸切り後の付高台。	
200-7 161	土師質 黒色土器 鉢(片口)	覆土内 %残存	口 (23.4) 底 (10.2) 高 (11.0)	細砂粒多 黒色鈹物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。片口部は整形後に外方に押し出して形成している。内面は横篋磨き後黒色処理を施す。	
200-8 161	鉄器 金具?	カマド内 —	長 (4.1) 幅 (1.9) 重 4.7				一端は欠損。残存部に1ヶ所円形の穿孔があり、その部分で曲がっている。薄い作りで、新しいものかもしれない。	
201-9	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒多 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面全体撫でを施す。	
201-10	瓦 男瓦	覆土内 %残存	厚 1.5	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端面取り2面。凸面全体に撫でを施す。	
201-11	瓦 男瓦	2 cm 破片	厚 2.6	砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凸面全面横篋撫でを施す。	
201-12 161	瓦 女瓦	8 cm 破片	厚 2.7	白色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面布目粗い撫で、凸面篋描文字「秋□」。	
201-13 161	石器 敲石	6 cm 完形	長 14.2 幅 6.7 厚 5.5	砂岩			両端部に敲打痕。	重 732.2
201-14 161	石製品 砥石	± 0 cm %残存	長 9.7 幅 6.0 厚 3.9	砂岩			使用方向は前面上下方向、側面に深いきざみが見られる。上半を欠損すると思われるが欠損後の使用が考えられる。	重 732.2

第84号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
203-1 161	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.4)	褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
203-2 161	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部中位に弱い稜を有し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部の横撫では弱く、体部は1段の横位(右→左)の篋削りを施す。	杯A IIの 模倣
203-3 161	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (14.4) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部中位に弱い稜を有し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、体部は1段の横位(右→左)の篋削り、底部は篋削りを施す。	杯A IIの 模倣
203-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.4) 底 — 高 (3.8)	白色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。体部外面底部は篋削りと考えられるが器面の磨滅が激しく不明。内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	
203-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 高 (3.3)	白色細粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は直線的で、天井部との境に水平に突帯を廻らす。蓋は欠損し不明。	

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
203-6	瓦 女瓦	破片	厚 1.9	白色細粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面米格子(?)叩き。	カマド内 ±0cm
203-7 161	石製品 砥石	覆土内 刳残存	長 10.6 幅 4.8 厚 4.5	砥沢石			下半を欠損し、欠損後も使用側面の使用方向は横方向。	重 261.9

## 第85号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
205-1 161	灰釉陶器 壺	カマド内 9cm 刳残存	口 (15.0) 底 — 高 (3.5)	猿投系?		オリーブ灰	轆轤成整形?体部の張りは強く外反する。高台は剥離しているが、剥離面にも釉がかかっている。施釉は刷毛掛けと考えられ、外面は体部下端まで、内面は重ね焼きの高台接点まで認められる。	
205-2 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (4.1)	細砂粒多 褐色粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
205-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.8)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	褐灰	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
205-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (1.5)	白色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	暗青灰	轆轤整形(左回転)。天井部外面は2段の回転篋削りを施す。	天井部に 篋描き
205-5	土師器 甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (4.5)	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に張りを有する。胴部外面は、斜位の刷毛、内面は横位の刷毛を施す。	
205-6 162	石器 敲石	カマド内 4cm 完形	長 13.5 幅 6.3 厚 4.3	粗粒安山岩			端部に敲打痕。	重 491.2
205-7 162	石器 敲石	カマド内 6cm 完形	長 16.0 幅 6.4 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 764.5
205-8 162	石器 敲石	カマド内 13cm 完形	長 17.1 幅 6.7 厚 4.9	ひん岩			使用痕不明。	重1087.7

## 第86号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
206-1 162	土師器 坏	6cm 刳残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.1)	砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩の 可能性有
206-2 162	土師器 小型壺	21cm 破片	口 (13.6) 底 — 高 (11.3)	砂粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位、内面横位の刷毛後撫でを施している。内面に接合痕を明瞭に残している。	
206-3 162	石器 薦編み石	26cm 完形	長 15.5 幅 7.1 厚 5.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 863.0
206-4 162	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 14.9 幅 5.7 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 861.0
206-5 162	石器 薦編み石	±0cm 完形	長 15.5 幅 7.1 厚 5.7	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 933.0
206-6 162	石器 敲石	2cm 完形	長 15.8 幅 6.5 厚 5.1	粗粒安山岩			側面に使用に伴う剥離が認められる。	重 893.0

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
206-7 162	石 器 薦編み石	3 cm 完形	長 16.8 幅 6.5 厚 5.2	流紋岩			使用痕不明。	重 951.0
206-8 162	石 器 薦編み石	9 cm 完形	長 15.7 幅 7.7 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 995.0

第87号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
208-1 162	土 師 器 坏	2 cm 完形	口 11.7 底 — 高 3.8	細砂粒多 白・黒色鈹物 粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部篋削り、内面撫でを施す。	
208-2 162	土 師 器 坏	覆土内 残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
208-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
208-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は中位に稜を有し外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
208-5 162	須 恵 器 坏	14cm ほぼ完形	口 (11.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は平底状で、口縁部は内傾し、受け部は短くやや上方を向く。底部は篋削りを施すことによって平底状に変形したものと考えられ、内外面共に粗い撫でが施されている。	
208-6	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.6
208-7	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	青灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.5
208-8	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.5
208-9	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
208-10	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 砂粒少	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
208-11 162	鉄 器 刀 子	覆土内 残存	長 (9.3) 幅 (2.1) 重 16.2				茎の一部と先端部を欠損する。柄装着部には断面楕円形状の金具が取り付けられている。刃部は中央部付近に使用に伴う減りがみられる。	
208-12 162	石 器 台 石	15cm 一部欠損	長 33.2 幅 23.3 厚 8.6	石英閃緑岩			器面の剝離が激しく、1面に敲打痕。	重9800.0
208-13 162	石 製 品 砥 石	覆土内 残存	長 (8.5) 幅 4.9 厚 1.4	頁岩			両端部が欠損。1面は上下方向、2面は斜方向の使用痕がみられる。	重 110.8

第88号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
209-1 163	土 師 器 坏	覆土内 残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鈹物粒微	酸化焰 やや硬質	灰白	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で後底部に篋削りを施す。	

## 第89号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
210-1 163	土師器 坏	-3cm ㄨ残存	口 (11.0) — 底高 (3.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
210-2 163	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (12.6) — 底高 (4.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
210-3 163	土師器 坏	6cm ㄨ残存	口 (15.0) — 底高 (4.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
210-4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) — 底高 (8.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部上半に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半横位(右→左)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	

## 第90号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
213-1	土師器 坏	24cm ㄨ残存	口 (11.4) — 底高 (3.8)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
213-2 163	土師器 坏	8cm ㄨ残存	口 11.6 — 底高 3.6	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
213-3 163	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (11.0) — 底高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
213-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) — 底高 (3.0)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口唇部内面に1帯の沈線状の凹が認められる。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面に 黒色塗彩
213-5 163	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (11.0) — 底高 (3.6)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
213-6	土師器 坏	カマド内 破片	口 (10.0) — 底高 (3.9)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	灰褐	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口唇部内面に弱い沈線状の凹を1帯廻らす。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
213-7 163	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (10.6) — 底高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部篋削り、内面撫でを施す。	
213-8	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (11.0) — 底高 (3.6)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に屈曲し、口縁部は外反する。口縁部中位に沈線状の凹を1帯廻らす。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-9	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (10.4) — 底高 (4.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
214-10 163	土師器 坏	カマド内 ㄨ残存	口 (11.6) — 底高 (3.7)	褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-11 163	土師器 坏	4cm ㄨ残存	口 12.2 — 底高 4.4	褐色粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-12 163	土師器 坏	7cm 完形	口 11.6 — 底高 3.8	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
214-13 163	土 師 器 坏	28cm 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.1)	細砂粒少 黒色鉾物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-14	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.3)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
214-15 163	土 師 器 坏	7cm 3/4残存	口 (12.4) 底 — 高 (4.5)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部篋削り内面は丁寧な撫でを施す。	
214-16	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 4.0	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
214-17 163	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は一方向の篋削りを施す。	
214-18 163	土 師 器 坏	16cm ほぼ完形	口 12.0 底 — 高 4.4	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-19 163	土 師 器 坏	28cm 1/4残存	口 (11.6) 底 — 高 3.9	細砂粒少 黒色鉾物粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部外面中位に稜が認められる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
214-20 163	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
214-21 163	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒少 白・黒色鉾物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有する。口縁部は中位に稜を有し、直線的に外傾する。口唇部内面に弱い稜が認められる。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面に 黒色塗彩
214-22 163	土 師 器 坏	13cm 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	半球形の器形で、口縁部は短く直立し、内面に弱い稜を有する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	杯CIIIの 模倣?
214-23	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.4) 底 — 高 (3.8)	褐色細粒多 黒色鉾物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。外面は全面篋削りで、口縁部に横撫では施さない。内面は丁寧な撫でを施す。	
214-24	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.9)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
214-25	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.3)	白色細粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
214-26 163	土 師 器 坏	カマド内 1/4残存	口 (17.0) 底 — 高 (6.0)	黒色鉾物粒微 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外傾し、上端で外面肥厚する。口縁部横撫で、底部篋削りを施す。	
214-27 163	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (17.4) 底 — 高 (7.6)	細砂粒少 黒色鉾物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底であるが、中央部に平坦面を有する。口縁部と底部の境の段は強く、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は横位篋削りを施す。	内外面に カーボン 付着
214-28 164	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (18.4) 底 — 高 (6.9)	砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。内面は丁寧な撫で。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
214-29 164	土師器 坏	42cm 瓦残存	口 (17.0) — 底高 (8.4)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に稜を有し口縁部は直線的に内傾する。口縁部横撫で後底部上端横位 それ以下方向の篋削りを施す。内面は丁寧な撫で。	
214-30	土師器 坏	覆土内 破片	口 (22.0) — 底高 (8.0)	細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
214-31 164	土師器 鉢	16cm 瓦残存	口 (24.0) — 底高 (9.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は内湾し、底部には平坦な部分がわずかにみられる。内面は丁寧な撫で後、口縁部に横撫でを施し、さらに外面に横位の篋削りを施す。底面は一方向篋削り。	
214-32 164	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口 (12.0) — 底高 (3.3)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部はやや扁平な丸底で、口縁部は内傾し受け部は短く上面が水平となる。内面は轆轤痕を残し、底部は全面に撫でが施されている。	
214-33 164	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	口 (11.0) — 摘高 (3.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部との境に1本の沈線を巡らし、口縁部は直線的に開いている。内面の轆轤痕は明瞭で天井部外面に回転篋削りを施す。	
215-34 164	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) — 摘高 (4.1)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。口縁部はやや外反気味で、天井部との境には2段の屈曲を有する。天井部は一方向の手持ち篋削りを施す。	
215-35 164	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	口 (13.0) — 摘高 (4.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。半球形の状の器形で、天井部に回転篋削りを施す。	
215-36	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (18.0) — 底高 (4.9)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	体部は丸底状で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は強く外反し、上端部でわずかに屈曲する。口縁部外面は撫で後に篋先で弱い磨きが入っている。	
215-37	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (10.0) — 底高 (5.4)	砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	胴部中位にわずかに張り有り、下半は水平方向に強く開く。外面縦位の篋撫で、内面斜位の撫で、脚部下半は横撫でを施す。	
215-38	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (10.2) — 底高 (5.7)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部中位に張り有り、口縁部は直立し上端で外面に折れ曲がった様な状態を呈する。口縁部は横撫で、胴部は横篋削りを施す。	
215-39	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.2) — 底高 (6.0)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張り有り、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、胴部は横位(左→右)の篋削りを施す。	
215-40	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (15.0) — 底高 (3.5)	砂粒多 白色粒少	酸化焰 硬質	赤褐	胴部に強い張り有り、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	第215図 -41と同 一団体?
215-41	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0) — 底高 (5.0)	砂粒多 白色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部に強い張り有り、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	第215図 -40と同 一団体?
215-42 164	土師器 小型甕	32cm 瓦残存	口 (16.0) — 底高 (11.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中位に強い張り有り、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部を強い横撫で後胴部に外面斜位(右→左)の篋削りを施す。内面は横位篋撫で。	
215-43	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) — 底高 (11.8)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや内湾気味に立ち上がり、肩に張りはまったくみられず、胴部中位に最大径を有する。口縁部横撫で、胴部は縦位(下→上)の篋削りを施す。	
215-44 164	土師器 台付甕	2~8cm 瓦残存	口 (12.8) — 底高 (9.4)	片岩小礫多 黒色鉱物粒少 細砂多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張り有り、脚は「ハ」字状に強く開く。胴部は斜位(下→上)の篋削り、脚部は横撫でを施す。	
215-45	土師器 台付甕	覆土内 破片	口 (9.0) — 底高 (5.8)	砂粒多 白色細粒多	酸化焰 硬質	灰褐	脚部下端は水平方向に強く開く。胴部内外面撫で後、脚部下半に横撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
215-46	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.5)	細砂粒多 黒色鉾物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部に強い張りを有し、口縁部は強く外反する。胴部外面斜位(左→右)の篋削り、内面斜位篋撫で後口縁部に横撫でを施す。	
215-47	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.4)	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削り、内面に撫でを施す。	
215-48	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.4)	黒色鉾物粒多 砂粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。口縁部の器肉が特に厚い。	
215-49	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (7.0)	砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部中位に強い張りを有し、口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削り、内面に篋撫でを施す。	
215-50	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (7.0)	小礫多 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	肩に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位の撫でを施す。	
215-51	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.2)	砂粒多 黒色鉾物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部に強い張りを有する。口縁部内面に沈線状の凹が1帯廻る。口縁部横撫で後胴部に斜位(左→右)の篋削りを施す。	
216-52	須恵器 高坏?	覆土内 破片	口 (21.2) 底 — 高 (6.0)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部と口縁部との境に沈線を1本廻らし、口縁部は外傾する。体部下半に回転篋削りを施す。	
216-53	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (13.0)	小礫少 砂粒多	酸化焰 硬質	灰褐	口縁部は「く」字状に外傾し、肩部に弱い張りを有する。胴部外面縦位(下→上)の篋削りを施す。	
216-54 164	土師器 甕	覆土内 片残存	口 — 底 (6.0) 高 (14.5)	小礫少 砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部下半で、外面に縦位(下→上)の篋削りを施している。	
216-55 164	土師器 甕	覆土内 片残存	口 — 底 (7.2) 高 (23.0)	片岩小礫少 砂粒少	酸化焰 硬質	橙	張りの弱い長胴の胴部下半で、外面は斜位(下→上)の篋削りと撫でが、内面は横位撫でが施されている。	内面下半 に明瞭な 接合痕有
216-56	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	胴部最大部に平行沈線と擬縄文を施す。	厚 1.1
216-57 164	須恵器 甕	19cm 破片	口 (22.6) 底 — 高 (6.9)	細砂粒多 黒色鉾物粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。口縁部は「く」字状に強く外反し、上端でわずかに内湾気味に立ち上がる。胴部外面に平行叩き、内面当具不明。頸部に波状文を施す。	
216-58	須恵器 甕	17cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (10.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。胴部の張りは強く、口縁部は外反し上端で短く直立する。この直立部に1本の沈線を巡らし、頸部に波状文を施す。胴部外面は斜格子叩き後カキ目、内面に青海波文が認められる。外面は撫でが施されたものか、叩き目は不明瞭である。	
216-59	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (7.9)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部はわずかに内湾する。	
216-60	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (8.8) 底 — 高 (8.3)	細砂粒少 白色鉾物粒少 黒色粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。頸部は外反し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部下半に1本の沈線を巡らす。	
216-61	土師質 埴	15cm 破片	口 12.6 底 — 高 (3.9)	黒色鉾物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。長脚の高台で「ハ」字状に開いている。	
216-62	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部は外面肥厚し、下に細かな波状文を施す。	厚 0.6
216-63	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部内外面に段を有し、口唇部は平坦である。外面には沈線と波状文を施す。	厚 0.9

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216-64 164	須恵器 甕	19cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
217-65	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面擬格子叩き、内面青海波文。	厚 1.0
217-66	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	赤灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面に厚く自然釉が認められることから底部付近と考えられる。	厚 1.2
217-67	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面に自然釉
218-68	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.7
218-69	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
218-70	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩きと思われるが、自然釉が厚く不明。内面青海波文。	厚 0.6
218-71	須恵器 甕	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面素文で撫でを施している。	厚 1.1
218-72	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩きと思われるが不明瞭。弱いカキ目を施す。内面素文。	厚 0.7
219-73	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0 内面カーボン附着
219-74	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.8
219-75	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
219-76	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
219-77	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	外面全面にカキ目、内面に明瞭な接合痕がみられる。	厚 0.9
219-78 164	石製品 白玉	覆土内 完形	長 1.3 厚 0.7 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向。	重 1.7
219-79 164	石器 敲石	覆土内 完形	長 10.6 幅 7.2 厚 4.6	粗粒安山岩			端部にわずかに敲打痕。	重 605.9
219-80 164	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 10.6 幅 5.0 厚 4.1	粗粒安山岩			器面の剝離が激しい。	重 267.2
219-81 164	石器 敲石	22cm 片残存	長 13.6 幅 5.7 厚 3.6	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 293.0
219-82 164	石器 敲石	10cm 片残存	長 7.5 幅 7.8 厚 2.8	粗粒安山岩			端部に磨滅した剝離がみられ側面に敲打痕。	重 270.5

遺物一覧表

第91号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
220-1 165	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鈹物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
220-2 165	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (5.1)	細砂粒少 黒色鈹物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面に 黒色塗彩 か?
220-3	土師器 甕	18cm 破片	口 — 底 — 高 (6.7)	砂粒多 白・黒色鈹物 粒多	酸化焰 硬質	灰黄	底部はやや丸底気味の平底で、一方に黒班が認められる。	
220-4 164	石器 不明	5 cm 完形	長 16.5 幅 15.5 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1589.6
220-5 165	石器 敲石	± 0 cm 1/2残存	長 11.6 幅 17.0 厚 5.4	ひん岩			剥離が一面みられる。	重1515.7
220-6 165	石器 薦編み石	7 cm 完形	長 12.3 幅 5.3 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 380.7
221-7 165	石器 敲石	覆土内 完形	長 17.2 幅 6.3 厚 4.1	砂岩			側面に一ヶ所磨滅した剥離がみられる。	重 683.6
221-8 165	石器 敲石	± 0 cm 完形	長 13.5 幅 7.0 厚 3.5	粗粒安山岩			端部から側面にかけて敲打痕。	重 564.0

第92号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
222-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外傾する。口縁部に横撫でを施す。	
222-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文。	厚 1.3
222-3	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	黒色粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰	桶巻作り。模骨痕と粘土板切り痕を残し、凸面は縄叩き。側端部の面取りは3面。	

第93号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
224-1	土師器 坏	貯蔵穴 破片	口 (11.0) 底 (6.0) 高 (3.0)	黒色鈹物粒多 白色鈹物粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部下端にわずかに張りを有し、口縁部は外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
224-2 165	須恵器 坏	- 3 cm ほぼ完形	口 13.8 底 7.8 高 3.8	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
224-3 165	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.8 底 7.9 高 3.2	白・黒色細粒 多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
224-4	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (8.0) 高 (2.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有する。	
225-5 165	須恵器 坏	11cm 1/2残存	口 (13.0) 底 (8.6) 高 (3.2)	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
225-6	須恵器 坏	9 cm 破片	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.1)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。	
225-7 165	須恵器 坏	8 cm 1/2残存	口 (13.4) 底 (7.4) 高 (3.2)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
225-8	須恵器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の丸味は強く、口縁部は外反する。底部は回転篋削り。	
225-9 165	須恵器 塊	6 cm 1/2残存	口 (11.6) 底 (7.4) 高 (4.8)	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。高台は三角高台で底部回転糸切り後に付高台。	
225-10	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転篋削り後の付高台。	
225-11	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (4.2)	砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	
225-12	須恵器 塊	— 3 cm 破片	口 — 底 (7.6) 高 (2.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部の糸切り痕は、高台貼付に伴い撫で消されている。	
225-13	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.6)	黒色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は、底部回転篋削り後の付高台。	
225-14	須恵器 塊	9 cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の丸味は強く口縁部はわずかに外反する。	
225-15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.0)	白色細粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は比較的扁平で内面のかえりは短い。天井部外面に回転篋削りを施す。	
225-16 165	須恵器 蓋	7 cm 1/2残存	口 (16.0) 摘 (3.8) 高 (3.7)	砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部にわずかに張りを有し、口縁部はやや反り気味で、口唇部が内側に鋭く屈曲する。摘は天井部回転篋削り後の貼付である。	
225-17	須恵器 高坏	覆土内 脚部破片	口 (13.6) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。脚部は強く開き、先端で屈曲する。	
225-18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端で屈曲する。口縁部に波状文を有する。	
225-19	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有す。頸部と口縁部上端に波状文を有す。	厚 0.7 内外面に 自然釉
225-20	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 褐色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面撫で、内面素文。	厚 0.7
225-21	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	褐色細粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は弱く外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
225-22	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (3.3)	白色細粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
225-23	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
225-24	須恵器 高坏	4 cm 破片	口 — 底 — 高 (6.4)	砂粒少 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
226-25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後、カキ目。 内面は青海波文。	厚 0.9
226-26	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。外面は擬格子状叩き。内面 は青海波文。	厚 0.7
226-27	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後、カキ目。 内面は青海波文。	厚 0.6
226-28	灰釉陶器 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系			轆轤整形。底部は平底で、底部は短く直立す る。	厚 0.4 内外面に 釉附着
226-29 165	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.0) 幅 (0.5) 重 3.0				先端部破片で、曲がっている。断面方形。	
226-30 166	石器 敲石	8 cm 完形	長 10.8 幅 10.9 厚 5.5	粗粒安山岩			縁辺に敲打痕が激しい。	重1091.3
226-31 165	石器 敲石	覆土内 完形	長 18.6 幅 5.7 厚 4.0	粗粒安山岩			両端部と側面に強い敲打痕。熱を受けた器面 の剥離がみられる。	重 650.3 カーボン 附着
226-32 166	石器 敲石	7 cm 完形	長 13.3 幅 5.8 厚 5.0	砂岩			使用痕不明。	重 627.5
226-33 166	石器 敲石	12cm 1/2残存	長 11.6 幅 6.7 厚 4.4	変質安山岩			器面の剥離が激しい。	重 539.0
226-34 166	石器 敲石	6 cm 完形	長 7.5 幅 6.4 高 3.7	粗粒安山岩			側面に敲打痕。	重 260.2
227-35 165	石器 敲石	6 cm 完形	長 21.9 幅 11.1 高 6.5	変質安山岩			端部に熱を受ける。	重2430.0
227-36 165	石器 敲石	11cm 完形	長 13.0 幅 9.3 厚 4.3	粗粒安山岩			一側面に剥離が集中する。	重 786.5

第94号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
229-1 166	土師器 坏	7 cm 1/2残存	口 11.6 底 8.0 高 3.1	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部中位に屈曲を有し、口縁 部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底 部は篋削りを施す。	杯A IIの 模倣
229-2 166	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は外傾し口縁部はわずか に内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り 体部には指頭痕状の押圧が認められる。	
229-3 166	須恵器 坏	2 cm 1/2残存	口 (14.0) 底 7.6 高 3.1	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く口縁部 はわずかに内湾する。底部は回転糸切り無調 整。	体部上半 に焼歪が みられる
229-4 166	須恵器 坏	10cm 1/2残存	口 13.1 底 6.0 高 3.5	白色細粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、体部は 全体に反り気味である。底部は回転糸切り無 調整。	
229-5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (8.0) 高 (3.9)	黒色粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張り を有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転 糸切り無調整。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
229-6 166	土師質 黒色土器 坏	10cm %残存	口 14.1 底 — 高 5.2	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	明黄褐	轆轤整形(右回転)。体部の張りは比較的強く、口縁部は外反しない。体部外面には轆轤痕がみられるが、内面は「こて」当てによるものか全く轆轤痕が認められない。底部は篋削り調整が加えられ、中央がわずかに突出する。内面は磨き後黒色処理が施されている。	
229-7 166	須恵器 皿	貯蔵穴11cm %残存	口 (14.0) 底 7.6 高 2.9	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。底部回転糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消されている。	見込部に重ね焼きの痕跡有り
229-8 166	須恵器 塊	貯蔵穴6cm %残存	口 — 底 9.0 高 4.5	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りはなく高台は三角高台で底部回転糸切り後の付高台である。	
229-9	土師質 塊	覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒微	酸化焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の丸味が比較的強く、高台は底部回転糸切り後の付高台で、体部側に取り付けられている。	
229-10	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (5.6) 高 (3.7)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に立ち上がる。高台は角高台で底部回転糸切り後の付高台。	
229-11	土師質 塊	9cm 破片	口 — 底 7.2 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は、比較的長脚で底部回転糸切り後の付高台。	
229-12 166	須恵器 蓋	±0cm ほぼ完形	口 17.4 底 — 高 3.2	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、体部はやや反り、口縁部先端はわずかに下方に折れ曲がる。摘は環状摘で、天井部回転糸切り周辺回転篋削り後の貼付。	
229-13 166	土師器 小型甕	貯蔵穴16cm %残存	口 (11.0) 底 — 高 (8.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部中に強い張り(最大径)を有し、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(右→左)の篋削りを施す。	
230-14	須恵器 甕	破片	口 — 底 — 高 (9.0)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面と口縁部内面に、自然釉。	
230-15	須恵器 甕	15cm 破片	口 — 底 (24.0) 高 (4.7)	白・黒色粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り。	
230-16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。内面の粗れが激しい。	厚 1.0 内面わずかにカーボン附着
230-17 166	石器 敲石	覆土内 完形	長 15.2 幅 6.1 厚 3.3	粗粒安山岩			側面にわずかに敲打痕。	重 532.6
230-18 166	石製品 砥石	覆土内 破片	長 5.3 幅 5.4 厚 2.8	砥沢石			原形をとどめていないが割れ口は磨滅している。	重 74.3
230-19 166	石製品 白玉	覆土内 破片	径 1.2 厚 1.1 孔 0.3	滑石			完形である可能性がある?	重 0.3
230-20 166	鉄器 釘	覆土内 完形	長 (13.3) 幅 (0.8) 重 31.2				断面方形で、端部は潰れたような状態を呈する。	
230-21 166	灰釉陶器 塊	16cm %残存	口 (15.4) 底 (8.0) 高 (6.3)	美濃系		浅黄	轆轤成整形(右回転)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反しない。高台は底部と腰部に回転篋削り後の付高台。口縁部内面に沈線が1本巡る。施釉は漬け掛け。	
230-22	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (8.8) 高 (3.5)	美濃系?		灰白	轆轤成整形。高台は底部回転篋調整後の付高台。施釉は漬け掛け。	内面に重ね焼きの痕跡
230-23	瓦 女瓦	貯蔵穴60cm 破片	厚 2.3	砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り。凸面横位撫で、側端部は2面の篋削り。凹面は粘土板糸切り痕有り。	カーボン附着

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
230-24 167	瓦 女瓦	9 cm 破片	厚 2.4	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻き作り?凸面縄叩き。凹面布目は一部撫で消されている。模骨痕は不明。	
231-25 167	瓦 男瓦	± 0 cm 1/4残存	厚 1.4	白色細粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻き作り?凹面に布合わせ痕?有り。凸面全面撫で。	

第95号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
232-1 167	土師器 坏	堀り方覆 土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
232-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (3.7)	白色細粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	内面黒色 塗彩
232-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (2.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は非常に厚手で手持ち篋削りを施す。	
232-4 167	灰釉陶器 皿	カマド内 - 2 cm 1/4残存	口 (12.8) 底 (6.8) 高 (2.5)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。体部から口縁部にかけて外反する。高台は三日月高台状で底部回転篋削り後の付高台。底部との接点には強く篋が当てられ深い沈線となっている。施釉は漬け掛け。	
232-5	瓦 女瓦	± 0 cm 破片	厚 2.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り?凹面に紐作りの痕跡と思われる凹が認められる。凹面は布目は横位に粗く撫で消されている。凸面縄叩き。	
232-6 167	鉄器 釘	± 0 cm 破片	長 (4.4) 幅 0.6 重 5.2				先端部の破片で、2ヶ所で曲っている。	

第96号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
233-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 (2.2)	褐色粒少	酸化焰 硬質	明褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部は、横撫でを施す。	
233-2	土師器 埴	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.5)	白色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	扁平な球形の胴部を有するものと考えられ、頸部の接合部で剥離している。	
233-3 167	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.9 幅 8.0 厚 2.8	変質安山岩			両端部に剥離痕。両端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 541.3

第97号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
235-1 167	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.8) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色 塗彩の 可能性有
235-2	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 (18.2) 底 — 高 (6.4)	美濃系		灰白	轆轤成整形。腰部に強い張りを有し、体部は内湾気味。釉の発色は悪く、施釉は漬け掛け。	
235-3	須恵器 甕	カマド内 14cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (4.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し上端に段を有する。	
235-4	須恵器 甕?	カマド内 11cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。器形は不明。端部は口縁部であるかどうか不明。内面青海波文。外面には薄き自然釉。	厚 2.1



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
235-5	瓦 女瓦	6cm 破片	厚 2.0	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。布目は端部にも及んでいる。凸面は横無位縄叩き。	

## 第98号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
238-1	土師器 坏	±0cm 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (4.0)	褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
238-2 167	土師器 坏	10cm 1/4残存	口 12.8 底 — 高 3.5	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
238-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 — 高 (3.0)	砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	体部に丸味を有する。底部は欠損しているが平底と考えられている。口縁部横撫で体部は弱い篋削り、内面撫でを施す。	
238-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は上半に弱い稜を有して直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
238-5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は水平で口縁部は比較的長く直立する。底部にも回転篋削りを施す。	
238-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (4.6)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部に丸味を有する。	
238-7	須恵器 蓋	6cm 1/4残存	口 (10.0) — 高 (3.0)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から天井部にかけて丸味を有し、内面のかえりは、比較的長く強く内傾する。体部外面から天井部にかけては回転篋削り後撫でを施す。	
238-8	須恵器 高坏	2cm 1/4残存	口 — 底 — 高 (7.8)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形。体部は丸味が強く、脚部に三方透しを有する。	
238-9	須恵器 甕	±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒多	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第238図-10と同一個体。	厚 0.5
238-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。第238図-9と同一個体。	厚 0.4
239-11	土師器 甕	-11cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	砂粒多 白・黒色鉱物 粒多	酸化焰 硬質	明黄褐	口縁部は「く」字状に強く外反し胴部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面調整は器面の粗れが激しく不明。	
239-12 168	土師器 甕	9cm 1/4残存	口 (24.4) 底 — 高 (30.0)	砂粒多 白色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄褐	胴部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	
239-13 167	石製品 砥石	-7cm 1/2残存	長 7.9 幅 4.0 厚 4.0	砥沢石			一端を欠損し両端面からの穿孔を意図した痕跡があるが貫通はしていない。置砥からさげ砥への転用か。	重 195.2 穿孔有り
239-14 167	石器 敲石	-6cm 完形	長 20.8 幅 18.3 厚 4.5	変質玄武岩			使用痕不明。	重2685.0
239-15 167	石器 薦編み石	11cm 1/4残存	長 (8.0) 幅 4.9 厚 5.0	黒色頁岩			かけ口に剝離が認められる。	重 242.2
239-16 167	石器 敲石	±0cm 完形	長 14.2 幅 6.7 厚 5.9	ひん岩			器面に剝離が認められる。	重 766.2

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
239-17 167	石 器 敲 石	± 0 cm 完形	長 13.5 幅 7.3 厚 4.3	変質安山岩			両端部と側面にわずかに敲打痕がみられる。	重 723.1
239-18 167	石 器 敲 石	± 0 cm 一部欠損	長 19.0 幅 (15.1) 厚 3.7	粗粒安山岩			裏面に磨痕と側面に敲打痕。	重1812.2

第100号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
241-1 168	土 師 器 坏	3 cm ¾残存	口 (10.8) 底 — 高 (3.3)	砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
241-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.7)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は篋削りを施す。	
241-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.8)	褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で、底部篋削りを施す。	
241-4	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.3)	白色細粒微 黒色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で口縁部との境に弱い段を有する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
241-5 168	須 恵 器 坏	カマド内 35cm ¾残存	口 (12.6) 底 7.0 高 (3.3)	黒色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
241-6	土 師 器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (5.5)	砂粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	脚部は篋削りによる面取りがされている。	
241-7	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.7)	褐色細粒少 砂粒微	酸化焰 硬質	橙	胴部の丸味は強く、口縁部は直立する。口縁部横撫で後胴部は横位(右→左)の篋削りを施す。内面の撫では丁寧。	
241-8 168	土 師 器 甕	7 cm カマド内 26cm ¾残存	口 (21.0) 底 — 高 (19.7)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位の撫で。	
241-9 168	土 師 器 甕	カマド内 26cm ¾残存	口 — 底 (4.0) 高 (13.4)	細砂粒多 白色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部は縦位の篋削りと考えられる。	
241-10	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (6.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部上半に横位(右→左)の篋削り、内面横位の篋撫でを施す。	
241-11	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (15.3)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 砂粒多	酸化焰 硬質	灰黄	口縁部は「く」字状を呈し、肩に張りはなく胴部中位に強い張りを有する。口縁部横撫で後縦位(下→上)の篋削り、内面斜位の篋撫でを施す。	
242-12	土 師 器 甕	カマド内 35cm ¾残存	口 — 底 (4.0) 高 (18.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	長胴の甕の胴部下半で斜位の篋削りが全面にみられ、底部付近に横位篋削りが認められる。	
242-13	須 恵 器 横 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り轆轤整形。外面に放射状の平行叩き後カキ目を施す。	厚 0.6
242-14	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	中性焰 硬質	浅黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
242-15 168	石 器 敲 石	11cm 完形	長 13.0 幅 6.3 厚 4.8	閃緑岩			両端部に剝離面がみられわずかに磨滅する。	重 536.1

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
242-16 168	石器 敲石	カマド内 完形	長 14.9 幅 6.2 厚 4.2	砂岩			使用痕不明。	重 662.2
242-17 168	石器 薦編み石	2 cm 完形	長 12.5 幅 6.5 厚 4.5	ひん岩			使用痕不明。	重 506.2

## 第101号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
244-1	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で受け部はやや反り気味で口縁部は比較的長く「く」字状に内傾する。底部は回転篋削りを施す。	
244-2	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.6)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張り有りし口縁部は弱く外反する。	
244-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.0)	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。底部回転篋削り無調整。	
244-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (1.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は扁平で、口縁部は短く屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
244-5	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に強い張りを有する。胴部上半に横位(右→左)の篋削りを施す。口縁部上端に接合痕を明瞭に残す。	
244-6	土師器 甕	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「コ」字状に屈曲し、胴部上半に張りを有する。胴部上半に横位篋削り、口縁部上半に接合痕を明瞭に残す。	

## 第102号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
247-1 168	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
247-2 168	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (10.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
247-3 168	土師器 甕	1床下坑 ±0 cm %残存	口 (20.3) 底 — 高 (27.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削り、内面には撫でを施す。胴部下半内面に接合痕が認められる。	
247-4 168	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.6) 底 — 高 (8.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横撫で。	
247-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.2)	白色細粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは不明、内面は青海波文。	
247-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.5
247-7 168	石器 薦編み 石?	1床下坑 7 cm 完形	長 14.5 幅 5.3 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 561.7
248-8 168	石器 敲石	4 cm 完形	長 16.4 幅 7.2 厚 6.1	粗粒安山岩			一端に使用に伴うと考えられる剥離が認められる。	重1070.9

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
248-9 168	石 器 敲 石	11cm 完形	長 4.0 幅 5.0 厚 4.5	粗粒安山岩			両端の稜になる部分に敲打痕が集中する。また一端に剝離が認められるが、この縁辺部にも敲打痕がある。	重 400.8
248-10 169	石 器 薦 編 み 石?	1床下坑 6cm 完形	長 14.8 幅 6.4 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 680.4
248-11 169	石 器 敲 石	7cm 完形	長 14.7 幅 6.3 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 654.7
248-12 169	石 器 薦編み石	1床下坑 2cm 完形	長 13.7 幅 6.7 厚 3.9	ひん岩			使用痕不明。	重 532.3
248-13 169	石 器 薦編み石	6cm 完形	長 13.5 幅 6.7 厚 3.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 493.3
248-14 169	石 器 敲 石	6cm 完形	長 14.6 幅 6.7 厚 4.3	ひん岩			両端部は敲打に伴う小剝離が認められ、また1側面にわずかに敲打痕がみられる。	重 587.0

第103号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
250-1	土 師 器 坏	12cm 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鋳物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、体部から口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の整形は不明瞭。	
250-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鋳物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾する。口縁部横撫で底部篋削りで間は調整不明瞭。	
250-3 169	須 恵 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転篋削り無調整。	
250-4	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (9.3) 高 (4.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	体部の張りは弱く、高台は底部回転系切り後の付高台。	
250-5	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 9.3 高 (2.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
250-6	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (16.3) 摘 — 高 (2.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から天井部はやや扁平で、口縁部は屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
250-7	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (2.0) 高 (1.8)	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	橙	轆轤整形。摘はボタン状で天井部撫で調整後の貼付。	
250-8	土 師 器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (5.3)	細砂粒多 黒色鋳物粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部上半横位(右→左)の篋削り、内面は横位の篋撫でを施す。	
250-9	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (2.8)	砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で高台は底部回転系切り撫で調整後の強い撫でによる削り出し高台。	
250-10	須 恵 器 短頸壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部上半の張りが強く、底部は丸底と考えられる。胴部下半に回転篋削りを施す。	
250-11 169	須 恵 器 甕	- 3~4 cm 破片	口 (25.0) 底 — 高 (9.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	黄灰	紐作り。口縁部は強く外反し上端に段を有し短く直立する。内外面に自然釉が薄くかかる他、内面に融着物有り。	焼締
250-12	須 恵 器 甕	6cm 破片	口 — 底 — 高 (7.2)	白色粒少	還元焰 硬質	暗青灰	紐作り叩き整形。肩部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。外面の叩きは不明で内面の当具は素文。	外面のハゼが激しい

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
251-13 169	鉄 器 刀 子	覆土内 1/2残存	長 (10.3) 幅 (0.7) 重 0.9				刃部と茎の直接の接点はないが同一個体と考られる。	
251-14 169	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (3.4) 幅 (0.6) 重 2.5				断面長方形。	
251-15 169	石 器 敲 石	覆土内 1/2残存	長 (11.5) 幅 6.2 厚 4.1	溶結凝灰岩			端部に剝離及び両端面にわずかな敲打痕が認められる。	重421.9
251-16 169	石 器 台 石	覆土内 完形	長 25.6 幅 21.6 厚 8.0	粗粒安山岩			実測裏面側面に剝離が認められる他、使用痕は不明。	重6200.0

## 第104号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
252-1 169	土 師 器 坏	15cm 1/2残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
252-2 169	土 師 器 坏	4 cm 1/2残存	口 (11.5) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
252-3 169	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.1) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、体部底部は篋削りを施す。	
252-4 169	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.9) 底 — 高 (4.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部内面には沈線が1本巡り、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有
252-5	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.3)	細砂粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。	
252-6	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。底部は丸底で受け部は短く、口縁部は内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
252-7	須 恵 器 蓋	10cm 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。屈曲部の上下に沈線を巡らす。	
252-8	土 師 器 高 坏	P。 3cm 脚部破片	口 — 底 (15.0) 高 (5.0)	褐色粒多	酸化焰 硬質	橙	裾部が強く開く。外面に縦位(上→下)の篋削りを施す。	
252-9 169	土 師 質 碗?	2 cm 脚部破片	口 — 底 (13.4) 高 (4.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形?長脚な高台の付く脚部と考えられるもので、「ハ」字状に強く開く。内面には篋削りを施す。	
254-10 169	土 師 器 壺	覆土内 1/2残存	口 (13.2) 底 — 高 (13.1)	褐色粒少	酸化焰 やや軟質	橙	球胴状で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は「コ」字状に直立する。口縁部横撫で後胴部上半斜位(上→下)、下半横位(左→右)の篋削りを施す。	
254-11	土 師 器 甕	19cm 破片	口 (19.0) 底 — 高 (9.5)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	灰黄褐	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位篋撫で。	
254-12 169	土 師 器 小 型 壺	覆土内 1/2残存	口 (10.6) 底 — 高 (9.4)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部は球胴状で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後胴部に横位(右→左)の篋削りを施す。口縁部にわずかに接合痕有り。	
255-13 170	土 師 器 甕	20cm 破片	口 (17.5) 底 — 高 (6.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	「コ」字状を呈する口縁部で、作りは比較的雑である。	

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
255-14 170	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (13.8) 底 — 高 (7.3)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部上半に最大径を有し、口縁部は外反する。 口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の筥 削りを施す。内面は撫で。	
255-15 170	土 師 器 台 付 甕	覆土内 1/2残存	口 — 底 — 高 (10.7)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部下半のみの残存。胴部外面には縦位の筥 削りを施している。	
255-16	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面に沈線と擬縄文状押圧を施す。	厚 0.7
255-17	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	にぶい 褐	紐作り叩き整形。外面格子叩き後横位の撫で 内面青海波文。	厚 0.9
255-18 170	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	長 (3.8) 幅 (1.8) 重 7.0				刃部中央部と考えられる。身の巾が比較的広 く、大形の刀子である。	
255-19 170	鉄 器 不 明	5 cm 破片	長 (4.5) 幅 (1.6) 重 6.8				一端は環状になり中心に孔がある。この環状 部分に接合部が認められないため、折り曲げ て環状にしたものでないことがわかる。	
255-20 170	石 器 敲 石	8 cm 完形	長 13.9 幅 6.6 厚 5.6	粗粒安山岩			上端にわずかに敲打痕が認められる。	重 721.3

## 第105号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
257-1 170	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.7) 底 — 高 (4.5)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有 し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫 後底部に筥削りを施す。	底部外面 に黒斑
257-2 170	土 師 器 坏	9~14cm 1/2残存	口 (16.4) 底 — 高 (7.3)	黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し 口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で 後底部に筥削りを施す。	
257-3 170	土 師 器 坏?	9~12cm 破片	口 (19.3) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、非常に狭く?、口縁部は強く 外反する。口縁部横撫で、底部は筥削りを施 す。	
257-4 170	須 恵 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.4)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口 縁部はわずかに外反する。底部は回転筥切り 無調整。	
260-5 170	須 恵 器 坏	17cm 1/2残存	口 — 底 7.3 高 (3.1)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に弱い張りを有し底 部は回転糸切り後周辺及び腰部に回転筥削り を施す。	
260-6	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (3.2)	白・黒色粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半から底部にかけ て、回転筥削りを施す。	
260-7 170	土 師 器 罎	4 cm 1/2残存	口 (9.6) 底 — 高 (11.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部は扁平な球形を呈すると思われ、頸部は やや反り気味で、口縁部がわずかに内湾する。 胴部は斜位の筥削りであるが、口縁部は不明。 内面は撫でを施す。	頸部内面 明瞭な接 合痕が認 められる
260-8	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (5.7)	細砂粒少	還元焰 やや硬 質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は外反し、上端で短 く直立する。口縁部下半には、波状文を施す。	
260-9 170	鉄 器 不 明	覆土内 —	長 (7.1) 幅 (0.4) 重 10.3				断面長方形で、直角に曲げられている。	
260-10 170	石 製 品 白 玉	覆土内 1/2残存	径 (1.5) 厚 0.3 孔 —	滑石			1/2欠損した上に剝離している可能性がある。	重 0.4

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
260-11	石製品 白玉 未製品	覆土内 —	長 2.3 幅 1.5 厚 0.8	滑石			器形、整形不明。	重 4.1
260-12 170	土師器 坏	覆土内 完形	口 11.6 底 — 高 3.9	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有 外面カーボン付着

## 第264号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
259-1 170	須恵器 台付皿	11cm $\frac{1}{2}$ 残存	口 (25.4) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。腰部に張り有し、口縁部は内湾気味に外傾する。高台は底部回転篋削り後の付高台。	内面に火だすきが顕著
259-2 170	土師器 坏	6cm $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	

## 第106号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
263-1 170	土師器 坏	カマド内 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
263-2 170	土師器 坏	覆土内 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
263-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.3)	砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
263-4 170	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (11.6) 底 — 高 (6.4)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 やや軟質	橙	胴部の張りが強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後胴部に横位(右→左)の篋削りを施す。	
263-5	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (7.4)	白・黒色鉍物 粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤橙	胴部上半に張りを有し、口縁部は強く外反する。胴部の外面は、口縁部横撫で後縦位(下→上)の篋削りを施す。	
264-6 171	土師器 甕	貯蔵穴 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (19.6) 底 — 高 (27.1)	片岩小礫多	酸化焰 硬質	橙	胴部上位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削り、内面に横位篋撫でを施す。胴部下半内面に接合痕が認められる。	
264-7 171	石器 編み 石?	貯蔵穴 $\frac{1}{2}$ 残存	長 15.6 幅 5.5 厚 4.0	粗粒安山岩			側面の使用によるものか、側面を打撃部とし大きな剥離が認められる。	重 500.4
264-8 171	石器 編み 石?	42cm 完形	長 12.7 幅 5.8 厚 4.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 459.1
264-9 171	石製品 白玉	38cm 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向で、側面整形は非常に丁寧である。	重 1.6

## 第107号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
267-1 171	土師器 埴	カマド掘 り方 ほぼ完形	口 12.8 底 6.9 高 4.9	黒色鉍物粒多 白色細粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	淡黄	轆轤整形(右回転?)。体部上位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。高台は底部撫で調整後の付高台。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
267-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (2.3)	細砂粒少	中性焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の雑 な付高台。	
267-3 171	灰釉陶器 埴	9cm %残存	口 (14.3) 底 6.8 高 (5.7)	美濃系		黄灰	轆轤成整形(?)。腰部に張り有り、口縁部 の外反は弱い。高台は底部回転糸切り後の付 高台で底部は高台貼付に伴い撫でが施されて いる。施釉は漬け掛けで、内面に重ね焼きの 痕跡有り。	高台内外 面にカー ボン附着
267-4	須恵器 羽 釜	±0cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.7)	細砂粒多 白色砂粒少	還元焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形。口縁部はわずかに内傾し、 口唇部は平坦である。鏝は断面三角形を呈 する。	

第108号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
269-1 171	須恵器 坏	カマド内 %残存	口 (12.0) 底 5.0 高 (4.5)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁 部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無 調整。	いぶし
269-2 171	須恵器 埴	貯蔵穴 -3cm %残存	口 13.4 底 6.5 高 5.3	片岩小礫少 細砂粒多	還元焰 硬質	黒	轆轤整形(右回転)。体部中位に張り有り口 縁部は外反する。高台は付高台で、底部切り 離し技法は撫でのため不明。	いぶし
269-3 171	灰釉陶器 埴	2cm %残存	口 (16.0) 底 (7.0) 高 (5.5)	美濃系? 猿投系?		黄灰	轆轤成整形(右回転)。体部から口縁部にか けて全体に張り有り、口縁部先端が外反する。 高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。 施釉は漬け掛け?	
269-4	須恵器 壺	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 (16.0) 高 (5.0)	褐色粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	暗赤灰	紐作り轆轤整形。下半に回転篋削りを施し、 体部から底部にかけて自然釉がかかり、底部 には須恵器片の融着が認められる。	
269-5	瓦 女瓦	カマド内 ±0cm %残存	厚 2.9	細砂粒多 小礫微 黒色鉱物粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕が残り、 凸面は全面撫で。側端部の面取り2面。	
269-6	瓦 男瓦	カマド内 ±0cm %残存	厚 2.5	細砂粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕と粘土の 接合痕が認められる。	カマド内 3cm
269-7 171	瓦 女瓦	カマド内 17cm破片	厚 1.7	砂粒多	中性焰 硬質	橙	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕。凸面は 全面撫でを施し、篋描き文字(文字不明)有り。	

第109号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
270-1 171	須恵器 坏	8cm %残存	口 (12.8) 底 10.5 高 (3.4)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部は直線的に外傾する。底 部は回転糸切り後の雑な手持ち篋削りで若干 底部が突出する。	
270-2 171	石器 敲石	カマド内 2cm 完形	長 13.1 幅 6.2 厚 4.2	粗粒安山岩			両端部及び1側面に敲打痕が認められる。	重 485.6

第110号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
271-1 171	土師質 埴	貯蔵穴21 cm %残存	口 (14.5) 底 — 高 (6.3)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転?)。体部中位に強い張り有 り、口縁部は短く外反する。高台は底部回 転糸切り後の付高台で、貼付部から剝離して いる。	内面カー ボン附着
271-2 171	土師質 埴	貯蔵穴22 cm 破片	口 — 底 6.5 高 (2.8)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	還元焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱いもの と思われる。高台は底部回転糸切り後の付高 台で、糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消され ている。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
271-3 171	灰釉陶器 壺	貯蔵穴12 cm 破片	口 — 底 (11.8) 高 (12.7)	美濃系		黄灰	紐作り轆轤整形(右回転)。弱い張りを有する。胴部で高台は付高台である。内面の轆轤痕は特に顕著で、胴部下半に回転篋削りを施す。	内面カーボン付着
271-4	灰釉陶器 瓶	貯蔵穴14 cm 破片	口 — 底 (8.0) 高 (8.2)	美濃系?		灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部下半の破片でわずかに丸味を有する。高台は底部及び胴部下半回転篋削り後の付高台。施釉は刷毛によるものか、外面に厚く付着。また、内面にも厚く認められる。	
271-5	瓦 女瓦	貯蔵穴15 cm 破片	厚 2.4	砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板系切り痕をわずかに残し、凸面は全面撫でを施す。	
271-6	瓦 女瓦	貯蔵穴 8 cm 破片	厚 1.7	黒・褐色粒多	還元焰 硬質	オリーブ 灰	桶巻き作り?。凹面に、わずかに模骨痕を残し布目は粗く撫で消されている。凸面は縄叩き側端部の面取りは2面。	

## 第112号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
271-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (17.7) 底 — 高 (5.0)	細砂粒少 白色砂粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。口縁部は外反し、上端が短く直立する。	

## 第113号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
272-1	須恵器 壺	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	白色砂粒微 黒色砂粒少	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(?)。口縁部はわずかに外反する。	

## 第114号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
274-1 171	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (11.4) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少 黒色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は直立する。口縁部内面上端には、沈線?が1本巡る。	内外面黒色塗彩の可能性有
274-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りと思われる。	
274-3	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (2.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端は短く直立する。	口縁部内面に自然釉
274-4 171	石器 編み石?	±0 cm %残存	長 (11.4) 幅 6.6 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕は不明で、一端が裁断されたような状態である。	重 481.2
274-5 171	石器 敲石?	カマド内 完形	長 16.3 幅 5.6 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 486.8

## 第116号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
277-1 172	土師質 壺	覆土内 %残存	口 (12.3) 底 (6.7) 高 (4.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りが比較的強く、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面の粗れが顕著
277-2 172	土師質 壺	覆土内 破片	口 (16.7) 底 — 高 (4.3)	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。外面には轆轤痕を密に残し、内面にはあまり認められない。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
277-3 172	灰釉陶器 壺	覆土内 %残存	口 (16.1) 底 — 高 (6.1)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。腰部に強い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に1本の沈線が巡る。高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	内外面にカーボン付着
277-4	須恵器 甕	11cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面叩きは不明。内面青海波文。	厚 1.2 外面に自然釉
277-5 172	土師質 土釜	3~22cm カマド内 3~19cm %残存	口 (29.7) 底 (11.8) 高 (27.3)	黒色鈹物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	紐作り。胴部上位に張りを有し、口縁部は短く「C」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の撫で、底部にも撫でが施されている。胴部外面には多くの接合痕が認められる。	貯蔵穴16 ~24cm
277-6 172	須恵器 羽釜	カマド内 31cm %残存	口 (23.4) 底 — 高 (25.0)	黒色鈹物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	紐作り。胴部上半に強い張りを有し、口縁部は内傾する。口唇部は平坦である。鈹の貼付は比較的丁寧である。胴部内外面とも轆轤整形の痕跡は弱く、胴部外面の鈹の下位には斜位の撫で状の削りが施され、内面には横位の撫でが施されている。	
277-7 172	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.1 厚 0.6 孔 0.2	滑石			やや厚味のあるものであるが、半裁されている。穿孔は一方向からである。側面には縦方向の整形痕が明瞭に残っている。	重 0.6
277-8 172	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 14.4 幅 7.9 厚 3.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 643.3
278-9 172	瓦 男瓦	11cm 破片	厚 2.2	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面にカーボン付着。凸面に平行叩きがみられ、篋描きの「井」があり、側端面取り3面。	
278-10 172	瓦 女瓦	カマド内 8cm 破片	厚 1.8	砂粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	桶巻き作り。凹面に模骨痕と粘土板条切り痕凸面縄叩き後撫でを施す。側端面の面取りは2面。	
278-11	瓦 女瓦	8cm 破片	厚 2.8	砂粒多	還元焰 硬質	明灰褐	一枚作り。凹面に粘土板条切り痕を残す。凸面は撫で後篋描き文字(文字不明)。	
278-12	瓦 男瓦	2cm 破片	厚 1.8	細砂粒多	還元焰 硬質	灰褐	一枚作り?。凸面撫で、側端面の面取りは2面。	

第153号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
278-13	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
278-14	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.4) 高 (2.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。	
278-15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (21.0) 摘 — 高 (2.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。比較的扁平な天井部を有する。内面のかえりは反り気味に内傾する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
278-16	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	胴部にカキ目が施されている。	厚 1.2
278-17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは撫で消されており不明。内面は青海波文。	厚 1.3
278-18 172	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.7 厚 0.9 孔 0.2	滑石			外形は磨り切りによったものと考えられ、雑な仕上がりである。穿孔は、一方向からである。	重 3.8
278-19 172	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.0 幅 6.1 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 515.0

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
278-20 172	石 器 蔦編み石	覆土内 完形	長 13.2 幅 4.0 厚 2.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 313.0
278-21 172	石 器 蔦編み石	覆土内 完形	長 14.0 幅 5.2 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 346.0

## 第117号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
280-1	土 師 質 黒色土器 埴	カマド内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (4.7)	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部下半の張りが強く口縁部はわずかに外反する。内面の磨きは不明で黒色処理。	内外面のハゼが激しい
280-2 173	須 恵 器 羽 釜	カマド内 11~15cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (11.5)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	紐作り。轆轤整形の痕跡は顕著ではない。胴部にわずかに張りを有し、口縁部は弱く内傾する。鏝は断面台形状で雑な貼付である。胴部外面には縦位の撫でが施されたとと思われるが明瞭でない。	
281-3 173	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	黒色鈹物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 赤褐	底部は丸底で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
281-4 173	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鈹物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
281-5 173	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (3.0)	黒色鈹物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
281-6 173	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (17.4) 底 — 高 (4.7)	黒色鈹物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で底部及び体部下半には篋削りを施す。	
281-7 173	須 恵 器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (19.4) 摘 — 高 (3.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で体部はやや反り、口縁部は屈曲する。天井部に回転篋削りを施す。	
281-8 173	須 恵 器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (15.4) 摘 (5.0) 高 (3.1)	砂粒微 細砂粒少	還元焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、体部の丸味は弱く摘は環状摘で天井部回転篋削り後の貼付。	
281-9	須 恵 器 甕	カマド内 11cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後横撫で内面は青海波文で磨減が激しい。	厚 1.0 内面カー ボン付着
281-10 173	石 製 品 白 玉	カマド内 完形	径 1.7 厚 0.6 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向からで、周辺は磨滅している。	重 2.8

## 第118号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
284-1 173	土 師 器 坏	8cm 1/4残存	口 (11.1) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部は篋削りを施す。	
284-2 173	土 師 器 坏	8cm 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部が短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
284-3 173	土 師 器 坏	カマド内 5cm 1/4残存	口 (11.4) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で後底部には篋削りを施す。	
284-4	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鈹物粒少 白色鈹物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後に底部篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焙 やや硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部はやや外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
284-6 173	土師器 坏	2 cm 1/2残存	口 (11.4) 底 — 高 (3.4)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焙 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
284-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.6)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焙 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
284-8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。口縁部はわずかに内湾し、天井部外面に回転篋削りを施す。	
284-9 173	土師器 甕	2 cm 1/2残存	口 (20.8) 底 — 高 (21.5)	細砂粒多 白・黒色鉾物 粒少	酸化焙 やや硬質	浅黄橙	胴部に張りはなく口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位の篋撫で。	
285-10 173	土師器 甕	カマド内 9 cm貯蔵 穴-3 cm ほぼ完形	口 (24.0) 底 (4.6) 高 (46.0)	細砂粒多 白・黒色鉾物 粒多	酸化焙 硬質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に2段の斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は斜位の撫で、底部は篋削りを施す。	内面に褐色塗彩? -4~ -8 cm
285-11 173	土師器 甕	-4~ -8 cm ほぼ完形	口 (22.0) 底 (4.6) 高 (37.4)	黒色鉾物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焙 硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に2段の縦位(上→下)下半に斜位(右→左)の篋削り、内面に横位横撫でを施す。底部は一方向の篋削り。	カマド内 5 cm
285-12 173	土師器 甕	4 cm 1/2残存	口 (21.6) 底 — 高 (25.9)	細砂粒多 黒色鉾物粒多	酸化焙 硬質	にぶい 橙	胴部上位に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面には比較的強い斜位の篋撫でを施しているが接合痕が明瞭に認められる。	
285-13 174	石器 敲石?	覆土内 完形	長 16.1 幅 8.0 厚 5.2	石英閃緑岩			全体に熱を受けているが、特に一端はもろくハせている。この部分が使用部位と考えられる。	重1093.1
285-14 174	石器 敲石?	-7 cm 完形	長 14.2 幅 7.3 厚 4.1	変質玄武岩			使用痕不明。	重 831.6
285-15 174	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.2 幅 5.3 厚 4.3	粗粒安山岩			両端部及び1側面に敲打痕が認められる他、えぐり(新しいものか?)が数ヶ所みられる。	重 340.3

第119号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
287-1 173	土師器 坏	11cm 完形	口 12.2 底 — 高 4.6	細砂粒微	酸化焙 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
287-2 173	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉾物粒少 褐色細粒少	酸化焙 硬質	灰白	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	陶土質?
287-3 174	土師器 坏	11cm 完形	口 12.8 底 — 高 4.5	細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
287-4 174	土師器 坏	±0 cm 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多 白色細粒多	酸化焙 硬質	にぶい 褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
287-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (3.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焙 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
287-6	土師器 ミニチュア土器	覆土内 1/2残存	口 (6.2) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	手捏ねと思われるもので、深い丸底と反り気味に直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で後底部に篋削りを施す。内面底部周辺には指頭痕が認められる。	
287-7 174	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (7.6)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境にわずかに段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
287-8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.8) 底 — 高 (5.7)	細砂粒多 黒色鈹物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反し、上端がわずかに直立する。口縁部横撫で後胴部外面に縦位篋削り（下→上）、内面に横位（左→右）篋削りを施す。	
287-9 174	土師器 甕	— 2cm 破片	口 (22.4) 底 — 高 (10.2)	片岩小礫多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で後胴部外面斜位（下→上）の篋削り内面横位篋撫でを施す。	
287-10 174	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	胴部上半に強い張りを有し、底部は丸底である。頸部は「く」字状に屈曲する。胴部最大部に2本の沈線を巡らし、間に縄文原体圧痕状の圧痕が施されている。	外面肩部及び内面に厚く自然釉
287-11	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。外面にボタン状貼付。	厚 1.0
287-12	須恵器 甕	— 4cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 橙	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面の青海波文は指先で粗く撫で消されている。	厚 1.0

## 第121号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
288-1 174	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.6) 底 — 高 4.0	砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
288-2 174	土師器 坏	5cm 1/4残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
288-3	土師器 甕	15cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.6)	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りが強く、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部外面は斜位（下→上）篋削り内面は横位の篋撫でを施す。	
289-4 174	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (14.6) 高 (10.7)	白色細粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形「ハ」字状に強く開く脚部で、先端でわずかに屈曲する。透しは、2段の三方透しである。	
289-5 174	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (14.6) 高 (10.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形「ハ」字状に強く開く脚部で、先端でわずかに屈曲する。透しは1段の三方である。外面には全体にカキ目が認められる。	
289-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自然釉

## 第122号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
290-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	砂粒少 黒色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。底部と体部外面は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
290-2 174	須恵器 坏	— 4cm 完形	口 12.0 底 6.6 高 3.6	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
290-3	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (3.5) 高 (2.4)	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は三角高台で、底部回転篋切り後の付高台。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
290-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) — 摘高 (2.5)	黒色細粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部外面は回転篋削り後、摘貼付。	
290-5	須恵器 不明	覆土内 破片	口 — — 底高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。外面に把手を貼付。	厚 0.4 外面と口 縁部内面 に自然釉

## 第123号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
291-1 174	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 (8.4) 高 (3.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	
291-2 174	土師質 埴	4 cm %残存	口 (12.8) 底 (7.0) 高 (5.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部の張りは強く口縁部は外反しない。高台は三角高台状で、底部回転糸切り後の付高台である。底部の回転糸切り痕は高台貼付に伴いほとんど撫で消されている。	
291-3 174	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (5.4) 幅 (0.6) 重 2.7				第291図-4と同一個体の可能性有り。断面楕円形?。釘ではないと思う。	
291-4 174	鉄器 不明	不明 破片	長 (4.1) 幅 (0.6) 重 1.8				第291図-3と同一個体の可能性有り。断面楕円形?。釘ではないと思う。	
291-5 174	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (2.2) 幅 (0.7) 重 1.0				断面楕円形で、第291図-3、-4と比較して厚手。	

## 第125号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294-1 174	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (5.3)	白色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
294-2 174	土師器 鉢	覆土内 1/4残存	口 (16.1) 底 (5.8) 高 (8.1)	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は平底で、胴部の丸味が強く、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、胴部は横位の篋削り、底部も篋削りを施す。	
294-3 175	土師器 鉢	覆土内 1/4残存	口 (18.9) 底 — 高 (9.3)	小礫微 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
294-4 175	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 (10.6) 底 — 高 (4.5)	黒色角粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。底部は丸底で受け部は上方を向き口縁部は強く内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
294-5 175	土師器 台付甕	覆土内 脚部破片	口 — 底 (11.6) 高 (8.3)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	「ハ」字状に強く開く脚部で、脚部先端横撫で後縦位の雑な篋削りを施す。	
294-6 175	土師器 甕	覆土内 1/4残存	口 (18.0) 底 — 高 (14.3)	砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	胴部下半に弱い張りを有すると思われる器形で、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部外面縦位(下→上)の篋削り、内面横位撫でを施す。	
294-7 175	石器 薦編み 石?	覆土内 完形	長 13.8 幅 7.2 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 537.0

## 第246号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294-8 175	須恵器 坏	貯蔵穴4 ~6cm 完形	口 12.9 底 5.0 高 3.5	細砂粒多 黒色鉱物粒少	還元焰 やや硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
294-9	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 (13.2) 底 (6.8) 高 (4.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	全体に作りは雑
294-10 175	須恵器 埴	カマド内 %残存	口 (13.0) 底 (5.0) 高 (4.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
294-11 175	須恵器 埴	カマド内 %残存	口 (13.0) 底 (5.6) 高 (4.5)	細砂粒多	還元焰 やや軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部の張りはなく、体部から口縁部にかけて強く外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	カマド内 ±0~4 cm
294-12	須恵器 埴	±0cm 破片	口 (13.4) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(?)。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
294-13	須恵器 埴	カマド掘り方 破片	口 (13.6) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく口縁部は強く外反する。外面の轆轤整形痕は顕著、内面はコテか何か使用したものか轆轤整形痕がほとんどわからない。	
294-14	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.4)	美濃系		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部と腰部回転篋削り後の付高台。施釉技法は不明。	
294-15	灰釉陶器 埴	掘り方覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.6)	美濃系?		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉技法は不明。	
294-16 175	須恵器 甕	貯蔵穴5cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	中性焰 やや軟質	淡赤橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は「C」字状に外反する。口唇部は平坦部があり、強く外傾している。	外面に接合痕
295-17	瓦 女瓦	貯蔵穴2cm 破片	厚 1.7	褐色細粒多 白色鉱物粒少 黒色細粒多	還元焰 やや軟質	灰	一枚作り?。凸面は、縄叩き後、雑な撫でを施す。	
295-18	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面面取り2面。凹面布目は非常に粗い。凸面は撫で後正格子叩きを施す。	

## 第126号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
296-1 175	須恵器 埴	カマド内 %残存	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	白色鉱物粒微 白色細粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
296-2 175	灰釉陶器 埴	±0cm %残存	口 15.1 底 7.0 高 5.7	美濃系 (大原2)		灰白	轆轤成整形。体部は全体に丸味が強く、口縁部は短く外反する。高台は底部篋削り後の付高台。底部の回転篋削りは腰部にまで及んでいない。施釉は刷毛掛け。	
297-3	土師器 甕	±0cm 破片	口 (18.4) 底 — 高 (10.4)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「コ」字状を呈する。口縁部に2段の横撫で後、胴部上半に斜位(右→左)の篋削りを施す。口縁部中位に明瞭な接合痕を残す。	
297-4 175	須恵器 甕	掘り方覆土内 %残存	口 (14.0) 底 — 高 (13.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形。胴部上位に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に外傾する。また、口縁部中位に弱い屈曲がみられ、いわゆる「受け口」状を呈する。胴部外面には横位カキ目が施されている。	
297-5	須恵器 甕	掘り方覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	黒	紐作り。口縁部の破片で外面に沈線と波状文を施す。内外面に自然軸。	厚 1.6 焼締

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
297-6	土製品 羽口	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色粒少	酸化焰 硬質	浅黄橙	外面の一部が還元されている。	厚 1.4
297-7 175	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (8.4) 幅 (0.9) 重 7.2				錆が進行し全体に剥離しているため、峰の部分と片側の一部のみ残存。どちら側が茎か不明。	
297-8 175	鉄器 不明	± 0 cm —	長 (6.1) 幅 (4.6) 重 29.0				断面は長方形で、「コ」字状に曲げられているが用途不明。	
297-9 175	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (5.1) 幅 (0.6) 重 4.4				両端部欠損。断面方形で周囲の剥離も進んでいる。	
297-10	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色細粒多 褐色粒少	中性焰 やや硬質	にぶい 橙	一枚作り。凸面は平行叩き。凹面は横位篋削り後縦位の撫でを施す。	
297-11	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凸面は全面に撫でを施し、側端部の面取りは1面。	

第127号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
298-1 175	須恵器 瓶	— 6 cm 破片	口 (11.0) 底 — 高 (9.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 やや硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部の丸味は強く、口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。頸部内面に接合痕が明瞭に残る。	
298-2	須恵器 とりべ	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色鉱物粒少	還元焰 やや硬質	浅黄	須恵質で、内面は赤色に発色した付着物と緑錆が認められる。	
299-3 175	石器 敲石	— 2 cm 完形	長 15.0 幅 8.0 厚 4.7	粗粒安山岩			周辺部に敲打痕がみられ、特に両端部の敲打が激しい。	重 812.9
299-4	土製品 羽口	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	黒	外面に発泡した付着物が認められる。	厚 2.5

第255号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
299-5	土師質 坏	覆土内 ほぼ完形	口 10.1 底 4.9 高 3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒少	中性焰 軟質	浅黄橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。見込み部中央に、窪みを有する。底部は回転系切り無調整でやや突出する。	
299-6	須恵器 壺	カマド内 4 cm 破片	口 — 底 (16.0) 高 (4.0)	細砂粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。胴部下端に篋削りを施す。	
299-7	須恵器 羽釜	— 8 cm 破片	口 (26.0) 底 — 高 (7.2)	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形。口縁部は直線的に内傾し、口唇部は平坦でわずかに内傾している。銚は二等辺三角形状で貼付は丁寧である。	
299-8 175	須恵器 甗	カマド内 5 cm 破片	口 — 底 (24.0) 高 (23.6)	小礫微 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。外面胴部下半は轆轤の撫で調整後斜位の篋撫で、内面は、横位撫でを施す。	
299-9	瓦 女瓦	カマド内 2 cm破片	厚 2.3	片岩粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端部面取りは2面。凹面に粘土板系切り痕が残る。凸面は撫で。	
300-10	瓦 女瓦	カマド内 5 cm 破片	厚 2.1	黒色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	オリ ブ灰	一枚作り?。側端部面取りは、2面。凹面布目は縦位に撫で消されている。凸面は縄叩きで部分的に粘土板系切り痕を残している。	
300-11	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	砂粒少	還元焰 やや硬質	にぶい 黄橙	一枚作り?。側端部面取りは、2面。凹面に粘土板系切り痕が残る。凸面は、雑な撫でを施す。	



## 第256号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
300-12	土師質 黒色土器 壺	15cm %残存	口 (12.0) 底 6.0 高 (4.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは強く口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転篋削り後の付高台。	口縁部外面にカーボン付着
300-13 175	土師器 土釜	カマド内 8cm 破片	口 (28.0) 底 — 高 (12.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は、短く「C」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部外面縦位篋削り、内面斜位の撫でを施す。	外面にカーボン付着
300-14	瓦 男瓦	16cm 破片	厚 1.8	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色粒少	還元焰 やや硬質	明褐	一枚作り?。側端面取り1面。凸面は撫で。	
300-15	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り?。側端面取り2面。凸面は撫で。	

## 第128号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301-1	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (4.4) 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台は底部切り離し後の雑な付高台。	
301-2	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤成整形。高台は底部回転糸切り、周辺篋削り後の雑な付高台。施釉技法は不明。	内面に重ね焼きの痕跡有り

## 第129号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
304-1 176	土師器 坏	覆土内 %残存	口 12.6 底 8.2 高 3.0	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部には指頭痕が認められる。	口縁部内面に4ヶ所カーボン付着
304-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底気味で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の調整は不明瞭。	
304-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の調整は不明瞭。	
304-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
304-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (2.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
304-6	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (3.5)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に屈曲を有し、体部は直線的に外傾する。高台は底部から腰部に回転篋削り後の付高台。	
304-7 176	須恵器 坏	掘り方覆 土内 %残存	口 (12.5) 底 (6.0) 高 (3.2)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304-8	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (7.2) 高 (4.0)	白色細粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味で口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
304-9 176	須恵器 蓋	覆土内 %残存	口 (18.6) 摘 (4.2) 高 (4.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは強く、口縁部は屈曲し、先端が短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篋削り後の貼付である。	
304-10	土師器 甗	掘り方覆 土内 破片	口 (18.8) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、中位に接合痕を残している。口縁部横撫で後胴部上半に斜位の篋削りを施す。	

## 遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
304-11	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面斜格子叩き、内面青海波文。	厚 1.5
304-12	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	浅黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.9
304-13 176	灰釉陶器 皿	覆土内 %残存	口 (11.0) 底 (6.5) 高 (2.3)	美濃系		黄灰	轆轤成整形(?)。体部は強く外傾し口縁部は水平方向に屈曲する。高台は回転糸切り後の付高台。底部の回転糸切り痕は高台貼付に伴い雑に撫で消されている。施釉は漬け掛け?。	

## 第130号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
304-14 176	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 — 高 (6.3)	黒色鉾物粒少 白・黒色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部がわずかに反り気味で口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部には連続的な指頭痕が認められる。	
304-15 176	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (11.6) 底 (8.4) 高 (3.4)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は平底で、体部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
304-16 176	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉾物粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部は内湾気味に外傾し、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部に指頭痕が認められる。	杯Aの模倣
304-17	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (3.3)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に指頭痕が認められる。	
304-18	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.9) 底 — 高 (3.0)	黒色鉾物粒多 細砂粒少 白色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で底部は篋削りで間の調整は不明瞭。	
304-19 176	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 14.0 底 7.6 高 3.4	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304-20 176	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 7.2 高 4.1	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
304-21 176	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.8 底 7.5 高 4.5	砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部回転糸切り無調整。	
304-22 176	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (13.0) 底 (7.8) 高 (4.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
304-23	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (9.5) 高 (4.7)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部下半に比較的強い張りを有する。高台は付高台。底部の切り離しは不明。	
304-24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (2.9) 高 (2.1)	小礫微 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は天井部外面回転篋削り後の貼付。	
305-25	須恵器 壺	3cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒多	還元焰 硬質	明オリ 一ブ灰	紐作り叩き整形。外面叩きは不明、内面青海波文。	厚 0.9

## 第132号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
305-26	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.2)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
305-27	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉾物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
305-28	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の調整は不明瞭。	
305-29	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (2.8)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
305-30	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 高 (5.2) 高 (1.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	

## 第135号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
305-31 176	土師器 坏	掘り方覆 土内 %残存	口 15.2 底 — 高 3.3	白・黒色鉾物 粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底(中央部は平坦)で、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部全面に篋削りを施す。	
305-32 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	白・黒色鉾物 粒少 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、体部は外傾し、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
305-33 176	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	底部は平底気味の丸底で、口縁部は、内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
305-34	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.4)	黒色鉾物粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で、底部は一方方向の篋削りを施す。	
305-35	土師器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (3.3)	黒色鉾物粒微 白色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。体部外面篋削り後口縁部横撫で。内面撫で後放射状暗文を施す。	
305-36 176	土師器 皿	掘り方覆 土内 %残存	口 (16.2) 底 (8.0) 高 (2.2)	細砂粒少 黒色鉾物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は強く外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は不定方向の篋削りを施す。	
305-37 176	土師器 鉢	掘り方覆 土内 %残存	口 (19.8) 底 (12.0) 高 (8.0)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部上位に張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に篋削りを施す。	
305-38	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	外面篋削り、内面撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
305-39 176	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 11.5 底 7.5 高 3.9	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の器厚は薄く、直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	
305-40 176	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 (6.9) 高 (3.8)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	内外面に 薄く自然 釉
305-41 176	須恵器 坏	掘り方覆 土内 %残存	口 (12.0) 底 6.2 高 3.9	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りはごく弱く口縁部は外反しない。底部は回転糸切り後底部周辺及び腰部に回転篋削り調整を施す。	
305-42 176	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (7.0) 高 (3.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
305-43 176	須恵器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (4.0)	褐色粒微	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。体部は弱く内湾気味に外傾する。底部は回転篋切り後、雑な篋削りを施したものか?	
305-44 177	土師質 坏	掘り方覆 土内 1/2残存	口 (13.4) 底 (6.4) 高 (3.6)	褐色粒多 細砂粒少	中性焰 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは強く、口縁部は内湾気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整でわずかに突出する。	
305-45	須恵器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (11.6) 底 (7.3) 高 (3.7)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。底部と体部下半に回転篋削りを施す。	
305-46 177	須恵器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 (12.0) 底 (7.2) 高 (3.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部の張りはみられず、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられるが、残存部が狭く不明。	
305-47	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.5) 底 (6.2) 高 (3.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部は、強く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
305-48	須恵器 壙	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は、わずかに外反する。高台は剝離しているが、底部回転糸切り篋調整後の付高台。	
306-49 177	須恵器 壙	掘り方覆 土内 1/2残存	口 (17.0) 底 (9.2) 高 (6.8)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部は深く大形で全体に弱く内湾する。高台は付高台であり貼付部から剝離している。底部切り離しは底部が残存しないため不明。	
306-50	須恵器 壙	覆土内 底部破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.6)	白色細粒多	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部撫で調整後の付高台。	
306-51	土師質 黒色土器 坏	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 (0.7)	白色細粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。底部に手持ち篋削り内面は放射状磨き後黒色処理を施す。	
306-52	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口 (14.8) 摘 — 高 (1.9)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篋削りを施す。	
306-53 177	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 1/2残存	口 (18.0) 摘 (4.0) 高 (3.8)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部から体部に弱い張りを有し、口縁部は短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篋削り後の貼付。	
306-54	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口 (11.4) 摘 — 高 (2.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、体部との境に段を有し、口縁部は屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	外面に自然釉
306-55 177	須恵器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 摘 (4.4) 高 (3.2)	白色細粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部に張りを有し口縁部は短く直立する。摘は環状摘で天井部回転篋削り後の貼付。	
306-56	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.5)	黒色鈹物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半の張りが強く、口縁部は外反する。口縁部横撫でごとく胴部上半に横位(右→左)篋削り、内面に横位篋撫でを施す。	
306-57 177	須恵器 短頸壺?	掘り方覆 土内 破片	口 (7.0) 底 — 高 (5.2)	黒色鈹物粒少 黒色細粒多 褐色細粒多	中性焰 やや硬 質	橙	轆轤整形。肩部は「く」字状の屈曲し、胴部に張りはない。口縁部は短く直立する。	
306-58 177	須恵器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
306-59 177	鉄器 楔	覆土内 完形	長 (4.0) 幅 (1.0) 重 13.1				いわゆる「くさび」形で横断面は長方形を呈する。側面形は片刃石斧的な形態である。	
306-60 177	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (5.1) 幅 (0.7) 重 6.1				両端を欠損する。断面は方形である。	

## 第129・130・132～135号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306-61 177	土師器 坏	3cm 完形	口 12.4 底 — 高 3.4	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや軟質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	口縁部外面に黒斑有り
306-62 177	土師器 坏	P32 47cm %残存	口 (12.7) 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 黒色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部及び体部下半に篋削りを施す。	杯Aの模倣
306-63 177	須恵器 坏	3cm 完形	口 11.2 底 6.6 高 3.5	白色細粒少 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は弱く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	焼締
306-64 177	須恵器 坏	11cm %残存	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (3.6)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	
306-65 177	須恵器 坏	±0cm %残存	口 (12.2) 底 (7.1) 高 (3.6)	細砂粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
306-66 177	須恵器 坏	7cm %残存	口 (11.5) 底 (6.7) 高 (3.0)	細砂粒微	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く内湾する。底部は回転糸切り無調整。	
306-67 177	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (12.9) 底 7.2 高 3.4	黒色細粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
306-68 177	須恵器 坏	±0cm %残存	口 (13.3) 底 (8.2) 高 (3.4)	黒色細粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。底部は回転篋削り無調整。	外面体部から底部に自然釉
306-69 177	須恵器 坏	5cm %残存	口 (12.7) 底 (7.4) 高 (2.9)	黒色細粒多 褐色細粒少	還元焰 やや軟質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
306-70 177	須恵器 坏	9cm %残存	口 (13.0) 底 (7.4) 高 (3.3)	砂粒微 黒色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
306-71 177	須恵器 塊	5cm %残存	口 10.1 底 6.0 高 5.2	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し口縁部は短く外反する。高台は三角高台で底部回転糸切り後の付高台。	
306-72 177	土師質 黒色土器 坏	P21 16cm %残存	口 (12.7) 底 (7.7) 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焰 やや硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部は外反しない。底部は切り離し後手持ち篋削りを施す。内面は体部横位、見込部放射状の篋磨き後黒色処理を施す。	
306-73 177	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 %残存	口 (17.4) 摘 (2.7) 高 (2.8)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。全体に扁平な器形で口縁部先端が短く「く」字状に内傾する。摘は小振りな環状摘で天井部回転篋削り後の貼付である。	
306-74	須恵器 高坏	19cm 脚部破片	口 — 底 — 高 (5.3)	白色鉱物粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。内面に巻き上げの痕跡を明瞭に残している。坏部との接合面には、坏底面のカキ目の反転を残している。	
306-75	土師器 台付壘	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部下半に斜位の篋削りを施し、脚部に横撫でを施す。	
306-76	須恵器 壘	18cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後、横位の撫で、内面は青海波文。	厚 0.9
307-77 177	須恵器 壘	5cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
307-78	須恵器 壘	22cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.1

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
307-79	須 惠 器 斐	貯蔵穴74 cm 破片	口 ー 底 ー 高 ー	白色細粒多 褐色粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。内面青海波文、外面叩き目は自然釉の付着で不明である。	厚 1.5
307-80	瓦 男 瓦	19cm 破片	厚 1.6	白色細粒少 褐色粒多	還元焰 やや硬質	灰褐	一枚作り?側端面取りは、3面で、凸面は全面撫で。	厚 1.6
307-81 178	石 器 敲 石	4 cm 完形	長 16.7 幅 6.3 厚 6.1	粗粒安山岩			側面に2ヶ所、端部に1ヶ所の敲打痕がある。	重 885.6
307-82 178	石 器 敲 石	P50 32cm 完形	長 22.6 幅 7.6 厚 6.7	粗粒安山岩			側面に使用に伴うと考えられる剥離がみられ、端部に敲打痕が認められる。	重1923.2
307-83 178	石 器 敲 石	9 cm 完形	長 14.5 幅 6.4 厚 6.0	粗粒安山岩			側面の敲打痕はごくわずかで、端部に磨滅が認められる。	重 662.9
307-84 178	石 器 敲 石?	6 cm 完形	長 12.7 幅 7.6 厚 3.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 509.9

第131号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
308-1 178	石 器 敲 石	35cm 完形	長 14.2 幅 6.5 厚 4.4	ひん岩			両端部にわずかに敲打痕が認められる。	重 630.0
308-2 178	石 器 台 石	7 cm 破片	長 17.0 幅 15.1 厚 5.3	粗粒安山岩			裏面は全面剥離面であるが、使用痕は不明。	重1712.6

第137号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
310-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.4) 底 ー 高 (2.6)	黒色鉄物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、弱く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間は不明瞭。	
310-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 ー 高 (2.9)	黒色鉄物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で底部は篋削りと考えられる。	
310-3	須 惠 器 小 型 壺	覆土内 破片	口 ー 底 (7.0) 高 (4.9)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。底部は回転糸切り後周辺回転篋削りを施す。胴部下端にも1段の回転篋削りを施す。	
310-4 178	石 製 品 砥 石	カマド内 26cm 片残存	長 15.2 幅 10.9 厚 9.4	二ッ岳軽石			砥面3面で、端部使用の痕跡はない。	重1187.4
310-5 178	鉄 器 鎌	覆土内 完形	長 (20.0) 幅 (4.2) 重 76.1				曲がりの比較的弱いもので、柄寄りの刃部が特に使用減りしている。柄装着部は一部が折れ曲がっている。	

第138号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
313-1 178	土 師 器 坏	21cm 片残存	口 11.3 底 ー 高 3.2	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は底部篋削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	一部還元
313-2 178	土 師 器 坏	21cm ほぼ完形	口 (12.0) 底 ー 高 (3.8)	細砂粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
313-3 178	土 師 器	18~21cm %残存	口 11.8 底 — 高 3.8	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	底部外面に広い黒斑有り
313-4 178	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (15.2) 底 — 高 (2.4)	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
313-5	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.0)	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転糸切り後の撫で調整。	
313-6	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 (3.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、高台は底部回転糸切り?後の付高台。底部は高台貼付に伴う撫でが施されている。	
313-7 179	須 恵 器 甕	38cm 破片	口 — 底 (15.0) 高 (16.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文で横位に粗く撫で消されている。	
314-8	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 一 高(5.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部の張りは弱いと考えられる。外面は口縁部横撫で後斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は横位篋撫でである。	
314-9 179	土 師 器 甕	カマド内 13cm 完形	口 (17.2) 底 (4.6) 高 (15.4)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	淡橙	胴部上半にわずかに張りを有し口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の篋削り、内面は横位の撫でを施す。	
314-10 179	須 恵 器 小 型 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (5.9)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
314-11	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黄褐色粒(シルト?)少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.7
314-12 179	石 器 敲 石?	± 0 cm 完形	長 10.8 幅 6.5 厚 3.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 435.4
314-13 179	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 12.1 幅 5.3 厚 3.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 328.2
314-14 179	石 器 敲 石	— 4 cm 完形	長 12.2 幅 5.0 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 435.7
314-15 179	石 器 薦 編 み 石 ?	— 4 cm 完形	長 10.3 幅 5.5 厚 4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 435.8
314-16 179	石 器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 13.7 幅 6.3 厚 3.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 499.4
314-17 179	石 器 敲 石	± 0 cm 完形	長 11.8 幅 5.1 厚 4.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕が認められる。	重 384.3
314-18 179	石 器 敲 石	± 0 cm 完形	長 11.3 幅 6.5 厚 4.1	粗粒安山岩			両端部にわずかに敲打痕?が認められる。	重 466.2

## 第139号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
316-1 179	土 師 質 坏	覆土内 1/4残存	口 (11.0) 底 (5.8) 高 (4.0)	細砂粒少 白色鉱物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部は外反しない。底部は、回転糸切り無調整。	
316-2 179	土 師 質 塊	貯蔵穴 %残存	口 (11.4) 底 (6.0) 高 (4.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反する。高台は付高台で、底部切り離しは高台貼付に伴う撫でのため不明。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
316-3 179	須恵器 埴	5cm 片残存	口 (13.0) 底 (5.8) 高 (4.2)	細砂粒少 黒色鉾物粒微	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	内外面に樹脂?カーボン?付着
316-4 179	灰釉陶器 埴	±0~8cm 片残存	口 (15.4) 底 (7.2) 高 (5.2)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は三日月高台で、底部と腰部回転篋削り後の付高台。施釉は潰け掛け。	
316-5 179	須恵器 羽 釜	貯蔵穴 破片	口 (20.0) 底 — 高 (19.4)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部上半に比較的強い張りを有し、口縁部は内傾する。口唇部は平坦でわずかに内傾する。罫は断面三角形状で上面が水平に丁寧貼付られている。内外面共に轆轤痕が顕著。	
316-6	須恵器 羽 釜	7cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.8)	黒色鉾物粒少 細砂粒多	中性焰 硬質	灰黄褐	紐作り轆轤整形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で内傾し、わずかに突出する。	

第140号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
318-1 179	土師器 坏	覆土内 片残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外傾する。口縁部横撫で後、底部に削りを施す。	
318-2	須恵器	覆土内 甕	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多	中性焰 硬質	浅黄橙	紐作り叩き整形。外面は擬格子叩き?内面は青海波文。	厚 0.7
318-3 179	石製品 砥石	9cm ほぼ完形	長 21.8 幅 10.3 厚 4.0	粗粒安山岩			砥面は4面で、同様に使い込んでいる。残石した痕部には、線状のえぐりが多数認められる。	重1160.6

第141号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
319-1	土師器 坏	6cm 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.3)	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
319-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 — 高 (3.1)	黒色鉾物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
319-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1) 底 — 高 (2.9)	黒色鉾物粒少 白色細粒多 褐色細粒多	酸化焰 軟質	明赤褐	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
319-4	土師器 甕	13cm 破片	口 (22.6) 底 — 高 (5.7)	黒色鉾物粒多 白色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	胴部に張りはなく、口縁部は外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)篋削り、内面に横位篋撫でを施す。	
319-5	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.4) 底 — 高 (6.2)	小礫少 砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部はわずかに外反し、口唇部は外面肥厚する。口縁部に横撫でを施す。	
320-6 180	須恵器 小型甕	12cm 片残存	口 — 底 (4.5) 高 (6.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は平底で胴部下半に弱い張りを有する。底部は回転篋切り無調整。胴部下半に篋削りを施す。	内面カーボン(樹脂?)厚く付着
320-7 180	土師器 甕	±0cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (16.5)	片岩小礫多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部上位に弱い張りを有し、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後胴部外面斜位(下→上)の篋削り、内面横位の篋撫でを施す。	内面にカーボン付着



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
320-8 180	土師器 甕	±0~3 cm 破片	口 (26.0) 底 — 高 (13.0)	細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 褐色	胴部に張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部外面縦位篋削り、内面横位篋撫でと思われるが、器面の磨滅のため不明瞭。	
320-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は撫で後、カキ目を施す。内面当具は素文。	厚 0.8
320-10	須恵器 甕	4 cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面は青海波文を粗く撫で消している。	厚 0.8 転用硯?
320-11 180	鉄器 鎌	覆土内 破片	長 (3.6) 幅 (1.5) 重 5.2				先端部の破片で小形である。断面は楔形。	
321-12 180	石器 敲石	±0 cm 完形	長 11.2 幅 6.5 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 455.7
321-13 180	石器 敲石?	2 cm 完形	長 13.2 幅 5.9 厚 3.3	石英閃緑岩			端部及び側面の一部に熱によると考えられるハゼが認められる。	重 427.9
321-14 180	石器 敲石?	±0 cm 完形	長 15.5 幅 6.7 厚 4.0	粗粒安山岩			端部に敲打痕は認められないが、端部近くの側面の使用(敲打)に伴い割れている。	重 602.0
321-15 180	石器 敲石?	±0 cm 完形	長 12.4 幅 5.5 厚 3.5	粗粒安山岩			一端から使用に伴い剥離している。その他、敲打痕は認められない。	重 450.8
321-16 180	石器 敲石?	4 cm 完形	長 11.7 幅 5.6 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 410.5
321-17 180	石器 薦編み石	±0 cm 完形	長 12.5 幅 5.3 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 448.1
321-18 180	石器 敲石	±0 cm 完形	長 15.1 幅 5.8 厚 5.2	粗粒安山岩			両端部及び側端部に敲打痕が認められる。	重 677.3
321-19 180	石器 敲石	±0 cm 完形	長 14.5 幅 6.6 厚 4.6	溶結凝灰岩			三角形の形状の頂部が使用部位で敲打に伴い剥離が認められる。	重 462.6
321-20 180	石器 敲石	2 cm 完形	長 13.0 幅 7.3 厚 4.6	粗粒安山岩			1側面に敲打痕が認められる。	重 560.3

## 第142号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
324-1 180	土師器 甕	3 cm 完形	口 10.0 底 6.0 高 2.8	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	内外面褐色塗彩か?
324-2 181	土師器 甕	貯蔵穴22 cm ほぼ完形	口 10.8 底 6.1 高 4.1	細砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反しない。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内外面褐色塗彩か?
324-3 181	土師器 甕	貯蔵穴21 cm 破片	口 (14.7) 底 — 高 (4.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部は外反する。高台は貼付部から剥離し残存しないが底部回転糸切り後の付高台。	
324-4 181	土師器 土釜	貯蔵穴13 cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (11.9)	砂粒少 細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐色	胴部上半に強い張りを有し、口縁部との境に段がみられ口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部外面は縦位(上→下)の篋削り、内面は斜位の撫でを施す。	内面にカーボン付着

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
324-5 180	須恵器 羽釜	覆土内 残存	口 (22.6) 底 — 高 (23.6)	砂粒微 細砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 赤褐	紐作り轆轤整形。胴部上半に強い張りを有し口縁部は弱く内傾する。口唇部は平坦で外傾している。罫は断面台形状で貼付は雑である。胴部外面の罫部より下位には縦位(上→下)の撫で状の篋削りが施されている。	外面下位にカーボン付着
324-6 180	瓦 女瓦	-2cm 残存	厚 2.5	砂粒少	中性焰 硬質	にぶい 褐	一枚作り。凸面は全面撫で、側端面取りは1面。	カマド右袖-9cm

第143号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
325-1 181	土師質 坏	カマド内 3cm 完形	口 9.9 底 6.1 高 3.2	細砂粒多 黒色鉾物粒多 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りはなく、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
325-2 181	土師質 坏	覆土内 残存	口 (10.6) 底 (7.4) 高 (2.7)	細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(右回転?)。体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
325-3 181	灰釉陶器 段皿	貯蔵穴9cm 残存	口 (12.9) 底 (8.1) 高 (2.5)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部から口縁部にかけて外反し、体部内面に明瞭な段を有する。高台は雑で底部回転糸切り後篋削りを施した後の付高台。施釉は漬け掛け?	内外面にカーボン付着
325-4 181	灰釉陶器 境	貯蔵穴 ±0cm 残存	口 (15.2) 底 (7.6) 高 (5.4)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛け。	
325-5	須恵器 羽釜	カマド内 15cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (9.8)	砂粒多	中性焰 硬質	灰白	紐作り。胴部の張りは弱く口縁部はわずかに内湾する。罫の貼付は雑で、胴部は罫まで縦位(上→下)の篋削りを施す。内面は横位の雑な撫で。	
325-6	瓦 女瓦	カマド内 26cm 破片	厚 1.5	砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り。凸面には粘土板糸切り痕を残し、縄叩きが施されている。凹面の布目は全面にわたって縦位に撫で消されている。	

第147号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
327-1	灰釉陶器 境	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 (3.0)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。体部の丸味は比較的強く、口縁部の外反は弱い。施釉は漬け掛けと考えられる。	
327-2	灰釉陶器 境	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.8)	美濃系		灰白	轆轤成整形(右回転)。高台は底部回転篋調整後の付高台。	
327-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.7
327-4	須恵器 羽釜	カマド内 -7cm 破片	口 (18.2) 底 — 高 (6.5)	黒色鉾物粒多 砂粒少	還元焰 やや硬質	橙	紐作り轆轤整形。胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。罫の貼付は丁寧で、上面が水平になる。	内面に錆状の付着物有り
327-5 181	石器 敲石?	覆土内 完形	長 11.9 幅 5.5 厚 3.2	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 343.1

第149号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
329-1 181	土師質 坏	貯蔵穴 破片	口 (14.7) 底 (7.8) 高 (5.1)	白・黒色鉾物 粒少 細砂粒少	還元焰 やや軟質	褐灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部は回転糸切り無調整。	いぶし

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
329-2	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (4.7)	美濃系		明灰	轆轤成整形。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に1本の沈線が巡る。施釉は漬け掛け。	
329-3	灰釉陶器 壺	貯蔵穴 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.3)	美濃系		灰白	轆轤成整形。体部の丸味は強く、口縁部は外反する。施釉は刷毛掛け？	
329-4 181	灰釉陶器 皿	掘り方覆 土内 残存	口 (12.9) 底 (7.1) 高 (1.8)	美濃系		灰白	轆轤成整形(?)。体部はやや内湾気味で、高台は角高台で底部回転糸切り、篋削り調整後の付高台。	外面体部に糸切り痕有り
329-5	土師器 土釜	4 cm 破片	口 (30.0) 底 — 高 (8.9)	細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部に雑な横撫で後、胴部外面に縦位(上→下)篋削りを施す。内面は雑な撫で、口縁部内外面共に指頭痕がみられる。	
330-6 181	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (16.0) 高 (13.6)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部中位に強い張りを有する。高台は付高台。	外面に自然釉
330-7 181	須恵器 羽釜	貯蔵穴22 cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (16.3)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部中位に張りを有し、口縁部は反り気味に内湾する。銚は断面三角形状で貼付は丁寧である。	胴部外面下位カーボン附着
330-8	須恵器 羽釜	貯蔵穴19 cm 破片	口 (25.0) 底 — 高 (9.4)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部上半に弱い張りを有し口縁部はわずかに内傾する。銚は断面三角形状で貼付は丁寧である。	外面にカーボン附着
330-9	瓦 女瓦	破片	厚 1.3	砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。側端部面取りは1面で、凸面は全面撫でを施す。	カマド内-16cm
330-10	瓦 女瓦	11cm 破片	厚 2.5	褐色細粒多 細砂粒多 小礫少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。凹面に粘土板糸切り痕を残し、側端部は凹面側に突出する。凸面は縄叩き。	
330-11 181	鉄器 釘	4 cm 残存	長 (4.7) 幅 (0.7) 重 1.9				先端部側を欠損する。頭部は折り曲げられている。	
330-12 181	鉄器 釘	5 cm 残存	長 (8.3) 幅 (0.8) 重 13.9				両端部を欠損する。断面方形で、使用に伴うものか弱く全体に曲がっている。	
330-13 181	石製品 砥石	覆土内 破片	長 6.2 幅 4.2 厚 1.7	砥沢石			当初の使用面は1面及び両側面、端部の4面であるが、欠損部の2次使用により、割面も磨滅している。	重 71.8
330-14 181	石製品 砥石	覆土内 残存	長 11.0 幅 4.7 厚 4.6	砥沢石			一端を欠損しているが、割面にはわずかに磨滅が認められ、2次使用が考えられる。	重 334.2

## 第150号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
331-1	須恵器 甕	カマド内 - 4 cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 やや硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き、内面は青海波文を撫で消している。	厚 1.7
331-2	須恵器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
331-3 182	土師器 土釜	- 8 cm 破片	口 (28.0) 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	紐作り。胴部上位に張りを有し口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の篋削りである。胴部には多くの接合痕が観察される。	
331-4 182	石器 台石?	P 2 据付 完形	長 26.0 幅 27.4 厚 10.4	粗粒安山岩			側面にわずかに剝離がみられる他、使用痕不明。	重 11700.0
331-5 181	石製品 砥石	4 cm 残存	長 8.0 幅 4.2 厚 4.0	砥沢石			砥面は4面で、一端が欠損している。全体に熱を受けていた痕跡があり、ハゼが激しい。	重 125.7

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
331-6 182	鉄 器 鎌	覆土内 破片	長 (5.9) 幅 (2.1) 重 6.7				先端部の破片で錆が進行し、刃部側は大半が剥離している。	
332-7	瓦 女 瓦	破片	厚 1.9	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面の布目は粗く撫で消されている。凸面は縄叩き。	カマド内 - 6 cm
332-8 182	瓦 女 瓦	カマド内 - 4 cm 瓦残存	厚 2.0	砂粒少	還元焰 やや軟 質	浅黄橙	一枚作り？。凹面の布目が、側端部の一部にかかっている。凸面に絡条体圧痕文有り。	

第151号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
333-1	土 師 器 坏	覆土内 瓦残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 白・黒色鉄物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
333-2	土 師 器 坏	覆土内 瓦残存	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 白・黒色鉄物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
333-3	土 師 器 坏	覆土内 瓦残存	口 (11.8) 底 — 高 (3.3)	白・黒色鉄物 粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられるが、器面の磨滅が激しく不明瞭。	
333-4 182	須 恵 器 蓋	11cm 瓦残存	口 10.4 摘 1.6 高 2.7	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で端部で強く屈曲し、口縁部は水平方向に屈曲している。内面かえりは短くやや内傾する。摘は小振りの環状摘で天井部回転篋削り後の貼付である。	
333-5	須 恵 器 蓋	掘り方覆 土内 瓦残存	口 (10.8) 摘 — 高 (2.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。扁平な天井部で、かえりは短く外傾する。天井部外面を手持ち篋削り後、宝珠摘を貼付。	
333-6	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (2.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部はやや上方を向き、口縁部は短く内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
333-7	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面の叩きは自然釉のため不明。内面青海波文。	厚 1.0
333-8 182	石 製 模 造 品 剣 ?	1床下坑 -12cm 瓦残存	長 6.8 幅 1.6 厚 0.6	黒色片岩			剣の石製模造品か？。研磨により、面取りしている。穿孔は両端から行われている。	重 5.5
334-9 182	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 14.1 幅 6.8 厚 3.3	変質安山岩			使用痕不明。	重 527.0
334-10 182	石 器 敲 石	2 cm 完形	長 (12.9) 幅 (5.9) 厚 (4.3)	砂岩			表面は剥離している。	重 316.0
334-11 182	灰釉陶器 輪 花 埴	17cm 瓦残存	口 (16.3) 底 (8.0) 高 (5.8)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて内湾気味で、口縁部に4ヶ所刻みを入れて輪花の表現をしている。高台は底部回転篋削り後の付高台。体部下半にも回転篋削りを加えている。施釉は漬け掛け。	外面に褐色の付着物有り

第152号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
336-1	灰釉陶器 皿	カマド内 7 cm 瓦残存	口 (13.2) 底 (6.8) 高 (2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。高台は三日月高台状で底部回転篋削り後の付高台。施釉は漬け掛け？	内面に重ね焼き痕

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
336-2	須恵器 羽蓋	カマド内 3 cm	口 (20.0) 底 — 高 (5.4)	砂粒少 白色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	紐作り轆轤整形(右回転)。口縁部は直立し上端は平坦で水平である。鏝は下面が水平に近い状態で貼付は丁寧である。	
336-3	瓦 女瓦	7 cm 破片	厚 1.9	白色細粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凸面斜格子叩き、凹面布目は縦方向に撫で消されている。	

## 第154号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
339-1 182	土師器 甕	カマド右 袖 9 cm %残存	口 (22.6) 底 — 高 (19.8)	白色鈹物粒多 黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	胴部の張りは弱く長胴で、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後胴部に縦位(下→上)の筥削りを施す。内面は斜位の撫で。	内面に褐色の付着物、外面粘土状の付着物
339-2 182	土師器 甕	カマド左 袖 6 cm %残存	口 (10.0) 底 — 高 (20.0)	白・黒色鈹物 粒少 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は短く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の筥削り、内面は斜位の筥撫でを施す。	
340-3 183	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.9)	黒色鈹物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りが強く、口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(右→左)の筥削り、内面横位筥撫でを施す。	口縁部に接合痕
340-4 183	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.8 幅 7.0 高 5.7	粗粒安山岩			上端部と側面に敲打痕がみられる。	重 779.0

## 第155号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
341-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に筥削りを施す。	
341-2 183	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (13.0) 底 — 高 (2.9)	黒色鈹物粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に筥削りを施す。	
341-3	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は筥削りを施す。	
341-4 183	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で後底部は筥削りを施す。	器面は磨滅している
341-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.9)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は筥削りを施す。	
341-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は筥削りを施す。	
341-7	土師器 坏	貯蔵穴(A) %残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	白色細粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後底部に筥削りを施す。	
341-8 183	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (12.2) 底 — 高 (2.8)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は中位で屈曲し外傾する。口縁部は横撫で底部は筥削りと考えられるが器面が磨滅し不明瞭。	
341-9 183	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.9)	細砂粒少 黒色鈹物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は中位で屈曲し、強く外傾する。口縁部は横撫で底部は筥削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
341-10	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は屈曲気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
341-11	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.2)	白・褐色細粒 微	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
341-12	須恵器 蓋?	覆土内 片残存	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で口縁部はわずかに内湾気味であり天井部との境に2本の平行沈線を巡らす。天井部外面は回転篋削りを施す。	
341-13	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (4.3)	白・黒色細粒 少 白・黒色鉱物 粒微	還元焰 やや硬質	灰黄	轆轤整形(?)。脚部破片で下半が強く「ハ」字状に開き、先端付近に屈曲を有する。この屈曲部外面には、弱い沈線を1本巡らしている。透しは、2方の1段と考えられる。	
341-14	須恵器 皿?	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて、わずかに内湾気味で、体部下半に回転篋削りを施す。	
341-15 183	土師器 甕	貯蔵穴(A) 片残存	口 (23.0) 底 — 高 (10.9)	白色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部を横撫で後、胴部に縦位(下→上)の撫で状の篋削りを施す。	
341-16 183	石器 敲石	10cm 完形	長 10.1 幅 5.9 厚 4.8	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 434.0
341-17 183	石器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 10.9 幅 4.5 厚 3.4	砂岩			使用痕不明。	重 239.0
341-18 183	石器 薦編み石	12cm 完形	長 12.2 幅 5.6 厚 2.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 321.0
342-19 183	石器 薦編み石	4 cm 完形	長 13.1 幅 5.2 厚 4.1	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 454.0
342-20 183	石器 薦編み石	12cm 片残存	長 (12.5) 幅 6.3 厚 5.1	粗粒安山岩			被熱によるためか表面が非常にもろく、剝離している。	重 530.0
342-21 183	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.6 幅 5.5 厚 4.4	閃緑岩			使用痕不明。	重 508.0
342-22 183	石器 敲石	4 cm 完形	長 14.5 幅 7.1 厚 4.1	石英閃緑岩			上、下端部に敲打痕がみられ、表面は剝離している。	重 598.0
342-23 183	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 26.1 幅 7.2 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 720.0
342-24 183	石器 薦編み石	7 cm 完形	長 13.8 幅 6.7 厚 3.2	砂岩			使用痕不明。	重 551.0
342-25 183	石器 薦編み石	10cm 完形	長 12.8 幅 5.3 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 429.0
342-26 183	石器 薦編み石	— 3 cm 完形	長 12.8 幅 7.5 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 527.0

## 第156号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1 184	土師質 埴	3 cm 1/2残存	口 (14.2) 底 8.4 高 6.2	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。高台はやや長脚の付高台であり、底部切り離しは高台貼付に伴う無のため不明。	
344-2 184	鉄器 鎌	3 cm 1/2残存	長 (11.0) 幅 (2.7) 重 36.4				先端部の破片で、曲がり強い。先端部側刃部の減りが多いように思われる。	

## 第157号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
346-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	白色細粒微 白色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
346-2 184	須恵器 坏	カマド内 ± 0 cm 1/2残存	口 (12.4) 底 (8.2) 高 (3.9)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
346-3 184	土師器 甕	± 0 cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (10.2)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部上位の張りが強く、口縁部は「く」字状に外傾し口唇部は平坦で外傾し中央に沈線状の窪みが巡っている。口縁部横撫で後胴部上半横位(右→左)の篋削り、内面は無撫を施す。	

## 第158号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
347-1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	黒色細粒少	酸化焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転篋切り後回転篋削り(周辺のみか?)を施す。	
347-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部に段を有し、外面に波状文を施す。	厚 1.0 内外面に 自然釉
347-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色粒少 砂粒微	還元焰 やや軟質	赤灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.6 外面に自 然釉

## 第161号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-1 184	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
349-2 184	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.2) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
349-3 184	土師器 高坏	— 5 cm 坏部完形	口 12.0 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で体部は直線的に外傾する。脚部は剥離して不明。坏部外面は無撫で?で内面は見込み部一方向、体部は6単位の篋磨き後内面黒色処理を施す。	内黒
349-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 高 (7.0) 高 (1.8)	黒色粒少 白色細粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。蓋は大径の環状蓋で、天井部回転篋削り後の貼付。	
349-5 184	土師器 小型甕	覆土内 1/2残存	口 (10.0) 底 — 高 (8.0)	細粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部から底部は半球状で口縁部との境に強い段を有し、口縁部は反り気味に内傾する。口縁部は横撫で胴部斜位、底部付近は一方向の篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-6 184	土師器 小型甕	覆土内 ほぼ完形	口 12.4 底 — 高 8.4	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	胴部は扁平な球胴で、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられるが器面の磨減が激しく不明瞭。	
349-7 184	土師器 甕	- 8 ~ ± 0 cm 破片	口 (21.8) 底 — 高 (9.9)	細砂粒多 白・黒色鉍物 粒多	酸化焰 やや軟 質	にぶい 橙	胴部の張りはなく、口縁部は強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位(下→上)の篋削りを施す。	口縁部外面に接合痕
349-8 184	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.6) 底 — 高 (9.0)	片岩小礫少 細粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	胴部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位(下→上)の篋削りを施す。	
349-9 184	土師器 手捏ね	覆土内 ほぼ完形	口 — 底 3.5 高 (2.5)	黒色鉍物粒微 白色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部の張りは弱い。内面に指先の撫での痕を顕著に残している。	
349-10 184	土師器 甕	- 2 cm 破片	口 — 底 (3.8) 高 (25.1)	白・黒色鉍物 粒多 細砂粒多 褐色鉍物粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	胴部外面斜位(上→下)。底部付近斜位(上→下)の篋削りを施す。内面は斜位の篋撫でを施す。	内面底部に米粒状の炭化物付着
350-11 184	石器 敲石	3 cm 完形	長 12.7 幅 7.1 高 3.5	石英閃緑岩			上端部と側端部に敲打痕がみられる。	重 491.0
350-12 184	石器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 13.9 幅 8.5 高 4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 713.0

第164号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.0)	白・黒色鉍物 粒少 細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
351-2	須恵器 高坏	覆土内 脚部破片	口 — 底 — 高 (9.5)	細砂粒微 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。比較的長脚で、下半で強く「ハ」字状に開き、中位に2本の平行沈線を施す。坏部との接合面で剝離。	
351-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9

第165号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353-1 184	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (2.8)	黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外傾し口唇部はわずかに内側に屈曲する。口縁部は横撫で底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が認められる。	
353-2 184	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.9) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
353-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
353-4	須恵器 坏	覆土内 4残存	口 (12.0) 底 (7.4) 高 (4.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや反り気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
353-5	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (15.1) 底 — 高 (6.2)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部切り離しは不明で、高台は剝離している。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353-6 184	須恵器 蓋	17cm ほぼ完形	口 15.0 摘 3.0 高 4.2	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で体部がやや反り、口縁部は下方に短く折れ曲がっている。摘は小振りの環状摘で天井部撫で状の回転篋削り後の貼付である。	
353-7	須恵器 蓋	3cm 1/2残存	口 (17.9) 摘 — 高 (2.0)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平でかえりは短く下方を向く。天井部外面には回転篋削りが施されている。	
353-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り。高台は付高台。胴部下半に篋削りを施す。	外面自然 釉
353-9	須恵器 甕	8cm 破片	口 (18.6) 底 — 高 (8.6)	褐色粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は強く外反し、上端で短く直立する。胴部外面格子叩き、内面青海波文。	
353-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
353-11	須恵器 甕	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面細かな平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
353-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 やや硬質	灰黄	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.2
353-13 185	石器 敲石	9cm 完形	長 12.3 幅 6.5 厚 3.8	粗粒安山岩			上下端部と側端部に敲打痕剥離がみられる。	重 492.0
353-14 185	石器 敲石	覆土内 完形	長 16.0 幅 6.2 厚 4.2	石英安山岩			両端部に剥離がみられる。	重 588.0

## 第166号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
355-1 185	土師質 坏	8~11cm 1/2残存	口 10.2 底 5.2 高 3.3	黒色鉍物粒少 褐色細粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	体部、底 部に焼む らがある
355-2	土師質 坏	カマド掘 り方 破片	口 — 底 (5.2) 高 (1.9)	黒色鉍物粒多 白色細粒少	中性焰 やや軟質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
355-3 185	土師質 埴	カマド内 1/2残存	口 11.3 底 5.8 高 5.0	細砂粒多 黒色鉍物粒多	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台は付高台であるが乾燥時の外圧による変形を受けている。	高台内面 にカーボ ン附着
355-4 185	土師質 埴	覆土内 ほぼ完形	口 10.5 底 6.2 高 5.1	細砂粒多 黒色鉍物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは比較的強く口縁部の外反はごく弱い。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付のための撫でにより糸切り痕は中央部のみ観察できる。	
355-5	灰釉陶器 埴	カマド内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。体部中位にやや張りを有し口縁部は外反しない。施釉は漬け掛け。	
355-6	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (22.6) 底 — 高 (4.9)	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	紐作り轆轤整形。口縁部は短く直立し上端は平坦で水平である。罫はやや反り気味で貼付は丁寧である。	
355-7	瓦 女瓦	±0cm 破片	厚 1.8	砂粒少 白色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?。凹面にカーボン附着。	

遺物一覧表

第167号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
356-1 185	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 10.0 底 5.0 高 2.9	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	明褐	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り無調整。	底部糸切り痕不明瞭
356-2	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.2) 高 (3.7)	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台はやや長脚で底部回転糸切り後の付高台と考えられる。	
356-3	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (15.6) 底 — 高 (6.2)	黒色細粒多	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張り、口縁部の外反共にごく弱い。	
356-4	須恵器 甗	覆土内 破片	口 (25.9) 底 — 高 (5.5)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	中性焰 やや軟質	にぶい 黄橙	紐作り。口縁部は外傾し、上端は平坦で沈線状のくぼみが巡っている。	内面いぶし?
356-5 185	石器 薦編み石	3 cm 完形	口 14.6 底 6.2 高 4.5	砂岩			使用痕不明。	重 552.0

第168号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
358-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
358-2	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短くわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
358-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りに間に整形不明瞭な部分を顕著に残す。	
358-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	橙	体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾する。外面は口縁部横撫で後、体部に横位篋削り、内面は全面撫で後放射状暗文を施す。	
358-5	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (9.6) 高 (1.6)	黒色細粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削りが加えられ、切り離し技法は不明。	
358-6 185	須恵器 埴	カマド内 23cm 1/2残存	口 (12.0) 底 (5.6) 高 (4.9)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
358-7 185	土師器 甗	4~7 cm 破片	口 (21.1) 底 — 高 (17.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部の横撫では強く胴部の斜位の篋削りは撫で状であまりはつきりしない。内面は横位横撫で。	
358-8 185	石器 砥石	5 cm 1/2残存	長 5.8 幅 5.1 厚 5.5	砥沢石			第1面とした面の使用が最も激しく中央部に向かつての傾斜が強い。	重 177.0
358-9 185	石器 敲石	±0 cm 完形	長 15.9 幅 8.4 厚 4.1	粗粒安山岩			側端部から下端部にかけて明瞭な敲打痕がみられる。	重 707.0

第171号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
360-1 185	土師器 坏	±0 cm ほぼ完形	口 11.6 底 — 高 4.4	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部中位に段を有し、外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
360-2	須恵器 蓋	6cm 破片	口 — 摘 (4.0) 高 (2.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で天井部外面 回転篋削り後の貼付である。	
360-3	須恵器 甕	13cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形?。外面叩きは、自然釉のため 不明。内面素文?。	厚 1.5

## 第174号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
361-1 185	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (13.6) 底 (8.2) 高 (4.6)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部はごくわ ずかに外傾する。高台は底部撫で整形後の付 高台。	内面に褐色の付着 物
361-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.1)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	底部回転糸切り無調整。	外面自然 釉
361-3 185	須恵器 蓋	2cm 1/2残存	口 (15.4) 摘 (5.2) 高 (4.1)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は平らで、口縁部 はほぼ垂直に垂下する。摘は環状摘で丁寧な 貼付である。天井部から水平方向に突帯が巡 るが、天井部側の貼付の痕跡を明瞭に残して いる。	
362-4 185	土師質 埴	2cm 1/2残存	口 (15.0) 底 — 高 (6.0)	砂粒多 黒色鉱物粒少 片岩小礫少	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有し口 縁部は外反しない。高台は剝離していないが 底部回転糸切り後の付高台であるが、高台貼 付に伴う撫でで糸切り痕は消されている。	
362-5	灰釉陶器 埴	覆土内 1/2残存	口 (12.6) 底 (6.6) 高 (4.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位の張りが強く口 縁部はわずかに外反する。高台は付高台で底 部は回転篋削りが施され切り離し技法は不 明。施釉は漬け掛けで、釉の発色は薄い。	体部内外 面にハゼ が激しい
362-6	灰釉陶器 埴	貯蔵穴12 cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (2.1)	美濃系		灰白	施釉は漬け掛け。	
362-7	須恵器 甕?	貯蔵穴11 cm 破片	口 (26.8) 底 — 高 (8.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	還元焰 硬質	黄灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部の張りは強く、 口縁部は直立し、上端は平坦で水平。罫は短 く断面三角形。	
362-8	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	砂粒多 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面布目は横位に粗く撫で消され ている。	
362-9 185	石製品 砥石	覆土内 1/2残存	長 (7.2) 幅 3.7 厚 1.3	砥沢石			4面が使用面で、内3面が中央に向かって傾 斜している。	重 67.0

## 第176号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
364-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.7)	褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有 し口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部 は篋削りを施す。	
364-2 185	土師器 坏	±0~13 cm ほぼ完形	口 12.4 底 — 高 3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁 部横撫で後底部に篋削りを施す。	
364-3	土師器 坏	±0cm 破片	口 (12.5) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く「C」字状に内 湾する。口縁部は横撫でで、底部の篋削りは 撫で部にまで及んでいる。	
364-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部はわずかに内湾す る。口縁部は横撫でで底部の篋削りは横撫 で部に及んでいる。内面は丁寧な撫でが施され ている。	



## 第178号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
370-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
370-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
370-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
370-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (13.0) 摘 — 高 (2.2)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状を呈し口縁部は水平方向にわずかに開く。内面かえりは短く内側に屈曲している。天井部外面に回転篋削りを施す。	
370-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (2.5)	黒色粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な天井部を有し、内面のかえりは下方を向いている。天井部外面に回転篋削りを施す。	
370-6 186	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (6.5)	黒色細粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	オリブ 灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。口縁部に段を有する。	内外面に 薄く自然 釉
372-7	土師器 甕	7cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	胴部に強い張りを有し、「C」字状に外反する口縁部を有する。口縁部横撫で後胴部に斜位の篋削り、内面に横位篋撫でを施す。	
372-8	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (9.6) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色細粒多	酸化焰 やや硬質	淡黄	やや突出する底部破片で、外面は縦位の撫でが施されている。	
372-9	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	外面にカキ目が施されている。	厚 1.3
372-10 186	須恵器 瓶	12cm 片残存	口 — 底 (6.0) 高 (7.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。平底で胴部はやや扁平な球形を呈する。底部は撫で胴部上半は轆轤整形痕を残し、下半は回転篋削り(撫状)を施す。	
372-11	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.0)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 やや硬質	浅黄橙	轆轤整形(?)。底部付近の破片で内外面共に轆轤使用の撫でが施されている。	
372-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
372-13	須恵器 甕	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒・褐色細粒 少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き。内面格子状の面を有する当具使用。	厚 1.3
372-14 186	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 10.6 幅 4.7 厚 3.6	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 293.0
372-15 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.3 幅 6.0 厚 5.3	粗粒安山岩			上下端部に敲打痕と剝離がみられる。	重 530.0
372-16 186	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.7 幅 5.6 厚 4.0	ひん岩			使用痕不明。	重 555.0
372-17 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.0 幅 5.8 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 360.0
372-18 186	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.2 幅 6.5 厚 5.3	溶結凝灰岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重 590.0

遺物一覧表

第179号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
373-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.4)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
373-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (6.2) 高 (4.0)	白・褐色細粒 少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で体部に張りを有し、口縁部は外反する。器面の磨滅が激しく整形は不明瞭。	暗文か？
373-3 186	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 12.0 底 8.0 高 3.2	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて反り気味に外傾する。底部は回転篋調整を加え、この篋調整は腰部にも施されている。	
373-4	灰釉陶器 境	- 2 cm 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は三日月高台で底部回転糸切り後の付高台。底部の糸切り痕は非常に細かい。内面見込み部に重ね焼きの痕跡を残す。	内面に カーボン 付着
373-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (1.7)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。非常に扁平な天井部を有し、口唇部は短く下方に突出する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
373-6	須恵器 壺	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多 硬質	還元焰	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文(同心円状)。焼成後外面からの穿孔が行なわれている。	厚 1.4
373-7	瓦 女瓦	± 0 cm 破片	厚 1.8	小礫微 砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。凹面布目は、粗く撫で消されている。凸面には縄叩きの痕跡が認められるが、凹面同様撫で消されている。側端部の面取りは2面。	
373-8 186	鉄器 鎌	10cm 完形	長 (18.9) 幅 (4.0) 重 94.8				大形で先端部の曲がりの強い鎌である。柄装部の一部が直角に折り曲げられており、片側の2ヶ所に木質が付着している。	

第180号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.2)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転？)。受け部はやや外反し口縁部は内傾する。	
375-2 186	須恵器 境	± 0 cm %残存	口 (12.8) 底 (6.6) 高 (4.0)	白色細粒少 褐色細粒少	中性焰 やや硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてやや反り気味に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが貼付部から剝離している。	いぶし？
375-3	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端が外面に突出する。外面に櫛描波状文が施されている。	厚 1.4

第181号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-4 186	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (13.6) 底 (7.8) 高 (3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は厚手の平底で、体部から口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部は横位～斜位、底部一方向の篋削り、内面は撫で後体部側に斜放射状を組み合わせた格子状暗文を施す。	暗文
375-5	土師器 皿	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	内面の磨滅が外面に比較して激しい
375-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.6) 高 (4.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は内湾する。底部は回転篋切り無調整で突出する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-7 186	土師器 鉢	±0cm 1/4残存	口 (22.0) 底 — 高 (9.5)	砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部はわずかに内湾し、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で、体部斜位の篔削り、底部及び内面は撫でを施す。	
375-8	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は外反する。内面は比較的丁寧な撫で、外面は口縁部横撫で後篔削りを施す。	
375-9	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部は直線的に外傾し底部は回転篔削り後(?)の付高台。	
375-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
375-11 187	石器 敲石	4cm 完形	長 13.2 幅 6.8 厚 3.7	粗粒安山岩			上端部に剝離、下端部に敲打痕がみられ、全面にカーボンが付着。	重 585.0
375-12 186	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (5.5) 幅 (1.4) 重 9.3				刀身の方に若干木質部が残存している。	
375-13	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (8.6) 幅 (1.0) 重 11.5				上下両端を欠損し直角に曲がっている。	
375-14 186	鉄器 不明	覆土内 —	長 (8.8) 幅 (0.6) 重 11.0				断面は長方形で、「コ」字状に曲げられている。接点はみられないが2個体は同一個体。	

## 第205号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-15	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.7)	砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篔削りを施す。	内外面黒色塗彩の可能性有

## 第183号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
379-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篔削りを施し、間に整形不明瞭な部分を明瞭に残す。	
379-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は短く内湾する。底部篔削り、口縁部横撫で共に器面の磨滅のため不明瞭。	
379-3 187	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.4)	白色細粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、口縁部は反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は不定方向の篔削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
379-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部は短く反り気味に内傾する。口縁部横撫で後底部に横位篔削りを施す。	器面の残存状態良好
379-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.9) 底 (7.6) 高 (4.6)	細砂粒微 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は平底で中央がわずかに窪み、体部から口縁部にかけて弱く内湾する。口縁部横撫で体部外面は横～斜位の篔削りと考えられるが器面が磨滅し不明瞭である。内面は撫で後、見込み部中央から体部にかけて放射状暗文を施す。底部は周辺部の篔削りが顕著である。	暗文
379-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部の破片で、口縁部は横撫で、体部外面横位篔削り、内面は撫で後、放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
379-7	土師器 杯 A? 平城 I?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	外面は撫で。内面は丁寧な撫で後細い放射状 暗文を施す。胎土はバイ状を呈す。	厚 0.4 畿内産
379-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	外面篋削り、内面撫で後放射状暗文施文。	厚 0.6 暗文
379-9	土師器 坏	覆土内 底部破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部外面及び底部は篋削り、 内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン暗 文を施す。	厚 0.5 暗文
379-10 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.6 底 7.6 高 3.8	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有 し、口縁部は外傾する。底部は回転篋削り無 調整。	外面片側 に自然釉
379-11 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.6 底 7.0 高 3.7	細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張り を有し、口縁部は外傾する。底部は回転糸切 り無調整。	
379-12	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.9) 底 (7.1) 高 (3.2)	褐色細粒少 白色細粒微	還元焰 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部の張りは弱く、底 部は回転篋削りと考えられる。	
379-13	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (3.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に強い撫でが施され 体部は直線的に外傾する。底部は切り離し後 回転篋削りを施す。	
379-14 187	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.6 底 7.2 高 4.1	褐色細粒多 白・黒色鉱物 粒多	還元焰 やや硬 質	灰黄	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁 部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り後 周辺手持ち篋削りを施す。	全体に厚 手・胎土 焼成共他 と異質
379-15	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (18.8) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒少	還元焰 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転)。底部、高台は不明で体部 に1段の屈曲を有し、口縁部は弱く外反する。	
379-16 187	須恵器 埴	覆土内 残存	口 (15.0) 底 (11.0) 高 (6.8)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、口縁 部は直線的に外傾する。高台は底部回転篋削 り後の付高台。	
379-17	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.2) 摘 — 高 (1.3)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。扁平な天井部を有し、外面は 回転篋削りが施され、内面かえりは短くわず かに内傾する。	外面に自 然釉
379-18	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.5) 底 — 高 (3.0)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部は丸底で、受け部 上面はほぼ水平であり、口縁部は弱く内傾す る。底部は手持ち篋削りが施されている。	
379-19	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は 短く水平にのび、口縁部はやや反り気味に内 傾する。底部外面に回転篋削りを施す。	
379-20	須恵器 甕 鍋?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は外反し上半が直立 する。胴部外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
379-21	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	小礫微 白色細粒少	還元焰 硬質	暗灰	頸部破片で、外面に平行沈線と櫛描波状文を 施す。	厚 1.3 内外面に 自然釉
379-22	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩きは自然釉のため不 明。内面青海波文。	厚 1.1
379-23	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。	厚 1.6
380-24	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。	厚 0.7
380-25 187	石製品 砥石	覆土内 完形	長 7.2 幅 5.5 厚 4.0	軽石			全面が砥面として使用されている?。	重 121.0



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
380-26 187	石製品 砥石	覆土内 1/2残存	長 7.1 幅 5.8 厚 3.5	砥沢石			残存部で5面の使用面がみられ、中でも広い砥面の1、3面の使用の状態が顕著である。	重 162.0
380-27 187	石器 薦編み石	集石部6 cm 完形	長 13.0 幅 6.1 厚 3.4	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 413.0
380-28 187	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.5 幅 5.3 厚 3.3	変質安山岩			側面にわずかに打痕がみられるが、使用に伴うとは考えられない。	重 320.0
380-29 187	石器 不明	覆土内 破片	長 (12.5) 幅 (5.6) 厚 (3.5)	粗粒安山岩			破片だが前面にカーボンが付着。	重 212.0
380-30 187	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.4 幅 5.1 高 4.6	粗粒安山岩			上下両端部と側面に敲打痕がみられる。	重 347.0
380-31 187	石器 敲石	覆土内 1/2残存	長 (8.4) 幅 5.1 厚 2.8	石英閃緑岩			側面に剝離がみられ、半截されている。	重 217.0
380-32 187	石器 丸石	覆土内 完形	長 6.2 幅 4.7 厚 1.9	砂岩			使用痕不明。	重 68.0
380-33	鉄器 不明	覆土内 1/2残存	長 (3.2) 幅 (0.2) 重 0.5				断面方形で先端部は尖っている。周辺の面がしっかりしているが、錆が剝離したものとも思われ釘の芯とも考えられる。	
380-34	土師質 黒色土器 不明	覆土内 破片	口 (11.8) 底 (6.0) 高 (4.5)	黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部中位に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。整形に轆轤を使用したような感じを受けるが、不明瞭。内面は撫で後、黒色処理を施す。	内黒
380-35	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.9) 底 — 高 (5.6)	細砂粒多 黒色鉍物粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	橙	口縁部は直線的に内傾し、上端は平坦で内傾する。胴部は鋳部まで下→上の篋削りが施されている。	

## 第184号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
381-1 187	土師器 坏	±0cm ほぼ完形	口 11.0 底 — 高 3.8	細砂粒微 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
381-2 187	土師器 坏	-2cm 1/2残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.6)	砂粒微 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短く反り気味に直立する。口縁部は横撫で後底部に篋削りを施す。	
381-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 (6.6) 高 (3.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に強い撫でを施し体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
381-4	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	脚部の破片で、2方の一段透しか?	
381-5	須恵器 内面碇	覆土内 破片	口 — 底 (18.2) 高 (4.5)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	脚部下端に突帯を2帯巡らし、上半に縦位の線刻と方形の窓を穿っている。	
381-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰赤	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9
381-7 187	金属製品 耳環	±0cm 完形	径 2.5 厚 0.7				銅製金貼りであり、部分的に錆が認められる。断面は楕円形を呈する。	重 9.9

遺物一覧表

第187号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
383-1 188	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (10.6) — 底高 (3.8)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
383-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) — 底高 (4.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられるが、器面の磨減が激しく明瞭でない。	
383-3 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) — 底高 (3.5)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
385-4 188	土師器 不明	覆土内 —	長 2.1 短 1.8 厚 0.7	白色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	手捏ねで整形され、剥離したとみられる面があることから、把手であったものか？	
385-5	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) — 底高 (7.0) — 高 (4.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて内湾する。底部切り離しは不明。	
385-6	須恵器 横瓶	掘り方覆 土内破片	口 — — 底 — — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	胴部外面に細かなカキ目を施す。	厚 1.0

第188号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
387-1 188	土師器 坏	17cm 1/4残存	口 (10.0) — 底高 (3.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部にかけ篋削りを施す。	
387-2	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.0) — 底高 (3.0)	細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	器面の磨減が激しい
387-3 188	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (10.6) — 底高 (3.9)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
387-4 188	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (12.8) — 底高 (3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
387-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) — 底高 (3.4)	細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
387-6 188	土師器 坏	掘り方覆 土内 1/4残存	口 (13.0) — 底高 (4.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄褐	底部は丸底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。内外面に黒色のまく状の付着物が認められる。(うるし?)	内外面黒色塗彩
387-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) — 底高 (4.2)	褐色細粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
387-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) — 底高 (3.8)	白色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
389-9 188	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (9.4) — 底高 (3.2)	雲母微粒少	酸化焰 軟質	灰白	丸底で口縁部が内湾する。器面が磨減し、整形は不明。畿内産土師器CIIIに近い器形である。	胎土、焼成は他と異点
389-10 188	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 11.2 — 底高 3.6	細砂粒少 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられるが、磨減が進み不明瞭。	
389-11	土師器 坏	— 5 cm 破片	口 (14.0) — 底高 (3.8)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
389-12	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状の磨きを施す。	
389-13 188	須恵器 坏	— 4cm 片残存	口 (10.0) 底 — 高 (3.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部はやや反り気味で口縁部は短く内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
390-14	須恵器 高坏	掘り方覆 土内 片残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。受け部は水平に延び、口縁部は比較的長く、内傾する。底部には撫でが施され、脚部は欠損している。	
390-15 188	須恵器 蓋?	貯蔵穴 カマド内 片残存	口 (11.2) 底 — 高 (3.8)	細砂粒微	還元焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(左回転?)。底部は平底状の丸底で、口縁部がわずかに内湾する。底部は回転篋削りを施す。	内外面の ハゼが激 しい
390-16 188	須恵器 蓋	覆土内 片残存	口 (11.4) 底 — 高 (3.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は丸底で、口縁部は直線的に外傾し、屈曲部に沈線を1本巡らせる。	
390-17	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状を呈し、口縁部は直線的に外傾する。天井部と口縁部との境に2本の平行沈線を施し、天井部には回転篋削りを施している。	
390-18 188	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 12.0 底 — 高 4.4	細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。天井部はやや突出気味の丸底状で口縁部はわずかに内湾する。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	
390-19	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 片残存	口 — 底 — 高 (1.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部は平底状で、手持ち篋削りが施されている。	
390-20	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 軟質	橙	胴部は短胴で、口縁部は反り気味に、直立する。口縁部は横撫で、胴部は篋削りと思われる。	
390-21	土師器 鉢	掘り方覆 土内 破片	口 (17.2) 底 — 高 (8.3)	白色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
390-22	須恵器 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味で口唇部は平坦で内傾する。体部外面に1本の沈線を巡らせる。	厚 0.8
390-23	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部は手持ち篋削り、体部はカキ目を施す。	厚 1.2
390-24	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 0.8
390-25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.0
390-26	須恵器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焰 硬質	浅黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き?、内面青海波文。	厚 2.4
390-27 188	石製品 白玉	掘り方覆 土内 完形	径 1.7 厚 0.8 孔 0.3	滑石			周辺の整形は打ち欠き後磨いている。穿孔は一方方向。	重 3.7

## 第189号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
393-1 188	土師器 坏	覆土内 片残存	口 (12.6) 底 — 高 (4.3)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
393-2 188	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.1 底 — 高 3.4	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
393-3 188	土師器 坏	カマド内 7cm 完形	口 12.0 底 — 高 3.8	細砂粒微 黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
393-4 189	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩?
393-5 189	土師器 坏	6cm 完形	口 13.6 底 — 高 4.5	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は深い丸底で、口縁部との境にシャープな段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部周辺は横位、中央部一方向の篋削りを施す。	内面に黒色の付着物が認められる
393-6 189	須恵器 皿?	4cm ほぼ完形	口 15.0 底 — 高 3.3	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。底部は丸底で中央がわずかにくぼみ、口縁部がわずかに内湾する器形で、底部に手持ち篋削りを施す。蓋の可能性もある。	
393-7 189	須恵器 皿?	3cm ほぼ完形	口 14.4 底 — 高 2.9	白・黒色細粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。平底で体部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。底部は手持ち篋削りを施す。	
393-8	須恵器 碗	覆土内 破片	口 — 底 (13.6) 高 (2.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。腰部の張りが比較的強く体部は内湾気味と考えられる。高台は削り出し高台と考えられるもので、底部には削りが施されている。	
393-9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (4.8) 高 (2.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部外面回転篋削り後に環状摘を貼付。	
393-10	土師器 甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (7.0)	黒色鉍物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部はわずかに外傾し、胴部の張りは、弱い。口縁部横撫で後胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。	内面の粗れが激しい
393-11	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (9.0)	砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部の張りは弱い。口縁部は横撫で後、胴部に不定方向の撫で状の篋削りを施す。	
394-12	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (17.0) 高 (3.8)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。胴部外面に、カキ目(?)がわずかに認められる。	胴部外面 下端に布 圧痕
394-13	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (3.8)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形(?)。底部及び胴部下端に篋削りを施す。	
394-14	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.8
394-15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目を施し、さらに器面に撫でを施す。内面は青海波文。	厚 1.2

第190号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
396-1 189	土師器 坏	12cm 1/2残存	口 (13.2) 底 — 高 (4.5)	細粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部周辺横位、中央部不定方向の篋削りを施す。	
396-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉍物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部は内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。削りは横撫で部にも及んでいる。	
396-3	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.3)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は反り気味に直立し胴部の張りは強い。	
396-4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、胴部の張りは強い。口縁部は横撫で胴部外面は斜位(左→右)篋削り、内面は丁寧な撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
396-5	土師器 手捏ね	覆土内 破片	口 — 底 (8.2) 高 (2.5)	白色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 黄橙	手捏ねで、底部に木葉痕が残り、内面は黒色処理した様に吸炭している。	
396-6 189	石器 薦編み石	2 cm 完形	長 13.2 幅 5.0 厚 3.7	輝緑岩			使用痕不明。	重 400.0

## 第191号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
398-1 189	土師器 坏	5 cm %残存	口 11.2 底 — 高 3.5	黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
398-2 189	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (12.8) 底 (10.0) 高 (3.8)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に外傾し底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
398-3 189	須恵器 平瓶	11~15cm %残存	口 — 底 — 高 (9.6)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部から底部にかけてカキ目を施す。	内面に明瞭な接合痕を残す
398-4	土師器 甗	覆土内 破片	口 — 底 3.9 高 3.3	褐色粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	孔は単孔で、焼成前の2段階穿孔である。胴部下半は横位の篋削りである。	孔径 2.4
398-5 189	須恵器 短頸壺	4 cm 脚部欠損	口 5.7 底 — 高 (16.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転?)。直立する口縁部と強く開く脚部を有し、胴部最大部に平行沈線と間に楕円波状文を施す。器面全面は轆轤による撫で整形であるが胴部下半に回転篋削りの痕跡を残している。	
398-6	須恵器 甗	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き後横位の粗い撫で、内面青海波文。	厚 0.7
398-7 189	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.8 厚 0.9 孔 0.3	滑石			穿孔は一方からで、表面に整形のための擦痕がみられる。	重 3.6
398-8 189	石器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 15.2 幅 7.4 厚 4.5	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 711.0

## 第192号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
399-1 189	土師器 坏	2 cm 完形	口 11.0 底 — 高 2.9	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
399-2 189	土師器 坏	15cm 完形	口 12.0 底 — 高 3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は反り気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
399-3 189	土師器 坏	16cm 完形	口 11.2 底 — 高 3.1	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後底部周辺横位、中央不定方向の篋削りを施す。	
399-4	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
399-5	須恵器 甗	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (10.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	中性焰 やや硬質	橙	胴部上半に最大径を有するものと考えられ、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の篋削りを施す。内面は斜位の篋撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
400-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は屈曲しながら外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りで、内面は撫で後黒色処理を施す。	内黒
400-7 189	石器 薦編み石	3 cm 完形	長 13.6 幅 7.0 厚 5.4	変質玄武岩			上端に剝離がみられるが、使用に伴うものとは考えられず、表面にカーボンが厚く付着している。	重 929.0
400-8 189	石器 薦編み石	6 cm 完形	長 16.7 幅 5.1 厚 6.3	石英閃緑岩			側面にカーボン付着。	重 785.0
400-9 189	石製品 丸玉?	覆土内 完形	長 1.1 幅 1.1 厚 0.8	蛇紋岩			研磨によって全体に丸味を出しているが、仕上げは比較的雑である。	重 1.5
400-10 189	石器 薦編み石	覆土内 1/2残存	長 (9.7) 幅 7.0 厚 3.7	ひん岩			半截されているが、半断面に使用痕はみられない。	重 395.0

第193号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
401-1 190	土師器 坏	13cm 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少 褐色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
401-2 190	土師器 坏	7 cm 1/2残存	口 (11.4) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
401-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
403-4	土師器 坏	10cm 破片	口 (18.6) 底 — 高 (5.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	色調が肌色に近い
403-5	土師質 黒色土器 坏	覆土内 1/2残存	口 (19.0) 底 — 高 (7.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部に斜位の篋削りを施す。内面は撫で後黒色処理。	
403-6	土師器 坏	9 cm 破片	口 (17.2) 底 — 高 (4.7)	白色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
403-7	須恵器 瓶	覆土内 口縁部の み完形	口 9.0 底 — 高 (5.5)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。わずかに反り気味に開く器形で、口唇部は平坦でわずかに外傾する。	
403-8 190	須恵器 高坏	3 cm 坏部1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (9.5)	白色細粒多 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	体部は深く、口縁部との境に沈線を巡らし、口縁部は、内傾し櫛描波状文を巡らせる。脚部は欠損し不明であるが三方透しの痕跡が認められる。	外面に自然釉

第195号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
405-1	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 (10.8) 底 — 高 (3.0)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は外傾し、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部内面にわずかに指頭痕が認められる。	杯Aの模倣か

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
405-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.6)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 軟質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で後体部及び底部に篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	暗文
405-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 軟質	橙	体部はやや内湾気味で、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、体部は篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.4 暗文
405-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焙 軟質	橙	体部は破片で、外面篋削り、内面は撫で後放射状暗文。	厚 0.3 暗文
405-5 190	土師器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘高 (6.0) —	白色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	大型の蓋摘部?で、摘周縁は篋削りされている。	
405-6 190	須恵器 坏	貯蔵穴 8 cm 残存	口 (13.6) 底 (4.2) 高 (3.4)	褐色細粒微	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整。	
405-7 190	須恵器 塊	3 cm 残存	口 (14.4) 底 (8.4) 高 (7.2)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部の糸切り痕は高台貼付に伴い撫で消されている。	
405-8	須恵器 蓋	カマド掘り方 破片	口 (18.0) 摘高 — 高 (3.0)	砂粒少 白色粒多	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。やや器高の高い蓋で、口縁部先端内面に稜を有する。	
405-9	須恵器 長頸瓶	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色粒少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形。肩部破片で、肩部に3本の並行沈線と間に櫛状工具による刺突を施す。また頸部周辺にはカキ目が施されている。	厚 0.8
405-10	須恵器 甕	6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焙 硬質	灰	紐作り叩き整形?。叩き具等不明。	厚 0.8 外面に自然釉
405-11	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (7.5)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 褐色粒多	中性焙 硬質	橙	紐作り轆轤整形?。胴部の張りは弱く、口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平である。鏝は断面三角形で、比較的丁寧な貼付されている。外面鏝部下は縦位の篋削り(撫で状)が施されている。	
405-12 190	瓦 男瓦	±0 cm 残存	厚 2.3	砂粒多	還元焙 硬質	灰	一枚作り?。凸面は縦位篋削りを施し、篋描きの文字?がみられる。側端部の面取りは2面。	
405-13 190	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 4.9 幅 1.1 重 3.5				先端部の破片である。	
405-14 190	鉄器 釘	覆土内 破片	長 2.8 幅 0.4 重 1.3				頭部破片で、頭部上半は剥離している。断面は方形。	
405-15 190	石製品 白玉	カマド内 残存	径 1.8 厚 0.5 孔 —	滑石			周辺は磨いて整形され、片面の整形は雑。	重 1.4
405-16 190	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 12.6 幅 6.0 厚 4.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 442.0

## 第196号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
407-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、やや外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が残る。	
407-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焙 やや硬質	に お い 黄 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
407-3 190	土 師 器 坏	- 2 ~ - 5 cm 1/2残存	口 (14.2) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
407-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (3.0)	黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が残る。	
407-5	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 — 高 (3.4)	黒色鈹物粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内面まで 還元されて いる
407-6	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鈹物粒微 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部の張りが比較的強い。底部及び体部外面は篋削りで、内面は撫で後見込み部にラセン、体部に斜放射状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
407-7 190	須 恵 器 壺	覆土内 1/2残存	口 (17.0) 底 (11.0) 高 (5.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は底部と腰部回転篋削り後の付高台。	
407-8	須 恵 器 壺	- 8 cm 破片	口 (19.0) 底 (13.0) 高 (3.8)	黒色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は強く外傾し、口縁部は外反する。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
407-9	須 恵 器 壺	覆土内 1/2残存	口 (12.6) 底 (9.6) 高 (3.4)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は短く直線的に外傾する。高台は底部回転の撫で整形後の付高台。	外面に薄 く自然釉
407-10	須 恵 器 壺	7 cm 破片	口 (12.8) 底 — 高 (6.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。器厚はやや厚手で、体部から口縁部にかけて強く内湾する。体部外面下半に回転篋削りを施す。	
407-11	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (11.4) 摘 — 高 (1.5)	細砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は張りが弱く、口縁部はわずかに反り気味である。内面のかえりは短く、内傾する。天井部外面は広範囲にわたって回転篋削りを施す。	
407-12	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (12.8) 摘 — 高 (2.2)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部に1段の屈曲を有し、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
407-13	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 — 高 (1.3)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は比較的厚手で、わずかに内湾する。内面かえりは短く、かなり内側寄りに認められる。天井部外面に回転篋削りを施す。	外面に薄 く自然釉
407-14	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 (4.1) 高 (1.5)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。非常に扁平な器形で、端部が短く下方に屈曲する。摘は環状摘で貼付は比較的丁寧である。	第18号溝 の破片と 接合
407-15 190	須 恵 器 蓋	- 7 cm 1/2残存	口 (10.6) 摘 — 高 (2.5)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部は平坦で、口縁部はわずかに外傾し、先端が外反する。天井部と口縁部との屈曲部には水平に延びる突帯がみられる。	
407-16	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.6)	細砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	短頸壺の蓋と考えられるもので、水平方向に張り出す突帯と、上方への短い突帯が認められる。	外面に薄 く自然釉
408-17 190	須 恵 器 瓶	- 3 cm 破片	口 — 底 (12.6) 高 (6.0)	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。高台は底部及び胴部下半回転篋削り後の付高台。	
408-18	須 恵 器 甕	2 cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、口縁部上端に3帯の突帯を巡らし、下半に平行沈線と波状文を施す。	厚 1.1
408-19	須 恵 器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。肩部外面に平行沈線と櫛状工具による刺突を施す。	厚 1.1
408-20	須 恵 器 長頸瓶	10cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。肩部に2本の平行沈線を巡らし、間に櫛状工具の連続刺突を施す。	厚 0.8
408-21	須 恵 器 甕	住居外19 cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.8 外面に自 然釉



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
408-22	須恵器 甕	±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.7 外面に薄く自然釉
408-23	須恵器 甕	6cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒微 黒色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
408-24	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
408-25	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は不定方向のカキ目？。内面青海波文。	厚 0.6
408-26 191	瓦 鏡瓦	±0cm 破片	厚 2.7	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	瓦当面の%残存。単弁四葉。	
408-27 191	鉄器 釘	覆土内 完形	長 (7.4) 幅 (0.6) 重 10.3				頭部平面形は円形を呈する。全体に短い。	

## 第197号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
410-1	須恵器 羽釜	カマド内 ±0cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (13.8)	細砂粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	橙	紐作り轆轤整形。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は平坦で、弱く内傾している。胴部の張りは弱く、鏝の貼付は丁寧である。	
410-2 191	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (20.3) 底 — 高 (14.3)	細砂粒多	中性焰 硬質	黒褐	紐作り轆轤整形(右回転)。胴部上半の張りは強く、口縁部は内傾し、上端は平坦で沈線状の窪みが巡っている。胴部内外面に明瞭な接合痕を残す。	内外面いぶし？
410-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は、細かな平行叩き？(条線状)で、屈曲する平行沈線が施されている。内面は青海波文であるが、器面の磨滅で不明瞭。	厚 1.5
410-4	瓦 女瓦	-2cm 破片	厚 1.9	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	青灰	一枚作り？。凸面は燃糸文状の縄文が施され1面に砂が付着。凹面布目は非常に明瞭に残存。	
410-5	瓦 女瓦	-6cm 破片	厚 1.9	細砂粒少 褐色粒少	中性焰 硬質	橙	一枚作り？。凸面斜格子叩き。凹面は縦位撫でを施す。	
411-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 やや硬質	灰白	底部破片で、外面に断面台形状の突帯がみられる。	厚 1.2
411-7	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	砂粒少 褐色粒少	中性焰 硬質	灰白	一枚作り？。凸面縦位の燃糸状の縄文は撫で消されている。凹面布目も縦位に粗い撫でが施されている。側端面及び広端面取りは2面。	
411-8 191	石製品 白玉	覆土内 %残存	径 (1.4) 厚 (0.7) 孔 —	滑石			調整時の欠損もあり、残存状態は不良。	重 0.7
411-9 191	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.2 厚 3.5	デイサイト			使用痕不明。	重 265.0

## 第199号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-1 191	土師器 坏	覆土内 %残存	口 14.4 底 — 高 3.6	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後底部に一方の篋削りを施す。	
414-2	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (15.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が認められる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
414-3	須 惠 器 高 坏	覆土内 片残存	口 — 底 (8.8) 高 (8.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。坏部底部は回転篋削りが施され、脚部は短脚で、透しは認められない。	外面に薄く自然釉
414-4	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後全面に撫でを施し、等間隔にカキ目を横位に施す。内面は青海波文。	厚 0.7
414-5	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
414-6 191	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 15.5 幅 7.2 厚 4.1	ひん岩			使用痕不明。	重 742.0

第200号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
416-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (2.2)	白・黒色細粒 微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は反り気味に直立し、底部は丸底である。口縁部は横撫で後底部に篋削りを施す。	
416-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.8 暗文
416-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	口縁部はわずかに内湾する器形で、口縁部横撫で後体部外面斜位の篋削り、内面撫で後放射状暗文施文。	厚 0.7 暗文
416-4	須 惠 器 埴	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (9.8) 高 (3.3)	白・褐色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し高台は底部回転篋削り後の付高台。	
416-5	須 惠 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は削り出し高台で不明瞭。	

第201号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
419-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。器面が磨滅し、不明瞭であるが、口縁部は横撫で底部は篋削りと思われる。	
419-2	須 惠 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (15.6) 高 (2.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部調整後の付高台。	
419-3	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面に低い突帯と波状文を巡らす。	厚 1.1
419-4 191	石 器 不 明	覆土内 破片	長 (11.4) 幅 (10.1) 厚 (2.9)	粗粒安山岩			裏面は剝離している。	重 439.0

第202号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
421-1	土 師 質 埴	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は強く外反し、内側に明瞭な稜を有する。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
421-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
421-3	土師質 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (0.7)	細砂粒少 黒色鉾物粒微	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。底部は静止糸切り無調整。	
421-4	須恵器 羽釜	±0cm 破片	口 (20.6) 底 — 高 (6.7)	黒色鉾物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部以外に轆轤調整痕を残さない。口縁部はわずかに外反し、胴部に、弱い張りを有する。罫の貼付は上面は丁寧だが、下面は雑である。胴部外面の調整は不明瞭で、接合痕を残している。内面は斜位の撫で。	
421-5	瓦 男瓦	カマド内 10cm破片	厚 1.7	白色細粒多	中性焰 硬質	橙	凸面は横位に強く撫でられている。	
421-6 191	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	片岩小礫微 細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?側端面取りは2面。凹面は布目を明瞭に残し、凸面は全面雑な撫で「井」の笥描き文字が認められる。	

## 第203号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
423-1	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (11.6) 高 (1.5)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台で、底部は回転篋切り無調整か、回転篋調整かの判断ができない。	

## 第204号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
423-2 191	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.3 底 — 高 3.4	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	

## 第214号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
423-3	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (2.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部に指先の撫での痕跡あり。施釉技法は残存部が少なく不明。	見込み部に重ね焼き痕
424-4	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (8.7)	細砂粒多 黒色鉾物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。胴部の張りは弱く、口縁部は短く直立する。口唇部は平坦で水平である。罫は厚く貼付は丁寧である。内外面共轆轤整形痕を残している。	
424-5	瓦 男瓦	—3cm 破片	厚 1.8	砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面に粘土状糸切り痕、凸面は雑な撫でを施す。	
424-6	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 やや硬質	にぶい 橙	一枚作り?。側端面、広端面共面取りは一面凸面は撫で状の篋削りを施す。	
424-7 191	鉄器 刀子	±0cm 破片	長 (13.1) 幅 (1.5) 重 23.3				茎と先端の一部を欠損する。刃部側の錆による破損が特に激しい。	

## 第206号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
425-1 191	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 (11.4) 底 — 高 (3.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間にごくわずかに整形不明瞭な部分がみられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
425-2 191	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鈹物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
425-3 191	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
425-4 191	石器 敲石	± 0 cm 破片	長 (8.9) 幅 (7.0) 厚 (3.6)	石英閃緑岩			上下両端部欠損の。前裏面共剝離が激しい。	重 292.0
425-5 191	石器 敲石	± 0 cm 完形	長 16.0 幅 6.7 厚 4.2	黒色頁岩			側面に剝離面を持つ。	重 763.0

第207号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
428-2	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.5)	褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
428-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (7.0)	黒色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
428-4	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (8.8) 底 — 高 (3.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は鋭く斜上方を向き、口縁部は長く反り気味に強く内傾する。底部に回転篋削りを施す。	
428-5	須恵器 高坏	2~5 cm 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (11.8)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。坏部は丸底状で、口縁部との境に鋭い稜を有し、口縁部は直線的に直立する。脚部は「ハ」字状に開く長脚のものであるが、透しはみられない。坏部底部に回転篋削りを施す。	
428-6	須恵器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.2)	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。透しはなく短脚で、下半が強く開く。坏部は接合面で剝落している。	
428-7	須恵器 甕	貯蔵穴17 cm 破片	口 13.2 底 — 高 (4.4)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き?、内面青海波文。	
428-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
428-9	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。外面にカキ目、内面撫で。	厚 0.9
428-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 白色鈹物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。頸部には、突帯が巡る。	厚 1.9 外面に薄く自然釉
428-11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 内外面薄く自然釉
428-12 192	石器 敲石	覆土内 破片	長 (10.7) 幅 (5.9) 厚 (2.9)	粗粒安山岩			下端部欠損。裏面は剝離している。	重 232.0
428-13	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428-14	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	白色細粒微 黒色鋳物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	
428-15	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篋削り、内面は撫で後放射状の篋磨きを施す。	
428-16 192	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.7) 底 — 高 (4.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転篋削り後、底部周辺に回転篋削りを施す。	
428-17 192	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (13.0) 底 (8.4) 高 (3.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りはほとんどみられず、口縁部も外反しない。底部は回転糸切り無調整と考えられる。	
428-18	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (8.0) 高 (4.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。底部は回転糸切り後、周辺に篋削りを施す。	
428-19	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は浅く、口縁部はわずかに外反する。底部と腰部に回転篋削りを施す。	
429-20	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 (5.8) 高 (3.9)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部外面にはカキ目状の轆轤調整痕が見られる。	
429-21	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.8) 高 (3.5)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
429-22	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (16.0) 高 (2.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。底部切り離しは中央部分の痕跡から回転糸切りの可能性がある。	
429-23	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (14.0) 高 (1.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部だけの残存で摘と口縁部が欠損する。	外面に自然釉
429-24	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (20.0) 摘 — 高 (2.7)	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部に弱い張りを有し、口縁部は短く屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
429-25	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.3)	砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篋削りで、口縁部に篋が当たっている。	
429-26 192	土師器 甕	覆土内 1/2残存	口 (21.4) 底 — 高 (20.4)	細砂粒多 白・黒色鋳物 粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半横位(右→左)下半縦位(上→下)の篋削りを施す。	
429-27	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (28.0) 底 — 高 (2.8)	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有する。	
429-28	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕あり。凸面は縄叩き後、撫でを施す。側端面付近に布目の痕跡あり。	

## 第252号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
430-1 192	土師器 壺	カマド内 9cm 1/2残存	口 (14.7) 底 9.0 高 (5.8)	黒色鋳物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(左回転?)。体部中位にわずかに張りがあり、口縁部は弱く外反する。高台はやや長脚で、付高台である。	
430-2	土師器 坏	カマド内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鋳物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は平底気味で、やや内湾気味に立ち上がる器形で、外面は口縁部横撫で、底部篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	
430-3	須恵器 羽釜	カマド内 —3cm 1/2残存	口 (10.6) 底 — 高 (6.4)	黒色鋳物粒多 細砂粒少	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(?)。鈔は下向きに貼付られ、口縁部は短く直立する。胴部は縦位の篋削り、内面は横位撫で。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
430-4	瓦 女 瓦	2 cm 破片	厚 1.9	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕をわずかに残す。凸面は縄叩き。	
430-5 192	石 器 薦編み石	± 0 cm 1/2残存	長 (11.6) 幅 (6.5) 厚 (5.0)	ひん岩			前面と側面が磨滅している。下端には剥離がみられる。	重 724.0

第208号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
433-1	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.6) 底 — 高 (2.9)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
433-2	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
433-3	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (5.0)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
433-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
434-5	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部は扁平な丸底で、受け部は水平に延び、口縁部は短くわずかに内傾する。	
434-6 192	須 恵 器 坏	覆土内 完形	口 10.2 底 — 高 3.6	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、受け部は反り気味で、口縁部は内傾する。底部は回転篋削りが施され、内面見込み部には、2本指のひと撫でが施されている。	
434-7	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.3)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で口縁部との境に段を有し口縁部はわずかに外傾する。天井部外面は撫で状の回転篋削りを施す。	
434-8	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.5)	細砂粒微 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は外傾する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
434-9	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (11.2) 底 — 高 (2.9)	黒色鉍物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立し、沈線状の窪みが巡っている。口縁部は横撫で、直下に横位撫で、底部は一方向の撫でを施す。	
434-10	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	白・黒色鉍物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に指頭痕状細砂粒微の押圧の痕跡が残る。	
434-11	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒微 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部直立する。口縁部は横撫で、底部は一方向の篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434-12 192	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434-13 192	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.3) 底 — 高 (3.5)	細砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
434-14 192	土 師 器 坏	覆土内 1/4残存	口 (13.4) 底 — 高 (3.1)	黒色鉍物粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分があり、この部分に明瞭な接合痕がみられる。	
434-15	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間に整形不明瞭な部分がみられる。この部分の一部には指頭痕がある。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
434-16	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
434-17	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
434-18 192	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (13.8) 底 — 高 (3.1)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
434-19 192	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (14.4) 底 — 高 (6.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
434-20 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。外面は口縁部横撫で後、体部に斜位の篋削りを施す。内面は全面丁寧な撫で後、斜放射状暗文を施す。	
434-21 192	土師器 坏	覆土内 完形	口 14.2 底 7.8 高 3.7	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部横撫で後体部外面横位底部は不定方向の篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後、体部側に斜放射状暗文を施す。見込み部にラセン暗文は観察できなかった。	底部に黒斑
434-22 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部からわずかに内湾する。小片のため全体はわからないが外面は口縁部横撫で、体部篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
434-23 192	土師器 坏?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部が強く内湾する器形で、外面は口縁部横撫で体部は横位(右→左)篋削りを施し、わずかに横位の篋磨きも認められる。内面は丁寧な撫で後斜格子状暗文を施す。	厚 0.7 暗文
434-24 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部斜位篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.4 暗文
434-25 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部がわずかに外反する器形で、外面は口縁部横撫で後、体部に横位篋削り、内面は撫で後、放射状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
434-26 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部が弱く内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部に斜位(右→左)篋削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
434-27 192	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.1) 高 (3.0)	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面体部及び底部は篋削り、内面は丁寧な撫で後体部に放射状、見込み部全面にラセン状暗文を施す。	暗文
434-28 193	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面は体部底部共に篋削り、内面は撫で後体部に放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
434-29 193	土師器 杯 A 1 平城 I 期	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部破片で、外面は撫で。内面は丁寧な撫で後、放射状暗文を施す。	厚 0.4 畿内産暗文
434-30 193	須恵器 甗	覆土内 把手部破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	把手部で、接合部から剝離している。成形は手捏ねで、指先の押圧と粗い面取り状の撫でがみられる。	
434-31 193	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (13.0) 底 8.4 高 3.6	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転糸切り無調整。	
434-32 193	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 13.8 底 7.0 高 4.8	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱い張りがある。底部は回転篋削り後の回転篋削りと考えられ腰部にも施されている。	内面見込み部に重ね焼き痕
434-33 193	須恵器 坏	覆土内 %残存	口 (11.4) 底 (7.0) 高 (3.9)	細砂粒多	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転?)。腰部に張りを有し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部から腰部にかけて手持ち篋削りを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
434-34 193	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 (6.8) 高 (3.5)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転篋切り無調整。	
434-35	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.5)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられるが、痕跡が不明瞭、底部の縁辺部に一本の篋磨き状の撫でがみられる。	内外面に 火だすき 有り
435-36 193	須 惠 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 (9.6) 高 (4.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	内外面に 自然釉
435-37	須 惠 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 (2.6)	黒色細粒多 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。高台は底部回転篋切り後の削り出しで、底部のほうがわずかに突出する。	内面に自然 釉
435-38 193	須 惠 器 塊	覆土内 完形	口 11.8 底 6.8 高 4.7	白色細粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
435-39	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 (6.2) 高 (4.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部に比較的強い張りを有する。高台は底部回転篋切り後の付高台と思われる。	
435-40	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (15.0) 底 (9.0) 高 (5.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反する。高台は付高台で、底部の切り離しは不明。	
435-41	須 惠 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (4.3)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篋切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴って、中央部をのぞいて撫でられている。	
435-42	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 — 底 9.0 高 (3.8)	褐色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	体部外面 に自然釉
435-43 193	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (16.0) 底 (8.6) 高 (6.9)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚部の張りは弱く、体部から口縁部にかけて内湾する。高台は底部回転糸切り後、底部周辺及び腰部に回転篋切り施した後の付高台。	内面見込 み部に重 ね焼き痕 器形に歪
435-44	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (19.0) 底 (11.8) 高 (7.7)	細砂粒微	還元焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて弱い張りを有する。内面見込み部は平坦で、体部はシャープに立ち上がる。高台は底部回転糸切り後体部下端に回転篋切りを加えた後の付高台。回転篋切りは逆回転の可能性あり?。	作りは全 体に丁寧
435-45 193	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (17.2) 底 (10.4) 高 (7.2)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。大形の深塊で、腰部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転篋切り後の付高台。	
435-46 193	須 惠 器 塊	覆土内 1/2残存	口 (18.0) 底 (12.0) 高 (7.9)	褐色細粒少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部の張りが強く、体部から口縁部にかけて反り気味である。高台は強く「ハ」字状に開くもので、底部回転糸切り後の付高台である。	
435-47 193	須 惠 器 台付盤	覆土内 1/2残存	口 (22.0) 底 (16.1) 高 (4.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は短く、わずかに内湾気味に外傾する。高台は底部と腰部回転篋切り後の付高台。	底部側に 薄く自然 釉
435-48	須 惠 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (9.5) 摘 — 高 (2.1)	黒色円粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。小振りで、天井部の張りが強い。摘は欠落しているが乳頭状か宝珠摘と思われる。内面かえりは短く内傾する。天井部外面に回転篋切りを施す。	
435-49	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (13.8) 摘 — 高 (1.5)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。内面かえりは比較的シャープで内側に位置している。天井部外面に回転篋切りを施す。	外面に自然 釉
435-50	須 惠 器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 摘 (4.4) 高 (2.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、口縁部が短く屈曲する。摘は環状摘で、回転糸切り後天井部外面に回転篋切りを施した後の貼付。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
435-51	須恵器 蓋?	覆土内 破片	口 — — — 摘高 (1.7)	黒色粒少	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(?).内面は全体撫でが施されており、反り気味で蓋か塚かの区別がつけがたい。	
435-52	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — — 底高 (6.5)	白色粒多	還元焰 硬質	暗灰	轆轤整形。強く外反し、上端で内側にわずかに屈曲する。外面中位に2本の沈線を巡らし上下に波状文を施す。	
435-53	土師器 甕	覆土内 底部破片	口 — — — 底高 —	砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	黒褐	底部破片で、木葉痕がみられる。	厚 1.6
436-54	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	口 (11.0) — — 摘高 (4.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。平底状の天井部を有し、口縁部は短く屈曲する。摘は欠落しているが環状摘と思われ、天井部外面に回転篋削り後に貼付している。この摘貼付部にはカキ目状の痕跡がある。	
436-55	須恵器 蓋?	覆土内 破片	口 (29.0) — — 摘高 (3.0)	砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。大振りで、口縁部はわずかに屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。内面の轆轤痕は顕著であり、台付の盤とは考えられない。	
436-56 193	須恵器 短頸壺	覆土内 瓦残存	口 — — — 底高 (7.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。肩部の張りが強く屈曲部に1本の沈線が巡っている。胴部上半は比較的丁寧に轆轤整形されているが、下半は雑で、底部の回転篋削りも手持ちで施したようだ。内面底部付近は、雑な撫でが施されている。	
436-57	土師器 甕	±0cm 破片	口 (22.0) — — 底高 (5.0)	片岩小礫少 黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	赤褐	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は、縦位の篋削りを施す。	
436-58	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) — — 底高 (11.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、上端でわずかに黒色鉱物粒少に屈曲する。口縁部は横撫で、胴部上半は横位、下半は斜位の篋削りを施す。	
436-59	土師器 甕	覆土内 破片	口 (26.2) — — 底高 (5.8)	細砂粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は「く」字状に強く外反し、上端で内側に短く屈曲する。口縁部は強い横撫で、胴部は横位の撫で状の篋削り、内面は指先?の横位撫でを施す。	
436-60	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — — 底高 (18.0) (5.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文。	
436-61	須恵器 鍋?	覆土内 破片	口 (47.0) — — 底高 (13.5)	白色細粒少 砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は轆轤整形。外面平行叩き、内面青海波文。	
436-62	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — — — 底高 —	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面格子状?平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
436-63 193	鉄器 刀子	覆土内 瓦残存	長 (10.0) 幅 (1.4) 重 11.6				2点の接点はないが錆の状態等から同一個体と考えた。細身で刃部中央にわずかに使用に伴う刃部の湾曲が認められる。	
436-64 193	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (8.2) 幅 (1.1) 重 9.2				同一個体と考えられるが、錆の進行が激しく剝離している。	
436-65 193	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (3.6) 幅 (0.6) 重 4.4				断面方形で、両端を欠損。	
436-66 193	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (2.4) 幅 (1.2) 重 4.4				錆の部分と本体との区別がつかない。用途不明。	
437-67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	一枚作り?。凹面に篋描き文字か?。凸面は、撫で。	
437-68	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 3.1	砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面面取りは2面。凹面布目は雑に撫でられている。凸面は撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
437-69 194	石 器 薦編み石	覆土内 %残存	長 (8.2) 幅 6.9 厚 3.8	石英閃緑岩			下端部欠損。使用痕不明。	重 352.0
437-70 194	石 器 敲 石	- 2 cm 完形	長 13.2 幅 7.0 厚 3.4	ひん岩			側面に剥離痕がみられる。	重 430.0
437-71 194	石 器 薦編み石	- 2 cm 完形	長 13.1 幅 6.2 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 440.0

第229号址

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
438-1	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (9.0) 高 (4.5)	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半にわずかに張りを有する。底部は回転篋切り無調整。	
438-2	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形 (右回転?)。	
438-3	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 (9.6) 高 (3.9)	細砂粒微 黒色細粒微	還元焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部に弱い張りを有する。底部は回転篋切り無調整。	
438-4 193	須 恵 器 塊	覆土内 %残存	口 15.8 底 8.8 高 8.0	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りの弱い深である。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
438-5	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (5.0) 高 (5.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。比較的大振りて深い器形である。高台は底部と腰部に回転篋切り後の付高台。	
438-6	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (4.5) 高 (1.8)	褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篋切り後の付高台で、底部は高台貼付に伴って撫で調整されている。	
438-7	須 恵 器 塊	覆土内 %残存	口 — 底 (7.5) 高 (3.1)	黒色円粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋切り後の付高台。内面調整が特に丁寧。	
438-8 193	須 恵 器 台付長頸 瓶?	覆土内 台部破片	口 (7.3) 底 — 高 (13.2)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形 (右回転)。強く「ハ」字状に開く高台部で、端部で屈曲する。体部との接合部で剥離しており、剥離面に回転糸切りの痕跡を残している。	内外面に 薄く自然 釉

第249号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
439-1	須 恵 器 瓶	カマド内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (1.6)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	底部破片で、高台は付高台であるが大半は剥離している。	
439-2	須 恵 器 転用硯	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き、内面格子?の須恵壘破片の転用硯で、中央部は光沢が出るほどに使われている。	厚 0.9
440-3	土 師 質 坏	カマド掘 り方 %残存	口 (11.0) 底 5.0 高 3.0	細砂粒多 白色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整。	
440-4 194	土 師 質 坏	- 2 cm %残存	口 10.2 底 6.0 高 (3.4)	白・黒色鉍物 粒少	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
440-5	土 師 質 塊	カマド掘 り方 破片	口 — 底 (7.4) 高 (2.8)	細砂粒多 白色鉍物粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。底部切り離し技法は不明で高台は付高台である。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
440-6	須恵器 壺	カマド内 3cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.5 外面に自然釉
440-7	須恵器 壺	カマド内 ±0cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4 外面に自然釉
440-8	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.5)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。胴部の張りは弱いものと考えられ、口縁部は反り気味に直立する。	
440-9	瓦 鏡瓦	カマド内 8cm 破片	厚	細砂粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	単弁五葉の瓦当であり、「はん」が磨滅したもののか文様にシャープさが無い。	
440-10 194	石器 敲石	覆土内 残存	長 (4.9) 幅 5.9 厚 2.8	粗粒安山岩			半截されており、下端部にわずかの剥離がみられる。	重 117.0
440-11 194	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.7 幅 10.8 厚 5.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 112.4

## 第209号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
443-1 194	土師器 坏	±0cm 完形	口 (11.7) 底 — 高 (3.6)	細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
443-2 194	土師器 坏	カマド内 残存	口 (11.6) 底 — 高 (3.5)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
443-3 194	土師器 坏	±3cm 完形	口 (13.5) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は外反し、上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、内面見込み部に放射状に篋が当てられた痕跡がある。	
443-4	土師器 坏	覆土内 残存	口 (15.0) 底 — 高 (4.8)	褐色細粒多 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に屈曲し、口縁部はわずかに反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、内面は全面撫で後放射状の篋磨きを施す。	内外面黒色塗彩? 内面カーボン附着
443-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.4) 底 — 高 (6.5)	褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は篋削りであるが、外面の磨滅が激しく不明瞭。	
443-6	土師器 坏	9cm 残存	口 (19.0) 底 — 高 (8.3)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に段を有し口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
443-7	須恵器 長頸瓶	14cm 破片	口 — 底 — 高 (7.3)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	淡黄	口縁部内外面は轆轤整形され、胴部は内面に青海波文がみられることから、叩き整形されているが、外面叩きは不明。	
443-8 194	須恵器 短頸壺	11cm ほぼ完形	口長 9.1 口短 6.6 高 7.2	黒色細粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。胴部は扁平で、口縁部は反り気味に直立する。底部は扁平な丸底である。底部に手持ち篋削りを施す。	器形の歪みが激しい
443-9 194	土師器 壺	±0cm 残存	口 (15.2) 底 — 高 (9.3)	片岩粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	胴部上半に強い張りを有し、口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、外面斜位(下→上) 篋削り、内面横位篋撫でを施す。	内面黒色処理?
444-10 194	土師器 壺	2cm 完形	口 13.8 底 — 高 15.0	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	浅黄橙	丸底で、球形状の胴部とわずかに反り気味に直立する口縁部を有する。口縁部は横撫で、胴部は篋削りと考えられるが、外面の磨滅が激しく不明瞭である。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
444-11 194	土師器 甕	貯蔵穴 ± 0 cm 残存	口 (12.6) 底 — 高 (16.6)	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	球形の胴部を有し、口縁部は「コ」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部外面斜位、口縁部内面横位の篋磨きを施す。胴部内面は横位の撫である。	
444-12	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面は青海波文であるが不明瞭。	厚 1.0
444-13	須恵器 甕	3 cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
444-14	須恵器 横瓶	17cm 残存	口 (11.0) 底 — 高 (10.2)	褐色細粒少 細砂粒微	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。硬質と胴部の接合面は内面で明瞭である。	
444-15 194	須恵器 瓶	10cm 破片	口 — 底 (11.0) 高 (7.5)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。円筒状の器形で内外面に轆轤整形痕を残す。底部及び胴部下端に篋削りを施す。	
444-16 194	石器 薦編み石	± 0 cm 完形	長 13.7 幅 7.8 厚 4.3	変質玄武岩			使用痕不明。	重 687.0
444-17 194	石器 薦編み石	覆土内 残存	長 (6.4) 幅 6.0 厚 4.9	粗粒安山岩			下端部欠損。	重 301.0
444-18 194	石器 敲石	21cm 完形	長 13.0 幅 7.2 厚 4.7	石英閃緑岩			両端部に敲打痕がみられる。	重 789.0
444-19 194	須恵器 羽釜	- 2 cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (20.3)	細砂粒多 褐色細粒多	中性焰 硬質	赤褐	紐作りで、轆轤使用の痕跡はみられない。胴部上位に張りをも有し、口縁部はわずかに内傾する。口唇部は平坦でわずかに内傾する。鏝は断面三角形でやや下方に貼付されている。鏝部下の胴部に縦位の篋削りを施す。	

第210号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
446-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.0)	砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	口縁部内面にカーボン付着
446-2 194	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.0) 底 (6.4) 高 (4.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整と考えられる。	底部の磨減が激しい
446-3 195	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (12.0) 底 (8.4) 高 (3.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上半に弱い張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	
446-4 195	須恵器 埴	覆土内 残存	口 (10.0) 底 (6.2) 高 (5.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張りはなく、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
446-5	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.4) 高 (4.1)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、2段の回転篋削りを施す。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
446-6	灰釉陶器 小埴?	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。腰部には回転篋削りが施され、施釉は刷毛掛けである。	
447-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9 内外面薄く自然釉
447-8 195	土師質 埴	2 cm 残存	口 (11.0) 底 (5.9) 高 (4.9)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。腰部の張りは弱く、体部中位が張り、口縁部は外反する。高台は付高台で、高台貼付に伴う調整で、底部切り離し技法は不明。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
447-9 195	土師質 坏	- 2cm 残存	口 (12.0) 底 5.8 高 (3.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 やや硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。口縁部が、強く外傾する。皿状の器形である。底部は回転糸切り無調整で強く高台状に突出する。	内面にカーボン付着
447-10	土師質 塊	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.6)	黒色鉱物粒微 白色細粒微	中性焰 やや硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(左回転?)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反する。高台は欠落しているが底部回転糸切り後の付高台である。内外面共に轆轤整形痕は不明瞭。	
447-11	土師質 塊	カマド内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (3.1)	白・黒色鉱物 粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は「ハ」字状に強く開く、長脚の付高台である。底部切り離しは高台の貼付に伴い、撫で消されているため不明。	
447-12	灰釉陶器 段皿	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。内面に強い段を有し、外面にもわずかに屈曲が認められる。施釉は刷毛掛けか?	厚 0.4
447-13	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。体部中位に弱い張りを有し口縁部は外反しない。施釉は刷毛掛けか?	
447-14	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。口唇部が強く外面肥厚する。施釉は刷毛掛けか?	
447-15	灰釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.5)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部上端は強く外反する。腰部には、3段程度の回転篋削りを施す。施釉は刷毛掛けである。	
447-16 195	緑釉陶釉 塊	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系?		オリ ブ灰	少破片であり全体形は不明であるが、口縁部がわずかに外反する比較的深めの塊と考えられる。	厚 0.3
447-17	須恵器 羽釜	5cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。口縁部は反り気味にわずかに内傾し、口唇部は平坦で、水平である。内面には、撫でがみられる。	
447-18	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	細砂粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?凹面横位撫で。凸面は、撫で後斜格子叩きを施す。	
447-19	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	細砂粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?凹面横位撫で。凸面は撫で後、斜格子叩きを施す。	
447-20	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	細砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?側端面取りは2面。凸面縦位篋削り。	
447-21	瓦 男瓦	12cm 破片	厚 1.3	細砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り?側端面取りは2面。凸面縦位篋削り。	
447-22	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒多 砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凹面に、粘土板糸切り痕。凸面全体撫でを施す。	
447-23 195	石器 敲石	覆土内 残存	長 (9.8) 幅 9.8 厚 6.0	粗粒安山岩			上端部に敲打痕がみられる。下端部欠損。	重 587.0
447-24 195	石器 薦編み石	12cm 完形	長 10.0 幅 6.9 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 407.6
447-25 195	鉄器 釘?	覆土内 破片	長 (5.4) 幅 11.4 重 16.8				両端部を欠損する。断面は長方形で曲がっている。釘であろうか?	
447-26 195	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (4.9) 幅 (0.6) 重 4.2				断面は長方形で、使途不明。	
447-27 195	鉄器 釘	覆土内 破片	長 (4.5) 幅 (0.6) 重 3.4				先端部の破片で、わずかに曲がっている。断面は方形。	
447-28 195	鉄器 不明	覆土内 破片	長 (4.0) 幅 (0.6) 重 3.4				断面は長方形で使途不明。	

遺物一覧表

第211号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
449-1 195	土師器 坏	12cm 完形	口 9.9 底 — 高 3.3	黒色鉾物粒少 褐色粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部の横撫では強く、底部篋削りも横撫で部に及んでいる。内面の撫では丁寧で、円心状の調整痕が明瞭に残っている。	
449-2 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.6 底 — 高 3.5	黒色鉾物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部はやや扁平な丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は、放射状の篋削りで、間にわずかに整形不明瞭な部分が見られる。	
449-3 195	土師器 坏	覆土内 1/4残存	口 (11.2) 底 — 高 (3.6)	白・黒色鉾物 粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は篋削り、口縁部は横撫で、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
449-4 195	土師器 坏	-2cm 完形	口 11.2 底 — 高 3.4	白・黒色鉾物 粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
449-5	土師器 坏	カマド内 1/2残存	口 12.0 底 — 高 3.7	黒色鉾物粒多 細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	口縁部外面に粘土付着
449-6 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.5 底 — 高 4.0	黒色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄橙	底部は平底で、体部は強く外傾し、口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部は一方、体部は斜放射状に篋削りを施す。	
449-7 195	土師器 坏	2cm ほぼ完形	口 13.0 底 — 高 3.7	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
449-8 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 13.0 底 — 高 4.3	黒色鉾物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間にわずかに整形不明瞭な部分が見られる。	
449-9 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 14.3 底 — 高 4.8	黒色鉾物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部中央一方、円周方向の篋削りを施す。	
449-10 195	土師器 坏	±0cm 完形	口 14.6 底 — 高 4.8	黒色鉾物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
449-11 195	土師器 坏	-2cm 完形	口 14.9 底 — 高 4.8	白・黒色鉾物 粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
450-12 196	土師器 杯 A I 平城II期	14cm 1/4残存	口 19.5 底 15.0 高 5.4	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	内面中央に焼成前の「×」印が認められる。内面は撫でて、暗文は無い。	畿内産
450-13 196	土師器 皿	9cm 1/2残存	口 (17.6) 底 — 高 (3.3)	黒色鉾物粒多 白色鉾物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で後底部に篋削りを施す。	
450-14 196	土師器 坏	±0cm 完形	口 17.2 底 — 高 4.2	白・黒色鉾物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
450-15 196	土師器 坏	±0cm 完形	口 17.4 底 — 高 4.0	黒色鉾物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は斜放射状の篋削りを施す。	
450-16	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は、強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
450-17 195	須恵器 坏	-4cm 完形	口 11.7 底 8.0 高 3.0	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。底部全面及び腰部に回転篋削りを施す。	
450-18 195	須恵器 坏	3cm 完形	口 11.1 底 7.8 高 4.1	細砂粒多	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は全面にわたって手持ち篋削りを施しており、わずかに突出している。	胎土、焼成共に他と異質

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
450-19	須恵器 坏	カマド内 瓦残存	口 (14.0) 底 (9.0) 高 (3.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	
450-20 196	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は平底であるが、わずかに突出し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は手持ち篋削り。	
450-21	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。	
450-22	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.4)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	
450-23 196	須恵器 塊	±0cm 完形	口 16.8 底 12.0 高 4.5	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。高台は角高台状で、底部回転篋削り後の付高台。	高台底面はわずかに磨滅している
450-24	須恵器 塊	カマド内 破片	口 — 底 (11.5) 高 (1.9)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り調整後の付高台。	
450-25	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (1.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り調整後の付高台。	
450-26	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部はやや反り気味に水平に開き、口縁部は、内傾する。	
450-27 196	須恵器 蓋	—3cm 完形	口 12.9 摘 4.7 高 2.2	白色細粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは弱く口縁部も短く外に開く。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付である。内面のかえりは短いが比較的シャープである。	
450-28 196	須恵器 蓋	2cm 完形	口 13.7 摘 4.0 高 2.8	黒色粒多	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部の丸味が比較的強く、口縁部の屈曲も弱い。摘は環状で口縁部内面のかえりは弱い。口縁部内面には重ね焼きの痕跡として坏口縁部が付着している。	外面に厚く自然釉
450-29	須恵器 蓋	掘り方覆 土内 破片	口 — 摘 4.0 高 4.0	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。摘は宝珠摘様のもので、天井部外面撫で調整後の貼付である。	
450-30 196	須恵器 蓋	8cm 完形	口 17.8 摘 5.9 高 3.1	細砂粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平底状で、口縁部がわずかに外に開く。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。内面かえりは短く内側に強く傾いている。	天井部内面中央にわずかな磨滅がみられる
450-31 196	須恵器 蓋	14cm 完形	口 17.2 摘 4.0 高 4.7	細砂粒少 砂粒微	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。天井部から口縁部にかけて直線的で、口縁部は下方に屈曲する。摘は小振りの環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付である。	
450-32 196	須恵器 蓋	±0cm 完形	口 17.4 摘 6.9 高 3.5	細砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。天井部の張りが比較的強く、口縁部はほとんど外に開かない。摘は環状摘で、天井部外面を広く範囲に回転篋削り後の貼付である。内面かえりは短く下方を向いている。	摘部上面にわずかな磨滅がみられる
450-33 196	須恵器 蓋	—2cm 完形	口 18.6 摘 4.2 高 4.7	細砂粒多	還元焰 やや硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁部外面に鋭い稜があるが、内面にはみられない。摘は外稜を有する環状摘で天井部外面回転篋削り後の貼付であろう。	焼成、色調が他と異質
451-34 196	須恵器 甕	—5cm 完形	口 12.3 底 — 高 14.1	細砂粒多 片岩粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	丸底で胴部中に張りを有し口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部上位は横位、下位は斜位の篋削りを施す。内面中位以上は黒色を呈し、下半は橙色であることから、使用に伴う痕跡と思われる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
451-35 196	須 惠 器 甕	- 2 cm 完形	口 13.3 底 — 高 13.7	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	オリ ブ灰	紐作り轆轤整形。底部は丸底で胴部上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に短く外反する。胴部は全体に撫でと押圧が加えられ、肩部には削り状のカキ目の痕跡が残る。	内外面に 自然釉
451-36	須 惠 器 長 頸 瓶	5 cm 破片	口 (9.4) 底 — 高 (8.3)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部の破片で、直線的にわずかに外傾する。	
451-37 197	須 惠 器 甕	- 2~20 cm 残存	口 — 底 15.0 高 (20.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形。頸部より上は欠落。胴部上半に張りを有し2本の沈線を巡らしている。底部は丸底状に作られており、底部周辺に撫で状の削りを施した後高台を貼付けている。	胴部外面 下半に激 しいハゼ
451-38 196	須 惠 器 長 頸 瓶	3~7 cm 完形	口 10.7 底 12.6 高 27.0	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部で鋭く屈曲し、口縁部は直線的に開く。高台は胴部下半回転篋削り後の付高台。肩部の上下には1本の沈線と5列の刺突文を施す。	
451-39	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篋削りを施す。	
451-40	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (6.6)	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の篋撫でを施す。	
452-41 196	須 惠 器 長 頸 瓶	- 2 cm 残存	口 — 底 (8.3) 高 (21.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。頸部上半を欠損。肩部はなだらかで胴部下半に弱い張りを有する。高台は胴部下端に回転篋削り後の付高台。	肩部に厚 く自然釉
452-42	須 惠 器 甕	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	小礫微 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部に細い突帯を1本巡らす。口唇部は平坦で外傾する。	厚 1.1
452-43	須 惠 器 長 頸 瓶 甕?	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	瓶の頸部と思われる破片で、段を2段有し、下に櫛描の波状文を施す。	厚 0.7 灰釉のよ うな胎土 焼成
452-44	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面はカキ目、内面は青海波文。	厚 0.8
452-45	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り。外面雑なカキ目、内面素文。	厚 0.9
452-46	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9 外面に厚 く自然釉
452-47 197	須 惠 器 甕	- 3~14 cm 残存	口 (26.0) 底 — 高 (29.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端に段を有する。外面は平行叩き後撫で、内面は、青海波文を施す。	
453-48	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
453-49 197	石 製 品 紡 錘 車	3 cm 完形	上径 4.5 下径 3.2 厚 1.7	砥沢石			上、下面とも丁寧に磨かれている。縁辺部は3~4面の面取り状に磨きを行ったことがわかる。穿孔は一方向から。	重 49.1 孔 0.6
453-50 197	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	径 1.5 厚 0.6 孔 0.2	滑石			両面共に比較的丁寧に調整されており、1面に断面「V」字状のきずがみられる。縁辺は左右方向の磨きによって整形されており、無数の条痕状のきずがみられる。	重 2.7
453-51 197	石 製 品 白 玉	覆土内 完形	径 1.3 厚 0.6 孔 0.3	滑石			両面共に比較的丁寧に調整され、縁辺には左右方向の擦痕が、多数みられる。穿孔は一方向。	重 1.4
453-52 197	石 製 品 白 玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.3 厚 1.0 孔 0.3	滑石			厚味のある白玉で、縁辺調整が左右方向だけでなく、上下方向の部分もみられる。穿孔は一方向。	重 2.2



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
453-53 197	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.2 厚 0.6 孔 0.2	滑石			縁辺の整形は比較的丁寧であるが、両面は割面に若干の調整を加えただけである。穿孔は一方向。	重 1.7
453-54 197	鉄器 不明	覆土内 —	長 (6.9) 幅 (5.0) 重 21.6				「L」字形に曲げられ、さらに先端が短く折り曲げられている。用途不明。	
453-55 197	鉄器 釘	カマド内 破片	長 (6.3) 幅 (1.2) 重 3.3				2点の接点は認められないが1面の剥離等から同一個体と考えられる。断面方形。	
453-56 197	鉄器 釘	覆土内 残存	長 (4.2) 幅 (1.0) 重 3.7				頸部は扁平な傘状で、身の周囲は錆のため剥離している部分が多い。	

## 第213号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
454-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.9) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
454-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自然釉
453-3 197	石製品 白玉	掘り方覆 土内 完形	径 1.2 厚 0.8 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向から。側面に擦痕がみられる。	重 1.9

## 第216号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
456-1 197	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.6) 底 (7.4) 高 (3.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、口縁部は強く外反する。底部は、回転糸切り無調整で、切りそこねのため強く突出する。	
456-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) 底 (9.0) 高 (3.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は、回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。	
456-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (2.5)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
456-4	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (2.7)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
456-5	須恵器 埴	掘り方覆 土内 破片	口 — 底 (13.0) 高 (1.0)	褐色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
456-6 197	須恵器 皿	— 4 cm ほぼ完形	口 14.3 底 7.5 高 3.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて強く外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面に重ね焼きの痕跡
456-7 197	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	暗灰	体部上半が張り、口縁部の外反するの口縁部破片で、内面に3mm程の厚さにカーボンが付着している。	厚 0.6 いぶし
456-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鈹物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	内外面篋磨き後、内面のみ黒色処理を施す。	厚 0.3
456-9	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (9.6) 底 — 高 (1.9)	白・黒色細粒 粒微	還元焰 硬質	明オリ ーブ灰	強く外反する口縁部で、上端に段を有する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	内外面共に厚く自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
456-10 197	須 恵 器 鉢	±0~5 cm %残存	口 (21.2) 底 (8.8) 高 (9.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はごくわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整である。	
456-11 197	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (21.2) 底 — 高 (7.1)	細砂粒多 黒色鉍微粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	いわゆる「コ」字状口縁で、口縁部は上下2段の強い横撫でが施されている。胴部上位は横位篋削り、内面は斜位の篋撫でを施す。	口縁部に 明瞭な接 合痕
456-12	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (22.7) 底 — 高 (10.4)	細砂粒多 黒色鉍微粒多	酸化焰 硬質	明赤褐	「コ」字状口縁を有する甕で、比較的薄い作りである。口縁部は横撫で、中位に接合痕を明瞭に残す。胴部上位は横位下半は斜位の篋削りを施す。内面は横位篋撫でを施す。	
456-13	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (11.2) 底 — 高 (5.5)	細砂粒少 黒色鉍微粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	「コ」字状を呈する。口縁部は横撫で、胴部上半は横位の篋削り、内面は撫でを施す。	
456-14	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.3)	細砂粒多 黒色鉍微粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	「コ」字状口縁を呈する。口縁部は強い横撫で、胴部上半は、横位篋削りを施す。内面は撫で。	
456-15 197	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 赤褐	「コ」字状口縁で、調整等は比較的丁寧である。口縁部は上下2段の強い横撫でを施し、間の整形不明瞭な部分に明瞭な接合痕を残している。胴部上半は横位の篋削りを施す。	
456-16	石 製 品 不 明	覆土内 —	長 3.4 幅 1.3 厚 0.7	緑泥片岩			整形等の痕跡はない。用途不明。	重 4.9
456-17	瓦 男 瓦	- 4 cm 破片	厚 2.5	砂粒多	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り?。凸面は撫で、側端面取り2面。凹面は粘土板糸切り痕を残し、篋描きの文字「?」がみられる。	
457-18	瓦 男 瓦	- 2 cm 破片	厚 1.9	砂粒少	中性焰 硬質	明赤褐	一枚作り?。側端面取りは2面。凹面に粘土板糸切り痕が残る。凸面は撫で。	
457-19	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは3面。凸面は撫で内外面にカーボン付着。	

第219号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
458-1 197	須 恵 器 坏	±0 cm %残存	口 (14.6) 底 (8.7) 高 (3.2)	砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上位に弱い張りを有し、全体に強く外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
458-2	須 恵 器 塊	-10cm 破片	口 — 底 (6.6) 高 (2.0)	黒色細粒少	還元焰 やや軟 質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
458-3	須 恵 器 坏	- 2 cm 破片	口 — 底 (7.6) 高 (2.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。見込み部はやや磨滅している。	
458-4	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	長 — 幅 — 厚 —	黒色粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	把手の破片で、撫で状の面取りがされている。	外面に厚 く自然釉
458-5	須 恵 器 塊?	-11cm 破片	口 (23.6) 底 — 高 (7.0)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。内外面の轆轤整形痕は顕著。	口縁部付 近内外面 に自然釉
458-6	土 師 器 甕	カマド左 壁25cm %残存	口 (17.0) 底 (8.0) 高 (27.5)	細砂粒多 黒色鉍微粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、上端部は短く直立する。胴部上半と中位にわずかに張りを有する。口縁部は強い横撫で、胴部上半横位、下半斜位の篋削りを施す。内面は撫でで下半の接合部下半には特に強い斜位の指撫でが施されている。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
459-7 198	瓦 女瓦	±0cm ほぼ完形	厚 2.3	小礫微 白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは3面、狭端部、広端部共に凹面側に篋削りがされている。凹面全面に粘土板糸切り痕がある。凹面広端部近くに連続する楕円形の刺突が2ヶ所ある。凸面は全面撫で。	
459-8	瓦 男瓦	破片	厚 1.7	褐色粒少 黒色鉍物粒少	還元焰 硬質	淡橙	桶巻き作り?。側端面取りは1面。凸面は縄叩き後横位に粗い撫でが施されている。	カマド右壁17cm
459-9	瓦 男瓦	カマド右壁24cm 破片	厚 2.1	細砂粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは2面。凹面布目には、縦位の指撫でがみられる。凸面は平行叩き?後の撫で?か。	
459-10	瓦 女瓦	カマド左壁33cm 破片	厚 1.3	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。側端面取りは2面。狭端部凹面側に篋削り。凹面に粘土板糸切り痕、凸面は削り状撫でを施す。	
460-11	瓦 女瓦	カマド奥壁31cm 破片	厚 1.8	白色細粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻き作り?。凹面に、粘土板糸切り痕と模骨痕がみられる。側端面取りは2面。凸面は削り状撫で後斜格子叩きを施す。	
460-12	瓦 女瓦	破片	厚 1.6	砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面取りは1面。凹面布目は所々撫でられている。凸面は全面撫でを施す。	カマド左壁16cm
460-13 198	石器 薦編み石	4cm ほぼ完形	長 18.4 幅 6.0 厚 5.7	粗粒安山岩			側面に擦痕、下端に剝離がみられる。	重1000.0

## 第217号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
462-1 197	灰釉陶器 壺	5cm 1/4残存	口 (17.0) 底 (8.2) 高 (4.9)	猿投系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有し口縁部は外反する。高台は典型的な角高台で底部回転糸切り後の付高台である。体部下半は回転篋削りが施されている。施釉は内面だけで厚く刷毛掛けされている。トチンの痕跡は不明瞭である。	K14 底部及び体部外面に篋描き
462-2 197	土師質 壺	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少 黒色鉍物粒微	中性焰 硬質	ぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部の張り、口縁部の外反共に弱い。	
462-3 198	土師器 甕	3cm 破片	口 — 底 3.2 高 (10.9)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	ぶい 赤褐	「武蔵型」甕の胴部下半で、全体に縦位(上→下)の篋削りを施す。内面に接合痕。	
462-4	須恵器 甕	21cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	暗青灰	轆轤整形(?)。内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。	内外面に自然釉

## 第218号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
464-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	黒色鉍物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は丁寧な撫でを施す。	
464-2	須恵器 壺	19cm 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.1)	細砂粒多 黒色鉍物粒少	還元焰 軟質	黒	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。軟質のため器面全面が磨滅している。	いぶし
464-3 198	須恵器 壺	覆土内 1/4残存	口 (14.0) 底 (8.4) 高 (6.0)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
464-4	須恵器 壺	21cm 破片	口 — 底 — 高 (2.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、接合部から剝離している。体部外面の轆轤調整痕は明瞭であるが、内面は平らに撫でられている。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
464-5	須 恵 器 甕	± 0 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。内面に轆轤整形痕を明瞭に残し、外面には自然釉と融着物がみられる。	厚 1.2

第217・218号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
465-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鈳物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部から口縁部にかけて、わずかに内湾する。口縁部は横撫で体部から口縁部にかけての調整は不明瞭。内面は丁寧な撫でである。	
465-2 198	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 白・黒色鈳物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は外傾し、口縁部上端はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
465-3 198	土 師 器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.2)	黒色鈳物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部中位にわずかに張りを有する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
466-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	白・黒色鈳物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに屈曲する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
466-5	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鈳物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部下半にわずかに張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は強い横撫で、底部は篋削りで、体部は整形不明瞭、内面は丁寧な撫でを施す。	杯Aの模 模倣?
466-6	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.8) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 黒色鈳物粒少	酸化焰 硬質	橙	丸底で口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
466-7 198	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鈳物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	体部下半から底部にかけての破片で、外面は体部、底部共に篋削り、内面は撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
466-8 198	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後、体部に横位(右→左)篋削り内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.6
466-9	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (2.0)	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
466-10	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.8)	黒色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	外面に自然 釉
466-11	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.4) 高 (2.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	内面見込 み部わず かに磨滅
466-12	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 (2.8)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。	
466-13	須 恵 器 埴	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (5.0)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく口縁部も外反しない。	
466-14	須 恵 器 蓋?	覆土内 破片	口 11.4 — 高 (2.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾気味である。	
466-15	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) — 高 (2.3)	片岩小礫微 砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。口縁部が折り返しによって形成されている。	
466-16	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒少 黒色鈳物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に屈曲する。口縁部は横撫でで、指頭痕がみられる。胴部は横位篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-17	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (6.5)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	「く」字状口縁の前段階の、口縁部形態である。口縁部は横撫でで、中央部に接合痕がわずかに観察できる。胴部は横位篋削り、内面は撫でである。	
466-18	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.0)	細砂粒少 黒色鈹物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	「こ」字状を呈する口縁部で、作りも薄く丁寧である。口縁部は上下2回の横撫でで、仕上げられ、中間の部分には明瞭な接合痕がみられる。胴部は横位篋削り、内面は丁寧な篋撫でである。	
466-19	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.0)	白・黒色鈹物 粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はわずかに外反し、中位に明瞭な接合痕がみられる。口縁部は横撫でで、胴部は斜位の篋削り、内面は撫でを施す。	
466-20 198	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 5.5 高 (13.5)	細砂粒多	酸化焰 硬質	赤褐色	「武蔵型」甕の胴部下半で、外面に縦位の篋削りが施されている。内面には接合痕が明瞭に残り、底部付近には斜位の篋撫での痕跡がある。	両面底部にカーボン付着
466-21 198	鉄器 釘	覆土内 破片	長 4.9 幅 1.2 重 11.9				頭部側の破片である。断面方形。	
466-22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鈹物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凸面は、雑な撫でで、凹面布目は一部撫で消されている。	
466-23	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凹面は布目は縦位に撫で消されている。凸面は縄叩きがされ、粗い撫でが施されている。	

## 第221号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469-1 198	土師器 坏	覆土内 ㄨ残存	口 (13.1) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	赤褐色	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はやや反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。内面見込み部に篋を当てた痕跡あり。	内外面黒色塗彩
469-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部は斜上方に延び、口縁部はやや反り気味に内傾する。	内面にわずかに自然釉
469-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 10.7 底 — 高 (3.0)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底で、受け部はやや上方を向き、口縁部は中位で屈曲し、内傾する。	外面に薄く自然釉
469-4	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.6) 底 — 高 (8.9)	片岩小礫多 細砂粒多	酸化焰 硬質	赤褐色	胴部の張りは弱く口縁部は「く」字状に外反する。口縁部は横撫で後胴部に縦位の弱い篋削りを施す。内面は横位の指先による撫で。	
469-5	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.6)	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	胴部上半に強い張りを有し、この最大径の部分に2本の沈線と間に9本単位?の波状文を施す。胴部下半は平行叩き後にカキ目を施し内面は縦位の指先の撫でを強く施している。	外面肩部に自然釉
469-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	厚 0.4
469-7	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.6) 高 (1.8)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。	
469-8	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.5)	白・黒色細粒 少 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。	
469-9 198	須恵器 蓋	±0 cm 完形	口 17.8 摘 4.2 高 3.9	白色細粒多 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部は強く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面の篋削りは左回転によって行っている。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
470-10 198	須恵器 埴	- 2 cm 1/4残存	口 (10.4) 底 (6.1) 高 (4.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(右回転)。腰に弱い張りを有し、体部から口縁部にかけて外傾する。高台は底部と腰部回転斲削り後の付高台。	口縁部付近の外面に自然軸
470-11	須恵器 埴	- 3 cm 1/4残存	口 (16.5) 底 (9.2) 高 (8.1)	細砂粒微 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。腰部に張りを有し、体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。高台は底部回転糸切り後の付高台。腰部には2段の回転斲削りを施す。	
470-12	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 15.5 摘 — 高 (1.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、口縁端部は短く屈曲する。摘は貼付部から剥落しているが、摘貼付に際して本体にラセン状の沈線を施している。	
470-13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.6) 摘 (4.0) 高 (2.8)	細砂粒微 褐色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。比較的扁平な器形で、口縁部が短くわずかに屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転斲削り後の貼付である。	
470-14	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.3) 高 (2.2)	黒色細粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部にやや張りを有している。摘は環状に近い形状で、天井部外面回転斲削り後の貼付である。	
470-15	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	肩部外面に沈線と刺突を施し、頸部周囲はカキ目、内面は撫でを施す。	厚 0.6
470-16	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	外面上位に沈線と波状文を施す。下半は平行叩き、内面当具の痕跡は撫で消されている。	厚 0.9
470-17	常滑? 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	焼締 硬質	暗赤褐	外面に薄く釉薬がかかり、内面の撫では顕著である。	厚 1.1
470-18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.2)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	暗緑灰	胴部に触着物が付着したもの。円形であるが周縁に加工痕はみられず、偶然に割れたものであろうか?。外面は平行叩き、内面青海波文。	外面自然軸
470-19	土師器 甕	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (13.7)	片岩粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は「C」字状に短く外反する。口縁部は横撫で、胴部は斜位の撫で状の斲削り、内面は斜位斲撫でを施す。	外面及び口縁部内面の磨滅が激しい
470-20	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (13.6) 底 (7.1) 高 (5.7)	砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部は外反する。高台は雑な付高台。	
470-21	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 (2.7)	片岩粒少 細砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。	
470-22	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.8)	黒色鉾物粒多 細砂粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部は強く外反する。外面整形は雑。	
470-23	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (10.6)	砂粒多 黒色鉾物粒少	還元焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。胴部に張りは強く口縁部は内湾気味に内傾する。口唇部は平坦で内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残すが、口縁部内面に弱い指頭痕状の窪みがみられる。	
470-24	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。胴部に張りを有し、口縁部は内湾気味に内傾する。口唇部は平坦で内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	
470-25	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色細粒多	還元焰 硬質	黄灰	一枚作り。凹面布目は非常に明瞭。凸面は撫で、端部は何か当たった痕跡を顕著に残している。	
470-26	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	赤褐	一枚作り?。凹面は、撫でによって布目が施されている。凸面は斜格子叩き。	
471-27 198	石製品 白玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.2 厚 0.3 孔 0.2	滑石			穿孔は一方から。裏面は剥離している。	重 1.0
471-28 198	石器 敲石	覆土内 完形	長 7.0 幅 5.1 厚 4.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 540.0

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
471-29 198	石器 薦編み石	23cm 片残存	長 (10.6) 幅 5.6 厚 4.9	石英閃緑岩			下端部欠損。使用痕不明。	重 445.0
471-30 198	石器 敲石	2 cm 完形	長 18.3 幅 7.3 厚 4.7	粗粒安山岩			上端部に剥離がみられる。	重 943.0

## 第222号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
472-1	土師器 甕	覆土内 片残存	口 (10.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 褐色細粒多 白色細粒少	酸化焙 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。底部は回転糸切り無調整である。内面の轆轤整形痕は顕著。	
472-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (8.6) 高 (1.0)	白色細粒少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
472-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焙 硬質	灰	底部破片で、わずかに突出する。外面は撫で、内面は青海波文。	厚 0.9
472-4 199	金属製品 耳環	覆土内 完形	径 2.6 厚 0.6	銅製			環状で、1ヶ所切れている。全面に緑錆がみられる。	重 11.0 内径 1.5
473-5	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焙 硬質	灰	内面撫で、外面はカキ目。	厚 1.1 内外面に カーボン 付着

## 第223号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
475-1 199	土師器 甕	覆土内 片残存	口 (13.4) 底 — 高 (2.7)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焙 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	
475-2	土師器 甕	±0 cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部周辺は円周方向、中央部は一方方向の篋削りを施す。	
475-3	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.2) 底 — 高 (4.3)	白・黒色鉱物 粒多	酸化焙 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に横位篋削りを施す。	
475-4	須恵器 甕	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.7)	白色細粒少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で、底部から腰部にかけて回転篋削りを施す。	底部付近 と内面に 自然釉
475-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (16.8) 底 — 高 (3.5)	白・黒色細粒 少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾し腰部に回転篋削りを施す。	
475-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.8)	黒色細粒多	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部が短く屈曲する。	
475-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.0) 摘 — 高 (1.5)	細砂粒少	還元焙 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。扁平な天井部で、外面に回転篋削りを施す。内面かえりは痕跡程度である。	
475-8	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (4.2)	白色細粒微	還元焙 硬質	灰	胴部の張りは強く、口縁部は直立する。口唇部は平坦で、ごくわずかに内湾する。内外面に共に轆轤整形痕を残す。	

遺物一覧表

第224号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
476-1	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (9.4) 高 (3.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて反り気味に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
476-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (4.0)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味である。	外面に自然釉
476-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (4.2) 摘 — 高 (1.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。環状摘で作りは丁寧。	内面に自然釉
477-4 199	須恵器 羽蓋	±0cm 残存	口 (19.2) 底 (5.2) 高 (23.2)	細砂粒少 黒色鉍微粒微	還元焰 やや硬質	灰	紐作り轆轤整形。胴部中位に張りを有し、口縁部は反り気味に直立する。鏝は上面が水平の状態である。胴部上半は轆轤整形痕を残し、下半は2段の斜位の篋撫でを施す。	胴部外面にカーボン付着
477-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	頸部破片で、外面に10本単位の波状文とボタン状貼付文を施す。内面は轆轤整形痕を残す。内外面に薄く自然釉。	厚 1.3
477-6	石製品 支脚	燃焼部中 央 残存	長 (17.1) 幅 (9.0) 厚 (9.2)	未固結凝灰岩			周囲は面取りがされ、上半分を欠損する。	
477-7	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	細砂粒多 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面は、横位の撫で状の篋削り。凸面は撫でを施す。	

第225号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
479-1 199	須恵器 坏	覆土内 残存	口 (13.4) 底 6.2 高 (3.8)	細砂粒微	還元焰 やや軟質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は強く外反する。底部は回転糸切り無調整で、底部にワラ状のものの圧痕がある。	
479-2	須恵器 埴	±0cm 残存	口 — 底 6.8 高 (3.1)	褐色細粒少	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
479-3	須恵器 埴	12cm 残存	口 — 底 (7.0) 高 (3.1)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い、回転糸切り痕は粗く撫で消されている。	底部に篋先?の刺突あり
479-4 199	須恵器 埴	-2cm 残存	口 — 底 (6.0) 高 (1.9)	白色細粒少 褐色細粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部上半は欠損する。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面見込み部に墨書。文字は不明。	墨書
479-5	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (2.6)	美濃系		明灰	釉の発色が非常に悪く、施釉技法は不明。	
479-6	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.6)	美濃系		灰白	口唇部がわずかに外に屈曲する。施釉は刷毛掛けか?。	
479-7 199	土製品 とりべ	覆土内 破片	口 (8.7) 底 — 高 (3.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	手握ねで成形されている。内面には発泡した黒色の付着物が厚く付着し、一ヶ所緑錆が認められた。断面の内面側程度は、発泡しピンクに変色している。	
479-8	須恵器 甕	16cm 破片	口 — 底 (14.0) 高 (18.2)	砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。外面の撫で整形はやや粗く、内面に轆轤調整痕を明瞭に残している。高台は付高台。	
479-9 199	灰釉陶器 小瓶	3cm 残存	口 — 底 — 高 (6.0)	美濃系		灰	轆轤整形。肩部に張りはなく、胴部下半に最大径を有する。釉は部分的にしかみられず、発色も悪い。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
479-10	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.2)	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	「コ」字状口縁の崩れたもので、口縁部上端外面に沈線が巡る。口縁部は横撫で、胴部上半は横位篋削りで、口縁部横撫で部との間に整形不明瞭な部分はある。内面は横位篋撫で、条線状の痕跡がある。	
479-11	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.4) 底 — 高 (8.5)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	「コ」字状口縁の崩れたものと考えられる。口縁部の横撫では肩部にも及び、胴部上半横位篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	
479-12 199	土製品 土錘	覆土内 %残存	径 1.2 長 (3.0) 重 4.0	褐色細粒微	酸化焰 硬質	灰	紡錘形の土錘で、両端部を欠損している。器面は丁寧に磨かれており、わずかに溝がある。	
479-13 199	鉄器 釘?	覆土内 —	長 4.1 幅 0.6 重 14.2				「C」字状に曲がっているが、断面は方形であり、釘が曲がったものと考えられる。	
479-14 199	鉄器 不明	覆土内 —	長 8.5 幅 2.7 重 16.4				小刀等の茎の部分かとも考えられるが、刃部側の身巾が大きくなりすぎる気もする。いずれにしても何らかの茎となることは確実である。断面長方形。	
480-15	須恵器 甕?	覆土内 破片	口 — 底 (18.0) 高 (7.1)	砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形。胴部下端内面に段を有し、1ヶ所窪みがみられた。	
480-16	瓦 女瓦	12cm 破片	厚 1.6	砂粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り。側端部の面取りは3面。凹面布目はわずかに磨滅している。凸面は縦位縄叩き後粗い撫でを施す。	
480-17	瓦 女瓦	— 3cm カマド内 20cm 破片	厚 2.0	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは2面。狭端部は斜に篋削りされている。凹面の布目は粗く横位→縦位の撫でが施され、大半が消されている。凸面はわずかに粘土板糸切り痕が残り、全面に縄叩きが施されている。	
480-18	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは1面。凹面の布目は明瞭であるが、一部撫で消されている。凸面は撫で。	
480-19	瓦 女瓦	カマド内 9cm 破片	厚 1.7	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは2面、凹面には一部粘土板糸切り痕が残り、布目は明瞭で薄く自然釉がかかっている。凸面は端部側横位その他は縦位の縄叩きで、離れ砂がみられる。	
480-20 199	石器 薦編み石	12cm 完形	長 10.9 幅 6.3 厚 5.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 783.0

## 第226号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
482-1	土師器 坏	カマド内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
482-2	須恵器 甕	柱穴 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0
482-3	須恵器 短頸壺	カマド内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (8.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	胴中位が強く張り、口縁部は短く直立する。内面には轆轤調整痕を残し、胴部外面は全面カキ目を施す。	

遺物一覧表

第227号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
484-1 199	土師器 坏	覆土内 片残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多 白色鉍物粒少	酸化焰 やや硬質	灰黄	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りであるが磨減が激しく不明瞭。	胎土、焼成共他と異質
484-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (3.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	外面に薄く自然釉
484-3	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (11.0) 高 (1.9)	白色細粒多 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削りを施す。	外面の一部に自然釉
484-4	土師器 質塊	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (3.2)	細砂粒多 白・黒色鉍物粒少	中性焰 やや軟質	橙	轆轤整形(右回転)。体部下半に張りを有する。高台は付高台で、底部切り離しは回転糸切りと思われるが、撫でによって不明瞭。	
484-5	土師器 甕	-13cm 破片	口 (21.0) 底 — 高 (4.1)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部は強く張る器形と考えられる。口縁部は横撫でで、胴部外面には横位篋磨きが施されている。	
484-6 199	土師器 甕	カマド内 片残存	口 (17.4) 底 — 高 (24.8)	細砂粒多 黒色鉍物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の篋削りを施す。内面は斜位の撫でである。	
484-7 199	石器 薦編み石	8 cm 完形	長 14.4 幅 7.6 厚 4.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 775.0

第228号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
486-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.1)	褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
486-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒微 白・黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分があり、接合痕がみられる。	
486-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒少 白・黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	口縁部に穿孔がある
486-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒微 白・黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味の丸底で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	
486-5 199	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (8.9) 高 (3.8)	細砂粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾する。外面は口縁部横撫で後体部に斜位篋削りを施し、内面は全面撫で後体部に放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	暗文
486-6 199	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部が内湾する器形で、外面は口縁部横撫で後体部に横位(右→左)篋削りを施し、内面は撫で後放射状と斜放射状暗文を組み合わせ格子状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
486-7	須恵器 境	覆土内 破片	口 (11.0) 底 (6.0) 高 (4.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(?)。体部中位に弱い張りを有する。高台は付高台で、底部調整が施されているものと考えられる。	体部、高台底部に自然釉
486-8 200	須恵器 蓋	± 0 cm 完形	口 8.5 摘 2.8 高 4.5	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。天井部の丸味は弱く内面のかえりが異常に長く内傾する。摘は環状摘で小振りである。	
486-9	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰オリ ープ	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平な器形で口縁端部が弱く屈曲する。天井部外面は回転篋削りを施している。摘は欠落して不明。	
486-10	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (4.6)	砂粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、内面は弱い受口状を呈する。口縁部は横撫で、胴部は斜位に篋削りを施す。	

## 第230号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.7) 底 — 高 (3.6)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
487-2 200	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は弱く内湾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施し、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487-3 200	土師器 坏	覆土内 残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	細砂粒微 黒色鉱物粒微	酸化焙 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。底部は撫で状の篋削り、口縁部は横撫で、間に整形不明瞭な部分がある。	
487-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487-5 200	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.5) 底 — 高 (3.1)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焙 やや軟 質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部はわずかに反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は放射状の篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487-6 200	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.4) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で底部は斜放射状の篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
487-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒微	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	口唇部に わずかに カーボン 附着
487-8 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焙 やや軟 質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
487-9	土師器 坏	覆土内 残存	口 13.5 底 — 高 3.2	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は強く内湾する。口縁部は横撫で、底部は円周方向の篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488-10	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
488-11	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.8) 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は強い横撫で底部は削り状の撫で、間にひびの入ったような調整不明瞭な部分がみられる。内面は丁寧な撫でを施す。	
488-12	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。内面は丁寧に撫でが施されている。	
488-13 200	土師器 坏	覆土内 残存	口 (16.4) 底 — 高 (4.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で底部は斜放射状の篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488-14	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.7) 底 — 高 (4.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に調整不明瞭な部分がみられる。	
488-15 200	土師器 坏	- 2 cm 残存	口 (16.8) 底 — 高 (4.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は撫で状の篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
488-16 200	土師器 杯 A I 平城 I 期	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	酸化焙 硬質	橙	体部破片で、外面撫で、内面は丁寧な撫で後、密な放射状暗文を施す。	厚 0.5 畿内産暗 文
488-17 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾し、内面に窪みが巡る。外面は口縁部横撫で後体部に斜位 (左→右) 篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.6 暗文
488-18 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	体部破片で、外面篋削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4 暗文

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
488-19 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	片岩粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	体部から口縁部にかけて、わずかに内湾する器形で、外面は口縁部横撫で、体部斜位(下→上)篋削りを施し、内面は全面撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.7 暗文
488-20 200	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部から底部にかけての破片で、外面体部及び底部は篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
488-21 200	土師器 坏	6 cm 1/2残存	口 (14.4) 底 (8.5) 高 (4.4)	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。体部外面は口縁部横撫で後横位の篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状の暗文を施し、交叉する部分では一部斜格子状暗文状にみえる部分がある。見込み部にラセン暗文が施されている。	暗文
488-22 200	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 8.1 高 3.7	褐色粒少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、強く外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
488-23 200	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (11.2) 底 (6.0) 高 (4.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転篋削り後の回転篋削りと考えられ、底部外縁及び腰部部分に段の回転篋削りが施されている。	
488-24	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.8)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部の外傾は強く体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。底部の切り離しは不明でわずかに丸底気味に突出する。腰部に重ね焼き痕?	外面に自然釉
488-25	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 (8.4) 高 (3.8)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転篋削り無調整。	
488-26 200	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (15.0) 底 (9.5) 高 (3.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転篋削り後周辺に2段の回転篋削りを施す。	
488-27	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.1) 底 (7.2) 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整で、体部下半に篋削りを施す。	内外面に火だすき
488-28	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (11.0) 底 (6.9) 高 (4.9)	黒色粒多 細砂粒微	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有する。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面は比較的丁寧に撫でられ、轆轤整形痕をほとんど残さない。内面下半に重ね焼き痕?	
488-29 200	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (11.0) 底 6.6 高 4.7	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて弱く内湾する。高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。	
488-30 200	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 (9.2) 高 (5.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で、腰部にも張りは無い。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
488-31 200	須恵器 埴	覆土内 1/2残存	口 (19.4) 底 (10.8) 高 (8.2)	細砂粒少 褐色粒微	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的で腰部にごくわずかな張りが有する。高台は底部回転糸切り後、底部周辺及び腰部回転篋削り後の付高台。	内外面の磨減が激しい
488-32 201	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (21.8) 底 (14.0) 高 (3.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰に張りを有し、体部は直線的に外傾する。底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
489-33 201	須恵器 台付盤	覆土内 1/2残存	口 (19.5) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰の張りが強く、体部が直線的に外傾する。底部及び腰部を回転篋削り後脚部を貼付している。	内外面に薄く自然釉
489-34	須恵器 台付盤	2 cm 破片	口 (23.7) 底 (19.3) 高 (4.8)	黒色粒多	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味に外傾する。高台は付高台。	
489-35	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部破片で、回転篋削り後に篋状工具によって高台を作り出している。	底部に自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
489-36	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (1.0)	細砂粒微	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部の破片で、回転篋削り後に篋状工具の撫でによって高台を作り出している。	
489-37 201	須恵器 蓋	±0cm ほぼ完形	口 13.0 摘 3.8 高 2.9	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で天井部外面回転篋削り後の貼付。	
489-38	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 3.7 高 (2.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は宝珠状?で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
489-39	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (11.7) 摘 — 高 (3.7)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部に弱い張りを有し、口縁部は外反する。摘は、欠落しているため不明。	
489-40	須恵器 蓋	覆土内 1/2残存	口 (19.2) 摘 — 高 (2.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。比較的扁平な器形で口縁端部は短く屈曲する。摘は環状摘であるが欠落している。	外面に自然釉
489-41	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.3) 摘 — 高 (1.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、口縁端部は短く屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
489-42	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.5) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半に横位篋削りを施す。	
489-43	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 (9.8) 底 — 高 (6.5)	褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	直線的に外傾する器形で、内外面に轆轤整形痕を明瞭に残す。	内外面に自然釉
489-44	須恵器 高 坏	覆土内 破片	口 — 底 (13.8) 高 (10.2)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部下半が強く開き、端部は短く屈曲する。	
489-45	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (20.8) 底 — 高 (5.1)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部は強く反り気味に外傾し、上端は屈曲する。	
489-46	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (11.2) 高 (3.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部と判断したが、自然釉が内面にみられないことから脚部の可能性もある。	
489-47	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (13.7) 高 (4.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	胴部は回転篋削りされているようであるが、不明瞭。	内面見込み部及び外面胴部に自然釉
489-48	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 (19.9) 高 (7.2)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。丸底の底部を有する甕に高台を貼付している。外面は平行叩きで、底部にまで及んでいる。内面は青海波文。	
489-49	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒少	還元焰 硬質	灰	外面は波状文が施され、内面は横位撫でを施す。	厚 0.8
489-50	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0 外面に自然釉
489-51	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に波状文を施す。	厚 1.1
489-52	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面は平行に近い文様の当具である。	厚 1.5 外面に自然釉
490-53	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	外面に沈線と6本単位の波状文を施す。	厚 1.0
490-54	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面変形叩き?、内面青海波文。	厚 0.7

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
490-55 201	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (2.7) 幅 2.0 重 7.7				頭部の破片で、傘のような形状をしている。	

第235号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
492-1	土 師 質 壺	覆土内 破片	口 (16.4) 底 — 高 (5.0)	黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	淡黄	轆轤整形(左回転?)。内外面の器面調整は雑。	

第239号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
494-1 201	土 師 質 壺	±0cm ほぼ完形	口 11.6 底 (5.8) 高 4.6	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(左回転)。腰部の張りは強く、口縁部はわずかに外反する。高台は強く「ハ」字状に開くもので、付高台である。	
494-2	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (2.1)	細砂粒多	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部撫で調整後の付高台で、外面貼付部が明瞭に観察できる。	
494-3 201	灰釉陶器 皿	2cm 1/4残存	口 (12.5) 底 (6.5) 高 (2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。腰部に強い張りを有し口縁部はわずかに外反する。高台は底部回転糸切り後の付高台で、全体に突出する。施釉は漬け掛けであろう。	内面に重ね焼きの高台付着
494-4	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 4.0 高 (2.4)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	内面に自然釉
494-5 201	須 恵 器 盤	±0cm 1/4残存	口 (24.2) 底 (18.2) 高 (4.1)	細砂粒少	中性焰 やや硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。大形のもので、腰部に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。高台は底部及び腰部篋削り後の付高台。	内外面の磨減が激しい
494-6 201	土 師 器 土 釜	2cm 破片	口 (25.0) 底 — 高 (18.5)	細砂粒多 小礫微 黒色鉍物粒多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	紐作り。胴部上半に張りを有し口縁部は「C」字状に外反する。口縁部横撫で後、胴部上半横位、下半縦位の篋削り、内面は斜位の撫でを施す。	
494-7 201	土 師 器 羽 釜	カマド内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (12.5)	細砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 軟質	橙	紐作り。全体に轆轤使用の痕跡はみられない。胴部の張りは弱く、口縁部は直線的に直立する。鏝は断面三角形で雑な貼付である。胴部外面鏝下は縦位(上→下)の篋削り、内面は斜位の撫でを施す。	
494-8	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 内面の器面剝落
494-9	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色細粒多 褐色粒多	還元焰 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り?。側端面取りは3面。狭端面凹面に篋削り、凸面は削り状の横位撫で。第494図-10と同一個体。	
494-10	瓦 男 瓦	カマド奥 壁13cm 1/4残存	厚 2.0	白色細粒多 褐色粒多	還元焰 硬質	にぶい 赤褐	一枚作り?。側端面取りは3面、広端面凹面に篋削り、凸面は削り状の横位撫で。第494図-9と同一個体。	
494-11 201	鉄 器 釘	覆土内 破片	長 (4.9) 幅 (1.3) 重 8.4				両端を欠損する釘で直角に曲がっている。	

## 第240号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
495-1 201	土師器 坏	カマド内 残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で口縁部との境に強い段を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	内外面黒色塗彩
495-2 201	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.8 底 — 高 3.5	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りて、間に整形不明瞭な部分のみられる。	
495-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りて、間に整形不明瞭な部分のみられる。	
495-4 201	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 13.9 摘 3.5 高 3.3	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りが強く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
495-5 201	須恵器 蓋	覆土内 完形	口 (15.8) 摘 3.5 高 3.5	細砂粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	口縁部が 全面打ち 欠かれる
495-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (1.5)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋削り無調整。	
495-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面に薄 く自然釉
495-8 201	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.3 幅 10.0 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 741.0
495-9 201	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 13.1 幅 5.4 厚 5.1	花崗岩			全面に剝離のみられる。	重 616.0

## 第241号址

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
497-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は反り気味に直立する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
497-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.5)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りて、間の整形は不明瞭。	
497-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒少 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
497-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.2)	片岩粒多 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	外面の磨 減が激し い
497-5	土師器 坏	覆土内 残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	褐色細粒多 黒色細粒微 細砂粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	内面黒色 塗彩
497-6	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は屈曲して外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
497-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.1)	白色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
497-8	土師器 高坏?	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	体部から口縁部にかけて弱く内湾する。口縁部は横撫で、体部は無で、内面は篋磨き後黒色処理を施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
497-9	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 (3.5)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。丸底で受け部は水平方向に延び、口縁部は反り気味に内傾する。	外面に厚く自然釉
497-10	土 師 器 甗	覆土内 破片	口 (19.4) 底 — 高 (8.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は、斜位の篋削りを施す。内面は撫で。	
497-11	須 惠 器 甗	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (13.2)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。口縁部は外面平行叩き後、沈線及び4本単位の波状文を巡らし、内面は撫でを施す。胴部外面は平行叩き後カキ目、内面は青海波文。	
497-12	土 師 器 台付甗	覆土内 破片	口 — 脚部(11.5) 高 (3.0)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	「ハ」字状に開く脚部で、器面の磨滅が激しい。	
497-13	須 惠 器 甗	覆土内 破片	口 (25.0) 底 — 高 (3.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、上端に強い段を有する。	内外面に薄く自然釉
498-14	須 惠 器 甗	5 cm 破片	口 — 底 — 高 (29.3)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き後、間隔をおいて横位カキ目、内面青海波文。	
498-15 201	石 器 敲 石	2 cm 残存	長 10.7 幅 7.2 厚 4.6	粗粒安山岩			側面に敲打痕がみられる。下端部は欠損。	重 610.0
498-16 201	石 器 敲 石	覆土内 残存	長 7.3 幅 6.0 厚 2.6	変質玄武岩			使用痕不明。半截された下端部にわずかの剥離がみられる。	重 200.0
498-17 201	石 器 薦編み石	14cm ほぼ完形	長 10.7 幅 5.4 厚 4.1	頁岩			両面に剥離がみられる。	重 309.0
498-18 201	石 器 薦編み石	覆土内 ほぼ完形	長 11.8 幅 4.2 厚 3.0	珩質頁岩			側端部が剥離している。カーボン付着。	重 239.0

第247号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
501-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 13.8 底 — 高 (4.2)	細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
501-2 202	土 師 器 坏	覆土内 残存	口 12.0 底 — 高 3.7	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	底部に黒斑
501-3 202	土 師 器 坏	覆土内 残存	口 13.2 底 — 高 4.8	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は比較的深い丸底で、口縁部との境に強い段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
501-4	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	におい 赤褐	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
501-5	須 惠 器 境	覆土内 破片	口 — 底 (10.2) 高 (2.8)	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部と腰部回転篋削り後の付高台。	外面に自然釉
501-6	須 惠 器 境	覆土内 破片	口 (11.1) 底 (7.4) 高 (4.2)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。腰に張りを有し、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台は付高台。	外面に自然釉
503-7	須 惠 器 蓋	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (2.3)	褐色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部に弱い張りを有する。内面かえりは比較的シャープである。天井部外面は口縁部近くまで、回転篋削りが施されている。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
503-8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.4) 底 — 高 (3.7)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	強く外反する口縁部破片。口縁部は横撫で内面撫でを施す。	
503-9	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (6.6)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	肩の張る扁平な器形で、口縁部は直立する。胴部最大部に2本の沈線と8～9本単位の波状文、肩部に刺突を施す。胴部下半はカキ目底部は回転篋削りを施す。	
503-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	外面平行叩き後横位カキ目、内面青海波文。内面はわずかに磨滅する。	厚 0.8
503-11	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは1面。凹面に粘土板糸切り痕があり、布目は大半が撫で消されている。凸面は縄叩きであるが布の圧痕。	
504-12 202	土師器 甕	覆土内 残存	口 — 底 5.4 高 21.0	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 赤褐	胴部上半に強い張りを有する。胴部外面は斜位(上→下)の篋削り、内面は撫でを施す。	
504-13 202	石器 薦編み石	覆土内 完形	長 16.5 幅 7.6 厚 3.0	ひん岩			全面が剝離している。	重 778.0
504-14 202	石器 薦編み石	4 cm 完形	長 13.8 幅 5.2 厚 5.8	粗粒安山岩			使用痕不明。わずかにカーボン付着。	重 616.0
504-15 202	石器 薦編み石	5 cm 完形	長 13.0 幅 6.6 厚 4.5	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 591.0

## 第248号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
505-1	須恵器 羽釜	カマド内 4 cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.2)	細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転?)。胴部の張りは弱く口縁部は直立する。口唇部は平坦で、水平である。鏝部下胴部外面は縦位の粗い撫でが施されている。	
505-2	瓦 女瓦	カマド内 - 3 cm 残存	厚 2.3	砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは3面。凹面に粘土板糸切り痕がわずかにみられる。凸面は全面に撫で後縦位の篋削り。	
505-3	瓦 男瓦	カマド内 8 cm破片	厚 2.1	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面に、明瞭な粘土板糸切り痕を残す。	

## 第250号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
507-1	土師質 坏	覆土内 破片	口 (10.8) 底 — 高 (2.6)	白・黒色鉱物粒少 褐色細粒少	中性焰 やや硬質	黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りを有し、口縁部は外反する。体部外面に沈線状の強い轆轤整形痕がみられる。	
507-2	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 (1.8)	美濃系		灰	轆轤整形。高台は底部回転篋削り後の付高台で、高台貼付に伴い撫でられている。体部内面下半に段があり、段皿の可能性もある。施釉技法は漬け掛け?で、内面に重ね焼きの痕跡がある。	
507-3	須恵器 甕	2 cm 破片	口 (27.8) 底 — 高 (12.0)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	橙	紐作り。口縁部はわずかに内湾する。轆轤整形痕は口縁部外面と鏝部にみられる。胴部外面縦位の撫で、内面は横位撫でを施す。	
507-4	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	砂粒少 白色鉱物粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り。側端面取り2面。凹面は撫でによって布目は消されている。凸面は縄叩き。	

遺物一覧表

第251号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
509-1 202	土師器 環	覆土内 %残存	口 13.3 底 — 高 3.1	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509-2	土師器 環	カマド掘り方 %残存	口 (13.2) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 白色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 赤褐	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509-3 202	土師器 環	覆土内 %残存	口 (12.4) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は、内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分がみられる。	
509-4	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 (3.4)	細砂粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部外面は横撫で、体部下半及び底部は篋削り、内面は丁寧な撫でを施す。	暗文?
509-5	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.2) 底 (8.9) 高 (3.3)	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整で、篋で「×」が描かれている。	
509-6 202	須恵器 環	覆土内 %残存	口 (13.6) 底 (7.6) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけてわずかな張りがみられる。底部は回転糸切り無調整。	
509-7	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.2) 底 (9.8) 高 (3.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部にわずかに張りを有する。底部は回転篋削り後に撫で調整されている。	
510-8	土師器 環	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部がわずかに内湾する器形で、口縁部外面横撫で、体部横位篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
510-9	土師器 環	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部から体部下半の破片である。底部は平底で、外面は篋削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
510-10	土師器 環	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色鉱物 粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部から体部下半にかけての破片である。底部は平底で、外面は篋削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.7 暗文
510-11	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (10.8) 底 (6.1) 高 (5.1)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に弱い張りを有し、下端に回転篋削りを施す。高台は付高台。自然釉の掛かり方から逆さで焼成されたようだ。	体部外面と高台内面に自然釉
510-12	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (13.5) 底 (9.0) 高 (4.5)	白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾する。高台は底部撫で調整後の付高台で、下端に沈線状の窪みが巡っており、外方の接地部に磨滅がみられる。口縁部の内面5mm程の幅に強い磨滅がみられる。	外面に弧状の銀化部分あり
510-13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 2.8 高 (2.4)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に強い轆轤調整痕を残している。摘はボタン状で、上面が指先でつぶされている。天井部内面中央部の磨滅が激しく、転用硯の可能性あり。	
510-14	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.2) 摘 — 高 (2.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	青灰	轆轤整形(?)。天井部外面に回転篋削りを施す。内面のかえりは、あまりシャープではない。	
510-15	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (2.0)	白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は短く、屈曲する。	
510-16 202	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (11.0)	細砂粒多 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	胴部中位はやや上半に張りを有し、口縁部は「く」字状に外反する。口縁部横撫で後胴部上半横位篋削り、内面横位篋撫でを施す。	
510-17	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (9.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部上半に張りを有する。口縁部は強い横撫で、胴部外面横位篋削り、内面は撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
510-18	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
510-19	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微 黒色細粒多	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き(?)。内面青海波文。	厚 1.1
510-20 202	石器 薦編み石	3cm 完形	長 13.3 幅 6.1 厚 4.1	粗粒安山岩			上、下両端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 605.0

## 第253号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
512-1	土師器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 (8.4) 底 (4.0) 高 (1.8)	褐色細粒少 細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	轆轤整形(左回転?)。浅い皿状の器形で、口縁部は外反しない。底部はわずかに突出し回転糸切り無調整。	
512-2	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (6.4) 高 (1.5)	美濃系		灰白	轆轤整形。高台は、底部回転篋削り後の付高台。施釉技法は残存しないため不明。	
512-3	灰釉陶器 埴	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (1.4)	美濃系		淡黄	高台は底部回転篋削り後の付高台で、高台の接地部にも篋削りが施されている。施釉技法は残存しないため不明。	
512-4	灰釉陶器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.7)	美濃系		灰白	高台は比較的長脚の三日月高台状のもので、底部調整後の付高台。施釉技法は残存しないため不明。	
512-5	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (19.9) 底 — 高 (4.8)	砂粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(?)。口縁部は直線的でわずかに内傾する。罫の貼付は丁寧である。	内外面に 粘土状の の付着物
512-6	須恵器 甕	覆土内 高台部破片?	口 (23.4) 底 — 高 (4.1)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。「ハ」字状に強く開く脚部と思われる。	
512-7	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.2)	砂粒少	還元焰? 硬質	橙	轆轤整形。胴部上半に張りをも有する器形と思われる。	内外面の ハゼが激 しい
512-8	石器 敲石	覆土内 完形	長 8.5 幅 7.6 厚 4.1	粗粒安山岩			下端部、側端部に敲打痕がみられる。熱を受け変色している。	重 455.0
512-9	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒多	中性焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面取りは2面。狭端部凹面側は1面の面取りがされている。凸面は縄叩き後粗く撫でられている。凹面は粘土板糸切り痕。	
512-10	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻き作り?。側端面取りは2面。凹面には弱い模骨痕と粘土板糸切り痕が残存。凸面は全面撫でで粘土状の付着物がみられる。	
513-11 202	瓦 女瓦	カマド内 9cm ㄥ残存	厚 2.9	小礫微 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	一枚作り。側端面取り2面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫で後篋描き文字「?」を描く。凹面の一部に炭化物付着。	

## 第254号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
515-1 202	土師質 坏	— 6cm 完形	口 8.9 底 4.0 高 2.7	黒色鉱物粒少 細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。底部は回転糸切り無調整。	口縁部内 外面カー ボン付着
515-2 202	須恵器 坏	覆土内 ㄥ残存	口 13.2 底 6.0 高 3.1	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは弱く直線的に強く外傾する。底部は、回転糸切り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
515-3 202	須恵器 坏	カマド内 -8cm 完形	口 14.2 底 6.1 高 4.1	細砂粒多 褐色細粒多	還元焰 やや硬 質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有し口縁部は外反しない。底部は回転糸切り無調整で、片側がわずかに突出する。	
515-4 202	須恵器 塊	カマド内 1/2残存	口 (16.0) 底 (7.2) 高 (4.9)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位の張りは弱く口縁部は強く外反する。体部内外面の轆轤整形痕は非常に強い。高台は底部回転糸切り後の付高台で、接地部に沈線状の窪みがみられる。	
515-5 203	須恵器 塊	-7cm 1/2残存	口 (15.0) 底 5.8 高 (5.1)	細砂粒少	還元焰 やや軟 質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく、口縁部の外反も弱い。高台は接合部で剥落してないが底部回転糸切り後の付高台。	
515-6	須恵器 塊	貯蔵穴10 cm 破片	口 (13.6) 底 - 高 (2.8)	細砂粒少	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。やや浅めの器形で、体部に弱い張りを有し、口縁部は外反する。	口縁部内 外面カー ボン付着
515-7 203	土師質 黒色土器 塊	±0cm 1/2残存	口 16.4 底 - 高 6.0	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	におい 黄橙	轆轤整形(右回転)。体部に張りはなく直線的に外傾する。内面は見込み部放射状、体部横位の篋磨き後、黒色処理を施す。高台は接合部で剥離しているが、底部回転糸切り後の付高台。	
515-8 203	須恵器 塊	-11cm 1/2残存	口 (15.2) 底 8.0 高 6.0	細砂粒少 褐色細粒少	中性焰 やや硬 質	橙	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は強く外反する。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。	
515-9 203	須恵器 塊	カマド内 -5cm 高台欠損	口 13.7 底 (6.3) 高 (4.0)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 やや軟 質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反する。高台は接合部から剥落しているが、底部回転糸切り後の付高台である。	
515-10 203	須恵器 塊	貯蔵穴15 cm 1/2残存	口 - 底 8.2 高 (4.3)	白色細粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
515-11 203	須恵器 塊	覆土内 1/2残存	口 - 底 7.3 高 (3.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
515-12	土師器 坏	カマド内 破片	口 - 底 - 高 -	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	直線的な口縁部で、内面に沈線状の窪みが巡る。外面口縁部は横撫で、体部横位篋削り、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5 暗文
515-13	須恵器 壺	-13cm 破片	口 - 底 - 高 -	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面の一部磨滅。転用硯か？。	厚 1.2
516-14	瓦 女瓦	カマド内 10cm 破片	厚 2.1	砂粒少	還元焰 硬質	青灰	桶巻き作り？。凸面は、縄叩きとみられるもので、離れ砂がみられ、凹面は模骨痕を明瞭に残し、布目の大半は撫で消されている。	
516-15	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 2.6	白色鉱物粒少 砂粒少	中性焰 硬質	におい 橙	一枚作り？。凸面は粗い撫で、凹面は、粘土板糸切り痕を明瞭に残している。	
516-16	瓦 女瓦	カマド内 8cm破片	厚 1.5	片岩小礫微 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端面取りは3面。凸面は平行叩き、凹面に粘土板糸切り痕がみられる。	
516-17	瓦 女瓦	カマド内 10cm破片	厚 1.5	白色鉱物粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凸面に平行叩き状の痕跡があるが撫でによって不明瞭。	

第1号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
520-1	土師器 坏	P <sub>5</sub> 破片	口 (12.0) 底 - 高 (2.2)	褐色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底と思われ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
520-2	土師器 坏	P <sub>6</sub> 破片	口 (13.0) 底 - 高 (3.2)	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は平底と考えられ、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部は整形不明瞭。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
520-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 (3.5)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部は直線的に外傾し、口縁部上端はわずかに内湾する。口縁部から体部の整形は不明瞭で、底部は篋削りを施す。	
520-4 203	土師器 坏	P <sub>3</sub> 片残存	口 (15.2) 底 — 高 (5.8)	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
521-5 203	須恵器 坏?	P <sub>3</sub> 片残存	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。底部はやや突出し、一定方向の手持ち篋削りが施されている。蓋の可能性が有る?	
521-6	須恵器 坏	P <sub>3</sub> 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。内湾気味の体部を有する。	
521-7	須恵器 蓋	P <sub>3</sub> 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (3.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。天井部に張りをも有し、外面は広範囲に回転篋削りを施す。	
521-8 202	須恵器 蓋	P <sub>3</sub> 破片	口 — 摘 (14.0) 高 (4.2)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に手持ち篋削りを施す。	
521-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は強く外反し、上端が内面肥厚する。	厚 1.0
521-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面擬格子叩き、内面青海波文。	厚 1.1 外面磨減
521-11	須恵器 甕	P <sub>3</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2

## 第2号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
522-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
522-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	片岩細粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部は内湾する。内外面とも磨減し整形不明。	厚 0.5
522-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (2.5)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部に弱い張りを有する。	
522-4	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (8.0) 高 (3.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部はやや厚手で、腰部に張りをも有し、口縁部は外反する。底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
522-5	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.9)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は付高台であるが底部切り離し及び調整は不明。	
522-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 — 高 (1.4)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。端部が短く屈曲する。	内面に自然釉
522-7	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	胴部の張りは強く、口縁部は「く」字状に外傾する。口縁部は強い横撫で、胴部上位は横位篋削りを施す。	
522-8	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部の破片で、「コ」字状を呈する。口縁部は横撫で、胴部上位は横位篋削りを施す。	
522-9	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部の小片で、「コ」字状を呈する。	

遺物一覧表

第3号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
523-1	土師器 坏	P <sub>1</sub> 破片	口 (13.4) 底 — 高 (3.8)	白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部は、内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の整形は不明瞭で、接合痕を明瞭に残す。	
523-2	須恵器 塊	P <sub>6</sub> 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.2)	白色粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。体部は下半にわずかに張りを有し、高台部へと連続する特異な器形で、口縁部が内面肥厚する。高台は付高台で、内傾する。	体部外面 ～底部に 自然釉

第4号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
525-1	土師器 坏	P <sub>4</sub> 破片	口 (11.4) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は横撫で、底部外面は磨滅し整形不明瞭。	
525-2	土師器 坏	P <sub>4</sub> 1/4残存	口 (11.4) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の整形は不明瞭。	
525-3	土師器 坏	P <sub>4</sub> 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の整形は不明瞭。	
525-4	須恵器 坏	P <sub>10</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は丸底気味にやや突出する。切り離し、整形等不明。	厚 0.4
525-5	須恵器 蓋	P <sub>10</sub> 破片	口 (14.8) 摘 — 高 (1.6)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは比較的大振りである。天井部外面に篋削りを施す。	外面に自然釉
525-6 203	須恵器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (19.0) 摘 (3.2) 高 (4.2)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部に弱い張りを有し、外面回転篋削り後、扁平な宝珠状摘を貼付。内面のかえりはあまりシャープではない。	器面全面 が粗れて いる

第5号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
526-1	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部切り離し後の付高台で、接地部の磨滅が激しい。	厚 0.5
526-2	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 摘 — 高 (2.4)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。天井部の張りは比較的強く、口縁部はシャープな作りである。天井部外面は広範囲に回転篋削りを施し、口縁部内面に重ね焼きの痕跡あり。	
526-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 白・黒色粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端が折り返し状を呈する。頸部外面に波状文を施す。	厚 0.8
526-4	須恵器 平瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (4.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。内面に天井部貼付の明瞭な段差がみられる。	
526-5 203	石器 敲石	覆土内 完形	長 12.0 幅 6.1 厚 3.9	粗粒安山岩			上端部にわずかに敲打痕がみられる。	重 421.5

## 第6号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
527-1	土師器 坏	P <sub>7</sub> 破片	口 (11.0) — 底 — 高 (2.5)	細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は、やや内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
527-2	土師器 坏	P <sub>14</sub> 破片	口 (13.0) — 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
527-3	土師器 坏	P <sub>5</sub> 破片	口 (12.0) — 底 — 高 (3.0)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で体部は強く外傾し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削り体部も篋削りと考えられる。	
527-4 203	須恵器 坏	P <sub>14</sub> 片残存	口 (10.6) — 底 — 高 (3.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転篋削り後に調整を施したものか?。	内外面に 薄く自然 釉
527-5	須恵器 坏	P <sub>5</sub> 破片	口 — — 底 — 高 (4.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転切り無調整。	外面体部 ～底部に 自然釉
527-6	須恵器 蓋	P <sub>14</sub> 破片	口 (11.0) — 摘 — 高 (2.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。内面かえりは強く内傾する。天井部外面に回転篋削りを施す。摘は欠損。	
527-7	土師器 甕	P <sub>5</sub> 破片	口 (17.0) — 底 — 高 (5.5)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「コ」字状を呈し、薄い作りであり口縁部は横撫で、胴部上半横位篋削り、内面は撫でを施す。	
527-8	土師器 甕	P <sub>5</sub> 破片	口 (24.0) — 底 — 高 (3.4)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は外反し、口唇部は短く直立する。口縁部は横撫で、胴部外面篋削り、内面撫で。	
527-9	須恵器 瓶? 甕?	P <sub>4</sub> 破片	口 — — 底 — 高 (6.9)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	肩の張りが強く、底部は丸底と考えられる。胴部上半カキ目、下半は2段の横撫で、内面撫でを施す。	外面一部 に自然釉
527-10	須恵器 高坏?	P <sub>14</sub> 破片	口 — — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部外面に1本の沈線を巡らしている。	厚 0.8
527-11 203	石製品 紡錘車	P <sub>14</sub> 片残存	径 4.1 厚 1.9 孔 —	滑石			半載されており、周囲は丁寧に研磨されている。	重 19.4
527-12 203	石製品 砥石	P <sub>5</sub> 破片	長 4.2 幅 2.5 厚 2.1	砥沢石			3面は使用に伴い、平坦面を形成しているが他は欠損のため不明。	重 33.6
527-13 203	石製品 丸玉	覆土内 ほぼ完形	径 1.2 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方からで、周囲は丁寧に研磨されて球状に近づいている。	重 1.5

## 第7号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
531-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	厚 0.4
531-2	須恵器 甕	P <sub>5</sub> 破片	口 — — 底 — 厚 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。内面、断面に赤褐色の付着物。	厚 1.2

## 第8号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
532-1	土師器 坏	P <sub>5</sub> 破片	口 — — 底 — 高 —	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	厚 0.5

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
532-2	土師器 壺	P <sub>2</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部の小片で、外面に篋が当たった痕跡が認められる。	厚 0.6

第9号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
534-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は直立する。外面の体部と思われる位置に縦の亀裂が認められる。	厚 0.5
534-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉍物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	厚 0.5
534-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部が短く屈曲する。	厚 0.6 内面に自然釉
534-4	須恵器 長頸瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	肩部に2本の沈線を巡らしている。	厚 0.9
534-5	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.6) 底 — 高 (5.0)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は中位に段を有しながら、強く外反する。口縁部は横撫でを施す。	

第10号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
536-1 203	須恵器 埴	P <sub>4</sub> ほぼ完形	口 12.0 底 7.6 高 4.9	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張り有り、口縁部は短く外反する。	
536-2 203	須恵器 蓋	P <sub>2</sub> 1/2残存	口 (17.2) 摘 (4.2) 高 (4.1)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。天井部に張り有り、端部は屈曲する。	第569図-9と同一個体
536-3	土師器 壺	P <sub>4</sub> 破片	口 (13.0) 底 — 高 (5.3)	細砂粒多 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	球形の胴部を有すると思われ、肩の張りが強い。口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で肩部横位篋削り、内面は篋撫でを施す。	

第11号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
537-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.3) 底 — 高 (2.5)	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。	
537-2	土師質 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.2) 高 (1.9)	白・黒色鉍物 粒少 褐色細粒多 細砂粒多	中性焰 軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。器面は磨滅している。	
537-3 203	石製品 砥石	覆土内 1/2残存	長 6.4 幅 4.3 厚 2.9	砥沢石			小口の1面は加工時の面を残して4面を使用し、半載されている。	重 83.8

第12号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
538-1	土師質 埴	P <sub>2</sub> 底部残存	口 — 底 6.6 高 (2.3)	黒色鉍物粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。高台は付高台で、高台貼付に伴う撫で調整のため底部切り離し技法不明(回転糸切り?)。	



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
538-2	須恵器 埴	P <sub>2</sub> 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	白・黒色細粒少	還元焰 やや軟質	灰白	轆轤整形(?)。体部下位に弱い張りを有し口縁部はわずかに外反する。	

## 第15号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
539-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	

## 第16号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
540-1	須恵器 坏	P <sub>2</sub> 破片	口 — 底 (7.0) 高 —	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
540-2	土師器 甕	P <sub>3</sub> ? 破片	口 (20.0) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや硬質	橙	強く外反する口縁部で、口縁部は横撫で、胴部は篋削りと考えられ、篋が口縁部にも当たっている。	

## 第17号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
542-1	土師器 坏	P <sub>10</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	厚 0.4
542-2	土師器 坏	P <sub>10</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は、篋削りを施す。	厚 0.5
542-3	土師器 皿?	P <sub>9</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底と考えられ、口縁部は強く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	厚 0.5
542-4	須恵器 埴	P <sub>10</sub> 破片	口 — 底 (10.2) 高 (1.1)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の丁寧な付高台。	外面に自然釉
542-5 204	須恵器 台付皿	P <sub>3</sub> 片残存	口 (23.6) 底 (15.6) 高 (5.9)	小礫少 砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に張りを有する。高台は角高台状で、底部腰部2段の回転篋削り後の付高台。	内面に薄く自然釉
542-6	須恵器 蓋	P <sub>4</sub> 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (2.6)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。内面かえりは短くシャープさに欠ける。摘は欠損し不明だが、天井部外面回転篋削り後の貼付である。	外面に自然釉

## 第19号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
544-1	土師器 坏	P <sub>3</sub> 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.1)	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く反り気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部外面は、磨減し不明。	
544-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	褐色粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は撫で、内面は撫で後斜放射状の密な篋磨きを施す。	
544-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	明黄褐	外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8

## 遺物一覧表

## 第20号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
545-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫でを施す。	厚 0.6
545-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (3.3)	褐色細粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと思われるが、磨滅が激しく不明。	

## 第21号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
546-1	土師器 坏	P <sub>11</sub> 1/4残存	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉾物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、外面に数ヶ所接合痕を残す。	
546-2	土師器 坏	P <sub>10</sub> 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.3)	細砂粒微 白・黒色鉾物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
546-3	土師器 坏	P <sub>10</sub> 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.9)	黒色鉾物粒少 白色鉾物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
546-4	須恵器 蓋	P <sub>11</sub> 破片	口 — 摘 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篋削りを施す。	厚 0.5
546-5	須恵器 蓋	P <sub>11</sub> 破片	口 — 摘 (2.0) 高 (1.5)	白色鉾物粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。摘は環状摘状?で貼付である。	外面に厚く自然釉
546-6	須恵器 瓶	P <sub>10</sub> 破片	口 — 底 (9.8) 高 (2.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	胴部下端に篋削りを施し、底部は丁寧な篋撫で後、篋先?の刺突を施す。	
546-7	土師器 甕	P <sub>4</sub> 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒多 黒色鉾物粒多 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	外反する口縁部破片で、内外面横撫でを施す。	
546-8	土師器 小型甕	P <sub>4</sub> 破片	口 (14.0) 底 — 高 (7.9)	細砂粒多 黒色鉾物粒多 白色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位の篋削り、内面は横位篋撫でを施す。	

## 第25号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
550-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (1.7)	細砂粒少 白・黒色鉾物 粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
550-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部調整不明。	
550-3	土師器 坏	P <sub>7</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉾物粒少 白色鉾物粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は、横撫でを施す。	厚 0.5
550-4	土師器 杯 C II 飛鳥?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部破片で、外面は撫で。内面は丁寧な撫で後、斜放射状暗文施文。	厚 0.4 畿内産
550-5	須恵器 坏?	覆土内 破片	口 — 底 (4.6) 高 (2.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面に轆轤整形痕を残し、外面及び底部に手持ち篋削りを施す。	
550-6	須恵器 甕	P <sub>5</sub> 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒微 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	外面は縦位にカキ目状の整形後横位撫でを施す。内面は指先の雑な撫でで、接合痕を残す。	厚 0.9

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
550-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面は撫で後、部分的に擬縄文圧痕を施し、内面は青海波文。	厚 1.3

## 第28号掘立柱建物跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
555-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部と口縁部の境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫でを施す。	厚 0.4
555-2	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	浅黄橙	口縁は「く」字状に外傾する。口縁部は横撫で、胴部は強く篋削りを施す。	
555-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、回転篋削りを施す。	厚 0.8

## 第7号土壌墓

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
557-1 204	鉄器 大刀子	±0cm ほぼ完形	長 (22.7) 幅 3.1 重 81.0				先端部の一部を欠損する。平棟、片切り刃・平作り。片切刃の棟側は錆化して不明であるが平らにならず浅い溝状を呈する。身と茎の境は直線的で段差がある。平作側には身から茎の一部にまで及ぶ樋状の窪みが見られる。平作り側に鞘の木質が残存。	棟巾 0.7

## 第1号祭祀遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
559-1 204	土師器 坏	±0cm %残存	口 10.2 底 — 高 6.2	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部が強く内湾する器形で、底部は丸底である。口縁部は横撫で、底部は篋撫で、内面は撫で後斜放射状の密な篋磨きを施す。	
559-2 204	土師器 坏	±0cm 完形	口 11.6 底 — 高 6.4	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	橙	深い丸底の底部と「く」字状に外傾する口縁部を有する。いわゆる内斜口縁と考えられる坏で、口縁部は横撫で、体部から底部外面篋削り。内面は全面丁寧な撫で後、斜放射状の篋磨きを施しているが、内面が剥落し不明瞭。	
559-3 204	土師器 坏	±0cm %残存	口 13.8 底 4.5 高 7.5	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部中位に張り有り、口縁部は短く外反する。口縁部は横撫で体部及び底部外面篋削り、内面は撫で後斜放射状の篋磨きを施す。	
559-4 204	土師器 坏	±0cm 完形	口 16.3 底 — 高 8.2	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 赤橙	深めの丸底と「く」字状に外傾する口縁部を有する。いわゆる内斜口縁の坏で、内稜は非常にシャープである。口縁部から体部中位は横撫で、下半から底部は撫で状の篋削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状の篋磨きを施す。	口縁部外面にカーボン付着
559-5 204	土師器 罎	±0cm 完形	口 9.5 底 — 高 16.6	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部下半に最大径を有し、口縁部は直線的に外傾する。胴部上半から口縁部内外面には丁寧な撫でを施し、斜放射状の密な篋磨きを施し胴部下半から底部にかけて篋削りを施す。	底部に黒斑
560-6 204	土師器 甕	中央ピット 70cm 完形	口 22.2 孔 9.0 高 26.2	砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部上位に張り有り、口縁部は外反する。底部の穿孔は焼成前である。口縁部は横撫で胴部外面は斜位の篋削り、内面は丁寧な撫でと思われるが、磨滅し不明瞭。	胴部中位外面に黒斑

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
560-7 204	土師器 甕	±0cm %残存	口 (15.0) 底 7.5 高 (30.0)	黒色鈹物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	胴部中位に張りを有し、口縁部は外反気味に直立する。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位の撫でが3段階みられる。内面は全体に斜位にかきあげたような痕跡を残し、下半に明瞭な接合痕が認められる。	胴部外面 下半に黒 斑
560-8 560-74 204	石製品 白玉	±0cm 完形	径 0.5 孔 0.2 厚 0.2~0.4	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に丁寧に研磨されている。一連の状態出土している。	重約0.11 計67個体

土 坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
561-1	土師器 坏	26土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒微 黒色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底と考えられ、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部の整形は不明瞭。	口縁部内 外面に厚 くカーボ ン付着
561-2	須恵器 坏	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 (5.6) 高 (1.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は無でが施され、切り離し技法は不明。	
561-3 204	須恵器 坏	26土坑 覆土内 %残存	口 (13.0) 底 (6.0) 高 (3.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部に弱い張りを有する。	
561-4	須恵器 蓋	26土坑 覆土内 %残存	口 (12.0) 摘 — 高 (1.7)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。内面かえりは大型でシャープさに欠ける。摘は欠損して不明であるが天井部外面回転篋削り後の貼付。	
561-5	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 5.5	白色細粒少 白色鈹物粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有する。外面に波状文を施す。	厚 1.1 内外面に 自然釉
561-6	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を巡らせる。	厚 0.9
562-7	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に横位カキ目と波状文を施す。	厚 1.5 内面に自 然釉
562-8	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を施す。下端は胴部接合部から剥落している。	厚 1.4
562-9	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	口縁部は破片で、外面に平行沈線と6本単位の波状文を巡らす。	厚 1.2
562-10	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面上位に波状文、下位は縦位のカキ目後横位撫でを施し、ボタン状貼付文施文。下端は胴部接合部から剥落している。	厚 1.4 外面に自 然釉
562-11	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自 然釉
562-12	須恵器 甕	26土坑 覆土内 破片	口 (25.0) 底 — 高 (8.0)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	胴部外面 に自然釉
563-1 204	緑釉陶器 小 埴	61土坑 覆土内 %残存	口 (10.0) 底 (5.0) 高 (3.8)	美濃系?		オリブ 灰	轆轤整形(?)。体部中位に強い張りを有し、口縁部がわずかに外反する。施釉は高台から底部も含め全面に及ぶがむらがある。	内面の磨 減が激し い
563-2	土師質 坏	84土坑 覆土内 破片	口 (9.8) 底 — 高 (1.9)	白色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 黄褐	轆轤整形(右回転)。浅い皿状の器形で、口縁部はわずかに外反する。	
564-1	須恵器 蓋	96土坑 覆土内 破片	口 (13.4) 摘 — 高 (3.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。天井部はやや突出し回転篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
564-2	須恵器 甕	96土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
564-3 205	土師器 坏	98土坑 覆土内 片残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りて、間の整形は不明瞭。	
564-4	須恵器 蓋	100土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.8)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部外面に鐮状の突出を巡らす。	外面に自然釉
564-5	須恵器 坏	102土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。	外面に自然釉
564-6	須恵器 坏	102土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少	還元焰 軟質	にぶい 褐	轆轤整形(?)。内外面に褐色の付着物。	
564-7	土師器 坏	128土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は外傾し、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りて体部は撫でを施す。	口縁部に黒斑
564-8	須恵器 坏	128土坑 覆土内 破片	口 (12.8) 底 (7.0) 高 (3.7)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰にわずかに張り有し、口縁部は外反する。	
565-1	土師器 坏	157土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
565-2 205	土師器 坏	157土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部がわずかに外反する器形で、底部は平底になると思われる。口縁部は横撫で、体部外面篋削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施文。	厚 0.3 暗文
565-3	須恵器 坏	157土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。腰の張りが比較的強く、口縁部は直立する。	
566-1	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口 — 摘 — 高 (2.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
566-2	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.2)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁端部が短く屈曲する。天井部外面に回転篋削りを施す。摘は欠損。	外面に重ね焼きの痕跡
566-3	須恵器 蓋	157土坑 覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (1.7)	黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面かえりは短いシャープな作りである。	内面に重ね焼き痕
566-4	土師器 甕	157土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	「く」字状に外反する口縁部の小片で、口縁部横撫で、胴部上位は横位篋削り。	厚 0.5
566-5 205	瓦 字 瓦	157土坑 覆土内 破片	厚 5.3	砂粒微 黒色粒少	還元焰 硬質	浅黄	均整唐草。中心飾りが抽象化したバルメット。反転子葉の部分も同様。凹面布目は粗く撫で消され、アゴの部分に赤色顔料?付着。	
566-6	土師器 坏	173土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.9)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底と考えられ、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
566-7	灰釉陶器 段 皿	174土坑 覆土内 破片	口 (14.8) 底 (8.0) 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は角高台状で、底部回転篋削り後の付高台で、接地部はわずかに磨滅。	内面にカーボン付着
566-8	須恵器 甕	174土坑 覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (7.0)	細砂粒少	酸化焰 硬質	褐灰	轆轤整形(?)。胴部中位に張りを有し、口縁部は短く「C」字状に屈曲する。	外面全面と内面口縁部カーボン付着
566-9	軟質陶器 鉢?	174土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 軟質	褐灰	厚手の作りで、口縁端部は丸く仕上げられている。	厚 1.4 いぶし状

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
566-10	須 惠 器 羽 釜	174土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.6)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。口縁部は内湾し、上端は平坦で、ほぼ水平。	
566-11	須 惠 器 羽 釜	174土坑 覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (6.4)	細砂粒多 黒色鈳物粒少	酸化焰 硬質	褐灰	轆轤整形。胴部の張りは弱く、口縁部は直立気味である。	鍔部下外面にカーボン付着
566-12	瓦 女 瓦	174土坑 覆土内 破片	厚 1.7	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	青灰	凸面斜格子叩き、凹面撫で。	
566-13	瓦 女 瓦	174土坑 覆土内 破片	厚 1.7	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	黄灰	凸面斜格子叩き、凹面撫で。	
567-1	須 惠 器 坏	179土坑 覆土内 片残存	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (3.5)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
567-2	土 師 器 坏	180土坑 覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (2.1)	細砂粒少 黒色鈳物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りと考えられる。	
567-3	須 惠 器 坏	180土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.6)	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	黄灰	轆轤整形(右回転?)。	外面に自然釉
567-4	須 惠 器 蓋	180土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.3)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。	外面に重ね焼き痕
567-5	土 師 器 羽 釜	181土坑 覆土内 破片	口 (23.0) 底 — 高 (9.4)	白色細粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部の内傾も弱い。口縁部及び胴部内面は撫で、胴部外面は縦位の刷毛目状の削りを施す。	
568-1	土 師 器 坏	187土坑 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (1.9)	黒色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫でを施す。	
568-2	須 惠 器 坏	187土坑 覆土内 破片	口 (12.2) 底 (6.8) 高 (3.5)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に張りを有する。	
568-3	須 惠 器 坏	189土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (2.2)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部回転篋削り無調整。	
568-4	須 惠 器 羽 釜	189土坑 覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (4.7)	細砂粒多 黒色鈳物粒多 白色鈳物粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。口縁部上端がわずかに外反する。	
569-1 205	土 師 器 坏	192土坑 9cm ほぼ完形	口 13.5 底 — 高 4.5	細砂粒少 白・黒色鈳物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部はやや内湾気味に外傾し、口唇部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は一方の篋削りで、体部外面下半は斜位の篋削り、上半の整形は不明瞭。	
569-2	土 師 器 坏	192土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鈳物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部下半にわずかに張りを有し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
569-3	土 師 器 坏	192土坑 覆土内 破片	口 (14.5) 底 — 高 (3.7)	黒色鈳物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
569-4	土 師 器 坏	192土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	白・黒色鈳物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
569-5	須 惠 器 坏	192土坑 覆土内 破片	口 (10.4) 底 (7.8) 高 (3.9)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
569-6	須 惠 器 坏	192土坑 覆土内 破片	口 (10.1) 底 (6.6) 高 (3.9)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。体部中位に弱い張りを有し口縁部は外反する。	外面に自然釉

## 土 坑

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
569-7	須恵器 埴	194土坑 覆土内 破片	口 — 底 (5.2) 高 (1.5)	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 やや硬質	オリーブ黒	轆轤整形(?)。高台は接合部から剥離。底部切り離し技法は、高台貼付に伴い撫でられ不明。	いぶし
569-8 205	土師器 坏	195土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で体部外面は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.6 暗文
569-9	須恵器 蓋	195土坑 覆土内 破片	口 (17.2) 摘 (4.2) 高 (4.1)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。天井部に張り有し、端部は屈曲する。	第536-2 図と同一 個体
569-10	須恵器 甕	195土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	外面に1対の把手を有すると考えられる。内面に青海波文。	厚 0.6
570-1 205	須恵器 埴	210土坑 17cm ほぼ完形	口 13.0 底 6.4 高 5.6	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焰 軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。見込み部に黒色の重ね焼き痕。	
570-2 205	須恵器 埴	210土坑 16cm 片残存	口 13.4 底 6.4 高 5.4	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 やや軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。内外面の一部にいぶしが認められる。	
570-3 205	灰釉陶器 皿	210土坑 16cm 完形	口 13.4 底 6.8 高 2.6	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部中位に糸切り痕を残している。施釉は刷毛掛け。	光ヶ丘1
570-4 205	銅製品 銭	210土坑 8cm 完形	径 2.4 孔 0.6 厚 0.15				「神功開宝」であるが、表裏共に粗れが激しく、「宝」の字は判読できない。	重 2.1
570-5 205	鉄器 刀子	210土坑 11cm 破片	長 (3.5) 幅 1.0 重 3.6				先端部の破片である。	
570-6 205	鉄器 釘	210土坑 覆土内 破片	長 3.4 幅 0.7 重 3.1				両端部欠損。断面は方形。	
570-7 205	鉄器 釘	210土坑 覆土内 破片	長 (2.7) 幅 (4.5) 重 2.1				先端部の破片であり、先端部が鋭角に曲がっている。	
570-8 205	鉄器 釘	210土坑 覆土内 破片	長 (3.9) 幅 (0.4) 重 2.1				両端を欠損する。断面方形。	
571-1 205	金属製品 鈴	210土坑 7cm 完形	径 2.8 高 3.1 環径 0.6	銅?			中央部に段差がみられ、この位置で上下を接合している。文様は「けぼり」で表現され下部にくらべ上部に鳥4羽はじめ複雑な文様が集中している。	重 3.1
571-2 205	金属製品 鈴	210土坑 7cm 片残存	径 (1.0) 高 (2.1) 厚 0.2	銅?			潰れた状態で出土したものであり、全体に歪んでいる。器面に文様はなく、緑錆が全面に認められる。上面に付されている環は方形を呈し、曲っている。	
572-1	土師器 坏	222土坑 覆土内 破片	口 (9.8) 底 — 高 (2.8)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間に整形不明瞭な部分が認められる。	
572-2 205	土師器 坏	222土坑 ±0cm 完形	口 12.0 底 — 高 3.5	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、間の整形は不明瞭。	
572-3	土師器 甕	222土坑 9cm 破片	口 (19.2) 底 — 高 (8.3)	片岩質砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は厚手でわずかに外反し、胴部の張りは弱い。口縁部は横撫で、胴部外面は斜位篋削りを施す。	
572-4	灰釉陶器 埴	236土坑 覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 1.9	美濃系		にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。高台は三日月高台で、底部回転篋削り後の付高台。施釉技法は不明で見込み部に重ね焼き痕。	
572-5	灰釉陶器 埴	236土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明。	厚 0.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
573-1	須惠器 瓶	245土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。直線的に外傾する。高台部の可能性もあり。	外面に自然釉
573-2	須惠器 坏	250土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、腰部に、回転篋削りを施す。	
573-3	須惠器 甕	250土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 白色鉍物粒多	還元焰 やや硬質	灰白	紐作り轆轤整形(?)。口縁部外面に沈線を1本巡らす。	厚 0.9
573-4	須惠器 坏	251土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.6)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋切り無調整。	
574-1	土師器 坏	257土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.1)	黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
574-2	須惠器 甕	257土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。強く外反する口縁部で上端に段を有し、屈曲する。	内外面に自然釉
574-3	須惠器 甕	259土坑 覆土内 破片	口 (2.0) 底 — 高 (14.7)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	中性焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転?)。胴部の張りは弱く口縁部は短く外反する胴部上半は轆轤整形痕をそのまま残し、下半は縦位の撫で状篋削りを施す。	
574-4 205	土師器 坏	260土坑 10cm %残存	口 11.1 底 6.6 高 3.2	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、体部外面に指頭痕を明瞭に残している。	
574-5	須惠器 甕	260土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海波文。	厚 0.8
575-1	土師器 坏	261土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.0)	黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部の小破片で、わずかに外反し、やや雑な横撫でを施す。	
575-2	土師器 坏	261土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉍物粒少 白色細粒微	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部の小破片で、直線的に外傾し、横撫でを施す。	
575-3	須惠器 坏	261土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。	
575-4	須惠器 甕	261土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面不明、内面素文。	厚 1.0 外面に自然釉
575-5	須惠器 甕	261土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	明黄褐	口縁部破片で、内外面撫で後外面に平行沈線と波状文を施す。	厚 1.1 内外面に自然釉
575-6	須惠器 甕	261土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8 内面に自然釉
575-7	土師器 坏	276土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する形で、口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
575-8	土師器 坏	276土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.3)	白・黒色鉍物 粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い屈曲を有する。口縁部は横撫で底部は篋削り、体部には弱い指頭痕を有する。	
575-9	須惠器 境	276土坑 覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (2.9)	白色細粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部と腰部回転篋削り後の付高台。	
575-10	須惠器 瓶	276土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。強く外反する口縁部の破片で、上端は強く屈曲し、短く直立する。	



## 土 坑

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
576-1	須恵器 坏	308土坑 覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (3.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。腰部に回転篋削りを施す。	内外面に 自然釉
576-2	須恵器 蓋	308土坑 覆土内 破片	口 — 摘 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。口縁部は短く屈曲する。	厚 0.4
576-3	土師器 坏	310土坑 覆土内 破片	口 (13.8) 底 — 高 (3.0)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
576-4	須恵器 坏?	310土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(?)。外面に2本の平行沈線を施す。	
576-5	須恵器 瓶	310土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部破片と考えられ、端部に段を有し、中位に焼成前の外面からの穿孔を施す。	厚 0.6 外面に自 然釉
576-6	土師器 坏	312土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部が「C」字状に内湾する。口縁部は横撫でを施す。	厚 0.4
576-7	須恵器 境	313土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。	厚 0.5
576-8 205	土師器 坏	347土坑 4 cm %残存	口 13.4 底 — 高 3.9	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	口縁部内 外面カー ボン付着
576-9 206	須恵器 坏	347土坑 9 cm %残存	口 (13.0) 底 (8.6) 高 (3.3)	白色細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋削りを施す。体部外面に2段の屈曲がみられる。	体部外面 に薄く自 然釉
577-1 206	須恵器 坏	347土坑 10cm %残存	口 13.2 底 8.7 高 3.7	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋削りを施す。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
577-2	須恵器 坏	347土坑 5 cm %残存	口 (13.8) 底 (9.0) 高 (3.0)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。口縁部はわずかに外反する。	
577-3	土師器 甕	347土坑 4 cm 破片	口 (29.6) 底 — 高 (9.4)	細砂粒多 片岩質砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	胴部の張りは強く、口縁部は「く」字状に外反し、上端が短く上方に屈曲する。口縁部は横撫で、胴部外面斜位篋削り、内面は撫でを施す。	
577-4	須恵器 甕	347土坑 6 cm 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	内面素文。外面叩きは不明で、一部光沢がみられるほどの撫でが施されている。	厚 0.9
577-5	須恵器 坏?	370土坑 覆土内 破片	口 — 底 11.2 高 (2.2)	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部はやや丸底気味で切り離した後、手持ち篋削りを施す。	
578-1	須恵器 坏	371土坑 覆土内 破片	口 (16.3) 底 — 高 (4.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は外反しない。	内面に自 然釉
578-2	土師器 坏	372土坑 覆土内 破片	口 (11.9) 底 — 高 (1.8)	黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	扁平な丸底で、口縁部は短く外傾する。口縁部は横撫で、体部は撫でを施す。	
578-3	土師器 坏	372土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
578-4	須恵器 蓋	372土坑 覆土内 破片	口 (10.1) 摘 — 高 (2.7)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は平坦で、口縁部への変換部に鈔状の突帯を施す。摘は接合部から剥落している。	
578-5	須恵器 蓋	372土坑 覆土内 破片	口 (11.7) 摘 (4.0) 高 (1.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、小振りである。摘は環状摘で天井部外面回転篋削り後の貼付。内面かえりはシャープさに欠ける。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
578-6	須惠器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒微	還元焰 硬質	灰	外面に突帯を3帯と波状文を巡らす。	厚 0.9
578-7	須惠器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	内外面共整形不明。	厚 1.2 外面に自然釉
578-8	須惠器 甕	372土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、上端が肥厚する。外面に細かなカキ目が認められる。	厚 0.9 外面に薄く自然釉
578-9	須惠器 甕	386土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き。内面青海波文。頸部接合部は平行叩きの上に粘土がかぶさったような状態を呈している。	厚 0.8 外面に自然釉
578-10	須惠器 甕	395土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面米格子状叩き内面素文。	厚 0.8
579-1	土師器 坏	405土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	
579-2	須惠器 蓋	405土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 摘 — 高 (2.0)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に広範囲に回転篋削りを施す。	
579-3	須惠器 蓋	405土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 摘 — 高 (1.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に広範囲に回転篋削りを施す。	
579-4	須惠器 甕	405土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面撫で後カキ目。内面青海波文後撫でを施す。	厚 0.9
579-5	須惠器 坏	408土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (1.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
579-6	須惠器 甕	408土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面カキ目、内面青海波文。	厚 0.6
579-7 206	須惠器 坏	414土坑 覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋切り無調整。底部は切りそこねか、円盤状に突出し、坏部は完全に欠損している。	厚 1.2
580-1 206	灰釉陶器 埴	421土坑 覆土内 埴残存	口 (14.0) 底 — 高 (2.9)	美濃系	灰		轆轤整形(?)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。高台部は欠損し不明。施釉は漬け掛け。	
580-2	土師器 坏	442土坑 覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	浅黄橙	底部と口縁部の境に弱い段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
580-3	須惠器 蓋	442土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 摘 — 高 (2.6)	白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。内面に比較的シャープなえりがあったものと思われるが、欠損している。	
580-4	土師器 甕	442土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (1.9)	片岩小礫多 白色鉍物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	突出する底部で、内面の剥落が激しい。	
581-1	須惠器 瓶	473土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	胴部最大部直上に一本の沈線を巡らせる。	厚 0.8
581-2	須惠器 甕	475土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰赤	口唇部に沈線を巡らせ、下位に9本単位の波状文を施文する。	厚 0.8 焼締
581-3	須惠器 甕	480土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。内外面共に撫でを施す。	厚 0.9
582-1 206	土製品 羽口	516土坑 30cm 破片	長 (7.1) 幅 (8.3) 厚 (3.2)	砂粒多	先:還元 元:酸化	灰 におい 橙	両端部を欠損し、上端の一部に還元部がみられる。	

## 土 坑

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
582-2 206	土製品 羽口	516土坑 覆土内 破片	長 (7.8) 幅 (7.5) 厚 (3.7)	砂粒多 黒色鉱物粒少	還元	灰	先端部に融着物が付着した部分のみられる。	
582-3 206	土製品 羽口	516土坑 40cm 破片	長 (7.5) 幅 (6.7) 厚 (2.4)	砂粒多 黒色鉱物粒少	先:還元 元:酸化	灰 にぶい 橙	先端部に融着物が付着している。	
582-4 206	土製品 羽口	516土坑 覆土内 破片	長 (7.9) 幅 (4.9) 厚 (3.0)	砂粒多 黒色鉱物粒少	先:還元 元:酸化	灰 にぶい 橙	先端の融着物は表面がガラス質を呈する。	
582-5 206	土製品 羽口	516土坑 33cm 破片	長 (9.2) 幅 (4.7) 厚 (3.5)	砂粒多	両端:還元 中:酸化	灰 にぶい 橙	両端部が残存し、下端部は還元し、先端の融着物はタール状を呈している。第582図-6と同一個体。	
582-6 206	土製品 羽口	516土坑 34cm 破片	長 (10.2) 幅 (6.9) 厚 (3.4)	砂粒多	両端:還元 中:酸化	灰 にぶい 橙	全体に還元され、両端部が残存している。先端部の融着物はスラグ状を呈する。第582図-5と同一個体。	
583-1 206	土師器 坏	521土坑 26cm 残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒多 白色細粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
583-2	土師器 坏	521土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で、底部は篋削り。体部は粗い撫でを施す。	
583-3 206	土師器 坏	521土坑 27cm ¾残存	口 13.4 底 — 高 4.3	砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部に1段の屈曲を有し、口縁部は外傾する。口縁部横撫で後体部外面及び底部に篋削りを施す。内面は全面撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン暗文を施す。	
583-4 206	土師器 坏	521土坑 5cm ¾残存	口 (13.0) 底 (7.4) 高 (3.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 白色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。体部には指頭痕が認められる。	
583-5 206	須恵器 坏	521土坑 覆土内 破片	口 (13.8) 底 (8.0) 高 (4.3)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り後、周辺に回転篋削りを施す。	
583-6	須恵器 埴	521土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.6) 高 (2.2)	褐色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状を呈し底部回転糸切り後の付高台。	
583-7	灰釉陶器 壺	521土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.7)	美濃系		灰白	紐作り轆轤整形。	
583-8	須恵器 甕	521土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面擬格子叩き。内面青海波文で、横位の粗い撫でを施す。	厚 0.9
583-9	須恵器 甕	521土坑 7cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	黄灰	紐作り叩き整形。外面は平行叩き後、全体に撫でを施し、内面は青海波文。	厚 1.7
583-10	須恵器 短頸壺	521土坑 ±0cm 破片	口 (25.0) 底 — 高 (5.2)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形。胴部の張りが強く、口縁部は「く」字状に屈曲し、口唇部は、平坦である。	
583-11 207	鉄器 釘	521土坑 覆土内 破片	長 (4.0) 幅 (0.6) 重 4.0				両端欠損。断面方形。	
584-1	土師器 坏	46土坑 覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.9)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
584-2 207	須恵器 坏	116土坑 覆土内 ¾残存	口 (13.2) 底 (6.8) 高 (3.7)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部上位に張りを有し、口縁部は内湾気味である。	
584-3 207	石製品 紡錘車 未製品	201土坑 覆土内 完形	径 3.4 孔 — 厚 2.0	砥沢石			平面は隅丸方形状で、側面は半円状を呈し、下側にも径1.2cm程度の平坦面を有し、この面から穿孔を施すが、貫通してはいない。側面の整形は比較的丁寧である。	重 31.4

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
584-4 207	鉄 器 刀 子	248土坑 覆土内 破片	長 5.5 幅 1.0 重 4.7				茎と刃部との中間の破片と考えられる。	
584-5	土 師 器 坏	373土坑 覆土内 破片	口 (10.2) 底 — 高 (1.6)	黒色鋳物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫でを施す。	
584-6	須 惠 器 坏	373土坑 覆土内 破片	口 (15.9) 底 — 高 (3.4)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部下半に回転篋削りを施す。	
584-7	須 惠 器 坏	382・383 土坑 覆土内 破片	口 (11.3) 底 — 高 (2.6)	黒色鋳物粒多 細砂粒微	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、体部は撫で。	
584-8	須 惠 器 不 明	382・383 土坑 覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 (3.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。蓋か脚部の可能性もある。	外面に自然釉
584-9	土 師 質 黒色土器 塊	385土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.8)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。内面は非常に丁寧な磨き後黒色処理したのと考えられるが、一部は焼き戻され橙色になっている。	
585-1	土 師 器 坏	388土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鋳物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内傾する。口縁部は横撫で後、底部に篋削りを施す。	
585-2 207	土 師 器 坏	388土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、体部外面と底部は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.6 内面若干 磨減
585-3	須 惠 器 蓋	388土坑 覆土内 破片	口 (16.7) 摘 — 高 (2.1)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。丸味の強い返りを有し、天井部外面は回転篋削りを施す。	外面に自然釉
585-4	須 惠 器 蓋	388土坑 覆土内 破片	口 (18.7) 摘 — 高 (1.6)	褐色細粒少	還元焰 やや硬 質	灰白	轆轤整形(右回転?)。内面かえりはシャープであるが短い。天井部外面に回転篋削りを施す。	
585-5	土 師 器 坏	389土坑 覆土内 破片	口 (13.9) 底 — 高 (2.2)	黒色鋳物粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に、外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
585-6 207	銅 製 品 把 手?	398土坑 覆土内 ほぼ完形	長 (3.9) 幅 (0.5) 重 3.6				引き出し状の物の把手と考えられるもので、片側にピンが残存している。新しい時期の可能性あり。	
585-7	土 師 器 坏	391土坑 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (2.6)	白・黒色鋳物 粒少 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
585-8	土 師 器 壺	391土坑 覆土内 破片	口 (21.4) 底 — 高 (4.8)	細砂粒多 黒色鋳物粒多	酸化焰 硬質	明赤褐	「く」字状に外反する口縁部の破片で、内外面共に丁寧に横撫でを施す。胴部上位の篋削りは横撫で、口縁部に痕跡を残している。	
585-9 207	土 師 器 坏	423土坑 覆土内 1/2残存	口 (12.6) 底 (9.2) 高 (3.1)	細砂粒少 黒色鋳物粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は平底で、体部下半に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し、中央部に径2.5cmの凹を有する。体部外面に指頭痕が残存。	
585-10 207	土 師 器 坏	423土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鋳物粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	にぶい 橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外傾する。体部外面と底部は篋削り内面は撫で後放射状暗文施文。	厚 0.6
585-11	須 惠 器 坏	423土坑 覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰褐	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
585-12	土 師 器 坏	424土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.6)	黒色鋳物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部撫でを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
585-13	須恵器 壺	424土坑 覆土内 破片	口 — 底 (10.6) 高 (1.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台で、高台接地面は2面の面取り状を呈する。	
585-14	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.6)	黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底気味で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の調整は不明瞭。	
585-15	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.2)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	口縁部外面に黒斑
585-16	土師器 坏	441土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.5)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫でを施す。	
585-17	須恵器 蓋	441土坑 覆土内 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (1.7)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。天井部は扁平な器形で、内面かえりはやや反り気味で、シャープさに欠ける。	
585-18	須恵器 坏	444土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.6)	黒色細粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。	
585-19	須恵器 坏	451土坑 覆土内 破片	口 (11.4) 底 (7.8) 高 (3.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部中位に弱い張りを有する。底部は切り離し後、回転篋削りを施す。	
585-20	土師器 坏	451土坑 覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 (3.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
585-21	土師器 甕	451土坑 覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.8)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部は横撫で、胴部は縦位の篋削りを施す。	
585-22	土師器 坏	535土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。外面は口縁部横撫で後、底部及び体部に篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4
585-23	須恵器 蓋	535土坑 覆土内 破片	口 (14.6) 摘 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。比較的張りのある天井部を有し、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転篋削りを施す。	
585-24	須恵器 坏	535土坑 覆土内 片残存	口 (12.6) 底 (7.0) 高 (4.1)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張りを有し、体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は回転糸切り無調整。	
585-25 207	瓦 瓦製円盤	535土坑 覆土内 完形	径 2.3 厚 1.3 重 7.0				男瓦か女瓦かの区別はつかない。瓦の端部破片を使用し、周辺を打ち欠いて整形している。使用痕等は不明。	

## 第2号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
588-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (4.5)	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
588-2	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (9.4) 底 — 高 (2.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に沈線と波状文を施す。	外面に自然軸
588-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.7
588-4	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端に強い段を有する。	厚 0.8
588-5 207	石製品 砥石	覆土内 片残存	長 6.2 幅 3.2 厚 2.2	砥沢石			使用面は4面で、2面に刃調整の痕跡がみられ、半載されている。	重 81.1

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
588-6 207	石 器 岐 石	覆土内 完形	長 9.0 幅 6.5 厚 5.1	粗粒安山岩			側端部と下端部に剝離がみられ、下端の縁辺にも及んでいることから半截されて使用されていたものと思われる。	

第 4 号井戸跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
590-1	灰釉陶器 深 壺	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (4.8)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。体部の張りは比較的強く、口縁部は外反し、内面に1本の沈線が巡っている。施釉は漬け掛けである。	
590-2	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台で、内側が割れている。施釉技法は不明で、内面に重ね焼き痕が認められる。	
590-3	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.7)	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部にカーボンが付着。	
590-4 207	須 恵 器 壺	覆土内 1/4残存	口 (16.8) 底 (11.0) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に強く外傾する。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
590-5	須 恵 器 高 坏?	覆土内 破片	口 (20.8) 底 — 高 (3.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。口縁部は強く外傾する器形で、体部との境に1本の沈線を巡らす。	外面に自然釉
590-6	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	口 (19.9) 摘 — 高 (2.2)	細砂粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。扁平な器形で、内面かえりは内傾しない。摘は剥落し不明。天井部外面に回転篋削りを施す。	
590-7	須 恵 器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 (12.4) 高 (3.6)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	高台は付高台で、接地面が磨滅している。底部中央部はやや窪み、粘土を雑に撫で付けた様な状態。	
590-8	須 恵 器 皿	覆土内 破片	口 — 底 (13.0) 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。	
590-9	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (22.8) 底 — 高 (9.6)	細砂粒微 黒色細粒少	還元焰 やや硬質	橙	轆轤整形。口縁部は強く外反し上端に段を有する。口縁部内外面にハゼが認められる。	
590-10	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉍物粒少 白色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面素文。	厚 1.0
590-11	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2 焼締 内外面釉 状付着物
590-12	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰褐	頸部に断面三角形の突帯を巡らす。胴部外面の整形不明。内面にはわずかに青海波文がみられる。	厚 1.0
590-13	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面撫で、内面は撫で後に平行叩き状の当具痕?。	厚 0.8
591-14	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (25.0) 底 — 高 (6.7)	白・黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形。胴部の整形は不明。口縁部は強く外反し、上端が肥厚する。	内面に自然釉
591-15	須 恵 器 羽 釜	覆土内 破片	口 (24.4) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	轆轤整形(?)。罫は丁寧な貼付であるが対称形ではない。内外面共横位の轆轤撫でを施す。	
591-16 207	瓦 鏡 瓦	覆土内 破片	厚 3.2	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	黒	単弁5葉の鏡瓦で、比較的シャープな仕上がりである。周辺や裏面等は篋削りされなめらかにされている。全体に黒色処理。	いぶし?
591-17 207	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	褐色粒多 白色鉍物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端部面取りは2面。凸面は全面撫で後、篋描き文字「山」。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
591-18 208	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	砂粒多	還元焰 硬質	灰黄褐	一枚作り?。凸面は、全面丁寧な撫で後、篋描き文字「大千」を施す。	
591-19	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。狭端部上下に、面取りがなされている。凹面布目は雑な撫で。凸面は全面撫でを施す。	
591-20	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色細粒多	還元焰 硬質	暗灰	一枚作り?。凹面布目は撫で消され、凸面には斜格子叩きを施す。	
591-21	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り?。凸面は、全面撫でを施す。	
591-22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凹面の布目は、側端部の一部にも及んでいる。凸面に縄目。	
591-23	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは1面。凸面に粘土板糸切り痕を残し、正格子叩きを施す。	
591-24	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色細粒少	中性焰 やや硬質	橙	一枚作り?。凹面に、粘土板糸切り痕を残し、凸面は斜格子叩きを施す。	
592-25	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色細粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは3面。凹面は粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面は平行叩き?後全面撫でを施す。	
592-26 208	瓦 男瓦	覆土内 瓦残存	厚 2.7	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り(?)。側端面取り3面。凹面に粘土板糸切り痕を残す。凸面は全面撫で、篋描き文字「三」を施す。	
592-27	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	厚 3.6	砂粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	暗灰	一枚作り?。側端面取りは2面。凹面布目は部分的に指先の撫でが施され、凸面は全面撫で、1ヶ所に布圧痕が認められる。	
592-28 208	土製品 羽口?	覆土内 破片	長 (6.4) 幅 (5.2) 厚 (5.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	淡黄	高坏の脚部状にすそが広がるもので、上端は欠損し、残存部外面はやや還元気味であり下端は接合面から剥落した痕跡がある。体部外面には面取りがなされている。	
592-29 208	不明 ?	覆土内 破片	長 3.4 幅 2.6 厚 1.9	?	?	明黄褐	尖底土器の底部のような形状を呈するが、焼成されたものとは考えられず、自然遺物の可能性がある。	
592-30 208	鉄器 鎌	覆土内 瓦残存	長 (12.6) 幅 (3.5) 重 29.8				雁股である。刃部は内側に付けられている。	
592-31 208	石器 敲石	覆土内 完形	長 10.0 幅 5.5 厚 2.8	石英閃緑岩			上端部に顕著な敲打痕がみられる。	重 577.7
592-32 208	石製品 砥石	覆土内 瓦残存	長 11.6 幅 7.7 厚 7.5	粗粒安山岩			使用痕は9面で半截されている。	重1037.0

## 第8号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
594-1 208	青磁 碗	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少		オリブ灰	釉厚は0.5cm~0.7cm程度。	厚 1.5
594-2	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (30.0) 底 — 高 (8.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。胴部上半~口縁部にかけては、轆轤整形、下半に叩きを施したと考えられる。内面は青海波文。	
594-3	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (12.5)	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少	還元焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。胴部上半に張り有し口縁部は内湾する。内外面共に轆轤整形痕を残し、外面には縦位の弱い撫での痕跡もある。	
594-4	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (5.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	





挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
596-25 209	石製品 砥石	覆土内 片残存	長 14.5 幅 8.0 厚 7.7	砂岩			使用面は7面で、半截されている。	重1282.0
596-26	石製品 砥石	覆土内 完形	長 12.6 幅 11.9 厚 5.9	粗粒安山岩			表面には刃調整痕がみられ、裏面には厚くカーボンが付着している。	重 993.0

## 第9号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
598-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削り、体部には弱い指頭痕を残す。	
598-2 210	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (3.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底状の平底で、体部から口縁部は直線的に外傾し、口唇部内面はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部に指頭痕をわずかに残す。	
598-3 210	土師器 坏	覆土内 片残存	口 (12.7) 底 (9.0) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部下半にわずかに張り有する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の整形は不明瞭。	
598-4	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.4)	白・黒色鉱物 粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に張りを有し口縁部上端は短く内湾する。口縁部は横撫で底部は篋削りで、体部の調整は不明瞭。	
598-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.8) 底 (8.4) 高 (3.0)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部調整は不明。	
598-6	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 (1.9)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋切り無調整。	
598-7 210	須恵器 坏	覆土内 片残存	口 (11.4) 底 (6.8) 高 (3.6)	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転糸切り無調整。腰にわずかに張りを有し、口縁部は直線的に外傾する。	外面に薄く自然釉
598-8 210	須恵器 坏	覆土内 片残存	口 (11.0) 底 (6.2) 高 (3.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰に弱い張りを有する。	
598-9	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.4) 高 (3.9)	白色細粒少	還元焰 やや軟質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
598-10	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.5) 底 (6.6) 高 (3.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋切り無調整。	内外面の一部に自然釉
598-11	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (8.8) 高 (3.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
598-12	須恵器 坏	覆土内 片残存	口 (12.4) 底 (6.6) 高 (3.9)	砂粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。口縁部上端内外面にカーボンが付着。灯明皿か?	
598-13 210	須恵器 碗	覆土内 片残存	口 (14.0) 底 (6.8) 高 (4.6)	砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
598-14 210	須恵器 碗	覆土内 片残存	口 (13.6) 底 6.5 高 (5.2)	白色細粒多	還元焰 やや軟質	灰黒	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。本来はいぶし焼成されたものと思われるが、内面口縁部付近及び外面体部上半は灰白色に変色している。	
598-15	須恵器 碗	覆土内 片残存	口 (14.3) 底 (6.2) 高 (4.5)	白・黒色細粒 少	還元焰 やや軟質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状の特異な形態で、底部回転糸切り後の付高台。体部上位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
598-16 210	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 (13.8) 底 (6.3) 高 (4.5)	片岩細粒少 雲母細粒多	中性焰 やや軟質	にぶい 黄橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部中位にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。	底部の磨減が顕著
598-17	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (15.4) 底 (7.0) 高 (5.0)	白色細粒少	還元焰 軟質	灰	轆轤整形(?)。高台は付高台で、接地部が磨減している。	
598-18	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (5.6) 高 (4.7)	細砂粒少 白・黒色細粒少	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、接地部が磨減している。	
598-19	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 (13.0) 底 (7.4) 高 (4.6)	細砂粒少 褐色細粒少 黒色鉍物粒微	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台であるが、貼付部から剥落。	
598-20 210	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 12.0 底 5.6 高 4.7	細砂粒少 白・黒色鉍物 粒微	中性焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	内外面に カーボン 付着
598-21 210	須恵器? 埴	覆土内 ほぼ完形	口 15.0 底 6.4 高 6.4	片岩細粒少 黒色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は深めで張りがなく、口縁部は外反する。内面の轆轤調整痕は不明瞭でコテをあてたものと思われる。	
599-22	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 (18.0) 底 (8.2) 高 (5.9)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は貼付部から剥落している。体部から口縁部内外面にカーボン付着。	
599-23	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 (7.0) 高 (3.5)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部は、磨減している。	
599-24	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 (6.6) 高 (5.0)	褐色細粒微	還元焰 やや軟質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の雑な付高台で、接地部はわずかに磨減している。	
599-25	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 (3.6)	白色細粒少 褐色細粒少	中性焰 やや軟質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、高台貼付に伴い広範囲に撫でが施されている。見込み部磨減。	
599-26	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 (9.6) 高 (2.4)	白・黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は長脚の角高台状で、底部回転糸切り後の付高台。	
599-27	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.6) 底 (9.0) 高 (5.2)	白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部はわずかに磨減。	
599-28	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 (7.0) 高 (2.5)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。高台の接地部は磨減する。	
599-29	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 (8.6) 高 (3.0)	白・黒色鉍物少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は長脚の角高台状で、底部回転糸切り後の付高台である。	
599-30	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 (3.4)	白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は付高台。	外面に自然釉
599-31	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 7.4 高 (3.7)	白色鉍物粒微 黒色細粒少	中性焰 硬質	浅黄	轆轤整形(右回転)。高台は付高台で、底部は高台貼付に伴い丁寧に撫でられている。見込み部に轆轤整形痕を顕著に残す。	
599-32	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.4) 高 (3.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。見込み部磨減。	
599-33	須恵器 埴	覆土内 %残存	口 — 底 7.5 高 (2.9)	黒色鉍物粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。高台は付高台で、底部切り離し技法は高台貼付に伴う撫でによって不明。見込み部に轆轤整形痕を顕著に残す。	
599-34	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.4) 高 (3.0)	砂粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は角高台状で底部回転糸切り後の付高台。見込み部と高台接地部磨減。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
599-35	灰釉陶器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 (1.8)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は三日月高台で、底部回転篋削り後の付高台。施釉は刷毛掛けか?。	
599-36 210	灰釉陶器 折縁皿	覆土内 1/4残存	口 (11.6) 底 (6.6) 高 (2.2)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、底部は体部からわずかに突出する。施釉は漬け掛けである。	
599-37 210	須恵器 皿	覆土内 1/4残存	口 (16.0) 底 9.2 高 (3.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は強く外反する。内面に重ね焼き痕と思われる円形の色調の違いがみられる。	
599-38 210	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (15.0) 底 (8.2) 高 (2.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は水平方向に強く外反する。	
599-39	土師器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (5.0)	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	脚部破片で、裾部は横撫で、脚部中位から基部外面縦位篋削り、内面撫で、坏部底部に下部からの穿孔が認められる。	底部穿孔
600-40	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (4.4) 高 (2.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
600-41	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.8) 高 (2.5)	砂粒少 黒色粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
600-42	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (4.0) 高 (1.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
600-43	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.8) 摘 — 高 (2.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。かえりは丸味の強いものでシャープさに欠ける。天井部外面は広範囲に回転篋削りを施す。摘は欠損し不明。	
600-44 210	須恵器 蓋	覆土内 1/4残存	口 (15.2) 摘 (3.6) 高 (3.1)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。器形は全体に扁平であるが、天井部は弱い張りを有し、端部が屈曲する。摘は環状摘で、丁寧な貼付。天井部外面は回転篋削りを施したものと思われるが、撫でられた結果不明瞭である。	
600-45	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (3.9) 高 (1.5)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
600-46	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 摘 — 高 (2.5)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は欠損するが、天井部外面回転篋削り後の貼付と考えられる。	
600-47	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (7.0) 高 (1.7)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。大振りの環状摘部の破片で、天井部外面回転篋削り後の貼付。	
600-48	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (9.0) 高 (2.7)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は大振りな環状摘状で、天井部外面回転篋削り後の貼付。天井部内面と摘外縁に磨滅が認められることから、壺?として使用された可能性もある。	
600-49	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (6.9)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は崩れた「コ」字状を呈し、上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫でで内外面に接合痕が認められる。胴部外面上位は横位篋削り、内面は横位撫でを施す。	
600-50	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (11.5)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	肩部に強い張りを有し、胴部下半は直線的である。高台は欠損して不明。胴部外面は篋削り、内面は撫でを施す。	
600-51 210	須恵器 壺	覆土内 1/4残存	口 — 底 8.5 高 (9.0)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台。外面は篋等による強い撫で、内面は指先による撫でを施す。	内外面に 自然釉
600-52	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.0)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。胴部下端に2段の回転篋削りを施す。	外面にカー ボン付 着

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
600-53	灰釉陶器 瓶	覆土内	口 — 底 (10.2) 高 (3.0)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転削り後の付高台。	内面底部に厚く釉あり
600-54	須惠器 円面硯	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (4.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	脚部には方形の透しをもつ。	内外面に自然釉
600-55	須惠器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (12.0)	白色鉾物粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰黄	胴部の張りは比較的強く、口縁部も内傾する。鐙の貼付は丁寧で、上下の接合部も良く撫でられている。内外面共に轆轤調整痕を残している。	
600-56	須惠器 羽釜	覆土内 破片	口 (18.2) 底 — 高 (9.9)	細砂粒少 褐色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	胴部の張りは強く、口縁部は内傾する。鐙上端は平坦で、貼付は非常に丁寧である。内外面共に轆轤整形痕を明瞭に残している。	
600-57	須惠器 羽釜	覆土内 破片	口 (18.6) 底 — 高 (5.2)	細砂粒少 白・黒色細粒多	還元焰 硬質	淡黄	胴部の張りは強く、口縁部も強く内傾する。内外面共に轆轤整形痕を残す。	
601-58	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 (29.0) 高 (6.5)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	短く「く」字状に屈曲する。内外面共に轆轤による撫でを施す。	
601-59	須惠器 甌	覆土内 破片	口 (27.0) 底 — 高 (4.7)	白色粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端が短く直立する。	13号溝第612図-11と接合
601-60	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉾物粒少	還元焰 硬質	灰	外面に弱い沈線と7本単位の波状文を施す。	厚 0.8 内面に自然釉
601-61	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁上端に段を有し、中位に1本の沈線を巡らせる。	厚 1.2 内外面に自然釉
601-62	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面撫で、内面青海波文。外面にカギ状の平行沈線が認められるが、偶然か?	厚 1.4 内面に自然釉
601-63	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端に段を有し、下位に沈線と波状文を施文。	厚 1.1 外面に厚く自然釉
601-64	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部上端が折り返し状を呈する。内外面共に轆轤による撫でを施す。	厚 0.9
601-65	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部上端に突帯を巡らし、強い段を形成している。外面の一部にカキ目?が認められる。	厚 1.0 内外面に自然釉
601-66	須惠器 瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	肩部の破片で、内外面共に轆轤による調整が行われている。	厚 0.9 外面に自然釉
601-67	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉾物粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	頸部の破片で、内外面共に撫でを施す。	厚 1.2
601-68	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	厚 1.2
601-69	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒多 黒色粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、上端に突帯を2帯巡らせ、下位に5本単位の波状文を施す。	厚 1.4
602-70	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2 外面に自然釉
602-71	須惠器 甌	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	頸部破片で、口縁部外面に5本単位の波状文を施す。内面は撫で。	厚 1.8

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
602-72	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に平行沈線と波状文を交互に施文。	厚 1.6
602-73	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	白色細粒多 小礫微	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3
602-74	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	口縁部破片で、外面に7本単位の波状文、内面に撫でを施す。	厚 1.5
602-75	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2
602-76	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	白色細粒少 褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部上端に2帯の突帯を巡らし、下位に9本単位の波状文と2本単位の巾広の平行沈線を施す。	厚 1.0 内外面に 自然釉
602-77	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面細かな平行叩き、内面青海波文。	厚 1.5 外面に自 然釉
603-78	須恵器 甕	覆土内 破片	口— 底— 高—	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.1
603-79	須恵器 甕	覆土内 底部破片	口— 底— 高—	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	平底で、外面底部に篋削り、内面は撫でを施す。	厚 1.2
603-80 210	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	黒灰	瓦当意匠は左廻行唐草文。	
603-81 210	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒少 褐色粒多	還元焰 硬質	明灰	一枚作り？。凸面に撫で後篋描き文字。文字不明。	
603-82 211	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面にも粘土板糸切り痕がみられ「長女？」の篋描き文字。	
603-83 211	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凹面布目は、部分的に撫でが施され、凸面は全面撫で後「園田」と思われる文字を含んだ正格子叩き。	
603-84 211	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は「園田」の文字を含む正格子叩きを施す。	
603-85	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凹面布目は撫で消され、凸面は斜格子叩きを施す。	
603-86	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り？。凹面布目は撫で消され、凸面は斜格子叩きを施す。	
603-87	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒少 白色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凸面正格子叩き。	
604-88	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色細粒少 黒色鉱物粒多	中性焰 硬質	にぶい	一枚作り。凹面全面撫で、凸面撫で後正格子叩きを施す。	
604-89	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凸面に平行叩きを施す。	
604-90	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白・褐色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凹面には、粘土板糸切り痕を残しているが、全面を粗く撫で消している。凸面は縄叩き。	
604-91	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	砂粒微 褐色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面に縄目が明瞭。	
604-92	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物少 褐色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凸面は全面撫でを施す。	
604-93 211	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端部面取りは2面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面は横位撫で後、篋描き文字「土？」。	
604-94	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 黄橙	一枚作り？。側端部面取りは3面。凸面は平行叩き後全面撫でを施す。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
604-95	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	黒色粒少 褐色細粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り。側端面取り1面。凹面に粘土板糸切り痕を残し、凸面は面取り状の縦位篋撫でを施す。	
604-96	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端面取りは3面。凹面は粘土板糸切り痕を残し、間隔をおいて縦位の篋撫でが施されている。凸面は全面撫で。	
604-97	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色細粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面撫で。	凹面赤色 顔料付着
605-98	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒少 褐色粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。凸面は縄叩きで、全面を撫で消している。	
605-99	瓦 男 瓦？	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒多	中性焰 硬質	灰黄	一枚作り？。側端面取りは2面。凸面は縦横の撫でを施す。	
605-100	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒多	中性焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端面取り2面。凸面は面取り状縦位篋撫でを施す。両面共にカーボン付着。	
605-101	瓦 玉 縁 付 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端面取りは2面。凹面布目は部分的に撫でが施され、凸面は縄叩き後全面が撫で消されている。	
605-102	瓦 男 瓦	覆土内 1/2残存	厚 2.0	白色鉍物粒少 褐色粒多	還元焰 硬質	にぶい 橙	一枚作り？。側端面取りは2面。凸面に粘土板糸切り痕を残し、縦位の面取り状の篋削りを施す。	
605-103	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端面取りは3面。凸面に縦位の撫でを施す。	内外面に 自然釉
605-104	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。凸面平行叩きを施す。	
605-105	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り？。側端面取りは3面。凸面は縄叩き後全面撫でを施す。	
606-106 210	石 器 敲 石	覆土内 1/2残存	長 7.5 幅 7.4 厚 5.1	石英閃緑岩			左側端部に敲打痕、上部と右側端部に擦り痕がみられる。	重 412.5
606-107 211	石 器 薦編み石	覆土内 1/2残存	長 9.2 幅 8.4 厚 5.0	石英閃緑岩			上部に剝離がみられ、熱を受けていると思われる。	重 577.7
606-108	石 器 薦編み石	覆土内 ほぼ完形	長 15.2 幅 5.2 厚 2.0	頁岩			表面に剝離がみられ、裏面とは剝離している。	重 223.7
606-109 211	石 器 敲 石	覆土内 完形	長 10.3 幅 5.6 厚 3.8	粗粒安山岩			上下端部に敲打痕がみられる。	重 324.3
606-110	石 器 薦編み石	覆土内 1/2残存	長 10.4 幅 5.8 厚 5.3	珉質変質岩			使用痕不明。	重 513.7
606-111 211	石 器 薦編み石	覆土内 完形	長 11.3 幅 4.9 厚 2.9	変質玄武岩			使用痕不明。	重 250.8
606-112 209	石 器 敲 石	覆土内 1/2残存	長 8.1 幅 4.8 厚 3.2	変質安山岩			上部にわずかに敲打痕がみられる。	重 208.0
606-113 212	鉄 器 釘	覆土内 1/2残存	長 6.3 幅 0.6 重 8.8				頭部側の破片で、断面方形。	

第3号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
608-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.3)	黒色鉍物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
608-2	土師質 埴	覆土内 瓦残存	口 (12.0) 底 (6.4) 高 (4.0)	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。	
608-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (17.2) — 高 (1.3)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。	外面に自然釉
608-4	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	胴部の破片で、最大部に斜位の圧痕が認められる。	厚 0.6
608-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面に平行沈線と波状文を施す。	厚 1.2 内外面に自然釉
608-6	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰黄	口縁部上端に段を有し、外面に波状文と沈線を数段巡らす。	厚 1.1
608-7 212	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 3.0 幅 1.0 重 2.3				茎部破片。身側の一部残存。	
608-8 212	鉄器 釘	覆土内 破片	長 2.0 幅 0.5 重 1.3				断面方形。両端部欠損。	

## 第4号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
609-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.9)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形が不明瞭。	
609-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (7.2) 高 (4.3)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
609-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (4.3)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後、周辺及び腰部に回転篋削りを施す。	内外面に火だすき
609-4	須恵器 円面硯	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。脚部には透しと沈線を施している。硯面に磨滅は認められない。	
609-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.7 外面に自然釉

## 第5・7号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610-1	須恵器 皿	5溝 覆土内 破片	口 (17.6) 底 — 高 (2.8)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部から底部に回転篋削りを施す。	
610-2	須恵器 蓋	5溝 覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で摘は欠損する。内面かえりは大型で、口縁部より下に出る。天井部外面に回転篋削りを施す。	
610-3	須恵器 甕	5溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面撫で後、間隔をおいて細かなカキ目。内面は青海波文。	厚 0.9
610-4	須恵器 甕	7溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 白色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部の小破片で、縦位のカキ目後、横位の平行沈線を施す。	厚 0.8

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
610-5	須 惠 器 碗	7溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の付高台?	

第9・12号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
611-1	土 師 器 坏	9溝 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
611-2	須 惠 器 甕	9溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒微	還元焰 硬質	灰	外面は、平行叩きか?	厚 0.4 外面に自然釉
611-3 212	須 惠 器 坏	12溝 覆土内 %残存	口 (11.4) 底 (7.0) 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部に張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。	
611-4	青 磁 碗	12溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	龍泉窯系		明緑灰	龍泉窯系。発色が良好で、外面にしのぎの蓮弁面がみられる。釉厚は0.8mm程度。	厚 0.6 13世紀

第13号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
612-1	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉍物粒多 白色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は撫で?、底部は篋削りを施す。	
612-2 212	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	黒色鉍物粒多 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底気味で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の調整は不明瞭。	
612-3	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.3)	細砂粒微	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転篋削りを施す。	
612-4 212	須 惠 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.4) 高 (1.5)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。	
612-5	須 惠 器 坏	-6cm ほぼ完形	口 (12.5) 底 (6.6) 高 (4.1)	細砂粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。内面口縁部見込み部が磨滅している。	いぶし
612-6	須 惠 器 坏	-2cm ほぼ完形	口 11.4 底 7.1 高 3.7	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部と体部中位に弱い張りを有する。	
612-7	須 惠 器 坏	覆土内 %残存	口 (12.4) 底 (7.0) 高 (4.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。見込み部の一部が環状磨滅。	
612-8	須 惠 器 坏	覆土内 %残存	口 (12.0) 底 (6.6) 高 (4.2)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
612-9 212	須 惠 器 碗	±0cm %残存	口 (15.6) 底 (10.0) 高 (7.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は比較的シャープで、底部回転糸切り後の付高台。体部は深く腰の張りはなく、口縁部がわずかに外反する。	
612-10 212	須 惠 器 瓶	-2cm %残存	口 — 底 — 高 (15.8)	白・黒色粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部に強い張りを有する。胴部外面下半は削りの可能性があるが不明瞭。頸部は欠損する。内面は横位の粗い撫でを施す。	内外面に薄く自然釉
612-11	須 惠 器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (2.3)	白色粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部は強く外反し、上端が短く直立する。	9号井戸第601図-59と接合



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
612-12 212	石器 敲石	覆土内 完形	長 15.9 幅 5.8 厚 6.0	輝緑岩			上・側端部に敲打痕がみられる。	重 926.0
612-13 212	石器 敲石	覆土内 完形	長 11.9 幅 5.2 厚 3.2	砂岩			上端部に敲打痕、側端部に剝離面がみられる。	重 296.1
612-14 212	鉄器 釘	覆土内 欠残存	長 6.4 幅 1.4 重 8.6				頭部は折り曲げたような形状で、全体に短い。	

## 第14号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
613-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.9) 底 — 高 (3.3)	細砂粒微 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は内湾気味に外傾し、上端がわずかに外反する。口縁部は横撫で底部は篋削りを施す。	
613-2	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
613-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (1.8)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。摘は欠損し不明。	外面に自然釉
613-4	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒少	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。凸面は、横位の篋削り状の撫でを施す。	
613-5	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	細粒少	中性焰 硬質	橙	一枚作り?。側端面取りは2面、凹面に粘土板糸切り痕を明瞭に残す。凸面は撫で。	

## 第15号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
614-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉍物粒多 白色鉍物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部と口縁部との境で屈曲し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
614-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒微 黒色鉍物粒少	還元焰 硬質	橙	底部は平底と考えられ、体部はやや内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部の調整は不明瞭。	
614-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 (1.5)	白・黒色細粒 微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転糸切り無調整。	
614-4	須恵器 境	覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 (2.0)	褐色細粒微	還元焰 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。底部切り離し痕は高台貼付に伴う撫でによって大半は消されている。	

## 第17号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
615-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに外反する。器面の磨滅が激しく調整は不明。	
615-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.3)	褐色細粒少	還元焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い段を有し口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横撫で底部は篋削りと思われるが不明瞭。	
615-3	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.0) 摘 — 高 (2.7)	黒色粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。丸底状の天井部を有し、口部との境に段を有し、口縁部は外傾する。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
615-4	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。両面及び断面の一部に薄くカーボンが附着し内面中央部に厚くカーボン附着。	厚 0.9
615-5	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒微	還元焰 硬質	オリブ 灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.9 外面に自然釉

第18号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
616-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.2)	細砂粒微 白色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
616-2	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-3	土師器 坏	覆土内 残存	口 (11.7) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-4 212	土師器 坏	覆土内 残存	口 (11.8) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-6 212	土師器 坏	覆土内 残存	口 (12.9) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部横撫で後、底部に篋削りを施す。	
616-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	口縁部外面に黒斑
616-8 212	土師器 坏	20cm 残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや軟質	橙	底部は平底状の丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-9	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-10	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.4) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-11	土師器 坏	覆土内 残存	口 (13.8) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的にわずかに外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
616-12	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (17.9) 底 — 高 (5.4)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後外面に篋削りを施す。	
617-13 212	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (6.5) 高 (2.6)	片岩質砂粒少 白色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて弱く内湾する。全体に厚手で小振りである。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後体部に格子状?、見込み部ラセン状暗文施文。	
617-14 212	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に強く外傾し、口縁部上端が直立する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	口唇部磨減
617-15 212	土師器 坏	覆土内 残存	口 (15.0) 底 — 高 (4.7)	細砂粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後体部放射状、見込み部ラセン状暗文施文。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
617-16 212	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (4.7)	細粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は内湾する。口縁部横撫で後体部外面篋削り、内面撫で後斜放射状暗文施文。	
617-17 213	土師器 鉢?	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (3.7)	砂粒少 白色鉍物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有する。底部及び体部外面は篋削り、内面は丁寧な撫で後体部に斜放射状、見込み部にラセン状暗文を密に施文。	底部に黒斑
617-18 212	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾する。体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚 0.4
617-19 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色鉍物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。口縁部は横撫で、体部外面篋削り、内面撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.6
617-20 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は横撫で、体部外面横位篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.6
617-21 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は篋削り内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚 0.5
617-22 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は横位篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.6
617-23 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒微	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で体部外面篋削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚 0.6
617-24 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉍物粒多	酸化焰 硬質	橙	内湾する口縁部で、口縁部は横撫で、体部外面は篋削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚 0.4
617-25 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.5
617-26 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微 黒色鉍物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部外面及び底部は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.5
617-27 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色鉍物粒微	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は横位篋削り、内面は撫で後、斜放射状暗文施文。	厚 0.6
617-28	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	片岩細粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部上半にわずかに張りを有する。口縁部は横撫で、体部外面篋削り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚 0.7
617-29 213	須恵器 坏	覆土内 1/2残存	口 (14.0) 底 (9.0) 高 (4.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。体部にわずかに張りを有する。腰部と見込み部が磨滅している。	
617-30	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (9.0) 高 (1.7)	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	橙	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の削り出し高台。	
617-31	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (14.4) 高 (1.0)	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は形散化したもので、底部篋削り後、周辺回転篋削り調整した後に削り出して表現している。見込み部に不定方向の撫でを施す。	
617-32	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 (4.2)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口唇部は平坦で、内側にわずかに突出する。	口唇部と外面に自然釉
617-33	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (15.5) 底 (11.8) 高 (3.9)	細砂粒多	酸化焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台で、接地部に沈線状の窪みが認められる。体部に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	見込み部磨滅

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
617-34	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (11.2) 高 (2.3)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は角高台で底部回転篋削り後の付高台。	
617-35	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (11.3) 高 (2.0)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 やや硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は底部回転篋削り後の削り出し高台。	
618-36 213	須恵器 埴	±0cm 1/3残存	口 (18.0) 底 (10.4) 高 (7.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は三角高台で、底部及び腰部回転篋削り後の付高台。腰部に強い張りを有する。	
618-37 213	須恵器 埴	±0cm 1/3残存	口 (18.0) 底 (10.5) 高 (7.8)	白色細粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は角高台で、底部回転篋削り後腰部及び底部周辺に回転篋削りを施した後の付高台。大振りの深埴で、腰の張りが強く口縁部はわずかに外反する。	
618-38	須恵器 托	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 (1.8)	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は丸底気味の平底で、口縁端部が短く直立する。内面に摘み上げによって表現された突帯が巡っている。内面中央部が若干磨滅する。底部は手持ち篋削りを施す。	
618-39	須恵器 蓋	6cm 破片	口 (14.0) 摘 — 高 (2.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。かえりは、強く内傾する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
618-40	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (16.0) 摘 — 高 (2.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは強く内面かえりは短く強く内傾する。摘は欠損するが天井部外面回転篋削り後の貼付。	外面に薄く自然釉
618-41 213	須恵器 蓋	覆土内 1/3残存	口 (15.4) 摘 — 高 (2.2)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部に弱い張りを有し、口縁部は短く屈曲する。天井部外面は回転篋削りを施す。摘は欠損し不明。	外面に重ね焼き痕
618-42 213	須恵器 蓋	覆土内 1/3残存	口 (19.0) 摘 (3.7) 高 (2.8)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は扁平で、口縁部は短く屈曲する。摘は天井部外面回転篋削り後の貼付。	外面に重ね焼き痕
618-43	土師器 甕	覆土内 破片	口 (13.9) 底 — 高 (5.3)	細砂粒多 黒色鉍物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部の張りは弱く、口縁部は「く」字状を呈する。口縁部横撫で後胴部上半横位の篋削り内面は横位撫でを施す。	
618-44 213	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (13.4) 底 — 高 (3.7)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し、上端がわずかに屈曲する。	
618-45	須恵器 甕	16cm 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 白色鉍物粒微	還元焰 硬質	灰白	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.4
618-46	須恵器 甕	13cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後丁寧な撫で、内面青海波文。	厚 0.7
619-47	須恵器 甕	19~21cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.2 外面に自然釉
619-48 213	須恵器 甕	18~22cm 1/3残存	口 — 底 — 高 (27.0)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。肩部に自然釉。	
619-49	須恵器 甕	29cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。底部付近の破片で、内外面に薄く自然釉。	厚 0.8
619-50	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	細砂粒少 褐色細粒少	中性焰 硬質	灰褐	一枚作り?。側端面取りは2面。凹面布目は雑に撫でられている。凸面は縄叩きで、大半は撫で消されている。	

## 第20号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
620-1	土師器 皿	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (2.0)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底と思われ、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
620-2	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
620-3	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	黒	叩き整形。外面は磨滅し不明。内面当具は不明瞭。	厚 0.9

## 第19号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621-4 213	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	赤褐色細粒微 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部破片と思われ、外面は無で、内面は無で後、放射状暗文施文。	厚 1.0
621-5	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.7)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底と思われ、口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
621-6 214	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.0 底 — 高 3.4	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底状の平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
621-7	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.5) 高 (1.3)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋削り無調整。	
621-8	土師質 黒色土器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.3)	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転?)。底部は回転糸切り後周辺部手持ち篋削りを施す。内面は篋磨き後内面黒色処理を施す。	
621-9	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (7.4) 高 (3.3)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
621-10	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (2.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。	
621-11	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.2)	細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	褐灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転篋削り後の削り出し高台。	
621-12	須恵器 塊	覆土内 破片	口 — 底 (4.4) 高 (2.2)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。高台接地部には沈線状の窪みがみられ、接地部は磨滅している。	
621-13	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘 (5.2) 高 (1.6)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。環状摘で、丁寧な作りである。	外面に薄く自然釉
621-14	灰釉陶器 瓶?	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系?		灰	轆轤整形(?)。外面肩部に厚く施釉されている。	厚 0.5
621-15	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (21.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。外反する口縁部で、上端外面は肥厚し、波状文を施す。	
621-16	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.3)	黒色細粒少 白色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。外反する口縁部で、上端に段を有する。	
621-17	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	黒	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 焼締、外面自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
621-18	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色粒多	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自然釉
621-19	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少 白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰白	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 0.8
621-20	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	黒	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.3 外面に自然釉

第21号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
622-1	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.3)	白・黒色鈹物 粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削り、間の調整は不明瞭。	
622-2	須惠器 坏	— 4 cm 1/2残存	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	黒色細粒多	酸化焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。	外面に自然釉
622-3	須惠器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 (2.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。底部は回転篋削りを施しているが、切り離しに際して底部をしぼり込んで、切り離し面を小さくしている。	
622-4	須惠器 高坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (4.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。坏部は打ち欠かれたような状態で、断面周辺はわずかに磨滅している。	
622-5	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面平行叩き、内面青海波文。	厚 1.0

第22号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
623-1	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	口縁部破片で、外面に稚拙な波状文を施す。内面は撫で。	厚 1.1
623-2	須惠器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	叩き整形。外面擬格子状叩き、内面当具不明瞭。	厚 0.5

第28号溝状遺構

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
625-1	土師器 坏	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾気味である。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間に整形不明瞭な部分が見られる。	内面磨滅
625-2 214	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.8)	細砂粒少 白・黒色鈹物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に1段の屈曲を有し、口縁部は外傾する。口唇部内面は内側にわずかに肥厚している。外面は口縁部横撫で、体部下半斜位篋削り、底部篋削りを施す。内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	暗文
625-3 214	土師器 坏	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鈹物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部破片で、内面見込み部は撫で後ラセン暗文が施されている。	厚 0.4 暗文
625-4 214	須惠器 埴	覆土内 1/2残存	口 (12.0) 底 (6.8) 高 (4.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に張りはなく、口縁部外反しない。高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。	

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
625-5	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (14.0) — 摘高 (2.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部外面に回転篋削りを施す。口縁部は短く屈曲する。	
625-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) — 摘高 (2.5)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。口縁部はわずかに屈曲する。天井部外面は回転篋削りを施す。	
625-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 摘高 (7.0) 高 (1.8)	褐色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。大振りの蓋で摘は環状摘である。天井部外面は回転篋削りを施し、内面は轆轤整形痕を残す。	
625-8	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.0) — 底高 (3.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	橙	「く」字状に外反する口縁部で、横撫でを施す。	
625-9	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き後弱いカキ目を施す。内面は青海波文。	厚 1.0
625-10	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0) — 底高 (7.2)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	強く外反する口縁部で、上端に段を有する。胴部外面は平行叩き、内面は青海波文。	口縁部内面及び外面自然釉
625-11	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	外反する口縁部で、上端は直立する。口縁部に5本単位の波状文を施す。	厚 0.6
625-12	土製品? 不明	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	両端部欠損。円柱状に整形されている。使途不明。	径 1.1

## 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
626-1	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (12.4) — 底高 (4.2)	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は直線的にわずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
626-2 214	土師器 坏	16・17 I 65・66 1/2残存	口 (12.0) — 底高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで体部の整形は不明瞭。	
626-3 214	土師器 坏	表土 ほぼ完形	口 12.0 — 底高 3.3	砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部は直線的に外傾し、口唇部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで間の整形は不明瞭。	
626-4 214	土師器 坏	34・35 I 77・78 1/2残存	口 (12.0) — 底高 (3.0)	細砂粒少 白・黒色鉱物 粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
626-5 214	土師器 坏	27・28 I 66・67 1/2残存	口 (12.4) — 底高 (3.2)	細砂粒少 黒色鉱物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、体部の整形は不明瞭。	
626-6 214	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (12.0) — 底高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に直立する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
626-7 214	土師器 坏	27・28 I 65・66 1/2残存	口 (12.8) — 底高 (3.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。口縁部内外面にカーボン附着。	底部に黒斑
626-8 214	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (12.6) — 底高 (3.2)	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と底部との間には曖昧な沈線が1本巡っている。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	
626-9 214	土師器 坏	18・19 I 67・68 1/2残存	口 (12.4) — 底高 (3.1)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾し、口縁部は内側に屈曲する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施し間に整形不明瞭な部分がみられる。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
626-10 214	土師器 坏	5井戸 1/2残存	口 (13.4) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少 黒色鉾物粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
626-11 214	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (12.6) 底 — 高 (3.6)	細砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部に弱い張りを有し、口縁部との間に弱い段がみられる。口縁部は横撫で、体部は横位篋削り、底部は一定方向の篋削りを施す。	
626-12	土師器 坏	7井戸 破片	口 (9.0) 底 — 高 (2.3)	細砂粒微 黒色鉾物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、間の整形は不明瞭。	
626-13 214	土師器 杯 C III 飛鳥III期	3・4 I 87・88 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.7)	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部がわずかに短く外反する。内面の稜は比較的シャープである。外面撫で後に磨きを施し、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	暗文 畿内産
626-14 214	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部外面は横撫で、体部下半は横位篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	暗文
626-15 214	土師器 坏	33・34 I 90・91 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 黒色鉾物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底状の平底で、体部外面とも篋削り内面は撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-16 214	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉾物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、体部外面篋削り、内面は撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.4
626-17 214	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微	酸化焰 硬質	暗灰黄	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面は篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-18 214	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部の張りが強く、口縁部外面に段を有する。口縁部は横撫で、体部外面は横位篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-19 214	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は横撫で、体部外面は斜位篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-20 215	土師器 坏	16・17 I 63・64 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部横撫で後、外面篋削り、内面撫で後格子状？。暗文を施す。	厚 0.7
626-21 215	土師器 坏	21・22 I 68・69 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	体部外面篋削り、内面撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.7
626-22 215	土師器 坏	表土 1/2残存	口 (14.4) 底 (7.5) 高 (4.5)	細砂粒少 黒色鉾物粒多 白色鉾物粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾し、口唇部は内側に屈曲する。外面は口縁部横撫で後、体部は斜位の篋削り、内面は丁寧な撫で後体部斜放射状、見込み部ラセン暗文を施す。底部は篋削り後雑な撫でを施す。	暗文
626-23 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微	酸化焰 硬質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部上端がわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部は斜位の篋削り、内面は丁寧な撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-24 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色鉾物 粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部中に1段の屈曲がみられる。口縁部は横撫で、体部及び底部は篋削り、内面は撫で後、斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-25 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は横撫で、体部及び底部は篋削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.6
626-26 215	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面篋削り、内面撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5



## 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
626-27 215	土師器 坏	16・17 I 69・70 破片	口 底 高	— — —	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部上端は内側に 屈曲する。口縁部は横撫で、体部外面は篋削 り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4
626-28 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部は直立する。 口縁部は横撫で、体部は横位篋削り、内面は 撫で後、放射状暗文施文。	厚 0.5
626-29 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	体部が直線的に外傾する器形で、口縁部は横 撫で、体部横位篋削り、内面は撫で後格子状 暗文施文。	厚 0.7
626-30 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾 する。口縁部は横撫で、体部及び底部外面篋 削り、内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-31 215	土師器 坏	21・22 I 68・69 破片	口 底 高	— — —	黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部は直線的に外 傾し、口縁部は短く直立する。口縁部は横撫 で、体部下半及び底部は篋削り、内面は撫で 後放射状暗文を施す。	厚 0.5
626-32 215	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 底 高	— — —	褐色細粒多 細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	体部に弱い張りを有し、口縁部上端がわずか に内湾する。口縁部は横撫で、体部外面篋削 り、内面は撫で後放射状暗文施文。	厚 0.5
626-33 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	明赤褐	体部に1段の屈曲を有し、口縁部は直線的に 外傾する。口縁部は横撫で、体部外面下半は 横位篋削り、内面は撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.4
626-34 215	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 底 高	— — —	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬 質	橙	体部は直線的に外傾し、口縁部横撫で、体部 外面横位篋削り、内面は撫で後、斜放射状暗 文施文。	厚 0.6
626-35 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけてわず かに内湾する。口縁部は横撫で、体部及び底 部外面は篋削り、内面は撫で後、体部に放射 状暗文を施す。	厚 0.6
626-36 215	土師器 坏	193土坑 破片	口 底 高	— — —	細砂粒微 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は 横撫で、体部外面は横位篋削り、内面は丁寧 な撫で後放射状暗文施文。	厚 0.7
626-37 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部から口縁部にかけて内湾 する。口縁部は横撫で、体部外面斜位篋削り 内面は撫で後斜放射状暗文を施す。	厚 0.7
627-38 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部から口縁部にかけて内湾する。口縁部は 横撫で、体部外面は篋削り、内面は撫で後密 な斜放射状暗文を施す。	厚 0.7
627-39 216	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	黒色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底と思われる、体部から口縁部にか けてわずかに内湾する。口縁部は横撫で、体部 及び底部は篋削り、内面は丁寧な撫で後、斜 放射状暗文を施す。	厚 0.5
627-40 216	土師器 坏	20 I 65 破片	口 底 高	— — —	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	橙	外面は篋削り後、横位の磨き、内面撫で後 3本単位の放射状暗文を施す。	厚 0.7
627-41 216	土師器 坏	16~18 I 65・66 破片	口 底 高	— — —	細砂粒多 白・黒色鉱物 粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	平底の底部破片で、外面は篋削り、内面見込 み部は撫で後ラセン状暗文を施す。	厚 1.0
627-42 216	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 底 高	— — —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。 口縁部は横撫で、体部外面斜位篋削り、内面 は撫で後斜放射状暗文施文。	厚 0.7
627-43 215	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	白・黒色細粒 少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部に1段の屈曲を有する。 体部及び底部外面は篋削り、内面撫で後放射 状暗文施文。	厚 0.5
627-44 216	土師器 坏	表土 破片	口 底 高	— — —	細砂粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、体部及び底部外面は篋削り、 内面は撫で後体部斜放射状、見込み部ラセン 状暗文施文。	厚 0.5

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
627-45 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 黒色鈹物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底気味の平底で、体部に弱い張りを有する。体部及び底部外面は篋削り、内面は見込み部から体部にかけて、放射状暗文とラセン状暗文を施す。	厚 0.3
627-46 216	土師器 坏	16・17 I 65・66 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は平底で、外面に黒斑がみられる。体部及び底部は篋削り、内面は撫で後、体部斜放射状、見込み部ラセン状暗文を施す。	厚 0.5
627-47 216	土師器 坏	21・22 I 68・69 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒微 白色鈹物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部破片で、外面篋削り、内面は撫で後ラセン暗文を施す。	厚 0.7
627-48 216	土師器 杯 C? 飛鳥?	19 I 62 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	酸化焰 硬質	橙	外面は撫で、内面は丁寧な撫で後放射状暗文を施す。	厚 0.5 畿内産
627-49 216	土師器 高杯 平城1期	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	高杯の杯部で破片と考えられる。外面の整形は不明瞭。内面には撫で後、放射状暗文を施す。	厚 0.6 畿内産
627-50 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鈹物粒少 細砂粒微	酸化焰 硬質	橙	平底の底部破片で、体部と底部外面は篋削り内面は撫で後、体部に放射状暗文を施す。	厚 0.5
627-51 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	片岩砂粒少 黒色鈹物粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平底で、体部及び底部外面篋削り、内面は撫で後、体部側放射状見込み部ラセン状暗文施文。	厚 0.7 内外面磨滅
627-52 216	土師器 坏	表土 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	平底の底部破片で、外面中央部がやや窪み、木葉痕が残存。周辺は篋削りが施されている。内面見込み部は撫で後ラセン状暗文を施しているが磨滅し、不明瞭。	厚 0.9
627-53	土師器 坏	247土坑 1/4残存	口 (9.6) 底 — 高 (3.1)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は丸底で、外面に回転篋削りを施す。受け部は短く口縁部も短く内傾する。	
627-54 216	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (11.0) 底 (8.0) 高 (3.8)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転?)。底部は厚手の平底で回転篋削り無調整である。口縁部はわずかに外反する。	
627-55	須恵器 坏	表土 破片	口 (10.0) 底 (7.1) 高 (4.0)	白色細粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は丸底状の平底で、体部は直線的に外傾する。底部は一定方向の篋削りを施す。	
627-56 216	須恵器 坏	200土坑 破片	口 (12.7) 底 (7.4) 高 (4.2)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部はやや厚手で突出し、回転篋削りを施す。	
627-57 216	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.8)	白色細粒少 黒色粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後底部及び腰部に回転篋削りを施す。口縁部の一部は打ち欠かれ、体部内面にカーボン付着。見込み部全面に磨滅が認められる。	転用硯か?
627-58 216	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.0) 底 6.8 高 (3.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋削り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	外面に自然釉
627-59 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.0) 底 (7.4) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	
627-60 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (3.5)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。体部に張りはない。	
627-61	須恵器 坏	18・19 I 63・64 1/4残存	口 (12.4) 底 (7.3) 高 (3.7)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部切り離した後底部及び腰部に回転篋削りを施す。	
627-62 217	須恵器 坏	34 I 63 1/2残存	口 (13.0) 底 (6.8) 高 (4.2)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位にわずかに張りを有する。	
627-63 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.0) 底 (7.6) 高 (3.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	内外面に自然釉

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
627-64 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.6) 底 (7.0) 高 (3.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に弱い張りを有し、口縁部は外反しない。	
628-65	須恵器 坏	34・35 I 77・78 1/2残存	口 (11.6) 底 6.4 高 (3.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。内面の轆轤整形痕は不明瞭。	
628-66 217	須恵器 坏	1・2 I 85・86 1/2残存	口 (13.8) 底 (8.0) 高 (3.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り後腰部及び底部周辺に回転篋削りを施す。体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。見込み部及び底部周辺が磨滅。	
628-67 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.6) 底 (8.0) 高 (3.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後周辺手持ち篋削りを施す。体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	見込み部 が磨滅
628-68 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (3.7)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。	
628-69	須恵器 坏	18・19 I 69・70 1/2残存	口 (14.0) 底 7.0 高 (3.8)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。	
628-70 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (14.0) 底 (10.0) 高 (3.6)	細砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り後回転篋削りを施す。腰部にわずかに張りを有し体部から口縁部は直線的に外傾する。	体部外面 及び底部 に自然釉
628-71 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.0) 底 (9.0) 高 (4.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部にわずかに張りを有し、口縁部は外反しない。	
628-72	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (3.2)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628-73 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (14.0) 底 (10.0) 高 (3.5)	細砂粒少 黒色粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部回転篋削り後周辺部回転篋削り?を施す。体部から口縁部にかけて、直線的に外傾する。	
628-74	須恵器 坏	5井戸 破片	口 (14.0) 底 (8.6) 高 (4.2)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628-75 217	須恵器 坏	18 I 65 1/2残存	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (3.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。腰部及び体部上位に弱い張りを有する。見込み部中央部付近若干磨滅。	
628-76 217	須恵器 坏	5井戸 ほぼ完形	口 14.0 底 9.9 高 3.1	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り無調整。体部は直線的に外傾し、口縁部は弱く外反する。	
628-77	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.2) 底 (7.8) 高 (4.2)	白・黒色細粒 少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。	
628-78 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.0)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部外面の轆轤整形痕は顕著であるのに対し、内面は不明瞭。	見込み部 中央磨滅
628-79 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (15.0) 底 (9.5) 高 (3.9)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾する。	
628-80 217	須恵器 坏	表土 1/2残存	口 (11.4) 底 (5.4) 高 (3.9)	片岩質砂粒多 白色鋳物粒少	還元焰 硬質	オリーブ 灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部に張りはなく、口縁部は外反する。	
628-81	須恵器 坏	18 I 65 1/2残存	口 (12.7) 底 (6.4) 高 (3.5)	白色細粒少 白色鋳物粒微	還元焰 やや硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。底部は回転糸切り無調整。内外面共に轆轤整形痕を顕著に残す。	
628-82	土師器 坏	2溝 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多 黒色鋳物粒多	酸化焰 硬質	浅黄橙	轆轤整形(?)。底部静止糸切り無調整。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629-83 217	土師器 坏	表土 完形	口 10.0 底 5.0 高 3.0	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	淡黄	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整。体部中位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。内面は轆轤整形痕が不明瞭。口縁部の一部が打ち欠かされている。	内面は外面より磨減
629-84	須恵器 坏	表土 完形	口 9.5 底 5.0 高 2.8	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整であるが、磨減し不明瞭。体部の器内は厚く、上位に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
629-85 217	土師質 坏	表土 1/4残存	口 9.7 底 5.3 高 2.5	砂粒微 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り無調整であるが、磨減し不明瞭。体部は器内が厚手で直線的に外傾する。	
629-86 217	土師質 埴	表土 1/4残存	口 (10.2) 底 (5.5) 高 (4.7)	黒色鉾物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。腰部に強い張りを有し、口縁部は外反しない。高台は付高台で、貼付に伴い底部が撫でられているため切り離しは不明。見込み部は撫でを強く施しているためわずかに突出する。	
629-87 217	須恵器 埴	1・2 I 85・86 ほぼ完形	口 12.9 底 6.3 高 4.8	片岩質砂粒少 白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰オリ ープ	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部中位に張りを有し、口縁部は外反する。	
629-88 217	須恵器 埴	表土 1/4残存	口 (11.2) 底 (7.2) 高 (4.6)	白色細粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。体部中位にわずかに張りを有する。	外面に自然釉
629-89	須恵器 埴	34 I 79・ 80 1/4残存	口 (11.7) 底 (5.8) 高 (4.7)	白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部下半に張りを有し、口縁部はわずかに外反する。	
629-90 218	須恵器 深鉢	表土 1/4残存	口 (14.8) 底 (8.6) 高 (8.0)	細砂粒少 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の丁寧な付高台。体部は深く、内湾気味に外傾する。	
629-91 218	須恵器 皿	1 溝 ほぼ完形	口 14.2 底 7.0 高 3.0	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部は直線的に強く開く器形で一部に歪みが認められる。	
629-92 218	土師質 皿	表土 1/4残存	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (1.8)	細砂粒多 黒色鉾物粒少	酸化焰 硬質	淡黄	轆轤整形(?)。底部は静止糸切り?無調整。体部は強く外傾し、器内が厚いため、内面はほぼ平坦。	
629-93	灰釉陶器 埴	25・26 I 65・66 破片	口 (14.6) 底 (6.4) 高 (4.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は付高台、施釉は漬り掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629-94	灰釉陶器 埴	表土 1/4残存	口 (16.5) 底 (9.1) 高 (6.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台で、糸切り痕は底部中央部に残存している。施釉は漬り掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629-95 218	灰釉陶器 埴	表土 1/4残存	口 (14.0) 底 (7.0) 高 (4.5)	美濃系?		灰	轆轤整形(右回転)。高台は三日月高台で底部回転糸切り後の貼付と考えられる。腰部にやや張りを有し口縁部は外反する。施釉は刷毛掛けで内面は見込み部にも施されている。	光ヶ丘1?
629-96	灰釉陶器 埴	35・36 I 65・66 破片	口 (16.3) 底 (8.6) 高 (4.9)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、底部はやや突出気味である。施釉は漬り掛け。	見込み部に重ね焼き痕
629-97 218	灰釉陶器 皿	27・28 I 67・68 1/4残存	口 (13.0) 底 (6.8) 高 (2.9)	猿投系?		灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部上位にわずかに張りを有し口縁部は、シャープに外反する。施釉は刷毛掛け。	K-90?
629-98	灰釉陶器 埴	16・17 I 59・60 破片	口 (14.0) 底 (6.8) 高 (3.7)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転?)。高台は三日月高台で底部及び腰部回転糸切り後の付高台。施釉は漬り掛け。	
629-99 218	灰釉陶器 埴	表土 1/4残存	口 (15.0) 底 (7.0) 高 (3.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部回転糸切り後の付高台。体部に張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明。	内面に重ね焼き痕
629-100	灰釉陶器 皿	表土 1/4残存	口 (12.6) 底 (6.8) 高 (2.4)	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部及び腰部回転糸切り後の付高台で、糸切り痕は口縁部にも当たっている。施釉は刷毛掛けか?。	

## 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629-101	灰釉陶器 段皿	表土 破片	口 (13.3) 底 (8.5) 高 (2.1)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、施釉は不明。	見込み部に重ね焼き痕
629-102	灰釉陶器 耳皿	表土 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。施釉は内面に厚く施されている。技法は不明。	
630-103 218	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (12.0) 摘 — 高 (4.4)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部は丸底状で、外面は手持ち筥削りを施す。	
630-104	須恵器 蓋	17・18 I 63・64 1/4残存	口 (13.8) 摘 (5.2) 高 (4.7)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。短頸壺の蓋と思われるもので、天井部は平坦で、口縁部との屈曲部は水平に突出し、口縁部は外傾する。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。	
630-105 218	須恵器 蓋	200土坑 破片	口 (11.8) 摘 — 高 (3.8)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。短頸壺の蓋と思われるもので天井部はやや突出している。摘は欠損して不明。天井部外面に破片が融着。	
630-106	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (14.4) 摘 (4.4) 高 (3.3)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。	内外面に重ね焼き痕
630-107	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (15.0) 摘 (4.2) 高 (3.7)	黒色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。	
630-108 218	須恵器 蓋	33 I 85 1/4残存	口 (14.6) 摘 (3.9) 高 (3.8)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは比較的強く、口縁端部は短く屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。内外面には重ね焼きの痕跡が、無軸の部分として残存。外面の一部に融着。	内外面自然釉(内面特に厚い)
630-109 218	須恵器 蓋	16・17 I 63・64 1/4残存	口 (15.0) 摘 (15.0) 高 (3.6)	砂粒多 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。天井部の張りは弱く、口縁部が下方に屈曲する。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。	
630-110	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (13.6) 摘 (4.0) 高 (3.6)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転?)。摘は環状摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付。外面に重ね焼き痕が認められる。	
630-111	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (19.0) 摘 (4.2) 高 (4.6)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘はボタン状で、天井部外面回転筥削り後の貼付。	
630-112	須恵器 蓋	16・17 I 69・70 1/4残存	口 (11.7) 摘 (1.7) 高 (3.2)	細砂粒少 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。摘は潰れたような宝珠摘で、天井部外面回転筥削り後の貼付である。	
630-113	須恵器 蓋	表土 1/4残存	口 (10.0) 摘 (1.8) 高 (2.8)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。摘は宝珠摘で、丁寧な貼付。	
630-114	須恵器 蓋	表土 破片	口 (19.0) 摘 — 高 (1.4)	白色細粒少	還元焰 硬質	オリーブ灰	轆轤整形(右回転?)。扁平な器形で、天井部外面に広範囲にわたって、回転筥削りを施す。	内外面に自然釉
630-115	須恵器 蓋?	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色鉱物粒微 白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。周囲に高台状の突帯が貼付され、中央に摘の痕跡と思われる突帯が認められる。蓋であろうか?	
630-116	須恵器 碗	7井戸 破片	口 — 底 (11.0) 高 (2.9)	白・黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転筥削り後の削り出し高台。	
630-117 218	土師器 高坏	表土 脚部完形	口 — 底 (9.8) 高 (5.0)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	短脚の高坏の脚部で、下端が水平に強く開いている。脚部外面は縦位の筥削り、内面上端に、底部への接合のための強い撫でがみられる。坏部見込み部に「×」の筥描き。	
630-118 218	須恵器 高坏	表土 1/4残存	口 — 底 (8.6) 高 (8.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。脚部のすそが強く開く器形で、下半に2条の沈線が巡っている。坏部見込み部中央に一撫でが施されている。	見込み部に自然釉

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
630-119 218	須恵器 皿?	表土 1/2残存	口 (20.0) 底 (12.2) 高 (4.0)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。高台は薄手で、底部回転篋削り後の付高台。底部はわずかに突出する。体部は中位に張りを有し、強く外傾する。蓋の可能性もあり?	
630-120	須恵器 台付盤	表土 1/2残存	口 (22.4) 底 (16.0) 高 (4.0)	白色鉍物粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は底部回転篋削り後の付高台。	
630-121	須恵器 台付盤	表土 1/2残存	口 (24.4) 底 (18.8) 高 (4.8)	白色細粒多 褐色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(左回転)。高台は底部及び腰部回転篋削り後の付高台。	
630-122 218	須恵器	表土 1/2残存	口 — 底 — 高 (5.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。球胴状で厚手の作りである。胴部最大部に2本の平行沈線が巡り、間に縄文?状の圧痕を施す。胴部下半は円周方向の雑な篋削りを施す。	
630-123 218	須恵器 短頸壺?	25・26 I 65・66 1/2残存	口 (8.1) 底 (5.8) 高 (6.6)	細砂粒多 黒色粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。底部は回転篋削り後に、わずかに篋削りを施したものと考えられる。胴部上位は「く」字状に屈曲し、算盤玉状を呈し、口縁部は短く直立する。胴部下端に1段の回転篋削りを施す。	肩部と内面に自然釉
630-124	須恵器 鉢	表土 破片	口 (16.0) 底 — 高 (8.9)	黒色細粒少 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。内面に轆轤整形痕を比較的良く残し、外面は目立たない。	
630-125 218	須恵器 瓶	1溝 ほぼ完形	口 (6.2) 底 (5.1) 高 (18.3)	黒色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。肩部と胴部上半に張りを有し、口縁部上端は外反する。底部は回転糸切り無調整。胴部の歪みが多い。	肩部から口縁部に自然釉壺G
631-126	須恵器 壺	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 やや軟質	灰白	口縁部破片で、上半に波状文を施す。	厚 0.7
631-127 221	土師器 把手?	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色鉍物 粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	周囲が篋削りによって面取り(8面)されている。両端部欠損。	
631-128	須恵器 平瓶	291土坑 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部上端は平坦でわずかに外傾する。全体形は不明。	内外面に自然釉
631-129	須恵器 壺	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	壺の把手で、篋削りによって面取りがなされている。	外面に自然釉
631-130 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	外面叩き不明。内面素文の須恵器壺の破片の転用。内面素文部は使用に伴い磨滅し、光沢が認められる。	厚 1.1
631-131 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き。内面素文の須恵器壺の破片の転用。素文部は使用に伴い磨滅し、光沢がみられる。	厚 0.8
631-132 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	外面平行叩き。内面青海波文の須恵器壺の破片の転用。内面の青海波文は使用に伴い磨滅している。	厚 0.7
631-133 219	須恵器 転用硯	表土 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒少	還元焰 硬質	橙	外面擬格子叩き、内面青海波文の須恵器壺の破片の転用。内面青海波文は使用に伴う磨滅で、ほぼ完全に消失している。	厚 0.9
631-134	須恵器 壺	表土 破片	口 — 底 — 高 —	褐色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、外面に平行沈線と波状文施文。	厚 1.2 内外面に自然釉
631-135	須恵器 壺	表土 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 白色鉍物粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部の大型破片で、外面に5本単位の櫛状工具の波状文と平行沈線施文。	厚 1.0 内外面に自然釉
632-136	瓦 瓦製円盤	8溝 破片	厚 1.9	砂粒微 黒色鉍物粒少	酸化焰 硬質	橙	女瓦の破片を使用したもので、凹面布目は撫で消され、凸面は、撫で後格子叩きが施されている。縁辺の調整は打ち欠いたままである。	重 80.8

## 遺構外出土遺物

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
632-137 219	須恵器 陶製円盤	表土 破片	径 5.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き、内面青海波文の須恵器甕の破片を使用したもので、周辺を打ち欠いて整形している。	厚 1.2 重 41.9
632-138 219	瓦 鏡瓦	表土 破片	厚 —	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	単弁五葉で、文様線はシャープさにかける。	
632-139 219	瓦 鏡瓦	5井戸 覆土内 破片	厚 2.6	砂粒少 白・黒色鉱物 粒多	還元焰 硬質	灰	単弁五葉。背面布目は撫で消されている。	
632-140 219	瓦 鏡瓦	表土 破片	厚 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	文様意匠は不明。	
632-141	瓦 字瓦	表土 破片	厚 5.0	白・黒色細粒 多	還元焰 硬質	におい 橙	一枚作り？。瓦当右扁行唐草文。凹面布目は、横位に撫で消されている。	
632-142 219	瓦 男瓦	表土 破片	厚 2.2	細砂粒少 褐色細粒多	還元焰 硬質	におい 橙	一枚作り？。凸面は撫で後、篋描き文字「土？」	
632-143 219	瓦 男瓦	8溝 破片	厚 2.3	砂粒少 白色細粒多 褐色細粒多	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り？。凹面は、粘土板系切り痕を残す。凸面は撫で後篋描き文字「大？」を施す。	
632-144	瓦 男瓦	表土 破片	厚 1.2	砂粒少 褐色粒少	還元焰 硬質	におい 橙	一枚作り？。側端部面取りは3面。凹面布目は横位に強く撫で消し、凸面は横位に撫でが施されている。	
632-145 218	土製品 土錘	16 I 64 完形	長 5.7 幅 2.4 厚 2.1	白・黒色細粒 少	酸化焰	淡橙	両端を切った紡錘形を呈し、器面は縦位に篋磨きされている。	
632-146 220	石製品 紡錘車	表土 残存	径 5.2 厚 1.6 孔 (0.5)	安山岩質凝灰 岩			半截されており、1面には小礫が含まれていた痕跡がみられる。	重 19.3
632-147 220	石製品 紡錘車	表土 完形	径 5.5 厚 1.0 孔 0.5	滑石			穿孔は両方向からされている。	重 49.9
632-148 220	石製品 紡錘車	16 I 86 完形	径 4.4 厚 2.0 孔 0.6	変質玄武岩			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に細かく面取りされ、縁辺は横方向に粗く調整されている。	重 52.7
632-149 220	石製品 紡錘車	表土 完形	径 5.0 厚 1.6 孔 0.9	かんらん岩			穿孔は一方向からで、側面は横方向に1面と共に丁寧に研磨されている。また側面には判読できないが線刻らしきものがみられる。	重 6.8
632-150 220	石製品 白玉	表土 完形	径 1.8 厚 0.8 孔 0.4	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重 4.7
632-151 220	石製品 白玉	表土 完形	径 1.7 厚 0.8 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向から。1面は丁寧に研磨されているが、もう一面は凹凸を残して調整が粗い。	重 3.7
632-152 220	石製品 白玉	表土 ほぼ完形	径 1.5 厚 1.5 孔 0.8	滑石			穿孔は両方向から。側面は縦方向の粗い研磨である。	重 3.0
632-153 220	石製品 白玉	表土 ほぼ完形	径 1.4 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向からで、周囲は丁寧に研磨されているが欠損している。	重 1.5
632-154 220	石製品 白玉	7井戸 覆土内 完形	径 1.4 厚 0.9 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向から。側面は縦方向の粗い研磨である。他に比較して厚い。	重 2.7
632-155 220	石製品 白玉	19・20 I 61・62 残存	径 (2.0) 厚 0.7 孔 0.2	滑石			穿孔は一方向からで、半截されている。	重 2.1
632-156	石製品 白玉	表土 ほぼ完形	径 1.2 厚 0.5 孔 0.3	滑石			穿孔は一方向からで、側面は縦方向に研磨されている。	重 1.1
632-157 220	石製品 白玉	表土 完形	径 1.2 厚 1.1 孔 3.5	滑石			製品の一面が剝離したと思われる。	重 0.5

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
632-158 220	石製品 白玉	表土 完形	径 1.4 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方からで、側面は縦方向の粗い研磨を施している。	重 1.9
632-159 221	石製品 白玉	表土 完形	径 1.2 厚 0.4 孔 0.3	滑石			穿孔は一方からで、側面は縦方向に研磨されている。	重 1.0
632-160 221	石製品 白玉	表土 %残存	径 1.3 厚 0.5 孔 0.3	滑石			一角が剥離している。	重 0.6
632-161 221	石製品 白玉	表土 完形	径 1.1 厚 0.6 孔 0.2	滑石			穿孔は一方からで、側面は縦方向に研磨されている。	重 1.0
632-162 221	石製品 白玉	表土 破片	径 0.9 厚 0.2 孔 0.2	滑石			製品の剥離した一部分である。	重 0.2
632-163 221	石製品 白玉	表土 %残存	径 1.2 厚 0.5 孔 0.3	滑石			穿孔は一方から。側面には調整時の擦痕が残っている。	重 0.8
632-164 221	石製品 白玉	241土坑 破片	径 1.7 厚 0.4 孔 —	滑石			第632図-165と同一と思われるが接合しない。	重 0.7
632-165	石製品 白玉	241土坑 破片	径 1.4 厚 0.3 孔 —	滑石			第632図-164と同一と思われるが接合しない。	重 0.2
632-166 221	石製品 管玉?	表土 完形	径 0.8 厚 0.7 孔 0.2	滑石			穿孔は一方から。側面縦方向の粗い研磨で上下面にも擦痕がみられる。	重 0.6
632-167 221	石製品 白玉	表土 %残存	径 1.2 厚 0.5 孔 —	滑石			穿孔は一方からで、側面には縦方向の粗い研磨が施されている。	重 0.5
632-168 221	石製品 白玉	表土 破片	径 0.9 厚 0.1 孔 —	滑石			製品の剥離した一部分と思われる。	重 0.1
633-169 221	石製品 砥石	29土坑 %残存	長 5.5 幅 3.1 厚 1.2	砥沢石			4面は使用し、3面に刃調整痕がみられ、半截されている。	重 41.7
633-170	石製品 砥石	7井戸 %残存	長 (6.0) 幅 3.5 厚 1.5	砥沢石			使用面は4面で、上下端部が欠損している。	重 45.0
633-171 221	石製品 砥石	6溝 覆土内 完形	長 5.1 幅 3.4 厚 2.6	砥沢石			5面を使用している。上端は欠損しており、一方からの穿孔の跡がみられるが完備していない。	重 64.3
633-172 221	石製品 砥石	7井戸 覆土内 破片	長 4.3 幅 4.0 厚 2.7	砥沢石			使用面は1面のみで、他は面取りされている。	重 75.2
633-173 221	石製品 石皿?	8溝 破片	長 11.7 幅 7.3 厚 3.9	粗粒安山岩			口縁部は平坦で内面は浅いと考えられる。口縁平底部及び体部は磨かれている。内面は特に使用に伴うと考えられる磨滅が見られる。	重 359.5
633-174 221	石製品 石皿?	37・38 I 65・66 破片	長 8.5 幅 4.7 厚 3.4	粗粒安山岩			口縁部と思われる破片で、内外面共に粗い研磨整形が施されている。	重 122.8
633-175 221	石製品 板碑	8溝 破片	長 9.4 幅 6.3 厚 1.1	雲母石英片岩			整形された面は識別することができない。	重 77.8
633-176 221	石製品 板碑	8溝 破片	長 9.1 幅 6.2 厚 1.3	緑泥片岩			梵字か?	重 126.9
633-177	石製品 板碑	8溝 破片	長 4.6 幅 4.3 厚 0.6	緑泥片岩?			梵字等は不明。	重 14.0



挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
633-178 218	銅製品? 不明	表土 破片	口底高 — — —				胴部に張りがあり、口縁部は直立する。口縁部と胴部の間に鏢状の突帯が巡る。鋳造品と考えられ、部分的に緑錆が認められる。	
633-179 222	鉄器 釘	表土 %残存	長幅重 (10.5) (0.7) 13.6				先端部と頭部欠損。中央部で弱く曲がっている。	
633-180 222	鉄器 釘	表土 破片	長幅重 (3.8) (0.6) 4.0				中央部の破片で、断面方形。	
633-181 222	鉄器 釘	6井戸 破片	長幅重 (4.2) (0.6) 5.1				中央部の破片で、断面方形。	
633-182 222	鉄器 釘	6井戸 破片	長幅重 (3.7) (0.5) 2.7				先端部の破片で、断面方形。	
633-183 222	鉄器 釘	209溝 破片	長幅重 (3.5) (0.5) 1.2				先端部の破片で、断面方形。先端は比較的鋭利でわずかに屈曲する。	
633-184 222	鉄器 釘	表土 破片	長幅重 (3.3) (0.7) 5.3				中央部の破片で、断面方形。	
633-185 222	鉄器 釘?	表土 %残存	長幅重 (5.8) (3.0) 15.6				頭部が傘状に大きく開いている。軸断面は方形。	
633-186 222	鉄器 釘	表土 %残存	長幅重 (4.9) (1.6) 14.0				頭部側で、頭部平面形は方形で、対角線に稜がみられる。断面方形。	
633-187 222	鉄器 釘	209溝 %残存	長幅重 (3.5) (0.5) 3.2				頭部側欠損、断面方形。中央部で大きく「く」字状に曲がっている上に、先端部もわずかに曲がっている。	
633-188 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (3.7) (1.0) 8.6				身の部分と考えられる破片で、折り曲げられている。	
633-189 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (2.3) (0.8) 3.4				身の一部であろう。	
633-190 222	鉄器 刀子	60 I 24 %残存	長幅重 (7.6) (1.0) 9.8				茎の部分を欠損する。錆は全体に厚く付着している。	
633-191 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (5.0) (0.9) 4.3				茎と身との境部の破片。	
633-192 222	鉄器 鎌?	表土 %残存	長幅重 (10.6) (3.0) 46.9				鎌と考えられる。錆が進み先端部が基部が不明。	
633-193 222	鉄器 鎌	表土 %残存	長幅重 (7.8) (2.6) 21.2				先端部側の破片で、刃部の湾曲は比較的強い。	
633-194 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (6.3) (1.5) 9.8				身の一部と茎の破片。	
633-195 222	鉄器 鎌	表土 完形	長幅重 (7.5) (2.2) 18.5				小形の鎌で、先端側刃部の減りが多い。	
633-196 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (1.7) (0.9) 1.1				身の一部。	
633-197 222	鉄器 刀子	表土 破片	長幅重 (3.0) (0.6) 1.9				茎の一部であろう。	

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
633-198 222	鉄 器 鎌	表土 残存	長 (15.6) 幅 (4.8) 重 74.3				基部側の破片である。刃部側の身巾が非常に広く、柄装着部は直線的で、巾が狭く端部上側が折れ曲げられている。	
633-199 222	鉄 器 鎌	表土 残存	長 (4.8) 幅 (0.7) 重 4.6				鎌先端と茎の一部を欠損する。鎌部は雁股の可能性もある。	
633-200 222	鉄 器 不 明	表土 —	長 (4.5) 幅 (1.1) 重 8.9				板を曲げて円筒状にしたもので、用途不明、時期不明。	

追 補

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
635-1	灰釉陶器 皿	F区7溝 破片	口 — 底 (7.0) 高 (1.9)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は底部切り離し後の付高台。釉は刷毛掛けの可能性が高い。	
635-2	灰釉陶器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 (6.0) 高 (1.6)	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、内面接合部がくぼんでいる。施釉は不明で、破片の周辺が細かく打ち欠かれたような状態を呈する。	
635-3	灰釉陶器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。高台は付高台で、施釉は不明で、内外面にカーボンが付着。	厚 0.6
635-4	須 恵 器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 (7.2) 高 (2.3)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(?)。高台は雑な付高台。	
635-5	須 恵 器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 (9.0) 高 (2.7)	褐色細粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。高台は回転系切り後の付高台。	
635-6	灰釉陶器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	轆轤整形(?)。口縁部はわずかに外反する。施釉技法は不明で、内外面共にごく薄い釉がかかっている。	厚 0.3
635-7	灰釉陶器 瓶	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	施釉は外面のみで比較的厚く認められる。	厚 0.5
635-8	灰釉陶器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	施釉は外面のみ薄く認められる。	厚 0.6
635-9	灰釉陶器 瓶	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰	口縁部の破片で、外面に段を有する。施釉は内外面共に認められ、内面が特に厚い。	厚 0.5
635-10	灰釉陶器 瓶	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	口縁部の破片で、外面に段を有する。釉は内面に特に残存している。	厚 0.5
635-11	灰釉陶器 塊	F区7溝 破片	口 — 底 — 高 —	美濃系		灰白	釉は外面のみ白色に発色している。	厚 0.5
635-12	灰釉陶器 瓶	F区7溝 破片	口 (14.6) 底 — 高 (1.5)	美濃系		灰白	口縁部の破片で、外面に段を有する。施釉は内面のみ施されている。	
635-13	須 恵 器 瓶	F区7溝 破片	口 — 底 (12.2) 高 (3.2)	黒色粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	青灰	高台は付高台で、内面がやや磨滅している。	
635-14	灰釉陶器 瓶	F区7溝 破片	口 — 底 (15.0) 高 (2.5)	美濃系		灰白	高台は底部調整後の付高台で、釉は底部から高台接地部にも認められる。	
635-15	須 恵 器 転 用 硯	F区7溝 底部破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転系切り無調整。底部破片を利用した転用硯で内面が磨滅しており、細部に墨が残存している。	厚 0.9

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
635-16	瓦 女 瓦	F区7溝 破片	厚 2.0	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは1面。凸面撫で、凹面は布目を残す。	
635-17	瓦 女 瓦	F区7溝 破片	厚 2.1	白色細粒少	還元焰 硬質	青灰	一枚作り。凸面は平行叩き、凹面に粘土板糸切り痕を残し、全面に砂が付着している。	
635-18	瓦 女 瓦	F区7溝 瓦残存	厚 1.8	白色鉱物粒多	還元焰 硬質	灰	桶巻き作り?。側端面取りは1面。凹面には模骨痕を残し、布目は縦位に粗く撫で消されている。凸面は縄目が施されているが大半は撫で消されている。	
635-19	瓦 女 瓦	F区7溝 破片	厚 1.8	褐色粒少 細砂粒少	還元焰 硬質	黄灰	側端面取り2面。狭端面凹面に篋削りを施す。凹面布目は撫で消され、凸面も全面撫でが施されている。	
635-20	瓦 女 瓦	F区7溝 破片	厚 2.0	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端部は、丸く仕上げられ、わずかに磨滅している。凸面には縦位の縄目が認められる。	
635-21	瓦 男 瓦	F区7溝 破片	厚 1.6	黒色粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?。側端面取りは3面。全面にわずかに自然釉が認められる。	
636-1	土 師 器 坏	J区1住 覆土内 破片	口 (8.8) — 底 高 (2.5)	白・黒色粒少	酸化焰 硬質	浅黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に弱い段を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りで、内面の篋磨き後黒色処理を施す。	
636-2	土 師 器 坏	J区1住 覆土内 破片	口 (11.0) — 底 高 (3.2)	白色細粒少	酸化焰 硬質	灰白	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部は横撫でを施すが、外面に4条の沈線状の整形痕を残す。内面は丁寧な篋磨き後黒色処理を施す。この黒色処理は口縁部外面に及んでいる。	
636-3	土 師 器 坏	J区1住 覆土内 破片	口 (16.0) — 底 高 (3.0)	白色鉱物粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	灰黄褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い段を有し口縁部は短く直立する。口縁部は横撫でを施すが、外面に4条の沈線状の整形痕を残す。内面は丁寧な篋磨き後黒色処理を施す。	
636-4	土 師 器 坏	J区1住 覆土内 瓦残存	口 (16.2) — 底 高 (6.0)	白色鉱物粒微 白・黒色細粒 少	酸化焰 硬質	浅黄橙	底部は丸底で、口縁部との境に段を有し、口縁部は外傾する。口縁部は横撫でを施すが2段の接合痕を残している。底部は篋削りを施し、内面は篋磨き後黒色処理を施している。内面の黒色部は磨滅した部分と油膜状に光沢のある部分がある。	
636-5	土 師 器 坏	J区1住 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白・黒色細粒 少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	底部の破片で、外面に「×」の篋描きがある。内面は丁寧な篋磨き後黒色処理を施す。	厚 1.0
637-1	金属製品 不 明	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —	銅?			板状の破片で、ほとんど湾曲せず、器形は不明。口縁部と思われる部分は上端が平坦で、両側にわずかに突出する。	厚 0.4
637-2	金属製品 不 明	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —	銅?			弱い湾曲を有する板状の破片で、内外面共に錆が付着している。	厚 0.5
637-3	金属製品 蓋?	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —	銅?			天井部外面に突帯が巡り、端部は外面が肥厚する。内面には明瞭なかえりが認められる。	厚 0.3
637-4	白 磁 碗	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ 灰	釉が白色に発色していない。	厚 0.4 北宋後半
637-5	白 磁 碗	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ 灰	釉が白色に発色していない。	厚 0.4 北宋後半
637-6	青 磁 瓶	1区5住 破片	口 — 底 — 高 —			明緑灰	染付かどうか不明。	厚 0.7 国産 江戸
637-7	白 磁 不 明	1区表土 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ 灰	釉が白色に発色していない。	厚 0.5 北宋後半

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
637-8	磁 器 染 付 碗	I区表土 破片	口 — 底 — 高 —			オリ ブ灰	肥前染付。	厚 0.8 江戸
637-9	青 磁 碗	I区表土 破片	口 — 底 — 高 —			オリ ブ灰	龍泉窯系。内面に片切の文様がある。釉の発色は良好。	厚 0.6 12 C 中 ～後半
637-10	青 磁 碗	I区1溝 破片	口 — 底 — 高 —			オリ ブ灰	龍泉窯系。内面に劃花文を施す。	厚 0.6 12 C 中 ～後半

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第127集  
上野国分僧寺・  
尼寺中間地域(7)

《図表編》

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第38集—

---

平成4年2月24日印刷

平成4年2月28日発行

編集／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橋村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

---